

しもたかはし うえの ま やもと  
下高橋(上野・馬屋元)遺跡Ⅳ

福岡県三井郡大刀洗町大字下高橋・大字鶉木所在遺跡の調査

大刀洗町文化財調査報告書

第 16 集

1999

大刀洗町教育委員会

# しもたかはし うえの まやもと 下高橋(上野・馬屋元)遺跡Ⅳ

福岡県三井郡大刀洗町大字下高橋・大字鶴木所在遺跡の調査

## 序

下高橋上野遺跡の調査は平成4年に始まります。当初は開発に伴う緊急調査との考えでしたが、調査の進展に伴い、極めて重要な遺跡であることがわかってまいりました。幸い、当該地関係の皆様のご深いご理解とご協力のもとに、遺跡の範囲・性格を明らかにするための調査を翌平成5年度から行ない、平成7年度までで下高橋上野遺跡の範囲をほぼつかみ、性格も古代の郡正倉院であることが明らかになりました。

また平成7年に下高橋上野遺跡の東に隣接して、福岡県教育委員会が実施されました県道久留米筑紫野線改良工事前の事前調査で下高橋馬屋元遺跡が発見され、下高橋上野遺跡と深く関わる遺跡と判断されました。大刀洗町教育委員会では、県教育委員会の調査成果を受けて、下高橋馬屋元遺跡の範囲・性格を明らかにする調査を行なった結果、下高橋上野遺跡と下高橋馬屋元遺跡は双方で古代の郡衙を形成していたと考えられるようになりました。一方、この遺跡の重要性から、関係の皆様のご指導、ご理解、ご協力を得、平成10年1月16日付けで、「史跡 下高橋官衙遺跡」として官報告示をいただきました。ここに、関係の皆様にご感謝いたします。

平成11年3月31日

大刀洗町教育委員会

教育長 堀内 剛毅

## 例 言

- 1 本書は平成4年度から平成9年度の間到大刀洗町教育委員会が実施した大刀洗町大字下高橋・大字鶴木に所在する「下高橋遺跡」の発掘調査の記録である。
- 2 遺跡名称は総称として「下高橋遺跡」と呼び、西方形区画部を「下高橋上野遺跡」東方形区画部分を「下高橋馬屋元遺跡」と呼ぶ。
- 3 本書に掲載した写真は担当者のほかに、(有)フォトオツカ（平成4年度～6年度）・(有)空中写真企画（平成7年度～9年度）が撮影したものである。また、福岡県教育委員会・小郡市教育委員会・北野町教育委員会からも提供を受けた。
- 4 本書に掲載した遺構図は担当者のほかに牟田冴子、小城民子、轟規子、神谷節子、高松栄子、平田浩子、平田久美子、川波律子、野口祐子、山本カヨ、近藤美恵子、平田寿恵美、中原早苗、橋之口雅子による。
- 5 出土遺物の実測及び遺構・遺物の製図は担当者のほかに、野口祐子、橋之口雅子、長野智恵子が行なった。
- 6 本書の執筆・編集は赤川が行なった。

### 凡例

- 1 遺構の略号は以下のとおり

遺構種別	略号	遺構種別	略号
落とし穴状遺構	S J	竪穴住居跡	S C
土坑	S K	土壇墓	S R
建物（掘立柱建物）	S B	溝	S D
区画大溝	なし	区画小溝	なし

掘立柱建物を構成する柱穴の表現は「1号掘立柱建物14号柱穴」の場合を例にすると「SB1P14」としている。

- 2 番号は原則として西北部を起点とし、西から東へ、以下順次南へと付している。（以下SB1例参照）

		(北)		
	1	2	3	4
(西)	5	6	7	8 (東)
	9	10	11	12
		(南)		

- 3 発掘区的位置は国土調査法第Ⅱ座標系によって標示する。調査基準点は、国土調査の成果を利用した。本書で使用した方位は、座標北である。

# 本文目次

序	
例言	
I はじめに	1
1 経過	1
2 調査の組織	5
II 位置と歴史的環境	10
1 位置と環境	10
2 周辺の遺跡	10
III 上野遺跡の調査の概要	17
1 はじめに	17
2 落とし穴状遺構	17
3 土墳墓	18
4 総柱建物	19
5 側柱建物	33
6 その他の建物	40
7 柵	42
8 土坑	45
9 溝	49
10 区画溝	53
11 その他の遺物	62
IV 馬屋元遺跡の調査の概要	71
1 はじめに	71
2 落とし穴状遺構	71
3 甕棺墓	72
4 住居跡	78
5 建物	87
6 土坑	97
7 区画溝	102
V その他の地区調査の概要	111
1 上野遺跡・馬屋元遺跡の中間地・官道推定地の調査	111
2 馬屋元遺跡北方の確認調査	112
3 関連遺物	116
VI 調査のまとめ	119
1 上野遺跡	119
2 馬屋元遺跡	120
3 その他	121
4 周辺部	121
5 官衙の時期と方位	121
6 御原郡衙の動向	122
VII おわりに	126

# 図版目次

## 図版 1

- 1 下高橋遺跡上空より小郡官衙遺跡・上岩田遺跡方面を望む
- 2 下高橋遺跡付近航空写真

## 図版 2

- 1 下高橋上野遺跡平成 4 年度調査区全景
- 2 下高橋上野遺跡平成 6 年度調査区全景

## 図版 3

- 1 下高橋上野遺跡上から S B 15・S B 14 建物
- 2 下高橋上野遺跡上から S B 16・S B 13 建物

## 図版 4 下高橋上野遺跡

- 1 S J 1 落とし穴状遺構
- 2 S J 3 落とし穴状遺構・S R 1 土墳墓
- 3 S B 1 建物全景

## 図版 5 下高橋上野遺跡

- 1 S B 2 建物
- 2 S B 3・4 建物

## 図版 6

- 1 S B 1 建物 1 号柱穴
- 2 S B 1 建物 2 号柱穴
- 4 S B 1 建物 3 号柱穴
- 5 S B 1 建物 5 号柱穴
- 6 S B 1 建物 6 号柱穴
- 7 S B 1 建物 7 号柱穴
- 8 S B 1 建物 8 号柱穴

## 図版 7

- 1 S B 1 建物 9 号柱穴
- 2 S B 1 建物 10 号柱穴
- 3 S B 1 建物 11 号柱穴
- 4 S B 1 建物 12 号柱穴
- 5 S B 2 建物 1 号柱穴
- 6 S B 3 建物 2 号柱穴
- 7 S B 4 建物 3 号柱穴
- 8 S B 5 建物 4 号柱穴

## 図版 8

- 1 S B 2 建物 5 号柱穴

- 2 SB 2 建物 6 号柱穴
- 3 SB 2 建物 7 号柱穴
- 4 SB 2 建物 8 号柱穴
- 5 SB 2 建物 9 号柱穴
- 6 SB 2 建物10号柱穴
- 7 SB 2 建物12号柱穴
- 8 SB 2 建物13号柱穴

图版 9

- 1 SB 2 建物14号柱穴
- 2 SB 2 建物15号柱穴
- 3 SB 2 建物16号柱穴
- 4 SB 2 建物16号柱穴
- 5 SB 2 建物17号柱穴
- 6 SB 2 建物18号柱穴
- 7 SB 2 建物19号柱穴
- 8 SB 2 建物20号柱穴

图版10

- 1 SB 4 建物 6 号柱穴
- 2 SB 4 建物 7 号柱穴
- 3 SB 4 建物 8 号柱穴
- 4 SB 4 建物 9 号柱穴
- 5 SB 4 建物11号柱穴
- 6 SB 4 建物12号柱穴
- 7 SB 4 建物13号柱穴
- 8 SB 4 建物14号柱穴

图版11

- 1 SB 4 建物15号柱穴
- 2 SB 4 建物16号柱穴
- 3 SB 4 建物17号柱穴
- 4 SB 4 建物19号柱穴
- 5 SB 15 建物 5 号柱穴
- 6 SB 15 建物 9 号柱穴
- 7 SB 3 建物 1 号柱穴
- 8 SB 3 建物 2 号柱穴

图版12

- 1 SB 3 建物 3 号柱穴
- 2 SB 3 建物 4 号柱穴
- 3 SB 3 建物 5 号柱穴

- 4 S B 3 建物 4 号柱穴
- 5 S B 3 建物 6 号柱穴 · S B 4 建物 1 号柱穴
- 6 S B 3 建物 6 号柱穴 · S B 4 建物 1 号柱穴
- 7 S B 3 建物 7 号柱穴
- 8 S B 3 建物 9 号柱穴 S B 4 建物 5 号柱穴

図版13

- 1 S B 3 建物 8 号柱穴 · S B 4 建物 4 号柱穴
- 2 S B 3 建物 8 号柱穴 · S B 4 建物 4 号柱穴
- 3 S B 3 建物10号柱穴
- 4 S B 3 建物11号柱穴
- 5 S B 3 建物12号柱穴
- 6 S B 3 建物13号柱穴
- 7 S B 3 建物14号柱穴
- 8 S B 3 建物15号柱穴

図版14

- 1 S B 3 建物16号柱穴
- 2 S B 3 建物17号柱穴
- 3 S B 3 建物18号柱穴
- 4 S B 3 建物19号柱穴
- 5 S B 3 建物20号柱穴
- 6 S B 3 建物21号柱穴
- 7 S B 3 建物22号柱穴
- 8 S B 3 建物23号柱穴

図版15

- 1 S B 3 建物24号柱穴
- 2 S B 3 建物25号柱穴
- 3 S B 3 建物26号柱穴
- 4 S B 12建物確認状況
- 5 S B 12建物
- 6 S B 12建物
- 7 S B 10建物確認状況
- 8 S B 10建物確認状況

図版16

- 1 S B 13建物 7 号柱穴
- 2 S B 13建物 9 号柱穴
- 3 S B 13建物19号柱穴
- 4 S B 13建物22号柱穴
- 5 S B 13建物北梁列棟持柱柱穴

- 6 S B 16建物 9号柱穴鉄斧出土状況
- 7 S B 5建物
- 8 S B 6・7建物・S K 3土坑

図版17

- 1 95-2 トレンチ全景
- 2 S B 17・18・19・S A 9付近
- 3 S B 17建物
- 4 S B 18・19建物・S A 9柵
- 5 S A 9柵 2号柱穴
- 6 S A 9柵 3号柱穴
- 7 S A 9柵 2号柱穴半裁状況
- 8 S A 9柵 3号柱穴半裁状況

図版18

- 1 S K 1土坑
- 2 S K 3土坑
- 3 S D 17 (S B 16建物西側溝)
- 4 S D 18 (S B 13東側溝)
- 5 S D 26・27付近
- 6 S D 27溝
- 7 95-3 トレンチ (S D 28・29)
- 8 区画大溝南西コーナー付近

図版19

- 1 区画大溝断面 (A-B)
- 2 区画大溝断面 (C-D)
- 3 区画大溝張出部断面 (K-L)
- 4 区画大溝張出部断面 (K-L)
- 5 区画大溝張出部付近
- 6 区画大溝底土坑の状況
- 7 区画大溝南西コーナー部遺物出土状況
- 8 区画大溝南西コーナー部遺物出土状況

図版20

- 1 区画大溝南東コーナー
- 2 区画大溝南東コーナー部断面
- 3 95-1 トレンチ全景
- 4 95-1 トレンチ大溝南北断面
- 5 95-4 トレンチ全景
- 6 95-4 トレンチ近景
- 7 95-4 トレンチ区画大溝断面 1

8 95-4 トレンチ区画大溝断面 2

図版21

- 1 土塚墓出土土器 (8-1)
- 2 土塚墓出土土器 (8-2)
- 3 土塚墓出土土器 (8-3)
- 4 土塚墓出土土器 (8-4)
- 5 土塚墓出土土器 (8-5)
- 6 建物出土鉄器 (22)
- 7 建物出土鉄器 (23)
- 8 SK1 土坑出土土器 (36-1)
- 9 SK1 号土坑出土土器 (36-2)

図版22

- 1 SB15 建物出土土器 (21-1)
- 2 区画大溝出土土器 (43-2)
- 3 区画大溝出土土器 (43-5・6)
- 4 区画大溝出土土器 (54-9)
- 5 区画大溝出土土器 (53-5)
- 6 96-4 トレンチ出土土器 (55-3)

図版23

- 1 下高橋馬屋元遺跡全景
- 2 下高橋馬屋元遺跡調査区北部 (SB1・2・5 付近)

図版24

- 1 下高橋馬屋元遺跡 SB3 建物付近
- 2 下高橋馬屋元遺跡県教委調査区地点区画大溝

図版25

- 1 SJ1 落とし穴状遺構
- 2 甕棺墓群全景
- 3 1号甕棺墓
- 4 2号甕棺墓
- 5 3号甕棺墓
- 6 4号甕棺墓
- 7 5号甕棺墓
- 8 1号住居跡

図版26

- 1 2号住居跡
- 2 3号住居跡
- 3 4号住居跡
- 4 SB1 建物遺物出土状態

- 5 S B 5 建物10号柱穴断面
- 6 S B 5 建物12号柱穴断面
- 7 S B 5 建物14号柱穴断面
- 8 S B 5 建物15号柱穴断面

図版27

- 1 下高橋馬屋元遺跡 S B 1 建物
- 2 下高橋馬屋元遺跡 S B 2 建物
- 3 下高橋馬屋元遺跡 S B 3・4 建物

図版28

- 1 S B 1 建物
- 2 S B 2 建物
- 3 S B 5 建物

図版29

- 1 下高橋馬屋元遺跡 S B 5 建物周辺
- 2 下高橋馬屋元遺跡 S B 5 建物から東を望む
- 3 下高橋馬屋元遺跡 S B 6 建物

図版30

- 1 下高橋馬屋元遺跡96-2 トレンチ区画溝 (南から)
- 2 下高橋馬屋元遺跡96-2 トレンチ区画溝 (西から)
- 3 下高橋馬屋元遺跡96-2 トレンチ断面

図版31

- 1 下高橋馬屋元遺跡96-5 トレンチ区画大溝南西コーナー
- 2 下高橋馬屋元遺跡96-8 トレンチ区画大溝南辺
- 3 下高橋馬屋元遺跡96-5・8 トレンチ遠景

図版32

- 1 下高橋馬屋元遺跡96-9 トレンチ区画大溝南東コーナー
- 2 下高橋馬屋元遺跡97-1 トレンチ区画小溝張出部断面
- 3 下高橋馬屋元遺跡97-1 トレンチ区画小溝断面

図版33

- 1 下高橋馬屋元遺跡 1号甕棺
- 2 下高橋馬屋元遺跡 2号甕棺
- 3 下高橋馬屋元遺跡 5号甕棺

図版34

- 1 下高橋馬屋元遺跡 3号甕棺上甕
- 2 下高橋馬屋元遺跡 3号甕棺下甕
- 3 下高橋馬屋元遺跡 4号甕棺下甕
- 3 下高橋馬屋元遺跡 5号甕棺上甕部分拡大

図版35

- 1 SC 1号住居跡出土土器 (75- 2)
- 2 SC 2号住居跡出土土器 (77- 6)
- 3 SC 2号住居跡出土土器 (75- 7)
- 4 SC 2号住居跡出土土器 (75- 9)
- 5 SC 2号住居跡出土土器 (78-23)
- 6 SC 3号住居跡出土土器 (79)
- 7 SC 3号住居跡出土土器 (80- 4)
- 8 SC 3号住居跡出土土器 (81- 7)

図版36

- 1 SC 3号住居跡出土土器 (81- 8)
- 2 SC 3号住居跡出土土器 (81-10)
- 3 SC 4号住居跡出土土器 (81-11)
- 4 SK 1号土坑出土土器 (90- 2)
- 5 SB 1建物出土土器 (82)
- 6 SK 1号土坑出土土器 (90- 5)
- 7 SK 1号土坑出土土器 (90-10)

図版37

- 1 SK 1号土坑出土墨書土器 (90-112)
- 2 SK 2号土坑出土土器 (90-12)
- 3 SK 5号土坑出土土器 (91- 4)
- 4 SK 5号土坑出土土器 (91-59)
- 5 SK 5号土坑出土土器 (91- 8)
- 6 SK 5号土坑出土土器 (91-10)
- 7 SK 5号土坑出土土器 (91-14)
- 8 SK 5号土坑出土土器 (91-17)
- 9 SK 5号土坑出土土器 (91-19)
- 10 SK 5号土坑出土土器 (92-11)

図版38

- 1 SK 6号土坑出土土器 (93- 1)
- 2 SK 7号土坑出土土器 (94- 3)
- 3 区画小溝出土土器 (102- 8)
- 4 区画大溝出土土器 (103- 2)
- 5 区画大溝出土土器 (103- 4)
- 6 区画大溝出土土器 (103- 5)
- 7 区画大溝出土土器 (103- 6)
- 8 区画大溝出土土器 (103- 9)

図版39

- 1 1 確認調査区調査区全景

- 2 確認調査区南調査区全景
- 3 南調査区区画溝
- 4 北調査区土坑

図版40

- 1 確認調査土坑出土土器 (107-4)
- 2 確認調査土坑出土土器 (107-5)
- 3 確認調査土坑出土土器 (107-13)
- 4 確認調査土坑出土土器 (107-17)
- 5 確認調査土坑出土土器 (108-20)
- 6 確認調査土坑出土土器 (107-18)

図版41

- 1 7地点出土土器 (109-1)
- 2 7地点出土土器 (109-2)
- 3 7地点出土土器 (109-7)
- 4 8地点出土土器 (110-1)
- 5 8地点出土土器 (110-3)
- 6 8地点出土土器 (110-5)
- 7 8地点出土石器 (110-9)

## 挿図目次

第1図	下高橋遺跡調査地区位置図	1/2,000	.....	2
第2図	下高橋遺跡周辺地形図	1/5,000	.....	9
第3図	下高橋遺跡と周辺の主要遺跡	1/50,000	.....	11
第4図	SJ1号落とし穴状遺構実測図	1/30	.....	17
第5図	SJ2号落とし穴状遺構実測図	1/30	.....	17
第6図	SJ3号落とし穴状遺構実測図	1/30	.....	18
第7図	SR1号土壙墓実測図	1/30	.....	18
第8図	SR1号土壙墓出土土器実測図	1/3	.....	19
第9図	SB1建物柱穴土層図	1/40	.....	20
第10図	SB1建物出土瓦実測図	1/4	.....	21
第11図	SB4建物P13出土土器実測図	1/3	.....	21
第12図	SB1・2建物実測図	1/100	.....	22
第13図	SB2建物柱穴土層図①	1/40	.....	23
第14図	SB2建物柱穴土層図②	1/40	.....	24
第15図	SB3・4建物実測図	1/100	.....	25

第16図	S B 4 建物柱穴土層図①	1 / 40	26
第17図	S B 4 建物柱穴土層図②	1 / 40	27
第18図	S B 15 建物柱穴土層図	1 / 40	28
第19図	94-5 トレンチ遺構配置図 (S B 14・15)	1 / 100	29・30
第20図	94-3 トレンチ遺構配置図 (S B 13・16)	1 / 100	31
第21図	S B 15 P 出土土器実測図	1 / 3	33
第22図	S B 15 P 15 出土鉄器実測図	1 / 2	33
第23図	S B 16 P 19 出土鉄器実測図	1 / 2	33
第24図	S B 3 建物柱穴土層図①	1 / 40	34
第25図	S B 3 建物柱穴土層図②	1 / 40	35
第26図	S B 3 建物柱穴土層図③	1 / 40	36
第27図	93-4 トレンチ遺構配置図 (S B 10・11)	1 / 100	37
第28図	94-12 トレンチ遺構配置図 (S B 12)	1 / 100	38
第29図	S B 13 建物柱穴土層図	1 / 40	39
第30図	S B 5 建物実測図	1 / 100	40
第31図	S B 6 建物付近実測図	1 / 100	41
第32図	S A 9 柵付近実測図	1 / 100	43・44
第33図	S A 9 柵柱穴土層図	1 / 40	45
第34図	S A 9 柵 P 2 出土土器実測図	1 / 3	45
第35図	S K 1 号土坑実測図	1 / 40	45
第36図	S K 1 号土坑出土土器実測図	1 / 3	46
第37図	S K 2 号土坑実測図	1 / 40	46
第38図	S K 3 号土坑実測図	1 / 60	47
第39図	S K 3 号土坑出土土器実測図	1 / 3	47
第40図	S K 3 号土坑出土瓦実測図	1 / 4	48
第41図	S K 3・5・6 号土坑出土瓦実測図	1 / 4	49
第42図	S D 1 号溝出土瓦実測図	1 / 4	50
第43図	溝出土土器実測図	1 / 3	51
第44図	S D 17 号溝土層図	1 / 60	52
第45図	S D 18 号溝土層図	1 / 60	52
第46図	区画大溝土層図	1 / 40	54
第47図	区画大溝東南コーナー部実測図	1 / 100	56
第48図	96-1 トレンチ実測図 (南出入口)	1 / 100	57・58
第49図	区画大溝南東コーナー部土層図	1 / 60	59
第50図	95-1 トレンチ区画大溝土層図	1 / 60	59
第51図	95-4 トレンチ実測図 (東出入口付近)	1 / 100	60
第52図	95-4 トレンチ区画大溝土層図	1 / 60	60
第53図	95-1 トレンチ出土土器実測図	1 / 3	61

第54図	95-4 トレンチ大溝出土土器実測図	1/3	62
第55図	95-4 トレンチ出土土器実測図	1/3	62
第56図	区画大溝出土瓦実測図①	1/4	63
第57図	区画大溝出土瓦実測図②	1/4	64
第58図	95-1 トレンチ出土瓦実測図	1/4	65
第59図	95-4 トレンチ出土瓦実測図	1/4	66
第60図	93-8 トレンチ出土瓦実測図①	1/4	67
第61図	93-8 トレンチ出土瓦実測図②	1/4	68
第62図	93-8 トレンチ出土瓦実測図③	1/4	69
第63図	SJ1号落とし穴状遺構実測図	1/30	71
第64図	ST1号甕棺墓実測図	1/20	72
第65図	ST2号甕棺墓実測図	1/20	72
第66図	ST1号甕棺実測図	1/3	73
第67図	ST2号甕棺実測図	1/3	74
第68図	ST3号甕棺墓実測図	1/20	75
第69図	ST4号甕棺墓実測図	1/20	75
第70図	ST3号甕棺実測図	1/3	76
第71図	ST4号甕棺実測図	1/3	77
第72図	ST5号甕棺墓実測図	1/20	78
第73図	ST5号甕棺実測図	1/3	79
第74図	SC1号住居跡実測図	1/60	80
第75図	SC1号住居跡出土土器実測図	1/3	81
第76図	SC2号住居跡実測図	1/60	82
第77図	SC2号住居跡出土土器実測図①	1/3	83
第78図	SC2号住居跡出土土器実測図②	1/3	84
第79図	SC3号住居跡出土石器実測図	1/3	84
第80図	SC3号住居跡出土土器実測図	1/3	85
第81図	SC3・4号住居跡出土土器実測図	1/3	86
第82図	SB1建物P14出土土器実測図	1/3	87
第83図	SB1建物実測図	1/100	88
第84図	SB2建物実測図	1/100	89
第85図	96-3 トレンチ遺構配置図 (SB3・4)	1/100	91・92
第86図	SB5建物実測図	1/100	93・94
第87図	SB5建物土層実測図	1/40	95
第88図	SB5建物出土土器	1/3	95
第89図	SB6建物実測図	1/100	96
第90図	SK1・2号土坑出土土器実測図	1/3	97
第91図	SK5号土坑出土土器実測図①	1/3	98

第92図	S K 5号土坑出土土器実測図②	1 / 3	99
第93図	S K 6号出土土器実測図	1 / 3	100
第94図	S K 7号土坑出土土器実測図	1 / 3	101
第95図	97-1トレンチ区画大溝土層図	1 / 60	102
第96図	96-1・6トレンチ実測図(区画大溝北西部)	1 / 100	103
第97図	96-2トレンチ実測図(区画大溝西辺部)	1 / 100	104
第98図	96-2トレンチ区画大溝土層図	1 / 60	104
第99図	96-5トレンチ(区画大溝西南コーナー部)	1 / 100	105
第100図	96-8トレンチ実測図(区画大溝南辺部)	1 / 100	106
第101図	96-9トレンチ実測図(区画大溝南東コーナー部)	1 / 100	107・108
第102図	区画小溝出土遺物実測図	1 / 3	109
第103図	区画大溝出土遺物実測図	1 / 3	110
第104図	96-17・18トレンチ土層図	1 / 60	111
第105図	確認調査土坑	1 / 60	112
第106図	5地点周辺遺構配置図		113・114
第107図	確認調査土坑出土遺物実測図	1 / 3	115
第108図	確認調査土坑出土遺物実測図	1 / 3	116
第109図	7地点出土遺物実測図	1 / 3	116
第110図	8地点出土遺物実測図	1 / 3	117
付図	下高橋遺跡遺構配置図	(1 / 600)	
第111図	下高橋遺跡遺構配置模式図	(1 / 4,000)	120
第112図	小郡遺跡期別遺構配置模式図	(1 / 4,000)	122

# I はじめに

## 1 経過

### (1) 調査に至るまで

下高橋遺跡の調査の発端は、1991（平成3）年9月大字下高橋字西野及び字組坂での倉庫建設に伴う文化財有無の照会に始まる。当時、町教委に専門職員は配置されておらず、当該地が「福岡県遺跡等分布地図（久留米・小郡・三井郡）」（1979）の示す周知の遺跡ではないことから、当然事業者は農転手続きを済ませ開発の準備を進めていた。翌年（平成4年・1992年）専門職員の採用があり、担当者が採用直後現地調査したところ、すでに水田耕作土の一部除去があり、遺構らしきものの兆候や地形的にも当該地に埋蔵文化財の存在の可能性が高いことがわかり、地権者へ埋蔵文化財の有無を確認するための試掘調査が必要であることを申し入れ、協議を行い4月20日に試掘調査を実施する運びとなった。

試掘調査の結果、大型の掘立柱建物群が確認され、本調査が必要であることを地権者に申し入れ、協議の結果、地権者の理解のもとに5月20日から発掘調査を行うこととなった。

### (2) 平成4年度の調査経過

発掘調査の進行に伴い、大型の掘立柱建物群やそれを他と区画する大溝などが姿を現し、それは「官衙」と容易に推測された。調査は6月20日で一旦中断し、遺跡の重要性から、県教委の強力な指導の下、県教委・町教委・地権者とで調査期間の延長・開発計画の変更の協議を数回行い、ありがたいことに地権者の深い理解と了承を得、開発計画は凍結された。

梅雨明け後の7月22日から、保存を前提とし調査を再開し、8月23日には現地説明会を行い、10月上旬に調査および埋め戻しを完了した。

平成4年度の調査では、遺跡の重要性と担当者の力量不足を見かねた多くの方々に協力・激励を受けたことは忘れることはできない。また、大刀洗町教育委員会の面々も、担務を越え、援助を戴いた。



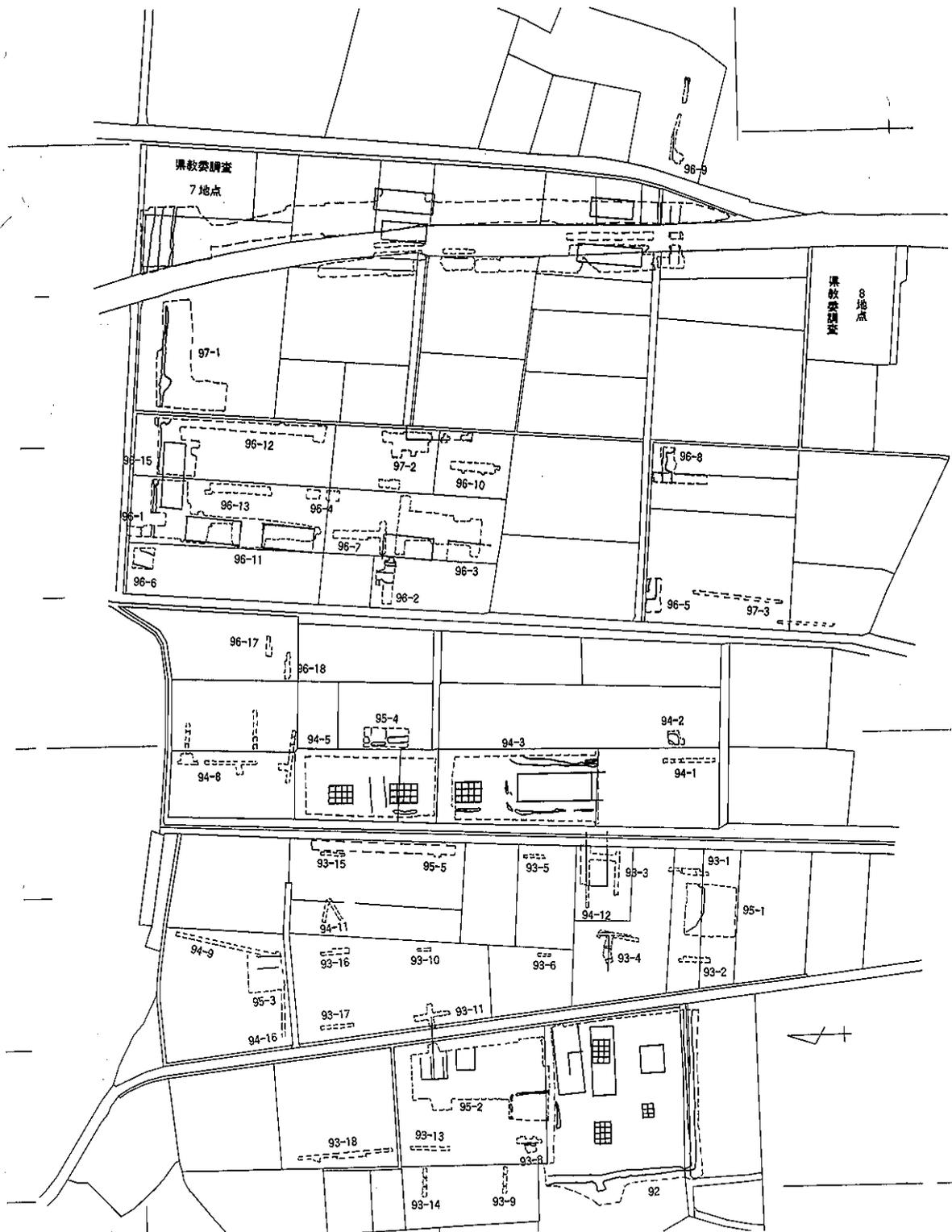
平成4年度現地説明会の状況

### (3) 平成4年度の調査後の周辺域の問題

さて、上野遺跡の所在する水田は、南面の水田より3mほどの比高差のある丘陵地で、桑畑地であったが、大正年間に電力揚水施設を備えた当時としては画期的な耕地整理の後水田化されたものである。しかし、水路やポンプなどの老朽化が進み、その維持コストの高騰や、稲作をめぐる諸情勢から、地元では、この地を工業団地化とすべき要望が高率の賛同者とともに町当局に寄せられた。町教委では上野遺跡の性格・規模の把握を早急に行ない開発か保存かの資料を提供する必要に迫られた。

### (4) 平成5年度の調査の経過

平成5年度以降の調査は、遺跡の性格・範囲を確認するための調査を国庫補助・県費補助を受け、地元地権者の深い理解のもと実施した。



第1図 下高橋遺跡調査区位置図 (1/2,000)

平成5年度の調査は遺跡の範囲を確認するための調査を計画していたが、町教委では他遺跡の緊急調査を急遽実施することになり、また、稲刈り後に調査を開始し麦蒔きまでの間に調査を終了するという地権者との約束もあり上野遺跡の調査は11月18日から24日までのわずかな期間であった。調査は範囲を1町四方と想定し18ヶ所、総面積200㎡のトレンチを設定した。小規模なトレンチ調査にもかかわらず、9ヶ所で遺構を確認した、遺跡を区画する溝は想定した範囲を超え、また掘立柱建物もさらに3棟以上確認され、かなりの規模の遺跡とは判断されたが、遺跡の性格に迫るには資料不足であった。



平成5年度の調査

#### (5) 平成6年度の調査経過

平成6年度は、工業団地の計画と相俟って、遺跡の範囲を明確にする必要があり、遺跡範囲を1町半四方と想定しトレンチを設定した。その結果、東西約150m、南北170m以上の範囲であることが確認できた。また、掘立柱建物も3棟確認でき、地権者の大きな理解と協力のもとに範囲を広げた結果さらに2棟確認でき、併せて4棟の掘立柱建物の全容がほぼ確認できた。また、一部であるがもう1棟掘立柱建物も確認できた。遺物でもわずか1点ながら転用硯が確認され、遺跡の性格付けに大きな成果をみた。調査期間は11月1日から12月29日までの間で、調査面積は2,287㎡である。



平成6年度の調査

保存に対しては、松村恵司文化庁調査官（現奈良国立文化財研究所藤原宮発掘調査部）の来訪があり、遺跡の重要性と史跡指定への展望、今後の継続調査についての指導・助言をいただいた。松村調査官の来訪を期に保存・指定の問題が町当局としても具体化したことは記されるべき点である。

#### (7) 平成7年度の調査の経過と馬屋元遺跡の発見

平成7年は、上野遺跡の更なる建物配置状況や、区画施設の状況を把握し、遺跡の性格付けの裏付けを得るための調査を行った。その結果、東出入口の新たな発見。南出入口の手がかりを掴むことができ、平成4年度調査区の北隣接地では大型建物の配置がなかったこと、平成5年度の調査で確認した堀方は柵であったことなどの成果をあげることができ、上野遺跡の概要はほぼ確認された。調査期間は11月14日から翌年3月22日までで、1,761㎡の調査面積である。

また、平成7年には、調査指導委員会を設け、委員には高倉・田中・小林・横田の専門分野の先生、その他として、町内の議会関係・地元関係者を入れた構成とした。委員会では、専門分野からの指導だけでなく地元の遺跡地に対する意見もあり、今後の保存に向けての大きな指針となった。



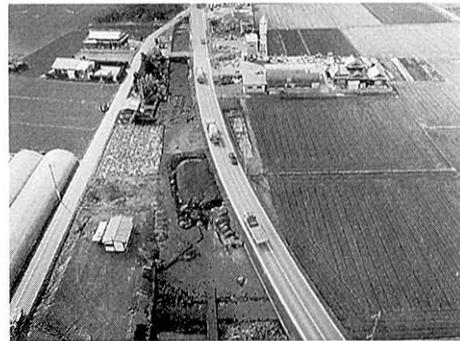
平成6年度現場説明会

さて、上野遺跡の東に接するように県道久留米・筑紫の線建設の事前調査が県教委により実施されていたが、平成7年末に馬屋元遺跡で、掘立柱建物群が発見された。その後の調査で遺跡の範囲を区画する大溝が南北175m離れて平行に走り、その中に掘立て柱建物群が配置されていることが確認された。それは官衙に見られる規模で、上野遺跡と深くかかわると容易に推測された。

町教委では、調査指導委員会に諮問し、次年度以降できるだけ早い段階に馬屋元遺跡の範囲確認調査を実施することが決定された。平成7年度の調査期間中文化庁増測徹調査官（現京都橘女子大助教授）の来訪がありまた、文化庁に出向いての複数の調査官に説明を行い今後の調査や保存問題に前進を見た。

#### （8）平成8年度の調査の経過

平成8年度からは、県教委の調査成果を受け、馬屋元遺跡の調査に移った。県教委の調査では掘立柱建物が約30棟（同時存在は4棟前後）、北限・南限の区画溝が確認されている。町調査では区画溝の四至のうち3ヶ所を確認し175m×170m四方の官衙の範囲であることがわかった。大型建物も5棟確認した。建物は上野遺跡の建物と違い側柱建物だけで構成されており、区画溝に接するように配され、上野遺跡の「正倉院」



馬屋元遺跡県教委調査地点

に対して、「郡庁院」、双方併せて郡衙の性格が強く導かれた。調査期間中文化庁坂井秀弥調査官の来訪があり、次年度の補足調査についても具体的な指導を得た。調査期間は11月8日から翌年3月31日までで、9年度への継続調査となった。

また、馬屋元遺跡では、弥生早期の甕棺墓群や、弥生中期の竪穴住居など、弥生時代の遺構・遺物が多く確認された。

#### （9）平成9年度の調査

平成8年度の継続調査で、馬屋元遺跡北辺の建物は、8年度確認した1棟以外はないことを確認した。また、馬屋元遺跡中央部で、中枢建物と考えられる南北棟建物の一部を確認した。馬屋元遺跡の南面区画外もトレンチを入れたが、明確な遺構は確認されなかった。平成8年度から9年度の調査は途中休止期間を含め6月20日に終了し、調査面積は1,844㎡である。

#### （10）国史跡指定申請と、答申・告示

大刀洗町教委では、平成9年度までの調査成果をまとめるとともに、地権者の同意書を揃え、平成9年8月25日文化庁長官あて「下高橋官衙遺跡」史跡指定申請書を町長名で提出した。同年10月17日に文化財保護審議委員会の答申が出され、「史跡 下高橋官衙遺跡」が確定し、翌平成10年1月16日付け官報第2300号、文部省告示第13号をもって、晴れて「史跡 下高橋官衙遺跡」が誕生した。関係者の深いご理解・ご協力・ご苦勞に感謝したい。

## 2 調査の組織

平成4年度の発掘調査は、福岡県教育庁北筑後教育事務所社会教育課馬田弘稔氏の指導のもと大刀洗町教育委員会が調査主体として実施した。

平成5年度から平成9年度は国庫補助・県費補助を受け発掘調査を行い、平成7年度・9年度に調査概報を刊行した。

平成10年度は、これまでの出土品をまとめて報告書を作成した。

発掘調査の進展に伴い、遺跡の重要性が明らかになり、平成7年度から発掘調査指導委員会を設置した。7年度は「下高橋上野遺跡発掘調査指導委員会」。8年度途中からは「下高橋遺跡発掘調査指導委員会」と名を改めた。

### 下高橋遺跡発掘調査指導委員会

(学識経験者)

西谷 正 (九州大学：考古学) (平成9年度から)

高倉 洋彰 (西南学院大学：考古学)

田中正日子 (第一経済大学：古代史)

小林 茂 (九州大学 (現大阪大学)：人文地理)

横田賢次郎 (九州歴史資料館：考古学)

(町議会)

平田喜次郎 (町議会議長)

青木 康雄 (総務文教厚生委員会委員長)

(地元代表)

古賀 倬馬 (地権者・町議会議員)

一木 治男 (下高橋土地改良区理事長：平成7年度まで)

久保山久義 (〃：平成8年度から)

久保山久義 (下高橋区長：平成7年度まで)

古賀 栄一 (〃：平成8年度)

久保山 清 (〃：平成9年度から)

(農業委員会)

柳 政嗣 (大刀洗町農業委員会会長)

調査指導委員会には、上記のほかに、大刀洗町文化財専門委員・県教育委員会文化課 (現文化財保護課) 担当者・北筑後教育事務所担当者・町役場 (町長以下関係各課長) が委員会の審議に参加し、下高橋遺跡の調査・保存に全町挙げて対応した。

また、文化庁記念物課からは、平成6年度に松村恵司調査官、7年度・8年度に増淵徹調査官・平成9年度に柳雄太郎主任調査官・坂井秀弥調査官・西田建彦調査官・岸本直文調査官の来訪及び指導助言をいただいた。平成5年度以降の調査計画策定には橋口達也氏 (福岡県文化財保護課)・赤司善彦氏 (九州歴史資料館) の的確な助言を得、建物の推定復元には田上稔氏 (福岡県文化財保護課) の手を煩わせた。

大刀洗町の調査関係者は年度別に区分すると以下の通りである。

平成4年度

福岡県教育庁北筑後教育事務所

技術主査 馬田 弘稔 (現甘木歴史資料館副館長)

大刀洗町教育委員会

教育長 堀内 剛毅

教育課長 平山 政之

文化財係 赤川 正秀 (調査・庶務担当)

平成5年度

堀内 剛毅

平山 政之

赤川 正秀 (調査・庶務担当)

平成6年度

大刀洗町教育委員会

教育長 堀内 剛毅

教育課長 平山 政之

文化財係 赤川 正秀 (調査・庶務担当)

調査補助員 矢野 和昭 (現新吉富村教委)

平成7年度

堀内 剛毅

平山 政之 (7月9日まで)

秋吉 純一 (7月10日から)

赤川 正秀 (調査・庶務担当)

平成8年度

大刀洗町教育委員会

教育長 堀内 剛毅

教育課長 秋吉 純一

文化財係 赤川 正秀 (調査・庶務担当)

西村 智道 (8年9月採用)

調査補助員 岸本 圭 (現福岡県教委)

平成9年度

堀内 剛毅

秋吉 純一

赤川 正秀 (調査・庶務担当)

西村 智道

平成10年度

大刀洗町教育委員会

教育長 堀内 剛毅

教育課長 秋吉 純一

文化財係 赤川 正秀 (整理・庶務担当)

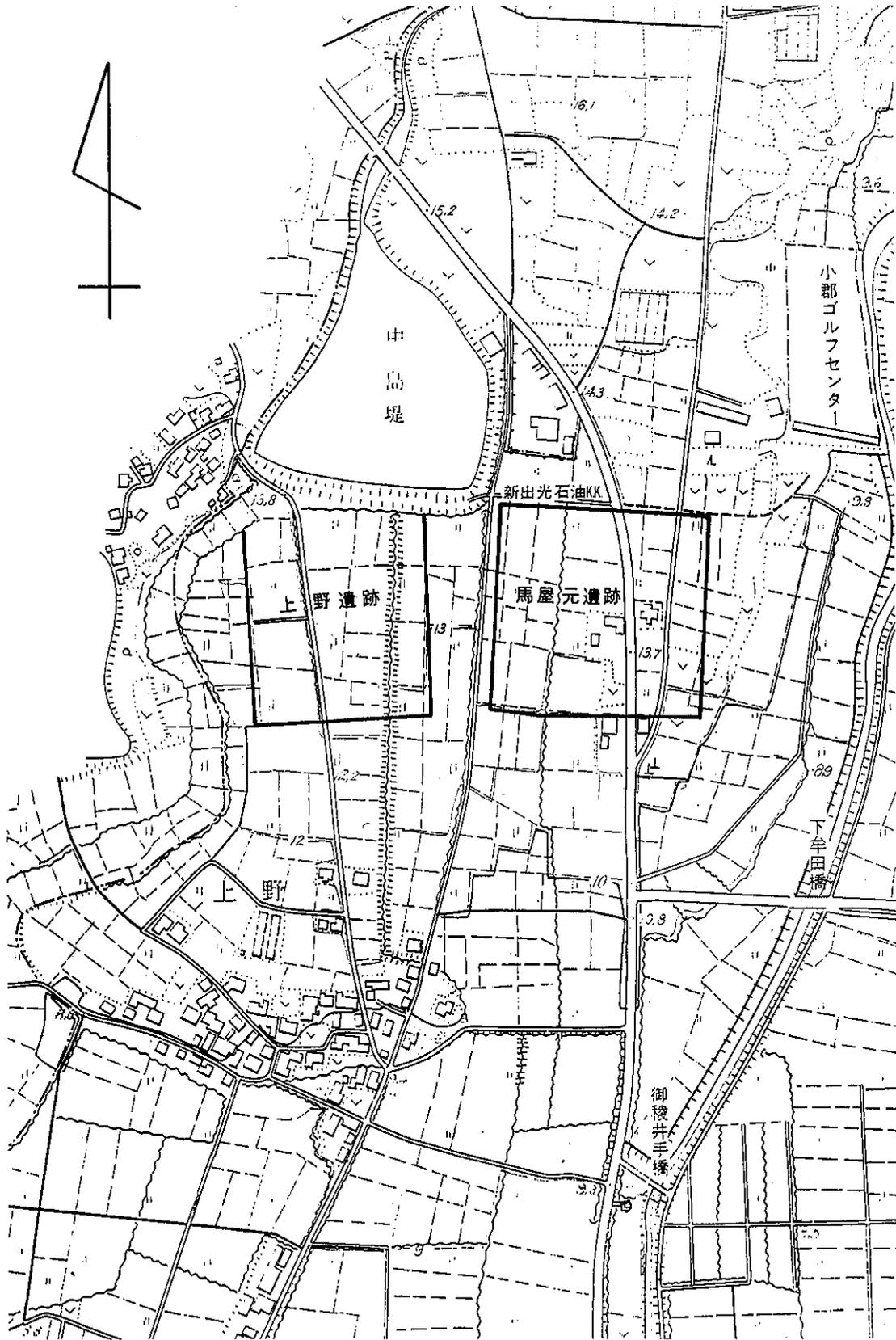
西村 智道

なお、調査・整理期間中上記の方々のほかにも、下記の方々に指導・助言・援助をいただきました。  
記して感謝の意を表します。

阿部 義平 (国立歴史民俗博物館)	行時 志郎 (日田市教育委員会)
池田 栄史 (琉球大学)	石井美美子 (夜須町教育委員会)
石野 博信 (徳島文理大学)	石松 好雄 (福岡県教育委員会)
石山 勲 (福岡県立図書館)	磯村 幸男 (文化庁)
井上 和人 (福岡県文化財保護指導委員)	井上 尚明 (埼玉県文化財調査事業団)
内田 保之 (滋賀県文化財保護協会)	梅崎 恵司 (北九州市教育文化事業団)
小川 泰樹 (筑豊教育事務所)	小川 秀樹 (行橋市教育委員会)
小澤 太郎 (久留米市教育委員会)	小田 和利 (南筑後教育事務所)
小田富士雄 (福岡大学)	柏原 孝俊 (小郡市埋文センター)
片岡 宏二 (小郡市埋文センター)	亀田 修一 (岡山理科大学)
川述 昭人 (福岡県教育委員会)	川端 正夫 (甘木市教育委員会)
木下 修 (福岡県教育委員会)	木下 良 (古代交通研究会)
木本 雅康 (長崎外語短期大学)	金田 章裕 (京都大学)
隈部 敏明 (甘木市教育委員会)	倉住 靖彦 (九州歴史資料館)
栗原 和彦 (九州歴史資料館)	小池 史哲 (京築教育事務所)
児玉 真一 (福岡県教育委員会)	小西龍三郎 (九州造形短期大学)
小林 勇作 (筑後市教育委員会)	小松 譲 (佐賀県教育委員会)
近藤 広 (栗東町文化体育振興事業団)	斎部 麻矢 (九州歴史資料館)
狭川 真一 (太宰府市教育委員会)	櫻井 康治 (久留米市教育委員会)
佐々木隆彦 (福岡県教育委員会)	笹山 晴生 (学習院大学)
佐藤 雄史 (小郡市埋蔵文化財センター)	佐野 静代 (滋賀大学)
沢村 仁 (名古屋瑞穂短期大学)	重藤 輝之 (福岡県教育委員会)
篠原 裕行 (甘木市教育委員会)	白木 守 (久留米市教育委員会)
新原 正典 (福岡県教育委員会)	鈴木 嘉吉 (文化財建造物保存技術協会)
高崎 章子 (中津市教育委員会)	高橋 章 (北九州教育事務所)
立石 雅文 (久留米市教育委員会)	田中 祐介 (大分県教育委員会)
田村 悟 (直方市教育委員会)	近沢 康治 (久留米市教育委員会)
塚本 映子 (三潞町教育委員会)	坪井 清足 (大阪文化財センター)
飛野 博文 (北筑後教育事務所)	中島 達也 (小郡市埋文センター)
中園 聡 (九州産業大学講師)	仲野 浩 (東北芸術工科大学)
永見 秀徳 (筑後市教育委員会)	南出 眞助 (追手門大学)
萩原 裕房 (久留米市教育委員会)	速水 信也 (小郡市埋文センター)
日高 正幸 (小石原村教育委員会)	日野 尚志 (佐賀大学)
平川 南 (国立歴史民俗博物館)	平島 博文 (三輪町教育委員会)
平田 定幸 (春日市教育委員会)	平野 邦雄 (横浜市歴史博物館)

舟山 良一（大野城市教育委員会）  
松尾 宏（甘木市教育委員会）  
松室 孝樹（滋賀県文化財保護協会）  
水原 道範（久留米市教育委員会）  
村上 久和（大分県教育委員会）  
柳田 康雄（福岡県教育委員会）  
山村 信栄（太宰府市教育委員会）  
吉田 恵二（国学院大学）  
吉村 靖徳（福岡県教育委員会）

堀田 秀茂（北筑後教育事務所）  
松村 一良（久留米市教育委員会）  
水ノ江和同（北九州教育事務所）  
宮田 浩之（小郡市埋文センター）  
森山 榮一（筑紫野市教育委員会）  
山中 敏史（奈良国立文化財研究所）  
横山 浩一（福岡市博物館）  
吉田 東明（福岡県教育委員会）  
渡辺 正気（元福岡県文化財保護審議委員）  
（五十音順・敬称は略させていただきました）



第2図 下高橋遺跡周辺地形図 (1/5,000)

## Ⅱ 位置と歴史的環境

### 1 位置と環境

下高橋遺跡は福岡県三井郡大刀洗町大字下高橋・大字鶴木に所在する。大刀洗町は福岡県のほぼ中央部西よりに位置し、古代御原郡衙に比定されている小郡遺跡の所在する小郡市の東に隣接する。下高橋遺跡のすぐ西は小郡市との行政境である。

下高橋遺跡は、朝倉山塊の末端の独立丘陵的な城山（花立山：標高131m）を中心とした丘陵と筑後平野の接点とも言える位置に、西に大宰府の後背地宝満山を源する宝満川（得川）、すぐ東に城山丘陵から湧き出す大刀洗川を望み、背後（北）に穏やかに高さを増す下岩田丘陵、東西・南に筑後平野を望む標高約14mの低位段丘上に位置する。

### 2 周辺の遺跡

下高橋遺跡は古代「筑後国御原郡」に所在する。「御原郡」は現在の小郡市と北域と大刀洗町のほとんどがその領域である。下高橋遺跡を理解するために、御原郡を中心に周辺の参考となる遺跡を概観してみよう。

#### 古墳時代首長墓

御原郡における地方官衙出現の前史として、古墳時代首長墓の動向を見ると、宝満川右岸の三国丘陵を中心とする前方後円墳の系統と、宝満川左岸の花立山を中心とする前方後円墳の系譜が関連する。

三国丘陵は、筑後地方で最も早い段階で前方後円墳が出現した地域で、津古生掛古墳<sup>(1)</sup>(33)→津古2号墳<sup>(2)</sup>(29)→津古1号墳<sup>(3)</sup>(42)→三国の鼻1号墳<sup>(4)</sup>(66)→花籬2号墳<sup>(5)</sup>(?・32)→隈・西小田1号墳<sup>(6)</sup>(30?)→花籬1号墳<sup>(7)</sup>(?)→横隈山1号墳<sup>(8)</sup>(35)→五郎山古墳<sup>(9)</sup>(円墳・34)大振山1号墳<sup>(10)</sup>(円墳・35)までの前方後円墳・首長墓の断続した系譜が辿れる。前方後円墳の終焉後、三国丘陵上には、群集墳が点在するが、左岸の花立山のような密集状況ではない。また横穴墓も点在し、三沢京江ヶ浦5号横穴墓からは円面硯<sup>(11)</sup>（上岩田遺跡出土のものと同範か）が出土しており、横穴墓の被葬者には確実に識字者層の存在を押さえることができよう。また7世紀段階を中心に刈又地区では須恵器窯が経営されている。

宝満川左岸では花立山（城山）山麓に展開するが、焼ノ峠<sup>(13)</sup>前方後方墳<sup>(14)</sup>(40)→（下鶴古墳<sup>(14)</sup>(?)・四獣鏡出土）→小隈古墳<sup>(15)</sup>(44)→西下野1号墳<sup>(16)</sup>(30)→（権現塚古墳<sup>(17)</sup>(?)）→穴観音古墳<sup>(18)</sup>(33)の系譜があるが、連続性は稀薄である。穴観音古墳は花立山群集墳中の、盟主的な存在であるといえよう。また、花立山には横穴墓群も形成されており、出土遺物には、鍛冶具などが含まれ、渡来系の墳墓と考えられる。花立山西麓の干潟遺跡<sup>(20)</sup>・干潟城山遺跡<sup>(21)</sup>などは花立山群集墳を築いた人々の居住地で、和名類聚抄にいう「日方郷」の遺称地とされる。大刀洗町では甲条北松木遺跡<sup>(22)</sup>で方形周溝墓が2基以上と、本郷鶯塚1号墳<sup>(23)</sup>・同2号墳<sup>(24)</sup>の2基しか発掘調査がなくその他の古墳も戦時中の大刀洗飛行場関連の諸開発で不



本郷鶯塚1号墳



第3図 下高橋遺跡と周辺の主要遺跡

- |           |              |            |            |
|-----------|--------------|------------|------------|
| 1 下高橋遺跡   | 10 焼ノ峠古墳     | 19 井上廃寺    | 28 稻吉元矢次遺跡 |
| 2 津古1号墳   | 11 花立穴観音古墳   | 20 井上薬師堂遺跡 | 29 南諏訪遺跡   |
| 3 津古生掛古墳  | 12 西下野1号墳    | 21 薬師堂東遺跡  | 30 甲条北松木遺跡 |
| 4 三國の鼻1号墳 | 13 小郡正尻遺跡    | 22 上岩田遺跡   | 31 本郷野開遺跡  |
| 5 西島遺跡5地点 | 14 小郡前伏遺跡    | 23 上岩田廃寺   | 32 本郷篤塚1号墳 |
| 6 栗原遺跡    | 15 小郡官衙遺跡    | 24 宮巡遺跡    | 33 良積遺跡    |
| 7 横隈山古墳   | 16 大板井遺跡X地点  | 25 春園遺跡    | 34 古賀ノ上遺跡  |
| 8 千瀉遺跡    | 17 大板井遺跡XI地点 | 26 立野遺跡    |            |
| 9 千瀉城山遺跡  | 18 下鶴古墳      | 27 宮原遺跡    |            |

明な点が多い。本郷鷲塚1号墳は「長靴形」平面プランの横口式石室で、他に類例を見ない特異な存在である。しかし、その規模から首長墓とは言い難い。

### 官衙遺跡と周辺の関連遺跡

御原郡は、<sup>(25)</sup>小郡官衙遺跡の発見（1967年）から官衙遺跡研究は始まり本報告の下高橋官衙遺跡、<sup>(26)</sup>大板井遺跡X地点、<sup>(27)</sup>大板井遺跡XII地点、の官衙や、<sup>(28)</sup>西島遺跡5地点、<sup>(29)</sup>上岩田遺跡の官衙風建物、上岩田廃寺、<sup>(30)</sup>井上廃寺などの古代寺院が次々と発見されるとともに、干潟遺跡、干潟城山遺跡、<sup>(31)</sup>大板井遺跡などの古代集落遺跡も発見され、古代の地域の状況を最も充実した資料で提供できる「郡」といえよう。ここでは、官衙に関連する遺跡について概観してみよう。

#### 小郡官衙遺跡

宝満川右岸の標高約17～16mの南に延びる緩やかな丘陵端に位置しているが、三国丘陵の有力首長墓が展開する地域からは3～4kmの距離を置いており、古墳時代の在地の首長とは一線を引く位置とも考えられよう。古代遺構は大きく4期に渡っているとされるが、そのうちI期・II期・III期が官衙遺構とされる。I期は3間×4間規模の3棟の総柱建物とその北限を区画する溝及び東方に四面庇に建物1棟からなる。主軸は16°前後西に振れる。



II期は長舎を「コ」字状に（「ロ」字状の意見がある）配した郡庁とされる部分と西方の柱筋を揃えた館に相当するとされる部分、北方には堀と溝で区画された中に3間×4間規模の8棟の総柱建物群、および、その区画外にこれも3間×4間規模の総柱建物1棟と目隠し堀をもった3間×8間の建物からなる。主軸は西へ45°前後振っている。このII期の建物群は「上野国交代実録帳」にみえる郡衙建物にマッチすることから典型的な郡衙遺跡といわれている。III期は正殿とされる四面庇建物と背後の建物。この建物の西方に小2期に渡る側柱建物群。東方に四面庇の建物と付属建物が配される。北方には溝・築地で東西130m、南北170m以上の範囲の区画を設けている。しかしこの区画内にはIII期の遺構は未発見である。時期はI期が7世紀中頃から後半。II期は7世紀末から8世紀初め。III期は8世紀中頃から後半とされる。

#### 大板井遺跡X地点

小郡官衙遺跡の東方約200mに位置し、大規模方形堀方柱穴の3間×4間の総柱建物が3棟柱筋を揃え並ぶ。出土遺物はないが、主軸がN-57°-Wであるが、小郡II期と同時期とされる。分置された正倉・郷倉などの性格が考えられる。

#### 大板井遺跡XII地点

小郡官衙遺跡の北西約300mに位置し、大規模方形堀方柱穴の3間×3間以上の側柱建物1棟が確認されている。主軸は真北方向で、小郡III期と同時期と考えられる。

#### 前伏遺跡<sup>(32)</sup>

小郡官衙遺跡の南西約500mに位置する。7世紀代の竪穴住居群と幅約6mの道路と考えられる遺構が調査されている。この「道路」の延長は、小郡官衙遺跡II期の「コ（ロ）」字形配置建物の中心に至るとされ、官衙と深く関連付けられる。

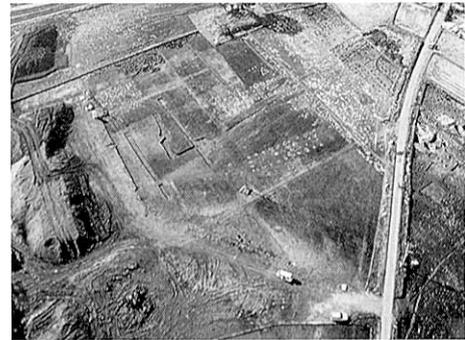
### 西島遺跡 5 地点

小郡官衙遺跡から北北西約2.5kmの筑後国・肥前国の国境近くの丘陵端に位置する。1面庇付の2間×5間建物1棟、3間×5間1棟、3間×4間+ $\alpha$ 1棟、2間×3間1棟が発見され、いずれも真北方向よりやや西に振った軸である。小郡官衙遺跡Ⅲ期と同時期と考えられている。当地は基肄駅推定地に近いことから、駅やその周辺の官衙の性格が考えられるが、確たるものはない。



### 上岩田遺跡・上岩田廃寺・薬師堂東遺跡<sup>(33)</sup>

小郡官衙遺跡の東、宝満川を隔て約2km、下高橋官衙遺跡の北西約1.5kmに位置する。薬師堂東遺跡は1985年に調査、上岩田遺跡・廃寺は現在発掘調査が終了したばかりで、詳細な報告はないが、一連の遺跡である。大規模方形掘方柱穴の総柱建物や側柱建物、基壇建物、竪穴住居、道路などがまとまって発見された。総柱建物は3間×3間以下の規模である。掘立柱建物・竪穴住居は群別にまとまりを見せるようである。基壇は東西棟で大量の瓦の出土とあいまって寺院の金堂のようなものではないかと考えられる。しかし、所謂七堂伽藍は確認されていない。時期的に寺院は7世紀第3四半期頃のように、極めて短期間のものであったようである。周辺の建物も7世紀後半から8世紀中頃まで継続するようである。今後の整理の結果が待たれるが、寺をも持ち得る豪族の居宅とその周辺集落と捉えたい。



### 井上廃寺

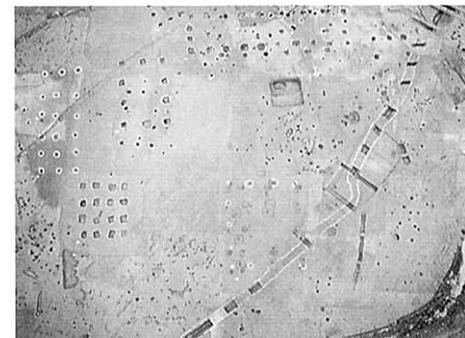
上岩田遺跡の西約500mに地点の宝満川の河岸段丘状に位置する。布目瓦が大量に出土すること、「筑後将士軍談」による記述などから方2町の範囲が寺域と推定され、近年小郡市教育委員会により範囲確認調査が実施されている。調査はトレンチによっており、掘り込み地業跡が発見されているが、寺域を確定するには至っていない。今後の調査に期待がかかる。上岩田廃寺の後継寺院ではないかと考えられる。

### 宮巡遺跡<sup>(34)</sup>

上岩田遺跡の東約1.8km、下高橋遺跡から北東約1.8kmに位置する。目立った遺構はなかったが、東西方向に延びる幅4.5mから6mの道路状遺構が確認されている。上岩田遺跡や下高橋遺跡につながる可能性は否定されるものではない。

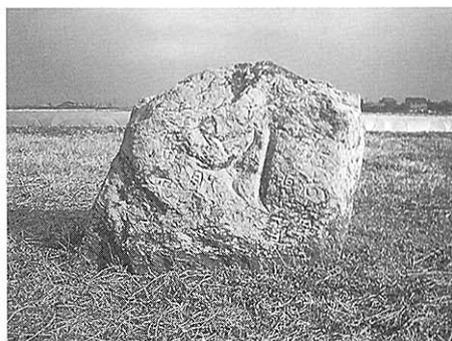
### 古賀ノ上遺跡<sup>(35)</sup>

古代においては、御井郡に属するが、古代当地域と密接な関係がある遺跡と考えられる。「口」字形配置をとる官衙風の掘立柱建物群が報告されているが、未報告の調査区でも掘立柱建物群や墨書土器・円面硯などが出土している。総柱建物も数棟あるようだが、3間×3間以下の規模である。豪族居宅か、末端官衙の可能性はある。



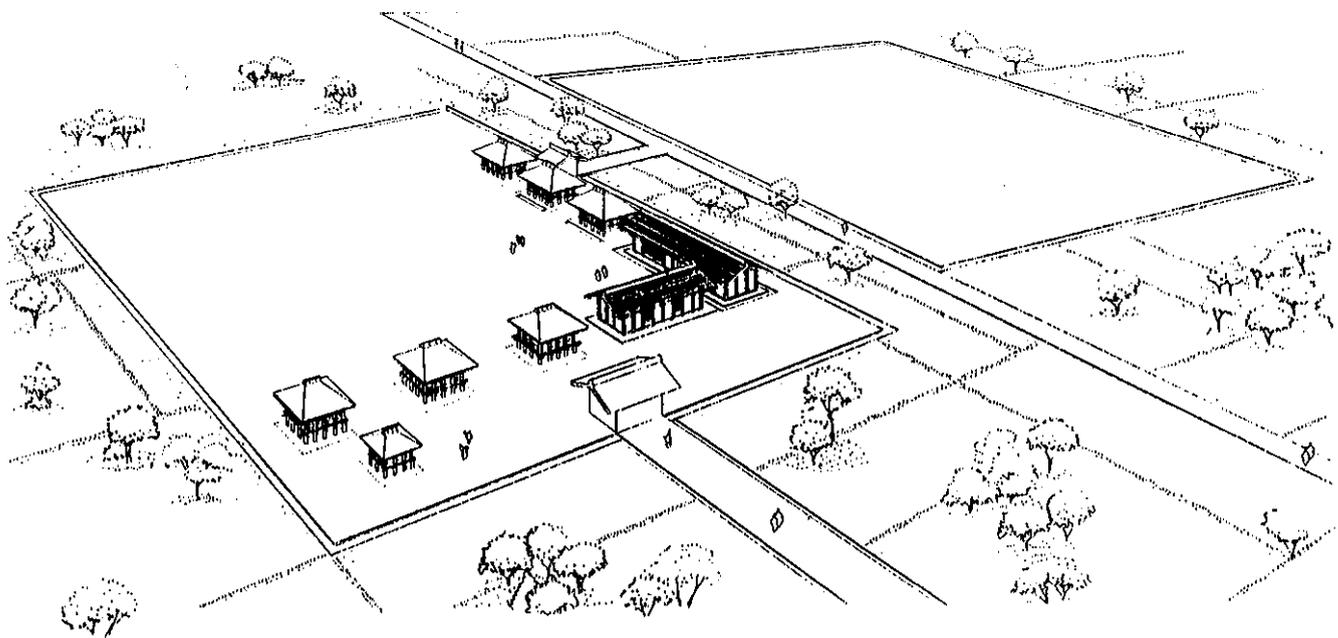
## 良積遺跡<sup>(36)</sup>

これも、古代においては御井郡に属する。弥生時代から平安時代までの複合遺跡であるが、墨書土器などの出土がある。日本三大実録に元慶7年（883年）7月の筑後守都朝臣御酉殺害事件が記述されているが、御酉の墓と伝えられる「良積石」が、遺跡の中心にある。久留米市のギャクシ地区の国司館と見られる遺構が調査されており、国司殺害事件の舞台と想定され、良積遺跡にはそれに関連付ける明確な遺構はないが、時期的に御酉との関連を全く否定できるものではなかろう。



- 注（1）「津古生掛遺跡Ⅰ」1987 小郡市文化財調査報告書第40集 小郡市教育委員会  
「津古生掛遺跡Ⅱ」1988 小郡市文化財調査報告書第44集 小郡市教育委員会
- （2）「津古遺跡群」1975 『筑紫史論第3輯』所収 波多野暁三
- （3）前掲書（2）  
「津古1号墳の現状調査」1982 『みくに 創刊号』小郡考古学研究会
- （4）「三国の鼻遺跡Ⅰ」1985 小郡市文化財調査報告書第25集 小郡市教育委員会
- （5）「向築地遺跡」1979 小郡市文化財調査報告書第5集 小郡市教育委員会
- （6）「隈・西小田地区遺跡群」1993 筑紫野市教育委員会
- （7）前掲書（5）
- （8）「横隈山遺跡」1974 小郡市文化財調査報告書第3集 小郡市教育委員会
- （9）「装飾古墳」1964 小林行雄 編  
「国史跡 五郎山古墳」1998 筑紫野市文化財調査報告書第57集 筑紫野市教育委員会
- （10）「原田地区遺跡群」1993 筑紫野市教育委員会
- （11）「三沢京江ヶ浦遺跡」1989 小郡市文化財調査報告書第52集 小郡市教育委員会
- （12）「刈又地区遺跡群（平成2～5年度各調査概報）」1992・1993・1994・1994  
小郡市文化財調査報告書第80・83・88・94集
- （13）「福岡県 城山遺跡群（図版編）」1972 夜須町教育委員会
- （14）前掲書（4）
- （15）「小隈窯跡群Ⅰ」1988 夜須町文化財調査報告書第12集 夜須町教育委員会
- （16）「西下野1号墳出土遺物について」1982 『みくに 第2号』小郡考古学研究会
- （17）「福岡県遺跡等分布地図（久留米市・小郡市・三井郡編）」1979 福岡県教育委員会
- （18）「花立山南麓古墳群の調査」1978 遺跡を民衆の手に第1集 花立山調査実行委員会
- （19）小郡市教育委員会宮田浩之氏からご教示
- （20）「干潟遺跡Ⅰ」1980 福岡県文化財調査報告書第59集 福岡県教育委員会
- （21）「干潟城山遺跡（Ⅰ～Ⅱ）」1994・1995 小郡市文化財調査報告書第90・102集  
小郡市教育委員会
- （22）「甲条北松木遺跡」1996 大刀洗町文化財調査報告書第11集 大刀洗町教育委員会

- (23) 「本郷鶯塚 1 号墳」1994 大刀洗町文化財調査報告書第 6 集 大刀洗町教育委員会
- (24) 「本郷野開遺跡Ⅱ」1997 大刀洗町文化財調査報告書第13集 大刀洗町教育委員会
- (25) 「小郡遺跡」1980 小郡市文化財調査報告書第 6 集 小郡市教育委員会
- (26) 「大板井遺跡 X」1991小郡市文化財調査報告書第76集 小郡市教育委員会
- (27) 小郡市教育委員会 中島達也氏からご教示。
- (28) 「西島遺跡 5」1997 小郡市文化財調査報告書第118集 小郡市教育委員会  
宮田浩之「推定西海道付近で検出された掘立柱建物群」『古代文化 VOL. 50—5』1998  
財団法人 古代学協会
- (29) 小郡市教育委員会 中島・宮田・柏原孝俊の各氏からご教示
- (30) 「井上廃寺 I」1998 小郡市文化財調査報告書第122集 小郡市教育委員会
- (31) 大板井遺跡は前掲 注(26)のほかにⅠ～Ⅵ・Ⅷ～Ⅸ(1981～1990)が小郡市文化財調査報告書として小郡市教育委員会から、Ⅷが「九州横断自動車道関係埋蔵文化財調査報告書(15)」(1988)として福岡県教育委員会から刊行されている。
- (32) 「九州横断自動車道関係埋蔵文化財調査報告書(11)」1987 福岡県教育委員会
- (33) 「九州横断自動車道関係埋蔵文化財調査報告書(13)」1988 福岡県教育委員会
- (34) 「九州横断自動車道関係埋蔵文化財調査報告書(26)」1993 福岡県教育委員会
- (35) 「古賀ノ上遺跡 1」1995 北野町文化財調査報告書第 2 集 北野町教育委員会
- (36) 「良積遺跡 I」1996 北野町文化財調査報告書第 5 集 北野町教育委員会  
「平成 6 年度良積遺跡現地説明会資料」 1994 北野町教育委員会



### Ⅲ 上野遺跡の調査の概要

#### 1 はじめに

##### 上野遺跡

下高橋官衙遺跡の西側の地点である。平成4年度から7年度までの調査で官衙遺構が発見された。総柱建物6棟、側柱建物1棟、3間×10間と考えられる側柱建物3棟以上、柵1小規模柱穴掘方建物5棟以上と、それら掘建柱建物群を囲むような幅約2mの大溝が主な遺構である。

そのほかに、落とし穴状遺構、土墳墓、土坑がある。

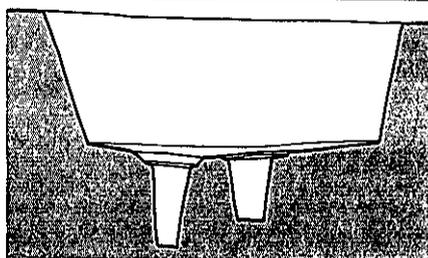
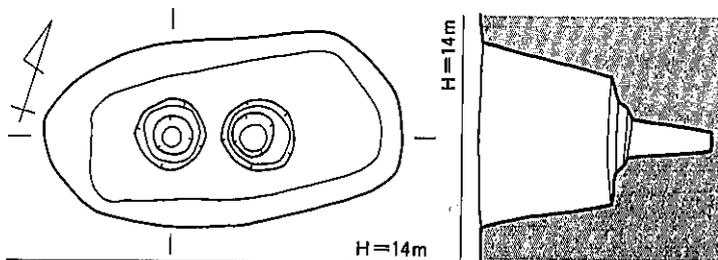
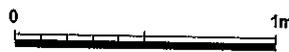
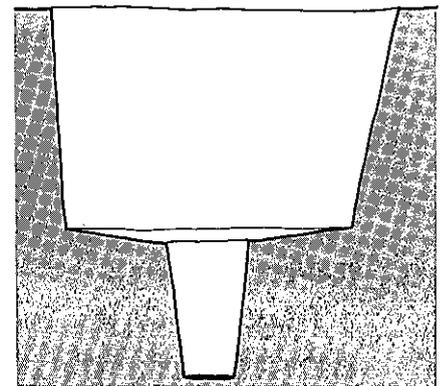
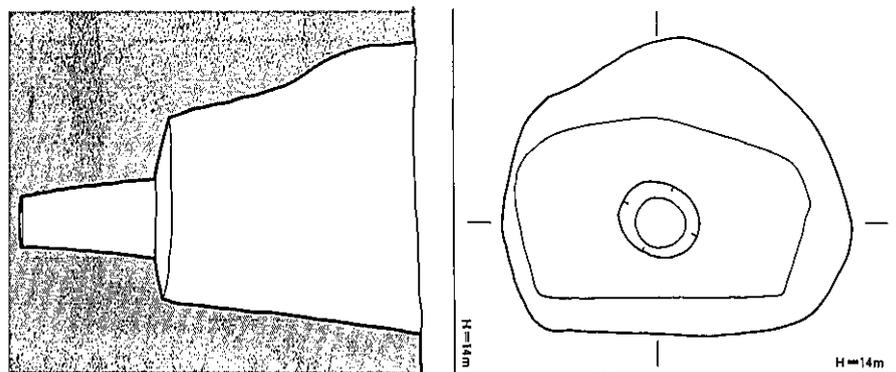
#### 2 落とし穴状遺構

落とし穴状遺構は、平成4年度調査区で3基完掘したが、その他にも埋土の状態から9基以上は確実にそれといえる。

##### 1号落とし穴状遺構

(図版4・第4図)

平成4年度調査区の西南部で検出。本遺構は、試掘調査前から確認できていたものである。検出面で長軸1.36m、短軸1.15mを測るやや不整なプランであるが、底面の隅丸長方形プランから西壁は掘削後崩壊したものと考えられ、本来短軸は0.95m前後のものである



第4図 S J 1号落とし穴状遺構実測図(1/30)

う。残存深さは0.85mで、底面に径約30cmのピット1基を検出した。ピットの深さは53cmである。軸方向はN-23°-Wである。出土遺物はない。

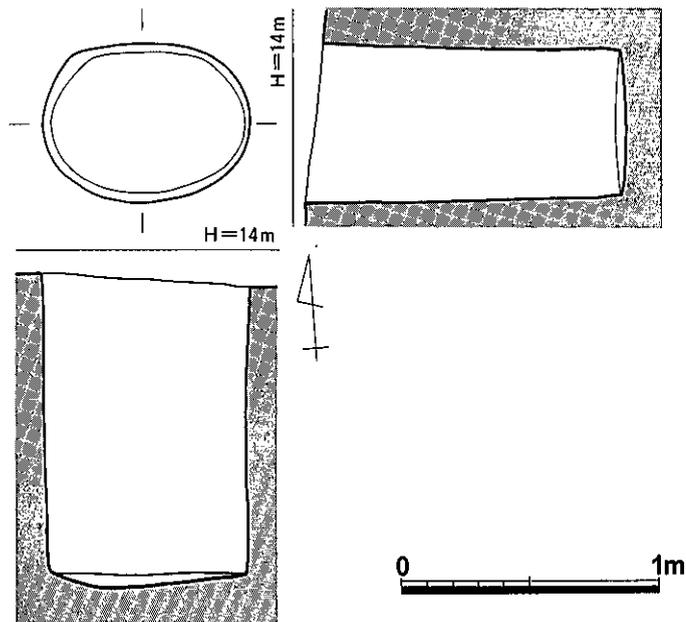
2号落とし穴状遺構(第5図)

第5図 S J 2号落とし穴状遺構実測図(1/30)

平成4年度調査区中央部の南S B 5建物とS K 5土坑の間で検出。検出面で長軸1.4m、短軸0.74mを測る短辺が弧を描く楕円形気味のプランである。残存深さは0.57mで、底面に径27・8cmほどの長軸方向に並ぶピット2基を検出した。西側ピットの残存深さは36cm、東側ピットの残存深さは24cmほどで、上面は2段掘り風である。軸方向はN-74°-Eである。出土遺物はない。

### 3号落とし穴状遺構（図版4・第6図）

平成4年度調査区のほぼ中央、S R 1土墳墓に隣接して検出。検出面で長軸0.82m、短軸0.63mの楕円形のプランである。残存深さは1.24mで、床面ピットは検出していない。あるいは落とし穴状遺構以外のものかもしれない。軸方向はN-86°-Wである。出土遺物はない。



第6図 S J 3号落とし穴状遺構実測図（1/30）

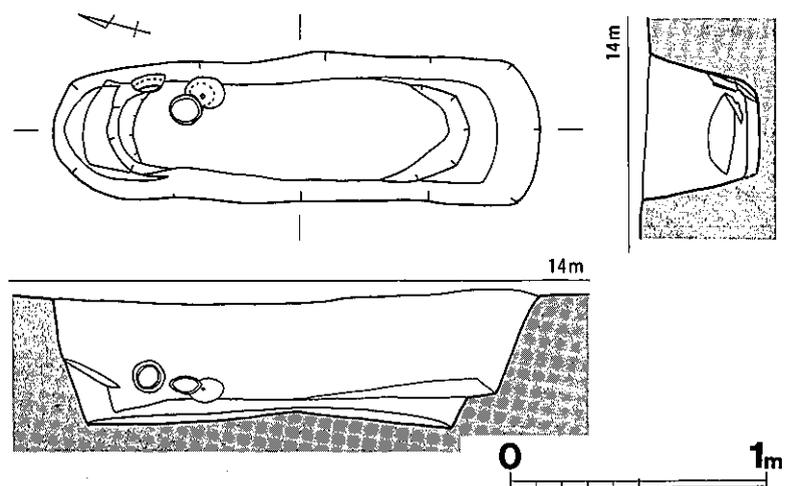
### その他の落とし穴状遺構

以上3基以外にも、平面プランの確認であるが、平成4年度調査区で5基、平成6年度調査区で3基、平成7年度調査区で1基が確実に落とし穴状遺構といえる。

## 3 土墳墓

### 1号土墳墓（図版4・第7図）

平成4年度調査区のほぼ中央部で検出。S J 3とは隣接する。検出面で長軸1.92m、短軸0.6mほどの隅丸長方形のプランである。床面は短辺で2段堀状になっている。残存深さは50cmほどである。長辺北東部で、須恵器杯蓋・身が2セット出土した。

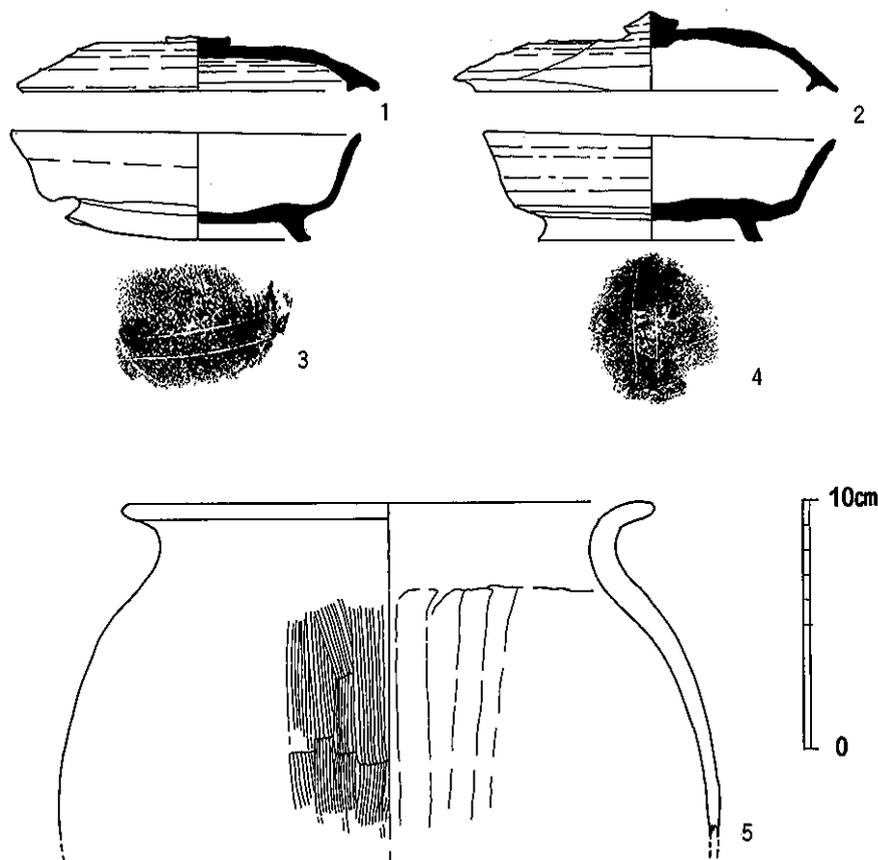


第7図 S R 1号土墳墓実測図（1/30）

## 出土遺物

(図版21・第8図)

(須恵器) 1と2は杯蓋。1は偏平なつまみ、2は擬宝珠状のつまみで、双方ともあまり突出しないかえりをもつ。外面天井部はヘラケズリ調整。2は重ね焼痕がある。3と4は杯身で、踏ん張りのあるやや高目の高台がつく。双方とも底部外面に「=」のヘラ記号がある。3の高台は変形しており、重ね焼の結果か。1と3、2と4をセットとしているが、重ね焼の状況から2と3がセットかもしれない。



第8図 SR1号土壙墓出土土器実測図(1/3)

(土師器) 5は甕の上部。口縁は短く反転する。口縁付近はヨコナデ、胴部外面はハケ目調整、内面はヘラケズリである。

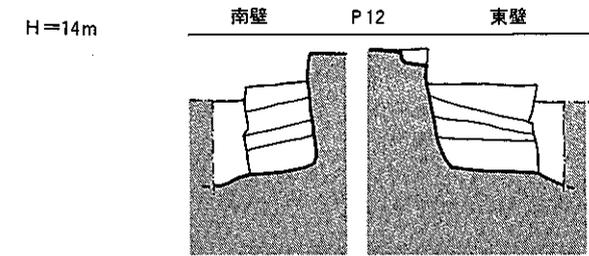
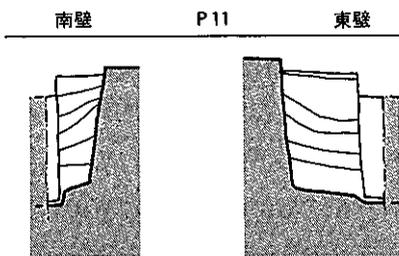
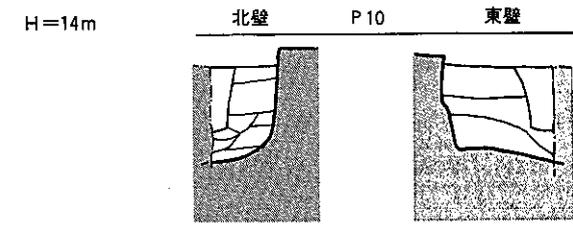
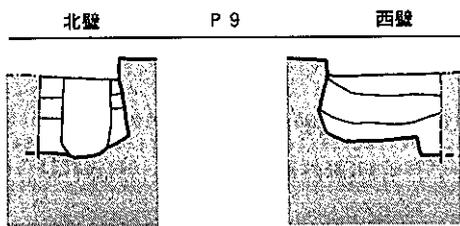
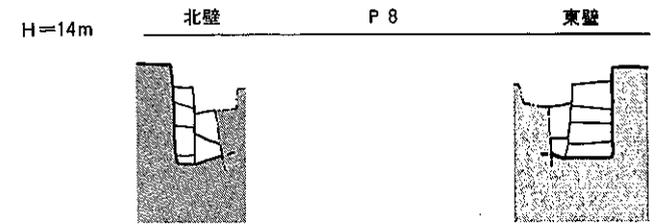
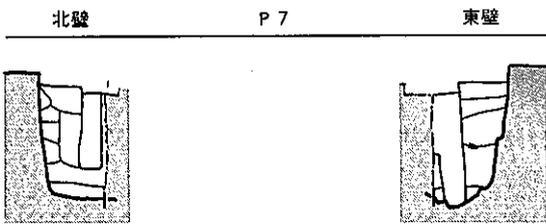
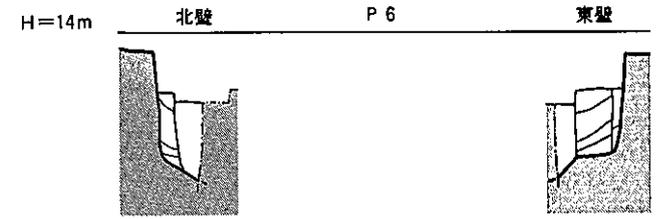
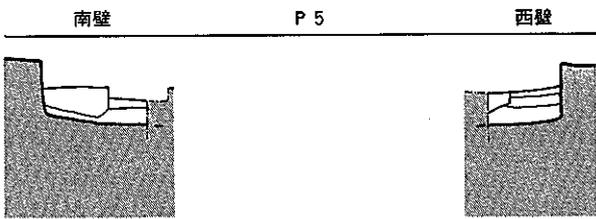
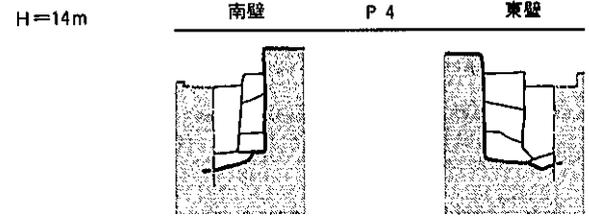
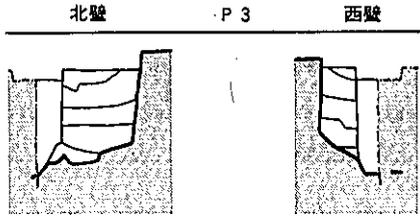
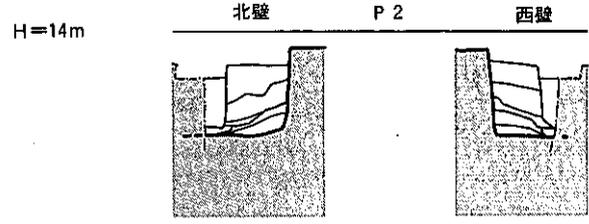
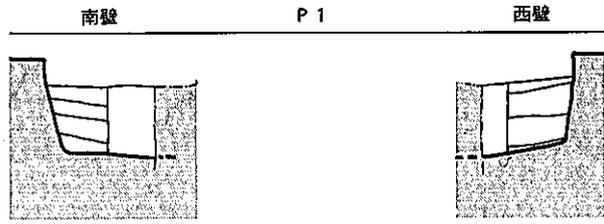
出土遺物から、本遺構は7世紀後半のものである。

## 4 総柱建物

SB1建物(図版4・6・7・第9・12図)



平成4年度調査区(上野遺跡)の南西部に位置する2間×3間の総柱建物である。調査では柱穴の1/4を発掘したが、必ずしも柱痕跡の芯にあたっていない。桁行4,6m、梁行3,89mであるが、それぞれの柱間距離はばらつきが多い。主軸はN-3°-Wである。柱穴掘方は方形或は長方形で一辺60cmから90cmを超えるなど規模が一定していない。柱根痕は径22cmから30cmである。柱穴掘方の配置はややばらつきがありP9掘方は建物の中心に寄っているため、柱は掘方の中心から大きく離れ、壁に接する位置に設けている。残存深さは0.35m~0.78mである。P2・P3・P4・P6・P8・P12の柱痕跡は柱の下部が尖っている状況を示し、P7では、抉ったような加工痕であろうか。P1・P12は抜き痕が認められる。本遺跡の大型建物の中ではもっとも小規模の建物である。なお、P6では平面・土層観察では掘りなおしを示唆し、P2・P4・P5・P8・P10・P11の土層観察では柱穴底面に柱痕跡は接していないことから、「概報I」では建替としているが、遺構全体的な観察から見れば、建てあげるた

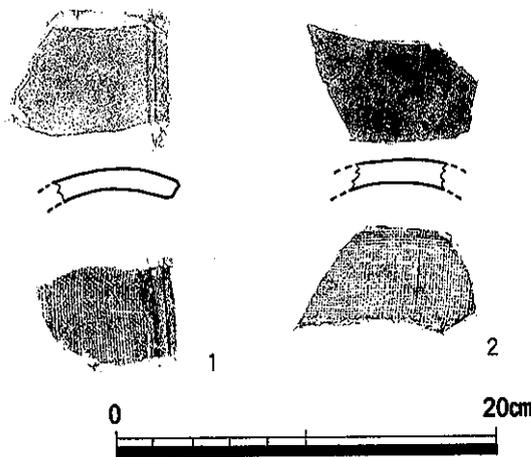


第9图 SB1 建物柱穴土层图 (1/40)

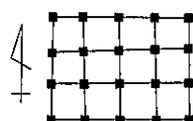
めに必要な柱設置の微調整を行っている」と理解したほうがよさそうである。

#### 出土遺物 (第10図)

P10上面から瓦片が1点出土している。1は丸瓦で精製された胎土、堅緻な焼成である。端部は3面の面取りをして調整している。凸面はナデ調整。



#### S B 2 建物 (図版 5・7・8・9・第12・13・14図)

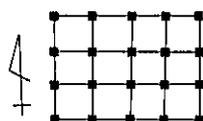


S B 1 建物の北西部に位置する3間×4間の総柱建物である。調査では柱穴の1/4

第10図 S B 1 建物出土瓦実測図 (1/4)

を発掘したが、必ずしも柱痕跡の芯にあたっていない。S B 1 建物の西柱列掘方の西辺の延長が、本建物東柱列掘方東辺と一致する。桁行き7.52m、梁行5.48mで、これも柱間距離にばらつきが見られる。主軸はN-2°-Wである。柱穴掘り方は長方形のものが多く長辺が1m、短辺が70cm前後のものが多い。柱根痕は径40cmから23cmで隅柱がやや径の大きい傾向にある。P9とP10は抜き根が認められる。P1では平面・土層観察では掘りなおしと見られ、P8は柱痕跡に抉った加工痕が残る。また、P1・P2・P3・P5・P11・P12・P14・P15の土層観察では柱穴底面に柱痕跡は接していないことから、「概報I」では建替としているが、遺構全体的な観察から見れば、これも建て上げるために必要な柱設置の微調整を行っている」と理解したほうがよさそうである。建物の周囲には径20cm前後のピットが建物を囲むように検出され、その規模や、やや規則性に難のあることから、本建物の建設に関わる足場穴と考えられる。

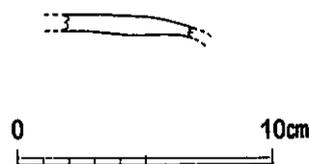
#### S B 4 建物 (図版 5・10・11・第15・16・17図)



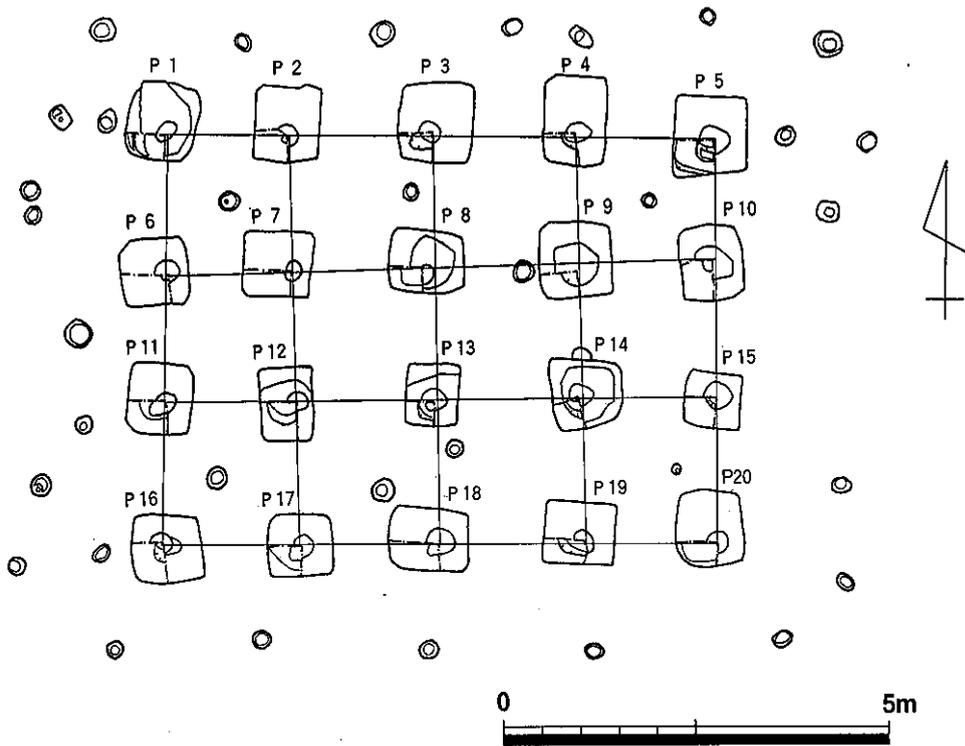
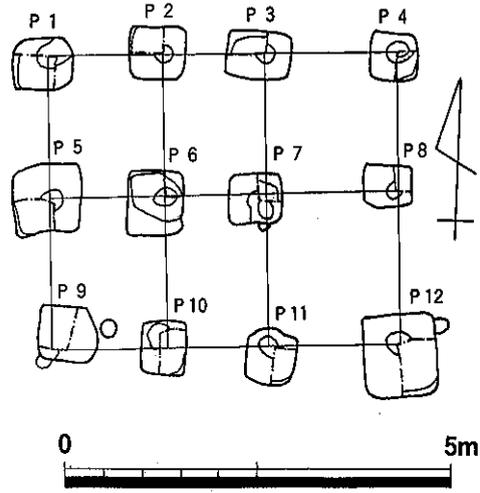
S B 2 建物の東18.5m離れた位置に位置し、側柱建物 S B 3 に切られる。3間×4間の総柱建物で、S B 2 建物と柱筋を揃え、同規模といえよう。調査では柱穴の1/4を発掘したが、必ずしも柱痕跡の芯にあたっていない。桁行7.74m、梁行5.54mでこれも柱間距離にばらつきが見られる。主軸は真北である。柱掘方は一辺1.2m前後の長方形から正方形であるが、多くは抜き取りのため統一的ではない。柱根痕もわからない柱穴が多いが径30cmほどのものが多い。残存深さは0.65m~1.05mと良好である。P9・P10・P12に柱痕跡に抉った加工痕が残る。土層観察した柱穴全ては抜かれており、これも柱抜き跡は柱穴掘方底面に達しておらず、「概報I」では建替としたが、平面観察や、柱穴プランが比較的整っていることからこれも建替とは断言できない。西梁列の西側2.5~3m離れてS D 2 溝が南北に延びる。この溝がS B 4 建物に伴うものかはわからない。

#### 出土遺物 (第10・11図)

(土師器) P13から出土した丁寧なつくりの土師器杯蓋である。現場で取り上げたときは口縁端部が観察できたが、整理にいたるまでに破損している。端部を折り曲げた形態であったと記憶している。精製された胎土で、外面は回転へら削り、内面はなでで仕上げている。

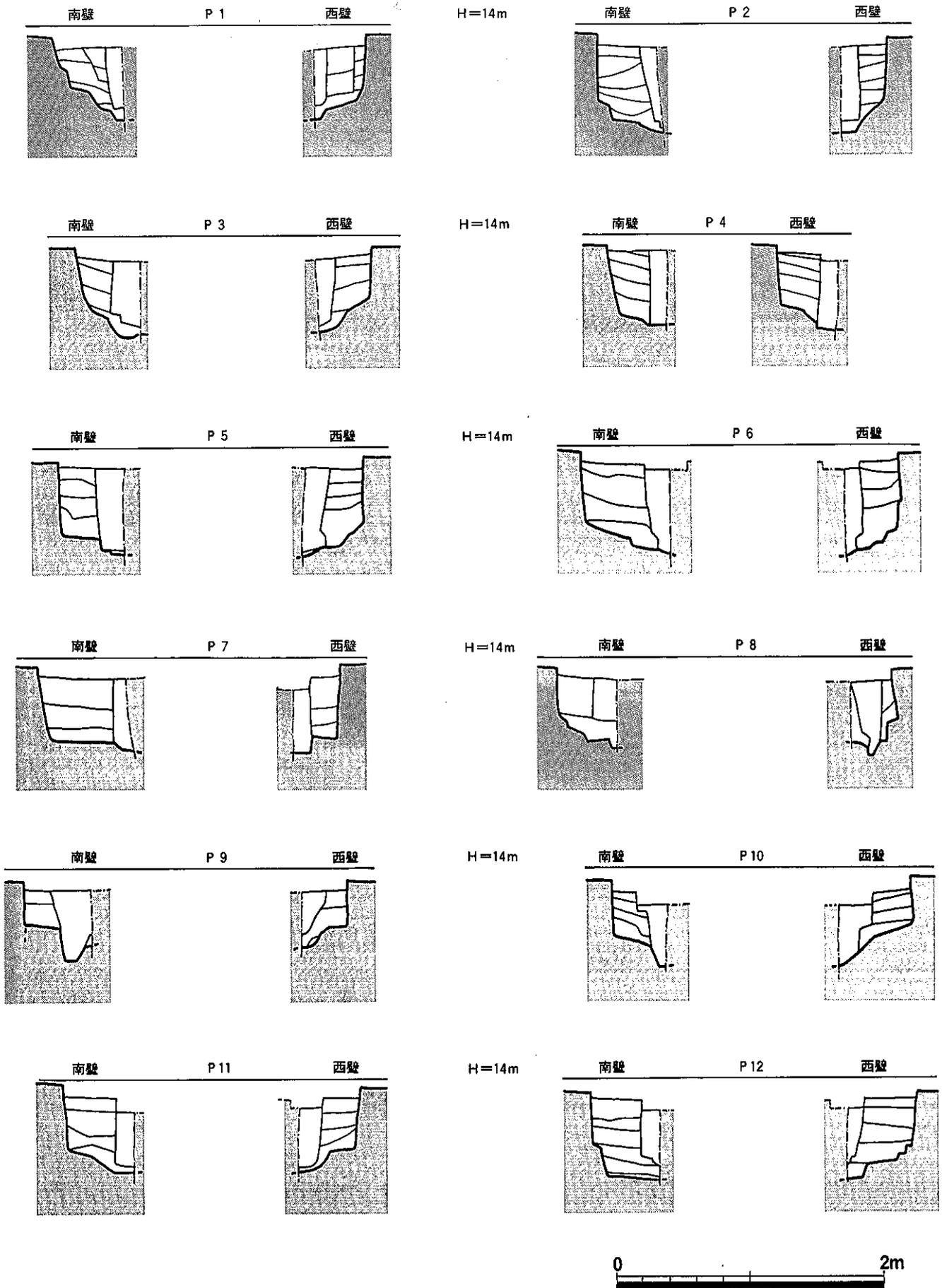


第11図 S B 4 建物 P13 出土土器実測図 (1/3)

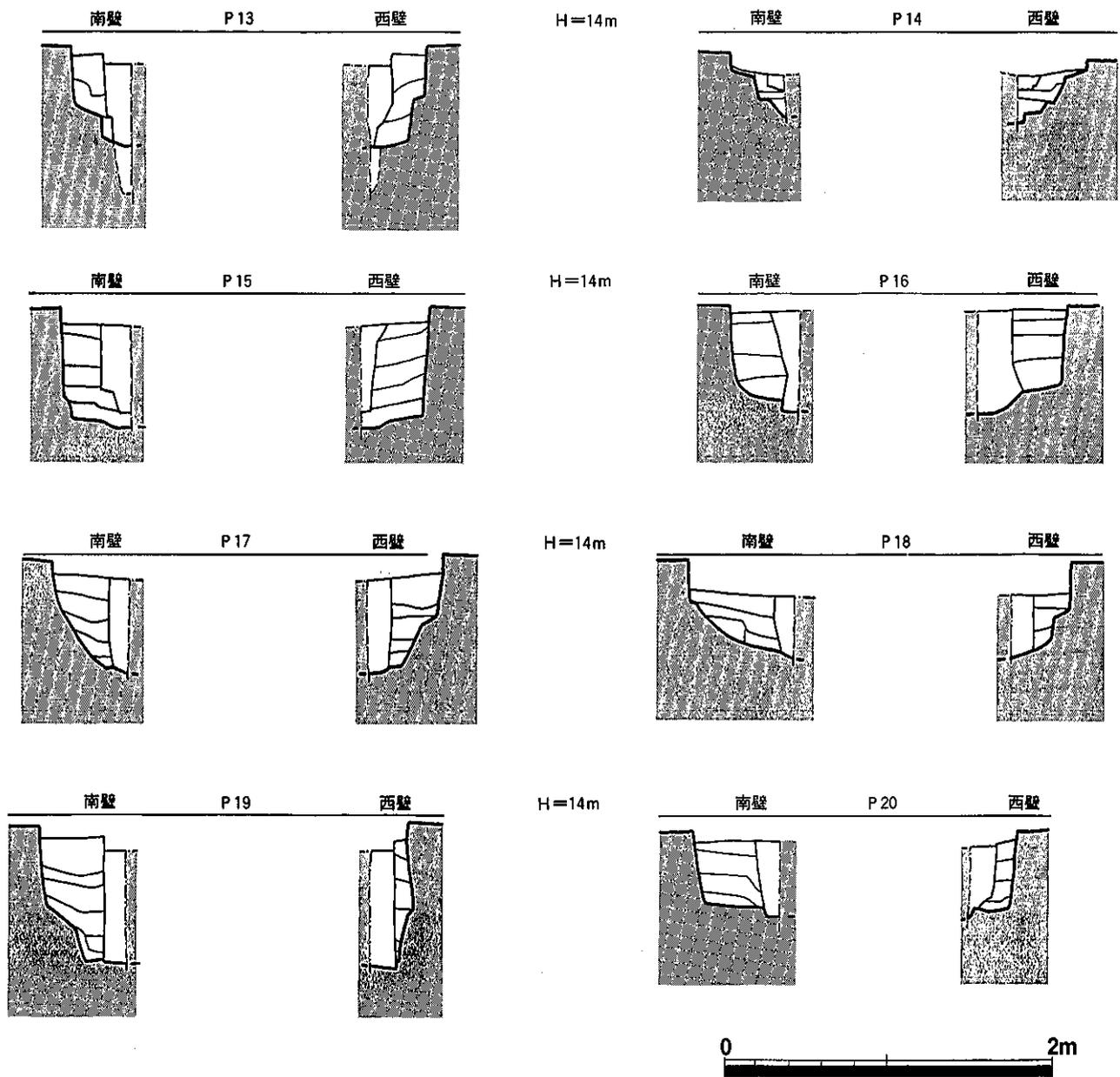


第12図 SB 1・2 建物実測図 (1/100)

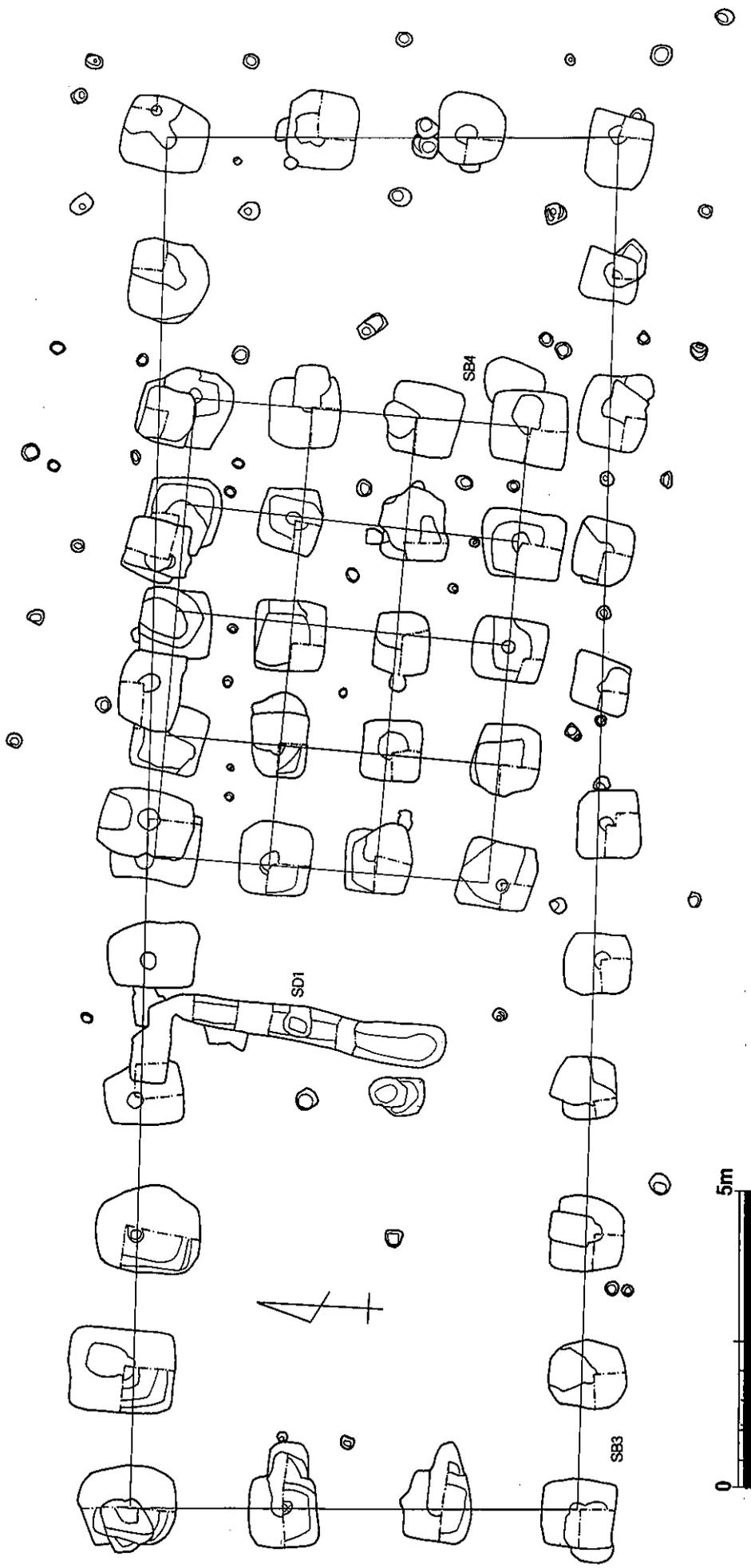
(瓦) P10の掘方から出土の丸瓦片。精製された胎土、堅緻な焼成である。凸面はナデ調整。



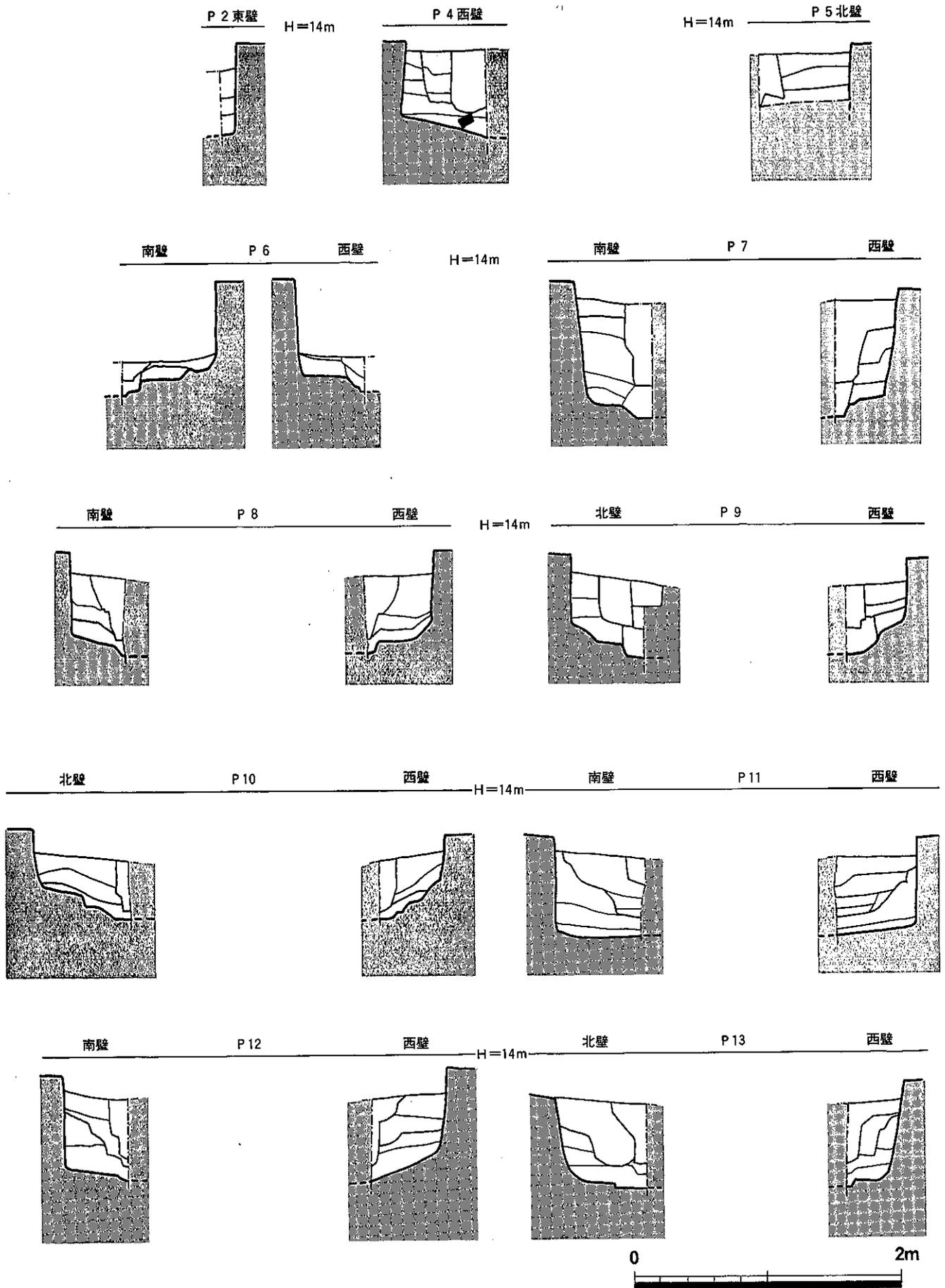
第13図 S B 2 建物柱穴土層図① (1/40)



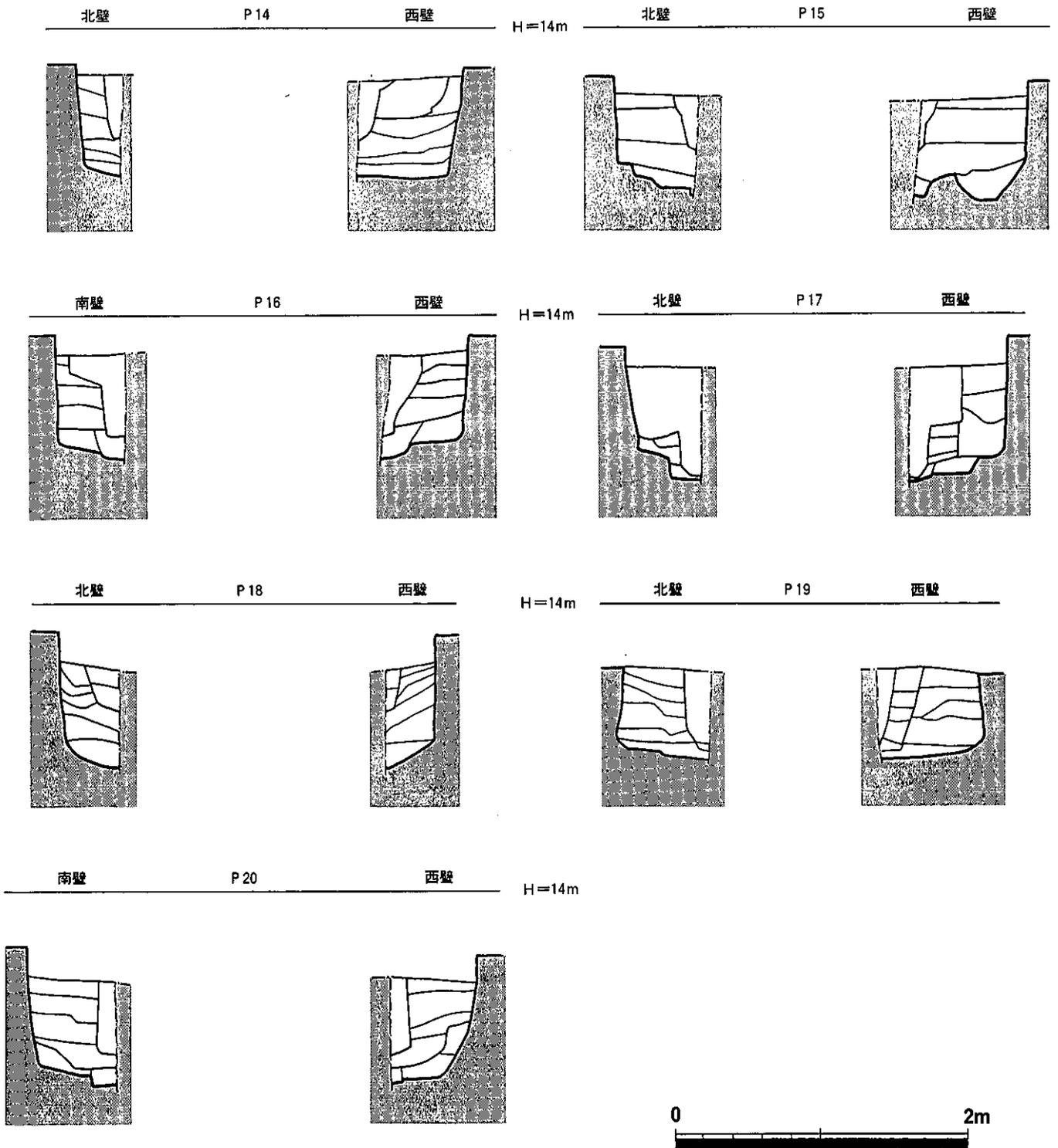
第14图 SB 2 建物柱穴土层图② (1/40)



第15图 SB3·4 建物実測図 (1/100)

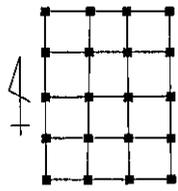


第16図 SB4 建物柱穴土層図① (1/40)



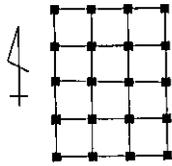
第17图 SB 4 建物柱穴土层图② (1/40)

S B14建物 (図版3・第19図)

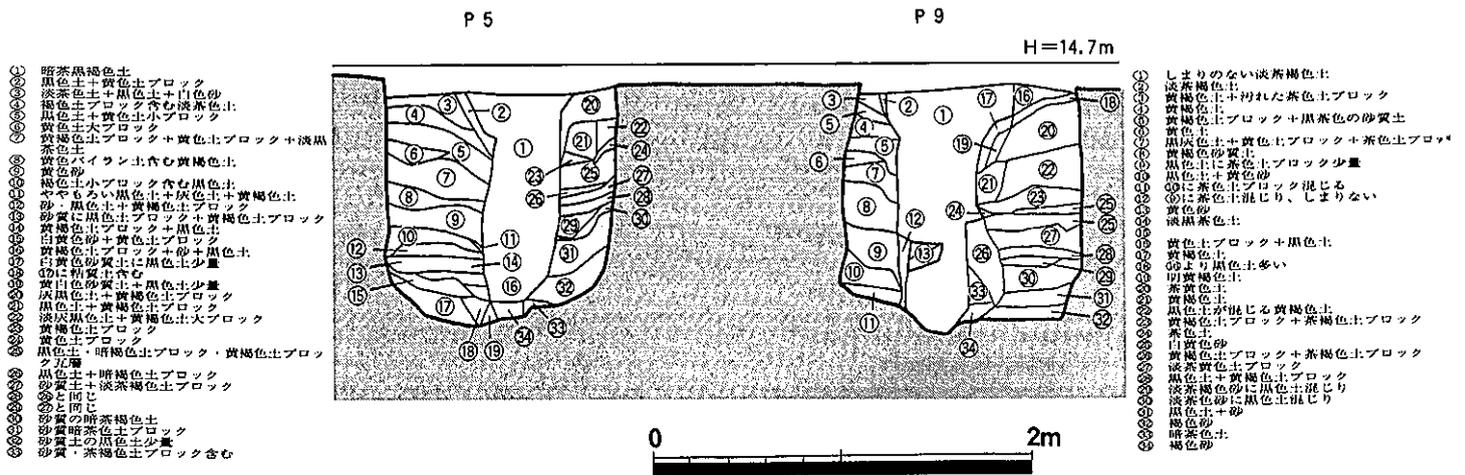


S B16建物の北側に12m離れて位置する。3間×4間の総柱建物である。調査は平面確認のみである。桁行8m、梁行6mでこれも柱間距離にばらつきが見られる。主軸は真北である。柱掘り方は一辺1.2~1mの長方形から正方形であるが、多くは抜き取りのため統一的ではない。しかし、建替の痕跡は認めがたい。柱根痕もわからない柱穴が多いが径30cmほどのものが多い。

S B15建物 (図版3・11・第18・19図)



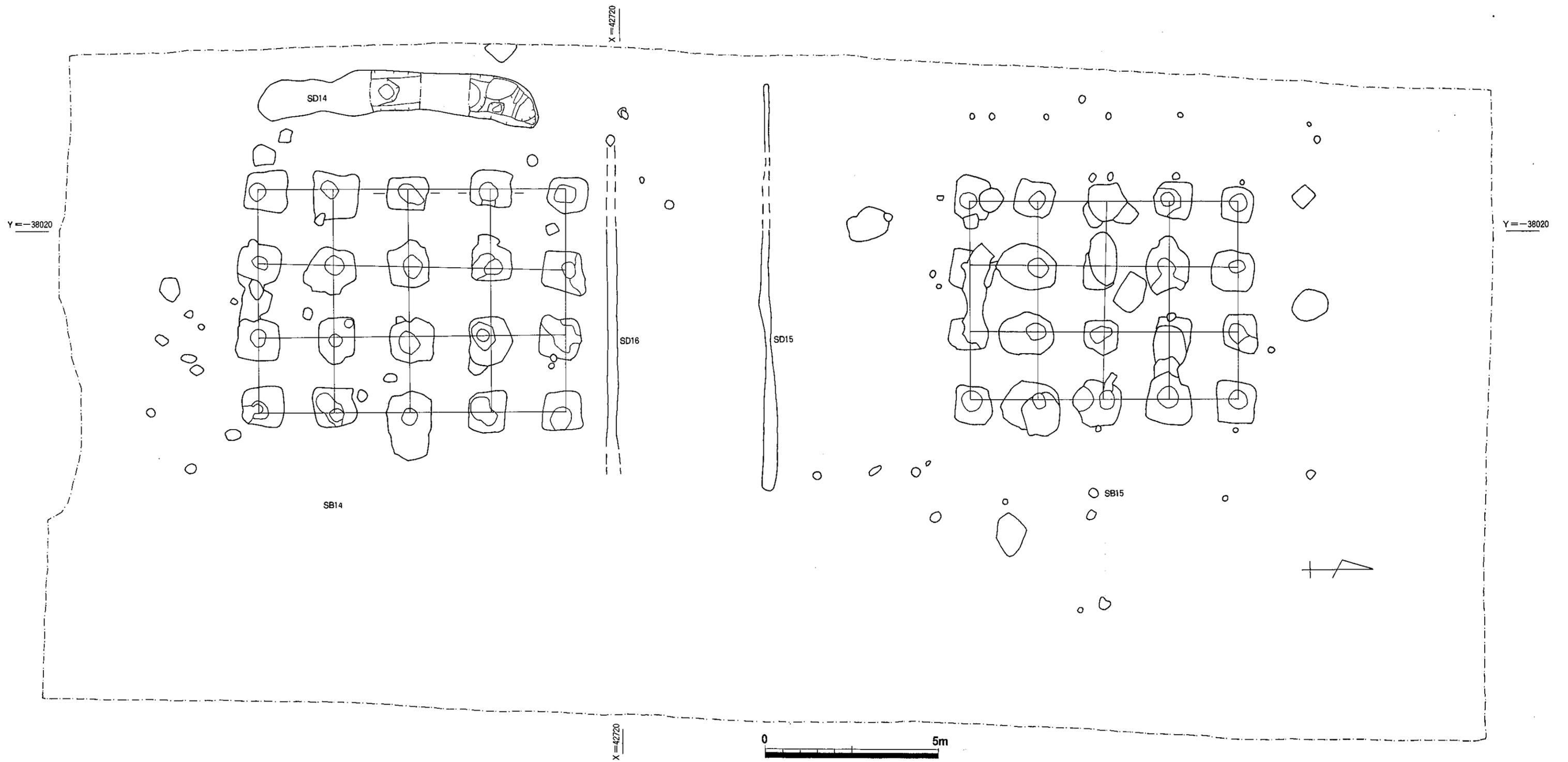
S B14建物の北側に12m離れて位置する。3間×4間の総柱建物である。調査は平面確認のみでP5とP9柱穴を半裁した。桁行9m、梁行6.6mでこれも柱間距離にばらつきが見られる。主軸は真北である。柱掘り方は一辺が1.1~1.2mほどの長方形から正方形であるが、多くは抜き取りのため統一的ではない。しかし、建替の痕跡は認めがたい。柱根痕もわからない柱穴が多いが径30cmほどのものが多い。半裁したP5柱穴では上面の確認面では径50cmほどの抜き取り痕が確認されたが、本来の柱の径は下部に残る40cmほどである。残存深さは1.32m。P9柱穴では上面の確認面では径70cmほどの抜き取り痕が確認されたが、本来の柱の径は下部に残る35cmほどである。また柱痕跡内に黄色砂・淡黒茶色土のまとまった部分があり、柱の加工痕・穴穴などではないだろうか。残存深さは1.33m。



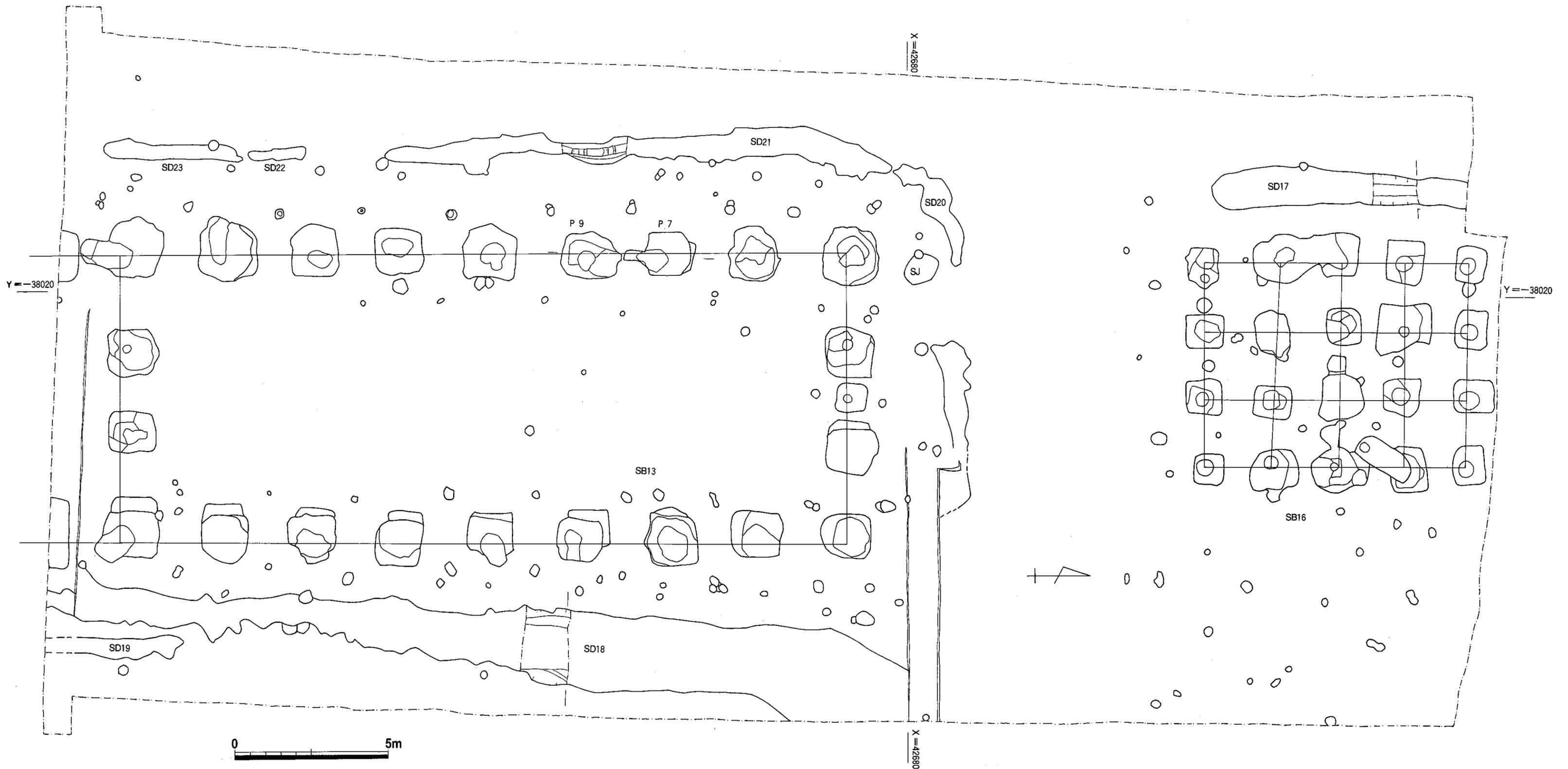
第18図 S B15建物柱穴土層図 (1/40)

出土遺物 (図版21・22・第21・22図)

1はP14上面から出土した須恵器の坏蓋片で転用硯である、内面をよく擦っており墨痕の付着が著しい。2はP11上面から出土、口縁端部を折り曲げた形態と、断面三角の形態のどちらともいえるような形態である。残存部分はナデである。3はP18抜き痕から出土した土師器甕の口縁部である。内面は口縁上位までケラケズリで、口縁は短めに外反する。4はP11の上面から出土した鉄釘である。

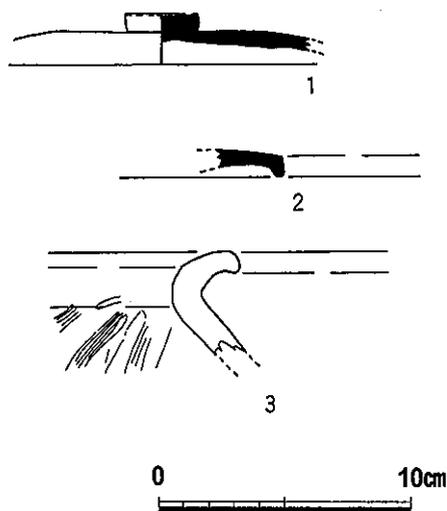


第19図 94-5 トレンチ遺構配置図 (SB14・15) (1/100)

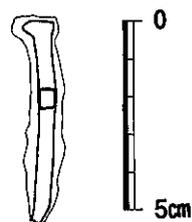


第20図 94-3 トレンチ遺構配置図 (SB13・16) (1/100)

先端部が若干欠損しているが残存長さは5.4cmである。

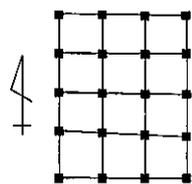


第21図 S B15P 出土土器実測図 (1 / 3)



第22図 S B15P  
15出土鉄器実測図  
(1 / 2)

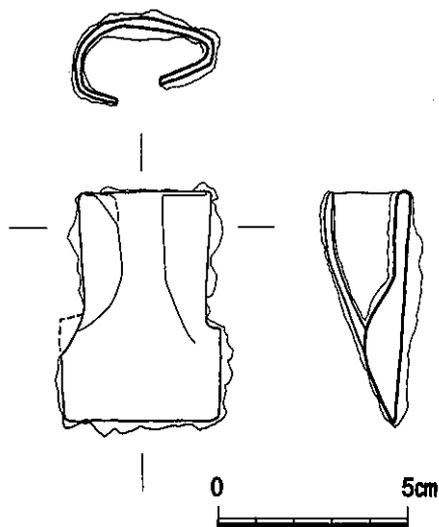
### S B16建物 (図版3・第20図)



S B13建物の北側に12m離れて位置する。3間×4間の総柱建物である。調査は平面確認のみである。桁行8.68m、梁行6.75mでこれも柱間距離にばらつきが見られる。主軸は真北である。柱掘方は一辺が1.4から1.2mほどで長方形から正方形であるが、多くは抜き取りのため統一的不是ではない。しかし、建替の痕跡は認めがたい。柱根痕もわからない柱穴が多いが径30cmほどのものが多い。

### 出土遺物 (図版21・第23図)

P19の埋め土中から出土した鉄斧である。全体に錆が著しく、保存状態は良くない。全長6.1cm、柄幅3.3cm、柄装着部内幅3.1cm前後、刃部幅4.1cmを測る。装着部は打ち延ばした基部を袋状に折り曲げており、その厚さは3mmほどである。



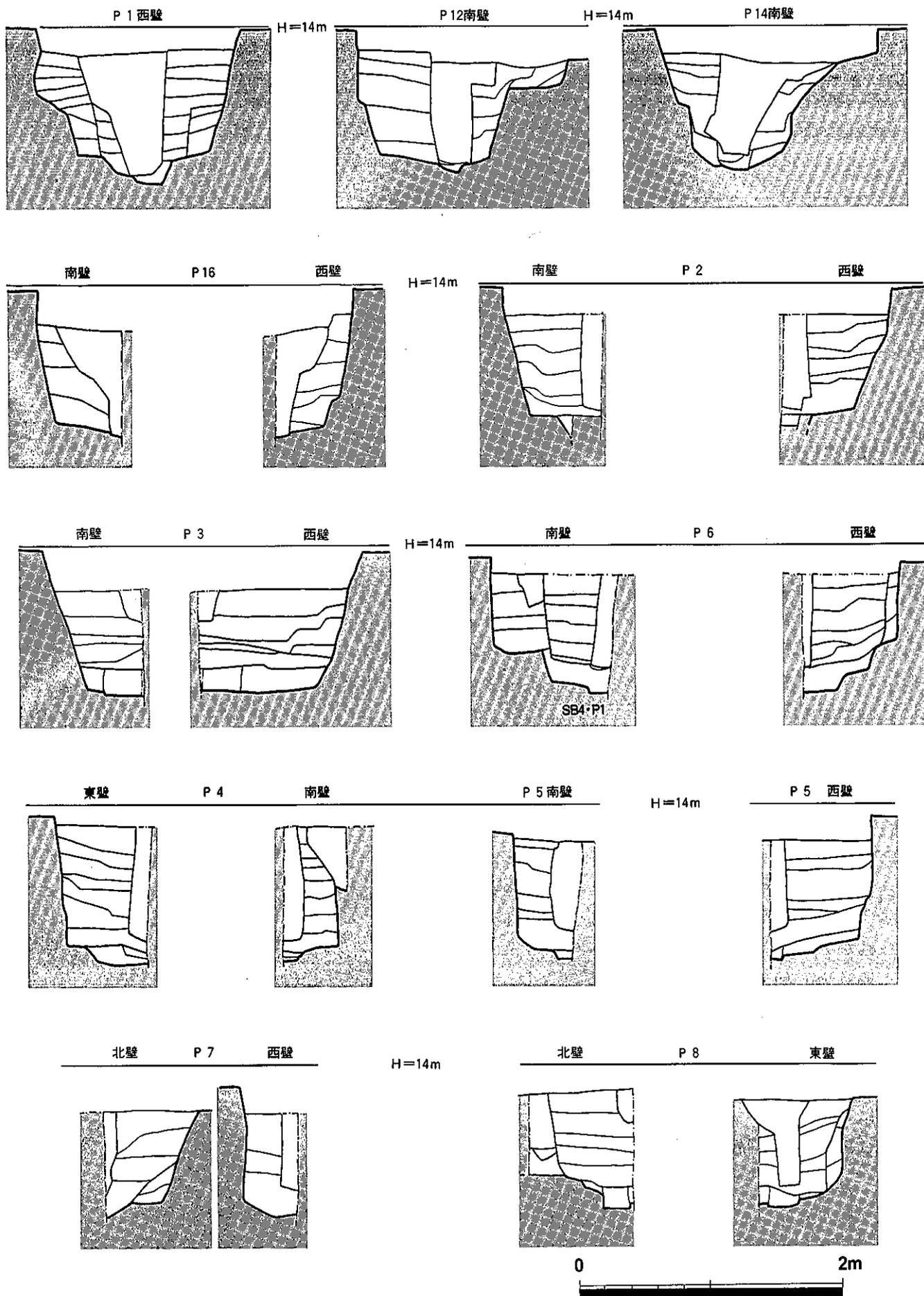
第23図 S B16P19出土鉄器実測図 (1 / 2)

## 5 側柱建物

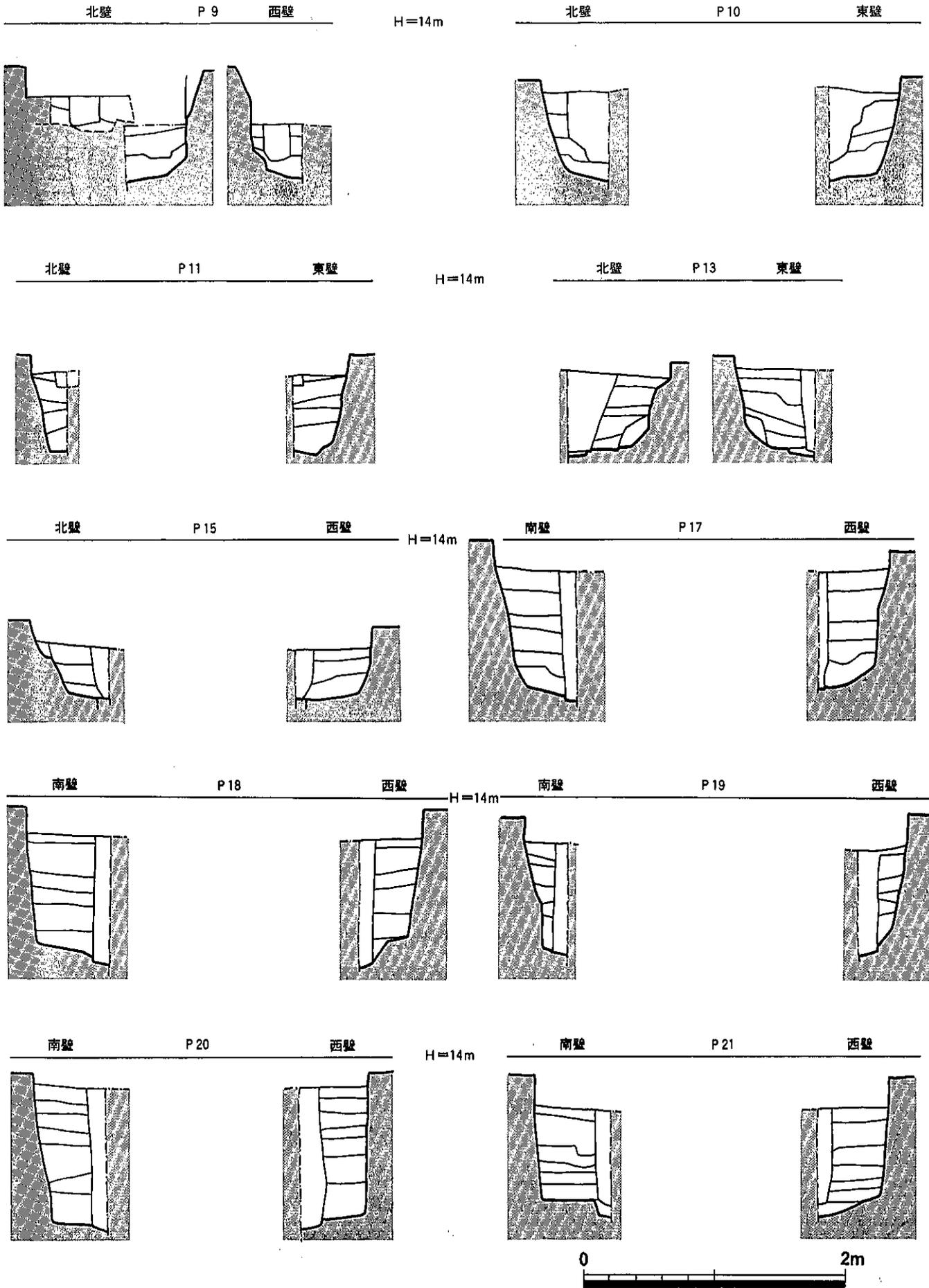
### S B3建物 (図版5・11・12・13・14・15・第15・24・25・26図)



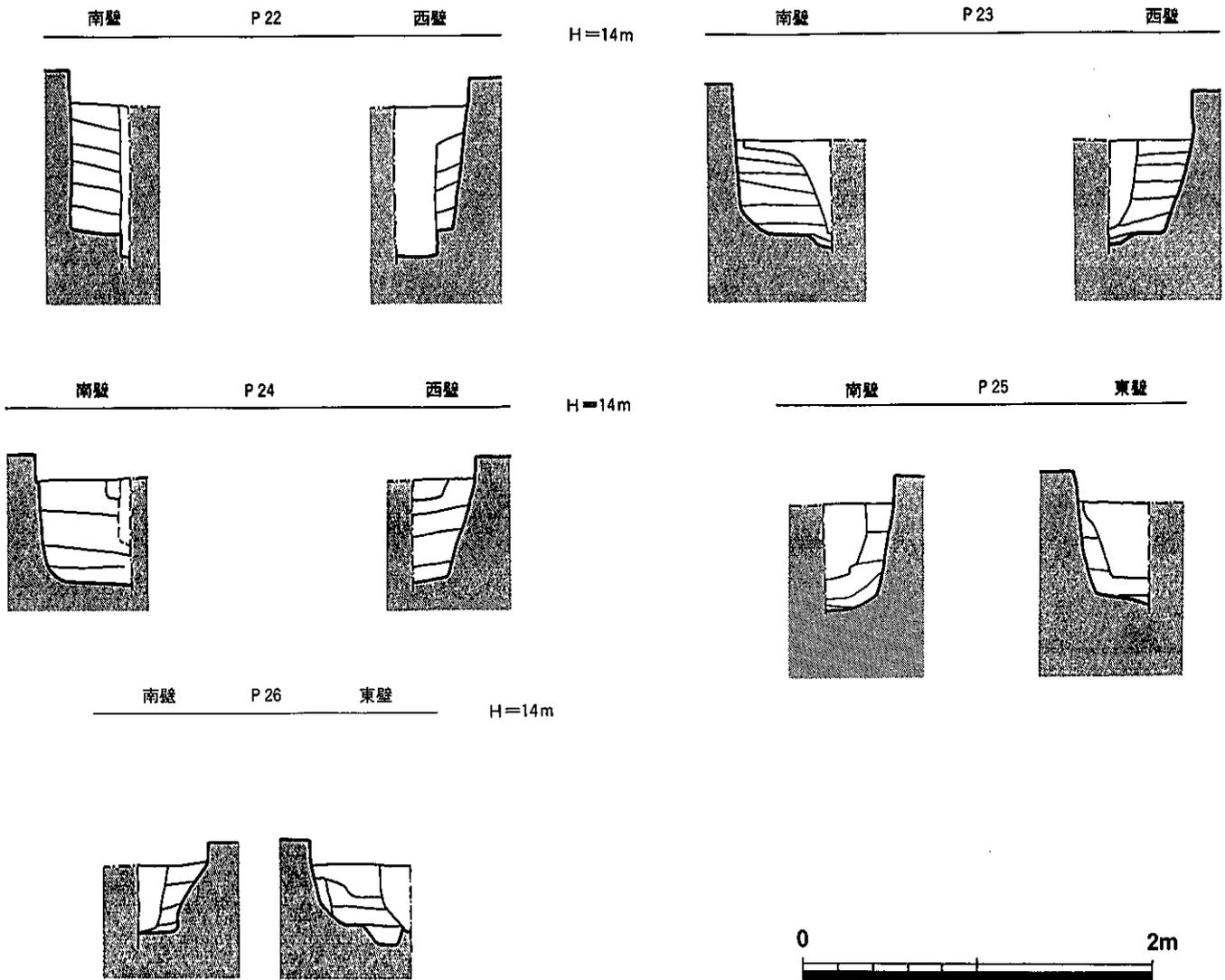
S B2建物の東9mに位置しS B4を切る。3間×10間の側柱建物である。調査では柱穴の1/4を発掘したが、必ずしも柱痕跡の芯にあたっていない。これも柱間距離にばらつきが見られる。主軸は真北である。



第24図 SB3 建物柱穴土層図① (1/40)



第25図 SB3建物柱穴土層図② (1/40)

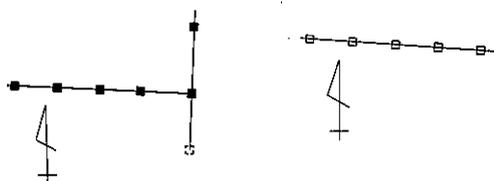


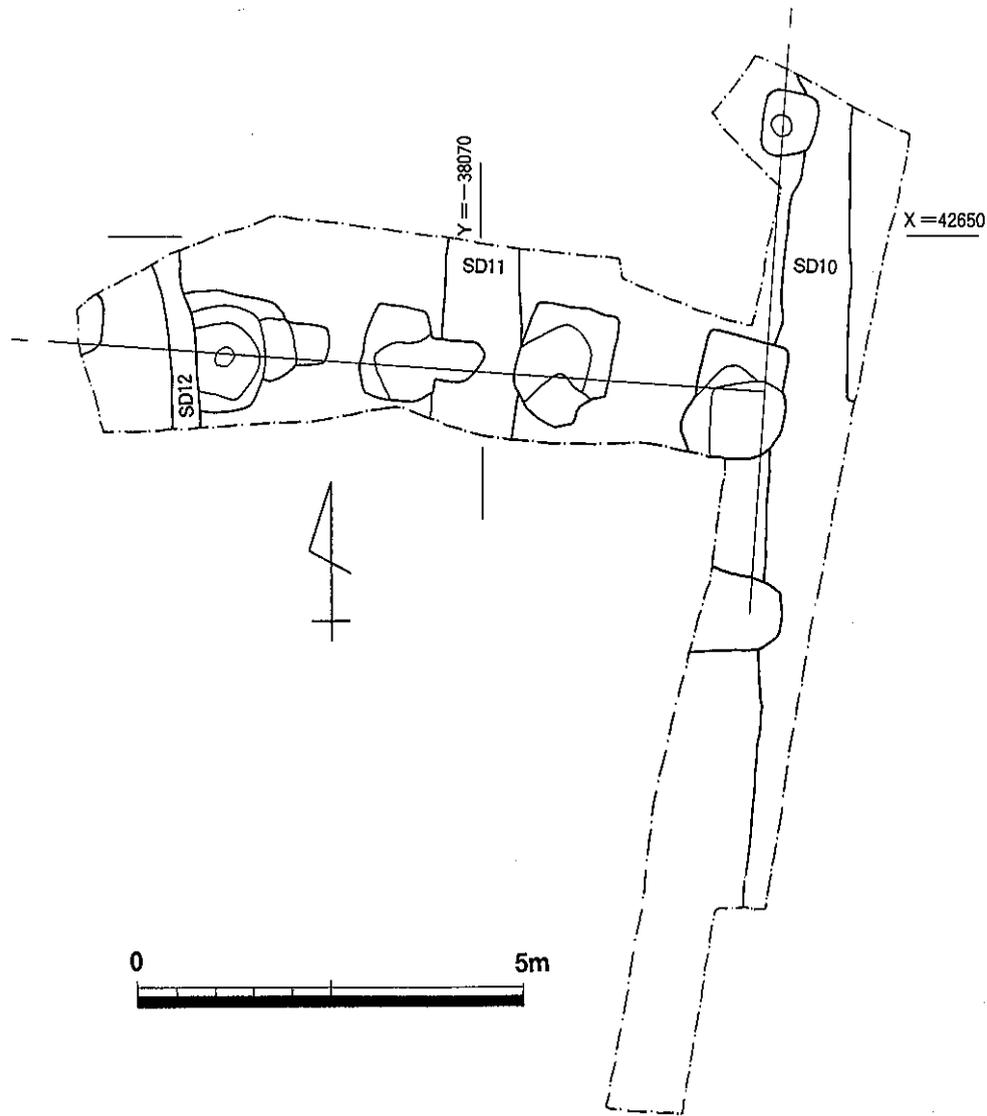
第26図 S B 3 建物柱穴土層図③ (1/40)

柱掘方は1.8から1.1mほどの長方形から正方形であるが、多くは抜き取りのため統一的不是である。柱痕跡もわからない柱穴があるが径30cm以下のものが多い。P15・P17・P18・P19・P20・P22を除く柱痕跡は柱穴掘方底面に達しておらず、「概報Ⅰ」では建替としたが、平面観察や、柱穴プランが比較的整っていることからこれも建替とは断言できない。残存深さは0.53mから1.25mであるが、浅い柱穴は遺構確認面が低くなっているためでもある。

S B 10・11建物 (図版15・第27図)

S B 3 から東20mの地点のトレンチで柱穴群を確認した。P 3 柱穴はS D12溝に切られ、P 4 と P 5 柱穴はS D11溝を切る。P 6 柱穴と柱穴の可能性のあるP 7はS D10溝を切る。柱穴は1辺1.2mほどのものと1辺0.8mほどのものがあり、前者は抜き跡をあるいは建替と考えられる状況が認められる。後者は1基の柱穴を根拠に





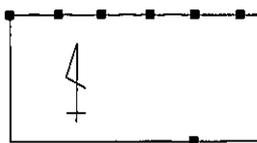
第27図 93-4 トレンチ遺構配置図 (S B10・11) (1/100)

いうしかないが、切り合いがない。このことから、時期の異なった2棟の建物が想定される。

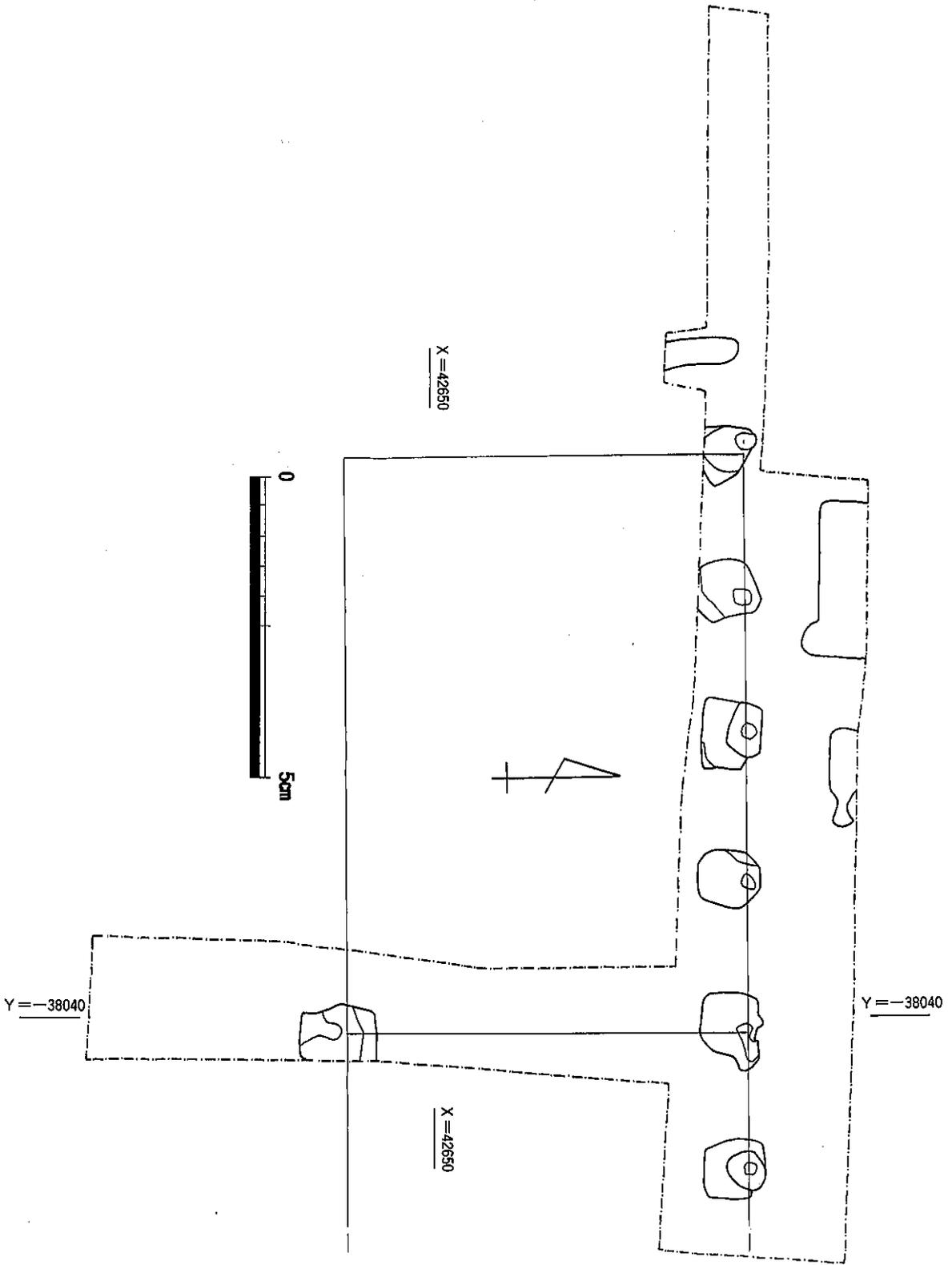
S B10とした建物は、切り合いでいう新建物で、桁行4間梁行1間分で復元しているが桁行の柱間距離は8尺・9尺・7尺と一定でなく、梁行柱間距離も12尺と広すぎる。

S B11とした建物は5基の柱穴をもって、検出したのは桁方向と想定している。柱間距離は7.5尺と考え復元している。双方の建物は、上野遺跡の中心にあたり、柱穴に切られるSD10やSD11溝は、道路側溝または企画線的なものと考えられるため、重要な位置にあるとも考えられる。しかしながら矮小なトレンチであるので、今後の調査機会に詳細をゆだねたい。

S B12建物 (図版15・第28図)



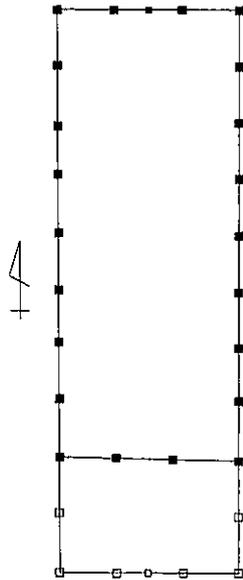
S B13建物の15m西のトレンチで確認した建物である。確認したのは北側桁列の5間分の柱穴と西から4間目に対応する南桁側の柱穴1基である。S B13付近ではこの建物に対応する柱穴は確認できず、規模は3間×7間以下のものであろう。桁列の柱間距離はややばらつき



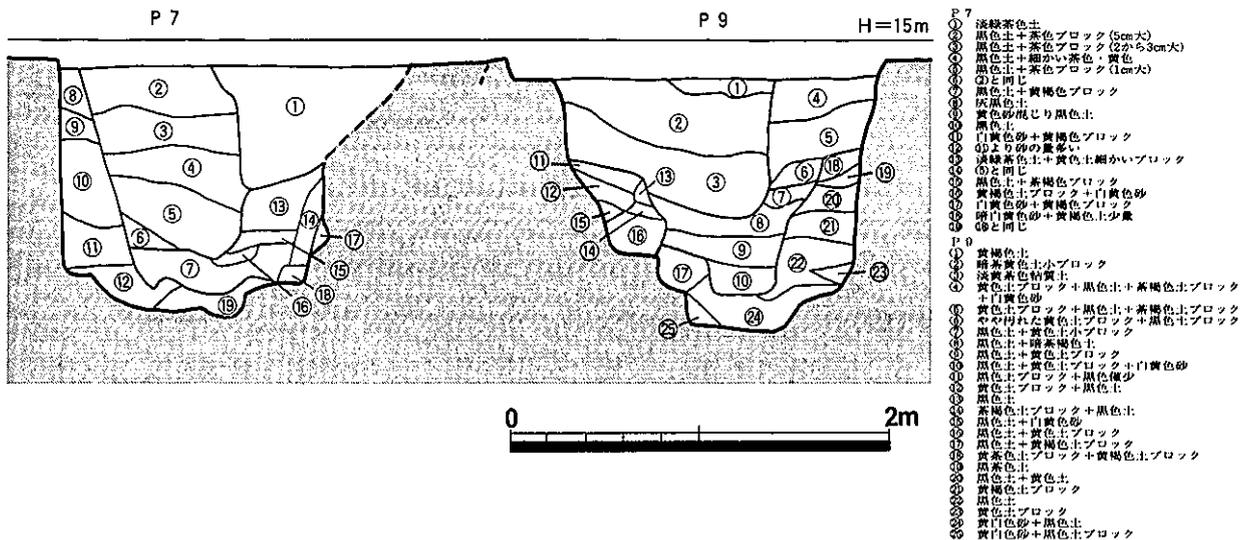
第28図 94-12トレンチ遺構配置図 (S B12) (1/100)

があるが、8尺、梁間は7.5尺程度であろう。柱穴の規模は1辺1m前後の隅丸方形で、新建物柱穴部分が不整である。平面上では1回の建替が確認でき、新建物は北桁列では古柱穴の北側に沿った位置に確認できる。

S B13建物 (図版3・16・第20・29図)

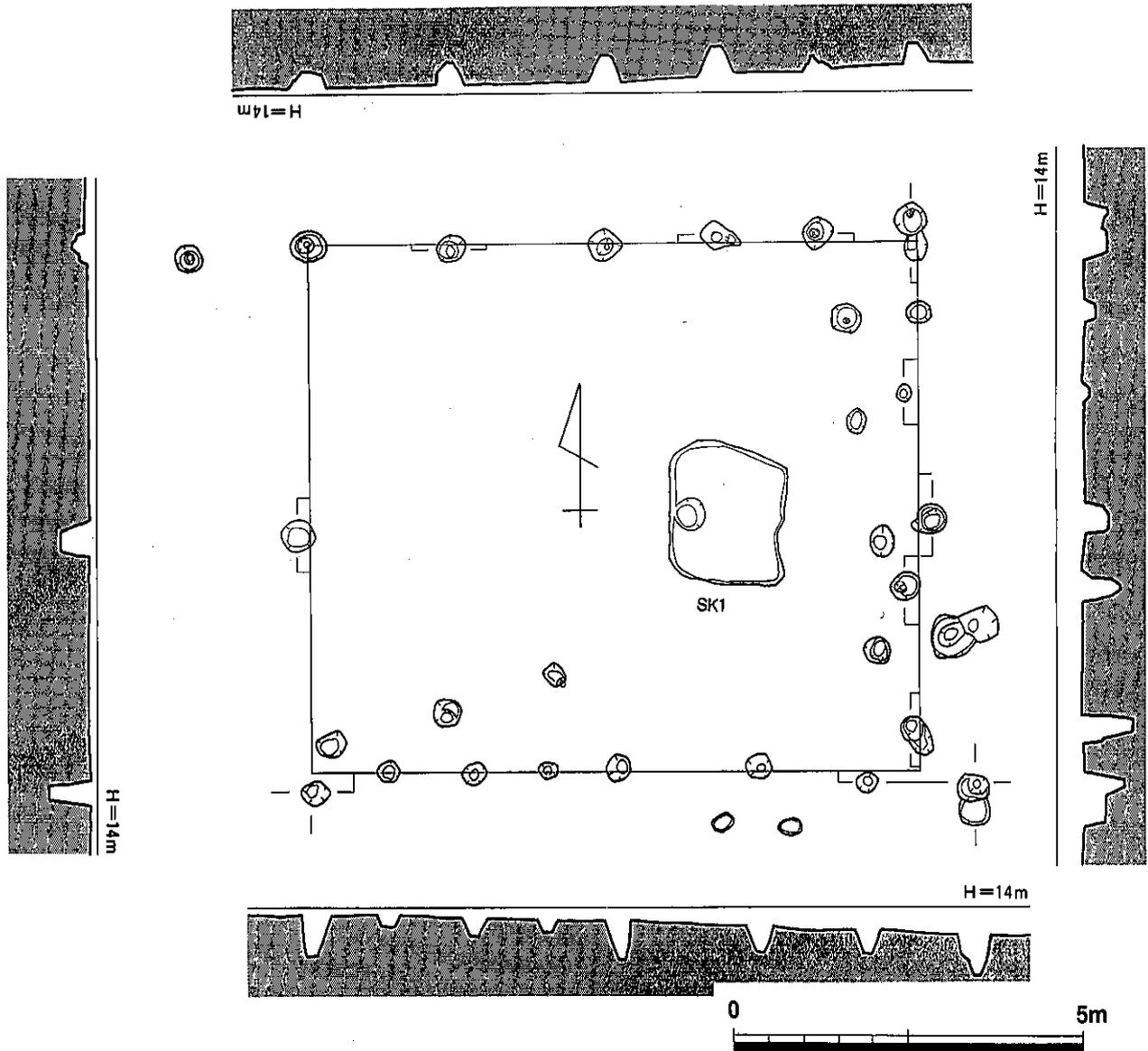


S B15建物の南側に12m離れて位置する。3間×9間以上の側柱建物であるが、おそらく10間の規模になるであろう。調査は平面確認で、2基の柱穴を半載した。桁行30.6m以上、梁行9mで同じ規模の建替が認められる。柱間距離にばらつきが見られる。北から8間目に間仕切りの柱穴2基がある。また、北妻には中央にやや小振りの柱穴を確認している。棟持ち柱であろうか。主軸は真北である。柱掘方は1.7から1.2mほどの長方形から正方形であるが、多くは抜き取りのため統一的ではない。柱根痕もわからない柱穴が多いが確認できるものは径30cmほどのものである。半載した7号・9号柱穴では、新旧建物の重複と、新建物の抜き取りが確認された。残存深さは7号柱穴で1.3m、9号柱穴で1.35mと、極めて良好な状態である。本建物の各柱穴のほぼ中間の位置の内外に柱筋より2.5から3m離れ径50から30cmのピットが規則正しく検出された。本ピットは建替前のものに対応する足場穴の可能性が高い。本建物の周囲には柱筋から約3m離れて溝が巡っている。溝については後述するが、雨落ち溝とすると本建物の規模を推測するに重要なデータといえよう。



第29図 S B13建物柱穴土層図 (1/40)

6 その他の建物

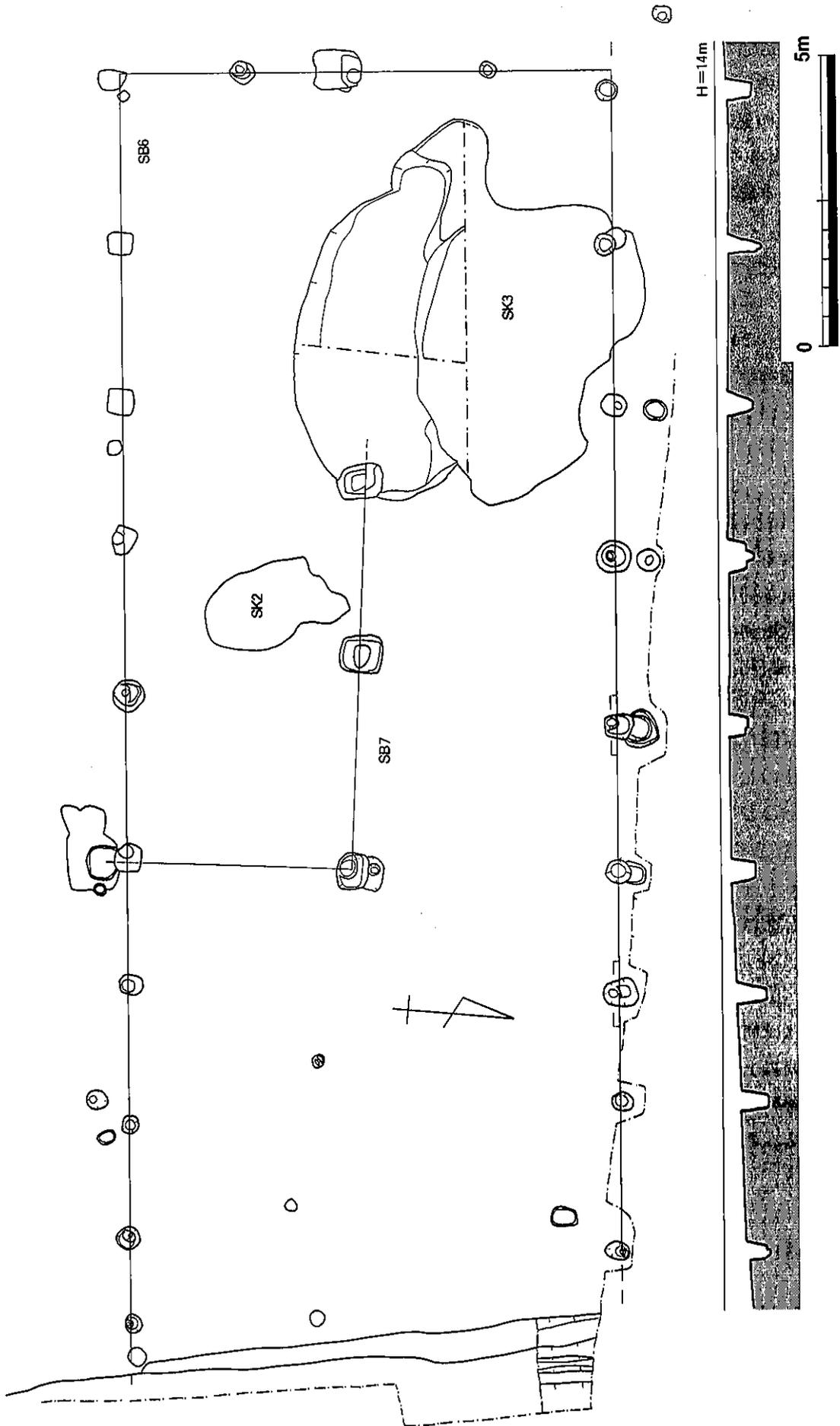


第30図 SB 5 建物実測図 (1/100)

SB 5 建物 (図版16・第30図)

SB 3 建物の南 8 m、SB 1 建物の東 10 m に位置する小規模柱穴掘方の側柱建物である。北側柱列の西の延長は SB 1 建物の北側柱列掘方の南辺にあたり、建物中心線の延長は SB 1 建物の南柱列掘方南辺にあたる。また、西梁列の北延長は SB 18・19 の西梁列にあたる。2 間 (4 間) × 4 間の建物で、柱間距離はばらつきが大きく相対する柱穴にきちんと対応しない。桁行 9 m、梁行き 7.85 m の規模である。建物中央部分に SK 1 土坑を検出している。

主軸は N-0.5°-W である。



第31図 SB6建物付近実測図(1/100)

### S B 6 建物 (図版16・第31図)

S B 3 建物の北側2～3mに位置する小規模柱穴掘方の側柱建物である。S K 3 土坑を切る。4間×8間以上の建物で、梁行8.5m、桁行22m以上の規模で、S B 3 建物の規模に近い。主軸はN-9°-Wと大きく西偏する。北梁列の西から2間目の柱穴の北側に、本建物に切られるピット列があるので、本建物の北側に小規模な施設が想定される。

### S B 7 建物 (図版16・第31図)

S B 6 建物の範囲に含まれ、S K 3 土坑を切る小規模ながら方形掘方の柱穴3基を確認した。S K 3 土坑の掘り下げ時点では、一部未確認のまま掘り下げてしまったが、S B 6 建物の西梁列中央の柱穴が本建物柱穴と同規模の方形でかつ、S B 6 建物の柱穴に切られていることから、S B 6 建物の西梁列までが本建物の範囲であろう。また、南桁列は確認できず、柵状のものかもしれない。柱間距離は統一しておらず、東西の長さ6.9m乃至14m、南北4.2mの規模である。主軸はN-7°-W。

### S B 17 建物 (図17版・第32図)

平成7年度第2トレンチの中央東よりで検出。直径50～25cmほどの柱穴からなる2間×2間以上の建物で、東梁列は後世の溝および道路で攪乱を受け確認できていない。西梁列は3基の柱穴からなるが、南北桁列は、おのおの5乃至6基の柱穴があり、桁側に多く柱を使った構造であろうか。桁行6.5m、梁行5.8m以上の規模である。主軸はN-0.5°-W。

### S B 18 建物 (図17版・第32図)

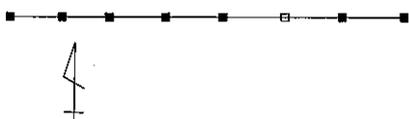
S B 17 建物の北3mで検出。S A 9 を切る。S B 19 とは重複するが新旧関係は確認していない。直径30～50cmほどの柱穴からなる2間×3間以上の建物で、東梁列は後世の溝および道路で攪乱を受け確認できていない。西梁列は、S B 5 西梁列の延長上である。西梁列は3基の柱穴からなり、南北桁列は6乃至7基の柱穴があり、北列はS B 19 建物との重複する可能性があり、明確には示せないが梁行8.88m、桁行8.88m以上の規模である。主軸はN-0.5°-W。

### S B 19 建物 (図17版・第32図)

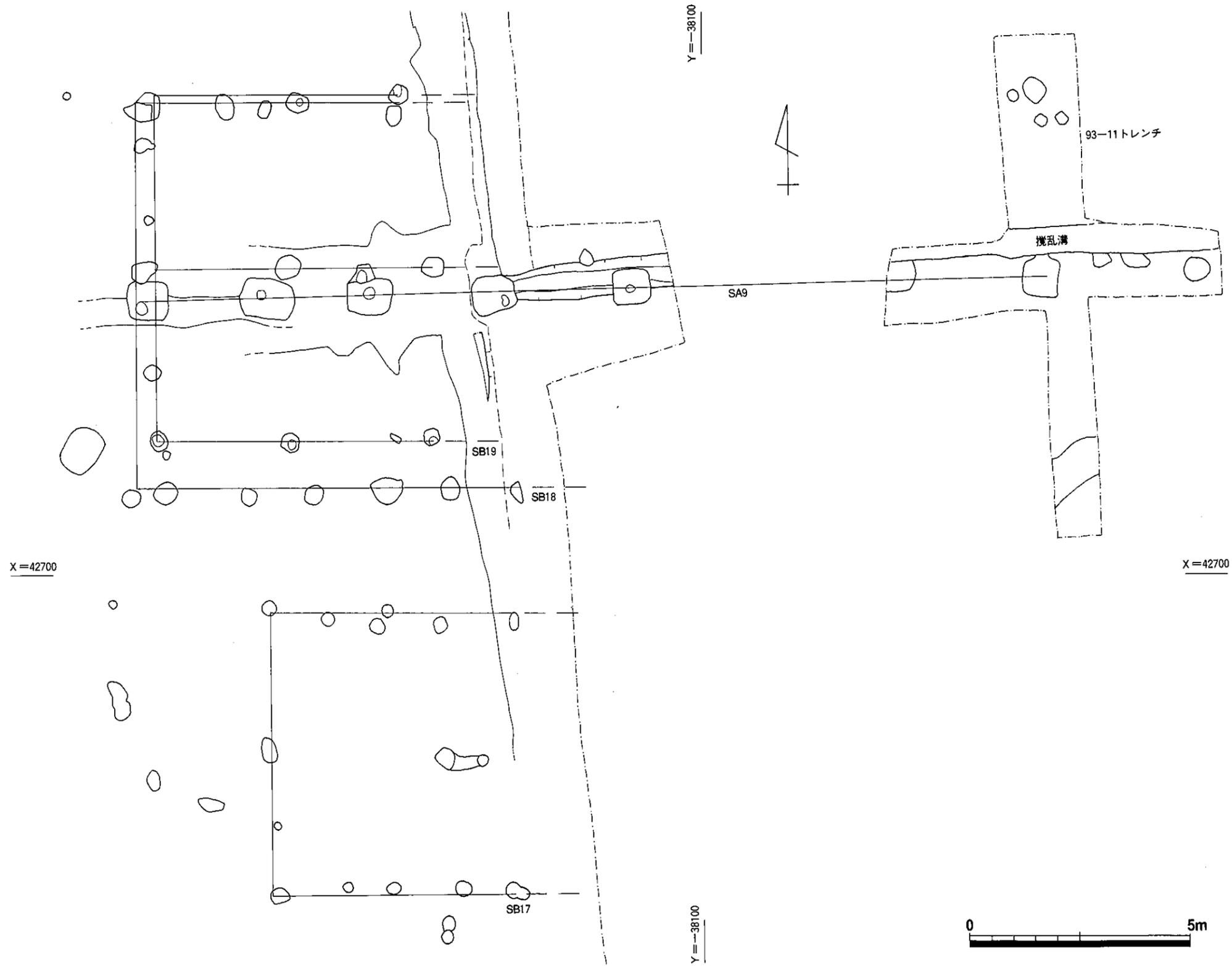
S B 18 とほぼ同じ位置で重複するが新旧関係は確認していない。直径40～50cmほどの柱穴からなる2間×2間以上の建物で、東柱を持つ建物として考えているが、1間×2間以上の建物の可能性もある。東梁列は後世の溝および道路で攪乱を受け確認できていない。西梁列は、S B 5 西梁列の延長上である。梁行8m、桁行6.4m以上の規模である。主軸はN-0.5°-W。

## 7 柵

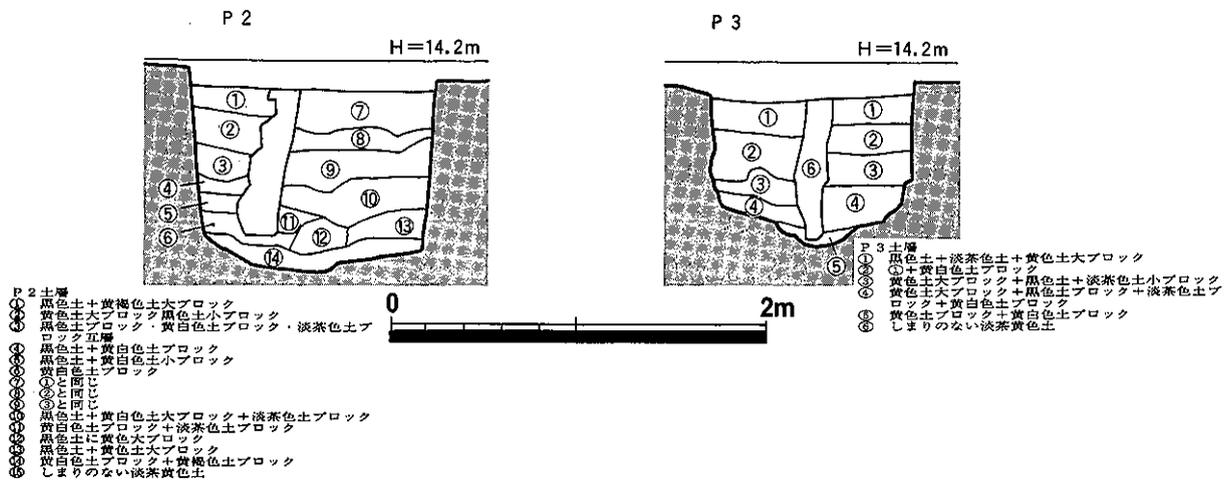
### S A 9 (図版17・第32・33図)



S B 18・19 建物に切られて位置する東西に延びる柵である。平成5年度第11トレンチで2基、平成7年度第2トレンチで5基の柱穴を確認した。両トレンチ間の幅約4mは町道および側溝のため未調査であるが、同一の7



第32図 SA 9 柵付近実測図 (1/100)



第33図 SA 9 柵柱穴土層図 (1/40)

間、全長20.8m規模の柵を構成するものである。P 4・P 5は後世の溝で大きく破壊されている。また、この柵を中心に水田耕作のトラクターの轍が顕著で、比較的后まで何らかの区画施設があったと思われる。柱間距離はばらついており、8尺から12尺の幅があるようである。柱穴掘方は隅丸方形・隅丸長方形である。P 2とP 3柱穴を半裁したが、深さはP 2で1.08m、P 3は0.87m、P 2の柱痕跡は斜め向きに立ち上がり、また、挟りのある形状で平面での確認面で柱痕跡の径は20cmを測る。P 3の柱痕跡は下部が細くなっている。平面での確認面で柱痕跡の径は27cmを測る。双方とも柱穴底面に柱痕跡は達していない。主軸はN-1.5°-W。

出土遺物 (第34図)

(土師器) P 2上面出土の杯蓋で、口縁端部は丸い、天井部は回転ヘラケズリ。精良な胎土である。



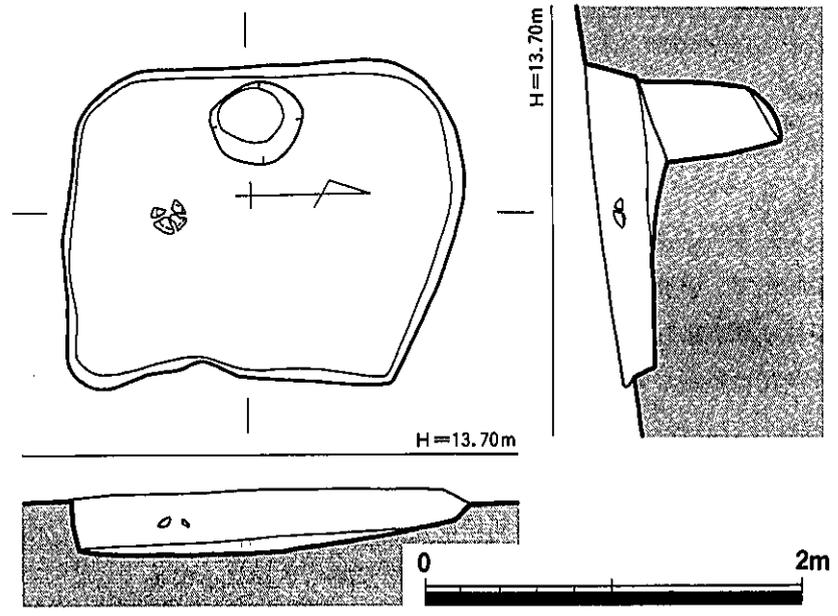
第34図 SA 9 柵 P 2 出土土器実測図 (1/3)

8 土坑

1号土坑

(図版18・第35図)

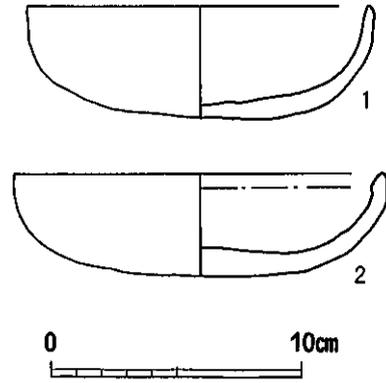
SB 5内に位置する。長軸2.06m、短軸1.56mのやや不整な隅丸長方形プランである。残存最大深さは40cmで西壁際に径40~50cm、深さ60cmほどのピットを検出。このピットはSB 5の中心のあたるが、SB 5との関係は不明である。土師器椀2個体が出土した。



第35図 SK 1号土坑実測図 (1/40)

### 出土土器 (図版21・第36図)

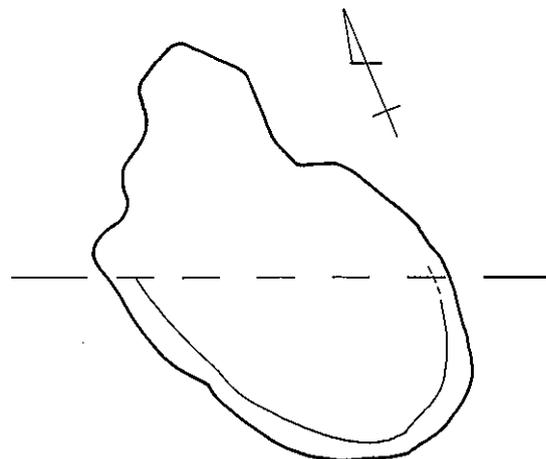
1・2はやや浅めの土師器碗で、1は遺構図に図示したものである。双方とも器面の風化が進み調整はわからない。1は内面底部に「三」のへら記号を付している。1の胎土は精良であるが2はかなり粗い。つくりも2は底部が分厚く粗い印象を受ける。



第36図 SK1号土坑出土土器実測図 (1/3)

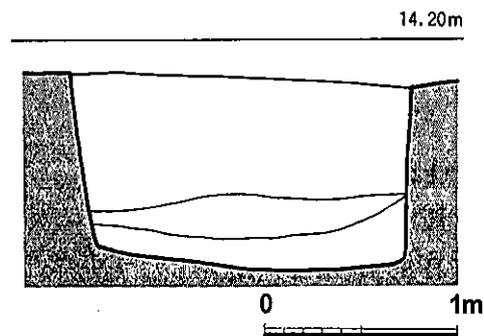
### 2号土坑 (図版18・第37図)

SB6建物の範囲に位置する。長軸2m、短軸1.5mほどの楕円形に不整な突出部があるプランであるが、遺構の重複があるのかもしれない。半裁した結果深さ約1mであった。埋土の上層は明灰黒色土であるが、自然堆積ではない。遺構の性格は不明である。



### 3号土坑 (図版16・第38図)

SK2号土坑の北西側、SB6建物の範囲に位置する。SB6建物・SB7建物に切られる。不整なプランで、長軸5m、短軸4mほどの楕円形プランの大土坑が2基切りあってほかに小土坑が関係していると思われる。1/4掘り下げたが、埋土はほとんど汚れのない黒色土である。上面から瓦などが出土している。



### 出土遺物 (第39・40・41図)

(須恵器) 1は杯蓋で甘い焼成である。天井部は回転ヘラケズリ。2・3は断面四角の高台を持つ杯身。2は底部と体部の境に稜をつくる。内面は擦っており、転用碗の可能性ある。4は高台のつく壺。

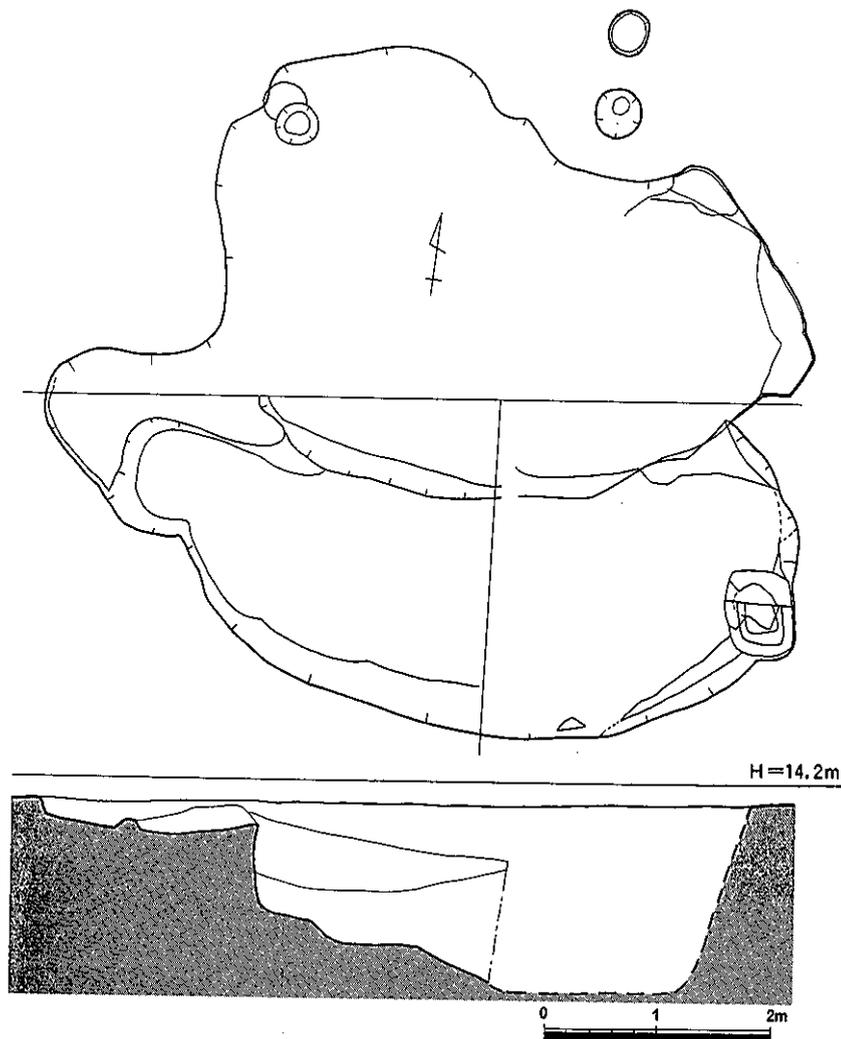
第37図 SK2号土坑実測図 (1/40)

(瓦) 1~5は平瓦で桶巻つくり、1・2は精良な胎土で、堅緻な焼成である。3・4・5は焼成が甘く5は砂粒を含む胎土。凸面の調整はいずれも格子目たたきである。6~11は丸瓦であるが、6~10は堅緻な焼成、11は甘い焼成である。7と11は玉縁の差し込み部に一条の沈線を巡らす。

### 4号土坑

平成4年度調査区の北西部に位置する。長軸1.07m短軸0.7mの楕円形プランで深さ24cmの小土坑である。出土遺物はない。

### 5号土坑



第38図 SK 3号土坑実測図 (1/60)

平成4年度調査区中央南、SB1建物とSJ2落とし穴状遺構の間に位置する。南辺2.6m、北辺2m、西辺1.6m、東辺1.3mほどの台形プランで、北辺に径1~1.2mの半円状のテラスが付く。底面は2段掘りで、ほとんどフラットである。深さは上段で20cm、下段で35cmである。瓦の出土がある。

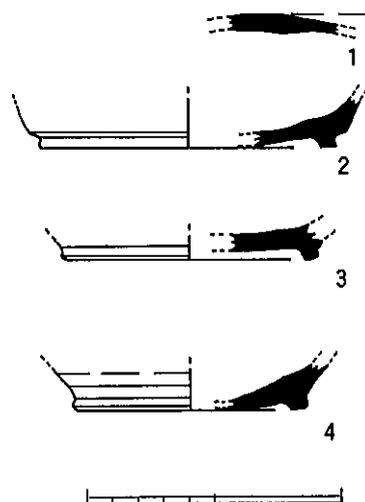
出土遺物 (第41図)

(瓦) 12・13の丸瓦が出土した。12は焼成が甘い。13は堅緻な焼成で、凹面の布目が顕著である。胎土も精良である。

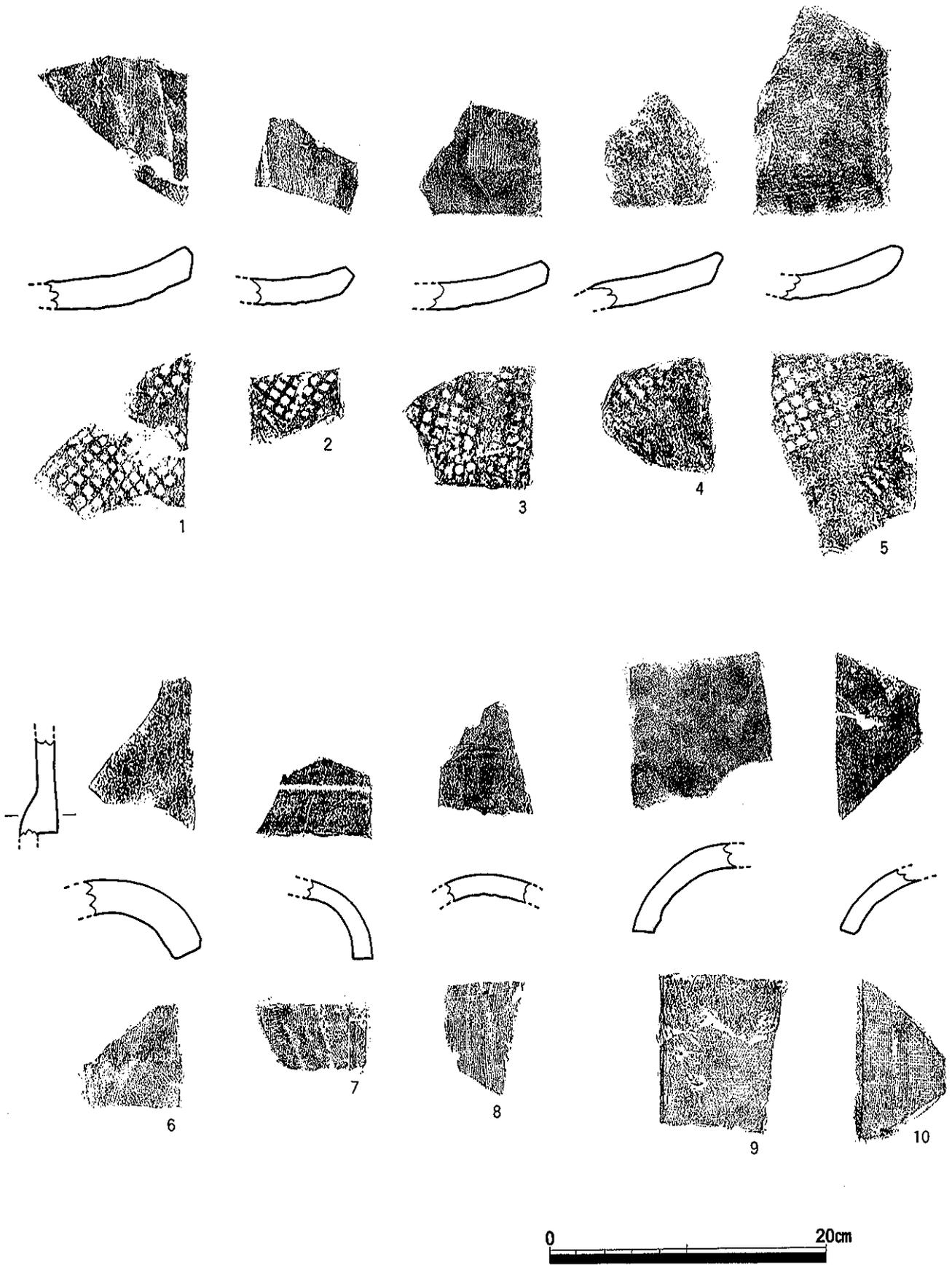
6号土坑 (第15図)

SB3建物の範囲に含まれ、SD2溝の南西に位置する。60×48cmほどの隅丸方形のプランで、ピットといったほうが適切かもしれない。深さは71cmを測る。瓦の出土がある。

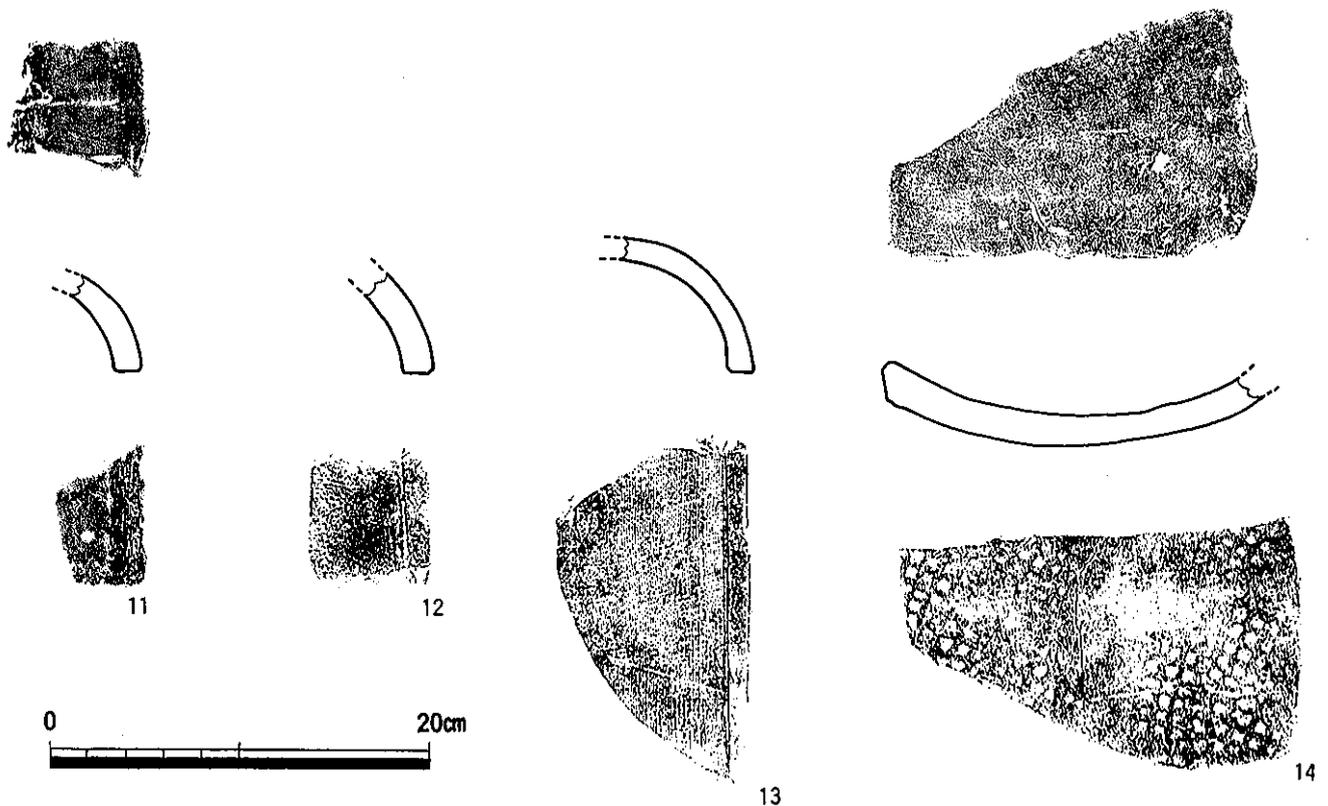
出土遺物 (第41図)



第39図 SK 3号土坑出土土器実測図 (1/3)



第40图 SK 3号土坑出土瓦实测图 (1/4)



第41図 SK3・5・6号土坑出土瓦実測図(1/4)

(瓦) 14は桶巻づくりの平瓦、精良な胎土で焼成はやや甘い。凸面は格子目たたき、凹面は布目を擦り消している。

## 9 溝

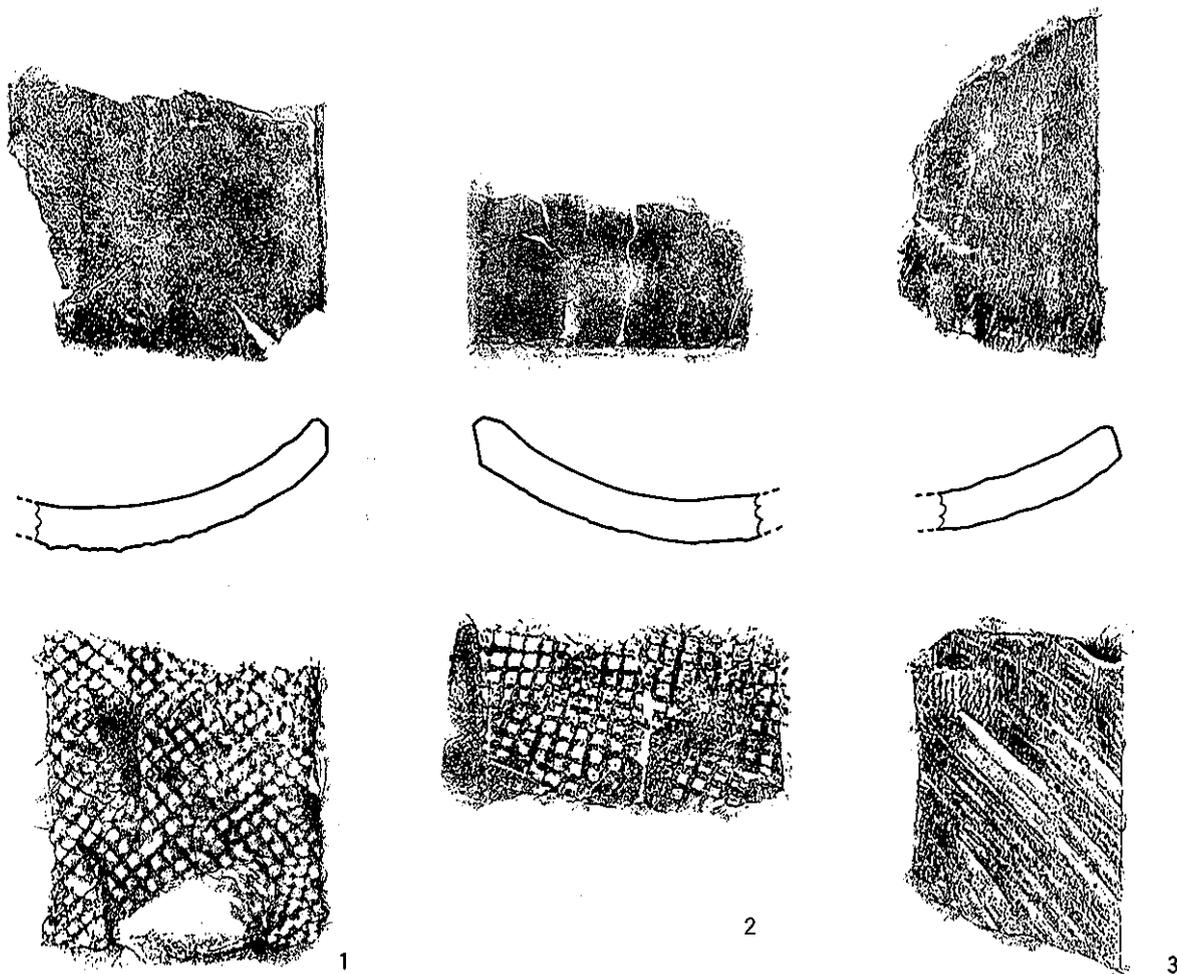
ここでは区画溝以外の溝の概要を説明する。区画大溝は別項を設ける。

### 1号溝

平成4年度調査区北端に位置する東西の延びる溝。平成5年度第8トレンチで確認したSD13溝・平成7年度第2トレンチで確認したSD24・25・26・27溝で、方形区画を作る可能性が高い。長さは約9mで、若干の蛇行がある。中央部での幅は60cm、深さは20cmほどで、西に傾斜する。西側はさらに2段のフラット面を作っている。遺構確認面も西に傾斜しており、中段の深さは25cm、下段は63cmである。瓦が比較的多く出土した。

出土遺物(第42図)

(瓦) 図示したのはいずれも桶巻づくりの平瓦であるが、三分類できる。1と2は緻密な胎土で、焼成も良い。凸面は格子目たたき、凹面は布目が顕著である。1の模骨幅は3~5cm、2は3cmが確認できる。3は凸面の調整が1・2と違う。縄目たたきの後、ヘラ状の工具で粗く斜め方向に消している。模骨幅は1.5~2cm。4は胎土が緻密なものの焼成が甘い。模骨幅は3~3.5cm。



第42図 SD1号溝出土瓦実測図(1/4)

2号溝(図版5・第15図)

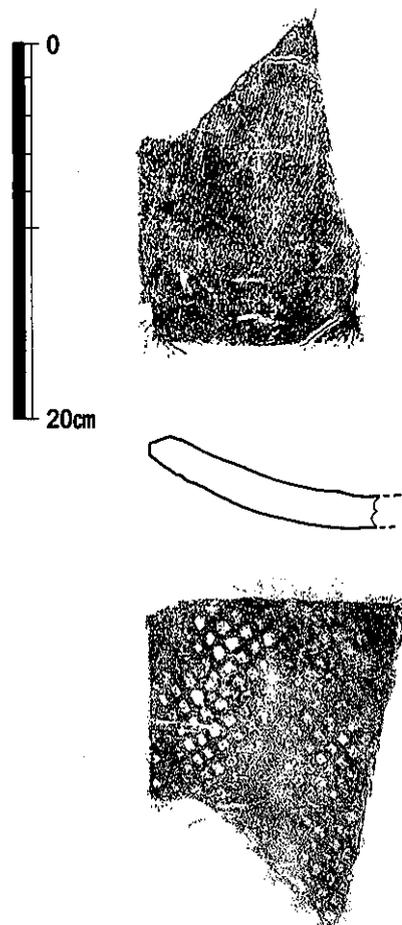
SB3建物の範囲に含まれ、SB4建物の西2.5~3mに位置する南北に延びる溝。北端は他の遺構と重複しているが、前後関係は確認していない。長さは4.5m前後、中央部の幅は60cm、深さは40cmほどである。甑の取っ手1点の出土がある。

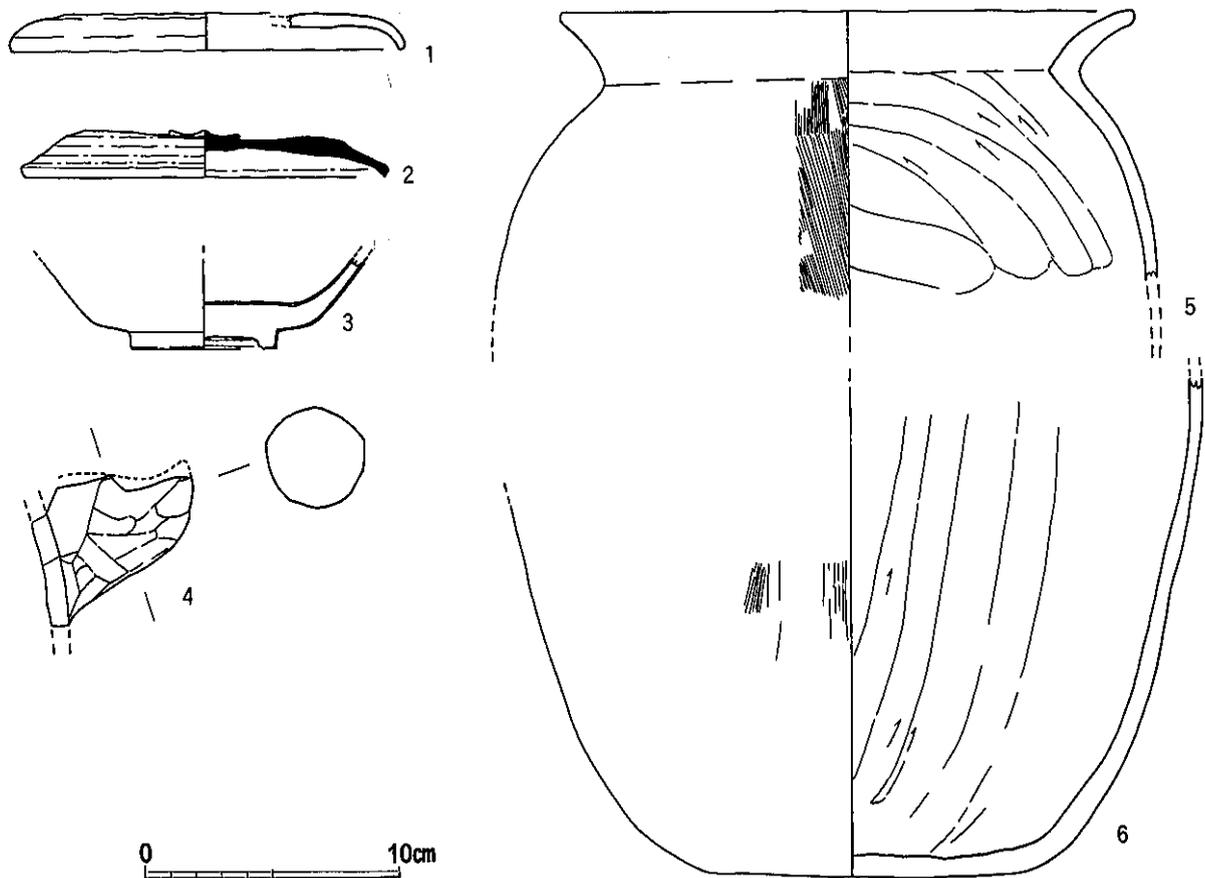
出土遺物(第43図)

(土師器)4は甑取っ手である。断面はほぼ円形を呈す。

10・11・12号溝(図版15・第27図)

93-4トレンチで検出した。SD10と11溝はSB10乃至11建物に切られ、SD12溝はそれを切る。調査は平面確認のみである。SD10溝と11溝の間隔は心々で4.2m、SD11溝とSD12溝の間隔は心々で4mである。





第43図 溝出土土器実測図 (1/3)

SD10溝は幅1m前後で、南北に延びる。また、検出した部分のほぼ中央部から東に分岐する可能性もある。

SD11溝も幅1m前後で南北に延びる。検出長は2.5m。

SD12は幅30~40cmで、若干弧を描き気味である。検出長は2.4m。

#### 13号溝 (図版17・第図)

93-8トレンチで検出した南北に延びる溝。SD1溝と95-2トレンチで確認したSD24・25・26・27溝で、方形区画を作る可能性が高い。検出長は4.2mで、幅は40cm前後、トレンチ南側では1.5mにわたって1mに膨らむ。なお、このトレンチの遺構確認面までの間に多量の瓦が出土した。

#### 14号溝 (図版3・第19図)

94-5トレンチ、SB14建物の西側の南北に延びる溝。一部掘り下げた。長さ8m、幅1~1.2mで、若干の弧を描く。深さは検出した部分で40~60cmで、一定していないようである。SB14に対応する溝と考えられる。

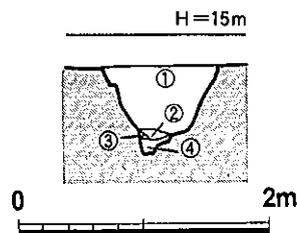
15・16号溝 (図版3・第20図)

S B14建物・S B15建物の間を心々で4.5mの間隔で平行し東西方向に延びる溝。平面確認しか行っていない。S D15溝の幅は30cm前後、S D16溝の幅は20~40cm前後で、S D15は10m、S D16は12mを確認した。両溝の東延長には、東出入口につながるS D36・37溝がある。

17号溝 (図版3・18・第20・44図)

94-3トレンチ、S B16建物の西側の南北に延びる溝。一部掘り下げた。検出長8.5m、幅0.8~1.3mで、若干の弧を描く。深さは検出した部分で68cmである。S B16に対応する溝と考えられる。

- ① 黒色土
- ② ①に暗茶色土ブロック含む
- ③ ①+黄色土ブロック
- ④ 黄色土ブロック+黄色砂

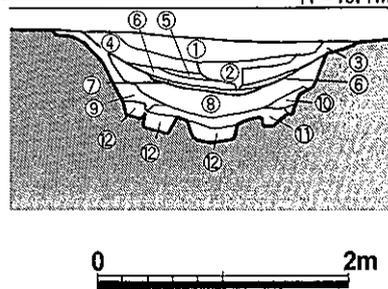


第44図 S D17号溝土層図 (1/60)

9・18・19・20・21・22・23号溝 (図版3・18・第20・45図)

94-3トレンチ、S B13建物を囲む溝群。S B13建物とは心々距離で3m前後を測る。平面プランは不整形で、幅は1m~30cm。S D18溝の一部を除き一連の性格であろう。S D21の一部を掘り下げたが、その深さは最大で80cmである。しかし深さは一定していないようである。これは、本来つながっていた一連の溝が遺構確認面で途切れている状況の根拠となる。

- ① 淡明茶色土
- ② 暗茶色土
- ③ ②+暗茶褐色土
- ④ 断片状褐色土
- ⑤ ④+黄色砂
- ⑥ 黒色土+黄褐色土小ブロック
- ⑦ 灰黒茶色砂質土
- ⑧ 黒色土+黄褐色土大ブロック
- ⑨ 黒色土+黄褐色土
- ⑩ ⑨と同じ
- ⑪ 砂質土に黄褐色土ブロック
- ⑫ 黄褐色砂に黒色土・黄褐色土ブロック混入



第45図 S D18号溝土層図 (1/60)

S D18溝は、前述の溝とは様相を異にしそうである。特に北半部は幅が2mを超え、東側に外反する。設定したトレンチ部分では幅2.45m、深さ85cm、底面の幅1.2mを測り、断面は底面の凹凸が著しいが概ね逆台形である。建物に付属する意味については検討を要す。

24・25・26・27号溝 (図版17)

95-2トレンチの西南部で検出。平成4年度調査区のS D1溝、93-8トレンチのS D13溝とで方形区画を作る可能性が高い。幅は65~40cm前後で、一部掘り下げたがその部分の深さは20cm前後で一定していないようである。これも、本来つながっていた一連の溝が遺構確認面で途切れている状況の根拠となる。

28・29号溝 (図版18)

95-3トレンチで検出した心々4mの間隔で平行して南北に延びる溝。

S D28溝は幅30cm前後で深さ10cmほどである。6.5m検出した。

S D29溝は幅50~60cmで、S D28より広い。深さは10cm前後である。検出長は8m。

#### 30号溝（図版20・第48図）

95-1トレンチで検出。南北に延びる幅30～50cmの溝、区画大溝との接点には攪乱があり、前後関係はわからないが、他の切り合い関係のあるS D31・32・33・34溝に全て切られる。

一部掘り下げているが、深さは10cm程度である。切り合い部分を含めて検出長は16mほどである。

#### 31・32号溝（図版20・第48図）

95-1トレンチで検出。東西に延びる2本の溝。埋土の状況からこの地の土地改良が行われた大正期前後まで使用されていたものようである。

#### 31・32号溝（図版20・第48図）

95-1トレンチで検出。S D34溝がS D33溝を切る。S D33溝は幅1m以下、深さ40cmほど、S D34溝は幅40～20cmで深さ15cmほどで、両者とも曲線を描きS K 8土坑に至る。S K 8土坑との前後関係はわからない。

#### 35号溝（図版20・第48図）

95-1トレンチの南端で検出。幅1.8mのものであるが、詳細はわからない。

#### 36・37号溝（図版20・第51図）

95-4トレンチで検出した心々4.8mの間隔で平行して東西に延びる溝。この2条の溝の部分で区画大溝は途切れ、陸橋となっている。S D36溝は後世の溝で大きく破壊されており、わずかに溝の肩の一部が検出できた。

S D37溝は、幅30cm深さ20cmほどの溝で、3.5m検出した。双方の溝は西側のS D38溝に達する前に途切れる。区画大溝の中心線がその計画線である可能性が高い。

#### 38号溝（図版20・第51図）

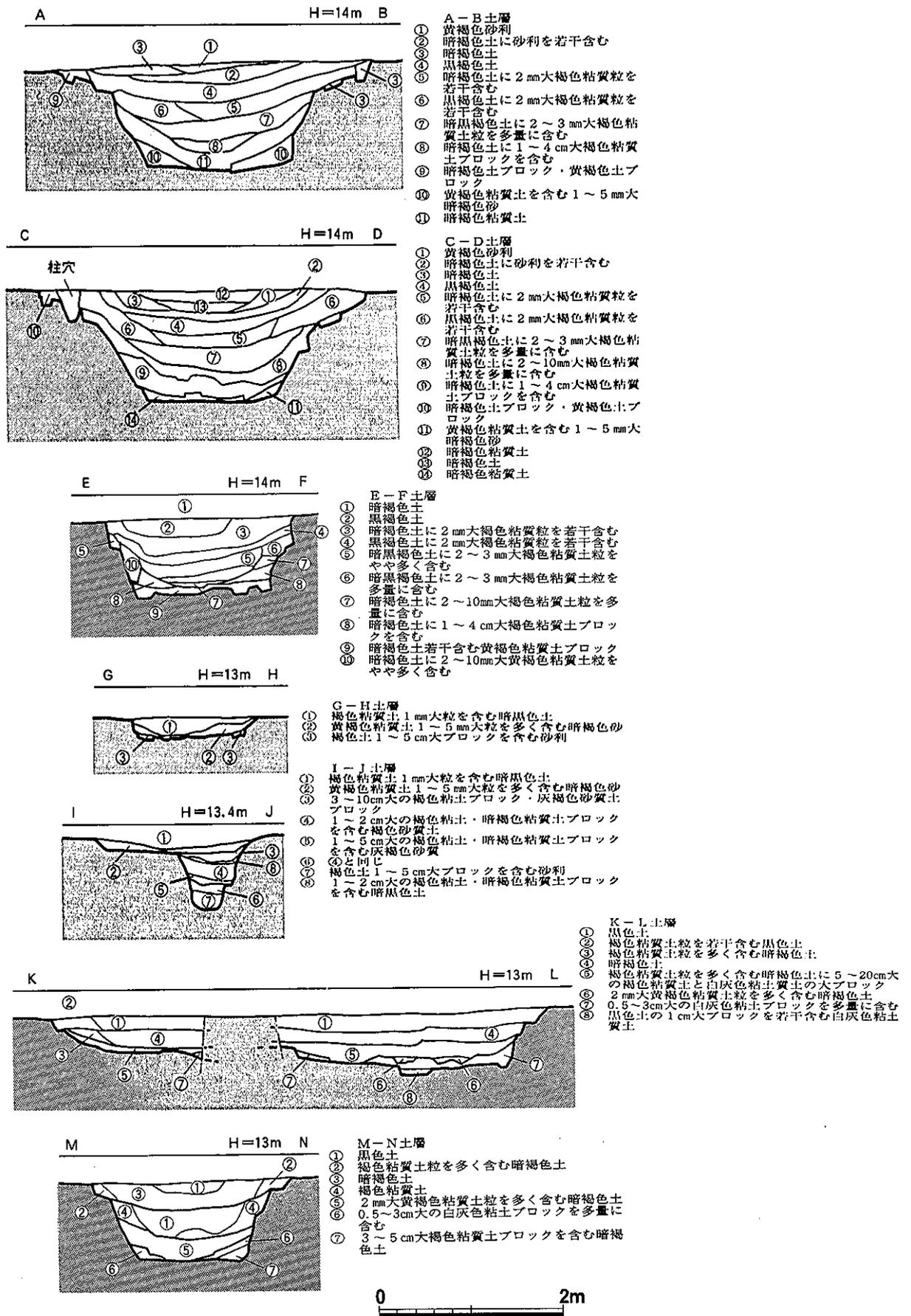
95-4トレンチで検出した幅90cm、長さ5mの溝。深さは30cm弱である。溝の両端部はわずかに1段低く、径30cm、深さ20cmほどのピットを検出した。位置的に東出入口口であることから「門」施設の可能性が高い。

## 10 区画溝

区画溝は平成4年度の調査以降各年度調査区を設定して平面確認と一部は掘り下げている。本項では、年度別に概要を説明する。

#### 平成4年度調査区（図版18・19・第46図）

上野遺跡の南西部一帯を調査しており、区画溝の南西コーナーを含んでいる。南西コーナー部を起点として東に53m、北に49mを検出した。調査区東部分では幅は4mで、西に向かうにつれ徐々に幅を狭め、西南コーナー付近では1.5mほどである。コーナーから北に直角に曲がった先は削平が進んでいることもあるが極端に狭くなり、幅が1m前後の部分が3.5mあり、最小幅は65cmであ



第46図 92-区画大溝土層図 (1/60)

る。また、コーナーから北17mほどは残存深さ15～25cmと浅く、溝内に土坑が掘り込まれているところもある。北に向かうにつれ幅は徐々に広くなり北端では幅2.8mほどになる。コーナーから北30mの位置には3m×4mほど西側に張り出す部分がある。性格は不明だが区画内のSB2・SB3・SB4建物の西延長上の位置である。

#### 断面土層図A-B

遺構確認面での幅は3.5mほどであるが、北岸に後の柱穴があり、確実な幅ではない。断面図5層・6層がブロック混じりであることから少なくとも1回の溝さらえがあったと思われ、最後は浅い溝であったのであろう。当初の溝の断面は逆台形で、底面の幅は1.53m。

#### 断面土層図C-D

遺構確認面での幅は3.5mほどであるが、南岸に後の柱穴があり、確実な幅ではない。断面図7層と8層が褐色粘質土を多量に含むことからこの上面で溝さらえがあったと思われ、最後は浅い溝であったのであろう。また11層・14層は当初の掘削部分と考えられ、機能したのは9層より上であらう。溝の断面は逆台形で、底面の幅は1.36m。

#### 断面土層図E-F

遺構確認面での幅は2mである。断面に柱穴が現れており、4層と5層で1時期があったことがわかるここでも前述の断面と同様最後は浅い溝であったのであろう。溝の断面は逆台形で、底面の幅は1.49m。底面は凹凸が認められる。

#### 断面土層図G-H

西南コーナーを回って北上する部分。遺構確認面での幅は1.3mとかなり狭いが、残存状況から判断すると特に狭いものではない。3層は当初掘削時の掘り過ぎを埋めたものか？。断面は逆台形で、残存深さは24cm。

#### 断面土層図I-J

この地点も削平が進み残存状況は良くない。遺構確認面での幅は1.7mほどで、断面は逆台形になるものであろう。残存深さは10cmほど。この部分では床面に土坑が見られ、溝の掘削以前に掘られている。土坑は長軸2.5m、短軸65cm深さ60cmほどで、土墳墓になるものかもしれない。

#### 断面土層図K-L

区画大溝の西に張り出し部のある部分である。当初、土坑を考えていたが断面観察で見える限り特に切りあい関係は見られない。5層には大ブロックがあることからこの面まで埋めたことがわかる。上層は自然堆積である。溝部分（東側）の断面形は他の部分と同じく逆台形の様相であるが張り出し部は若干高くなるが一定しない床面である。

#### 断面土層図M-N

遺構確認面での幅は2.1mほどである。3層とその下の1層で時期が区分でき、最後は浅い溝であったのであろう。また6層・7層は当初の掘削部分と考えられ、機能したのは5層より上であらう。溝の断面は逆台形で、底面の幅は1.06m。

### 平成5年度調査区

平成5年度は範囲確認のためのトレンチを設定した。区画大溝の範囲を1町と仮定し、7箇所設定した。東方向の範囲を探るため1・2・3トレンチは東西方向の範囲、9・14・13・18トレンチ

は北方向の範囲を探ることを目的として設定した。このうち、1・2・9・14のトレンチで区画溝を確認したが後述するように2号トレンチで確認したものは区画溝でない可能性が高い。

93-1 トレンチ 西南コーナーから東に約100mの地点に設定、幅4.2~4.5mの区画大溝を確認、溝はわずかに南西方向に傾斜し東西に延びている。

93-2 トレンチ 西南コーナーから東に約70mの地点に設定、幅3.2~3.5mほどの幅で明確とはいえない淡紫黒灰色土が確認された。当初区画大溝と考えていたが、平成4年度調査の区画溝の延長より南に2~3mずれていること、95-1 トレンチの状況から併せて、区画溝でない可能性が高い。

93-3 トレンチ 区画の範囲が1町四方であるなら93-1 トレンチの区画溝が南北方向に延びると考え設定したが、遺構はなかった。

93-9 トレンチ 西南コーナーから北に60mの地点にトレンチを設定、幅3.5mの区画大溝を確認、南北方向に延びる。

93-14 トレンチ 西南コーナーから北に85mの地点にトレンチを設定、幅3mの区画大溝を確認、南北方向に延びる。

93-13 トレンチ 区画の範囲が1町前後四方であるなら93-14 トレンチの区画溝が東西方向に延びると考え14トレンチの東側に設定したが、遺構はなかった。

93-18 トレンチ 区画の範囲が1町を超えた四方であるなら93-14 トレンチの区画溝が東西方向に延びると考え西南コーナーより約100m北のやや東側に南北30mのトレンチを設定したが、遺構はなかった。

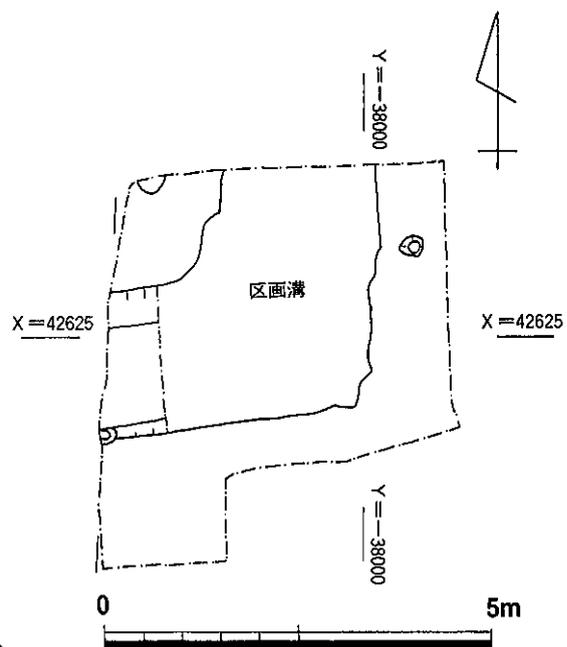
以上のように平成5年度の調査で、区画大溝は1町四方を超える規模であることがわかった。

#### 平成6年度の調査（図版20・第47・49図）

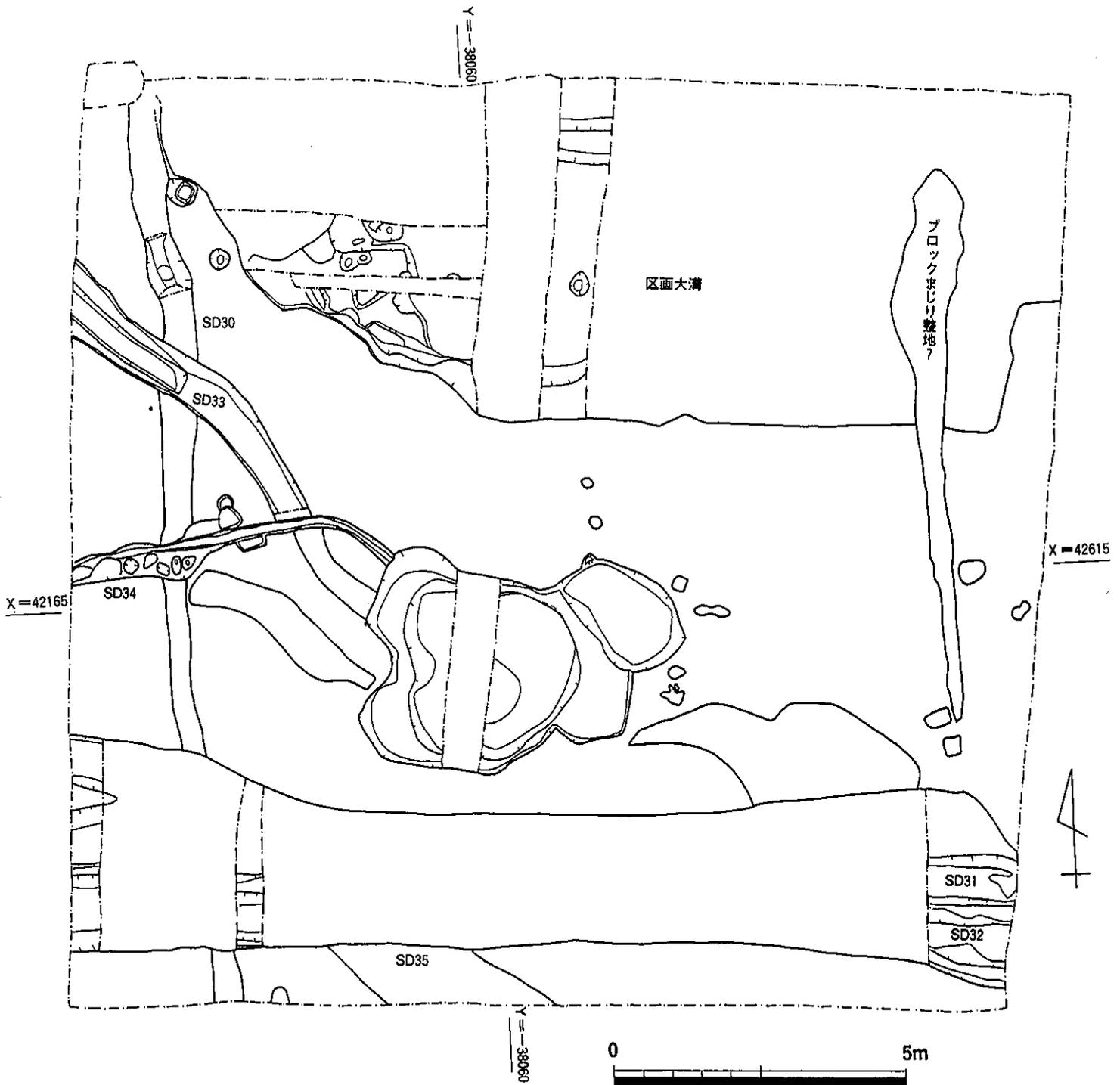
平成5年度の調査の成果を受けて区画の範囲を1町半と推定し区画大溝の東南コーナー、北限を確定するため1・2・4・6・7・8のトレンチを設定した。4トレンチ以外のトレンチで区画大溝を確認した。4トレンチの成果は95-4トレンチの調査へと引き継いだ。

94-1 トレンチ 西南コーナーから東に約136m地点に南北17mのトレンチを設定し、幅約2mの区画大溝と、その5m南に小規模な隅丸方形の柱穴掘方1基を確認した。区画溝はさらに東に延びる。

94-2 トレンチ 西南コーナーから東に約144m地点にトレンチを設定し、幅約2mの区画大溝が東西方向から南北方向に屈折する部分を検出した。一部掘り下げた。土層断面部分では幅1.92mであるが、南側は柱穴が切っているため確実な数値ではない。



第47図 区画大溝東南コーナー部実測図  
(1/100)



第48図 96-1 トレンチ実測図 (南出入口) (1/100)

深さは約70cm底面の幅は1.3mを超えるものであろう。底面は凹凸が著しい。1・7・8・9・10層で1時期、2・3・4・5・6層で1時期、その他で1時期に区分することが考えられる。

94-4トレンチ 94-2トレンチを東南コーナーと呼ぶと、そこから北約96mの地点に東西方向に幅1mのトレンチを設定したが、区画大溝は確認できず東西に延びる幅約30cmの溝を検出した。結果的には7年度第4トレンチのSD37であった。

94-6トレンチ 東南コーナーから北に約126mの地点にトレンチを設定し、幅約2.5mの区画大溝を確認した。さらに北に延びる。

94-7トレンチ 東南コーナーから北に約140mの地点にトレンチを設定し、幅約2.5mの区画大溝を確認した。さらに北に延びる。

94-8トレンチ 東南コーナーから北に約160m調査可能な最北端の地点にトレンチを設定し、幅約4mの区画大溝を確認した。

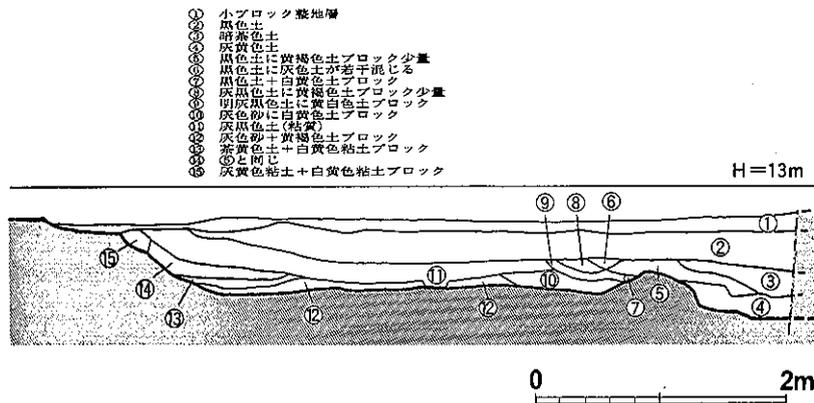
平成7年度の調査（図版20・第48・50・51・52図）

平成7年度は、それまでの成果の補足的調査で、南門推定地と94-4トレンチの疑問解消を目指した。

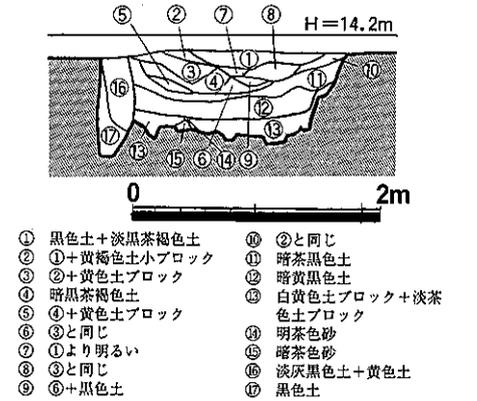
95-1トレンチ 区画溝南辺のほぼ中央を調査区としたが、遺構確認面が表土から1.8mと深く、多量の排土置き場が確保できなかったため、中央より東に寄った位置となった。

区画溝は93-1トレンチの西延長から溝の南肩は確認できたが、北側は発掘区の都合で確認できていない。区画大溝の南肩は調査区の東から70cmほど西に向かったところで約2m南に広がり、約9mその幅で西に向かい（張り出し部）、さらに徐々に幅を狭めながら北西方向に続く。断面観察では1層は黄褐色土・褐色土・黒色土のブロック層で厚さ10cm前後の整地面、2層は自然堆積でこの下面で1時期、張り出し部の11層に区画大溝が切りこんでいる状況が確認されるが、整地層は張り出し部を含む範囲に及んでおり、区画大溝と共に張り出し部は機能したものと考えられる。

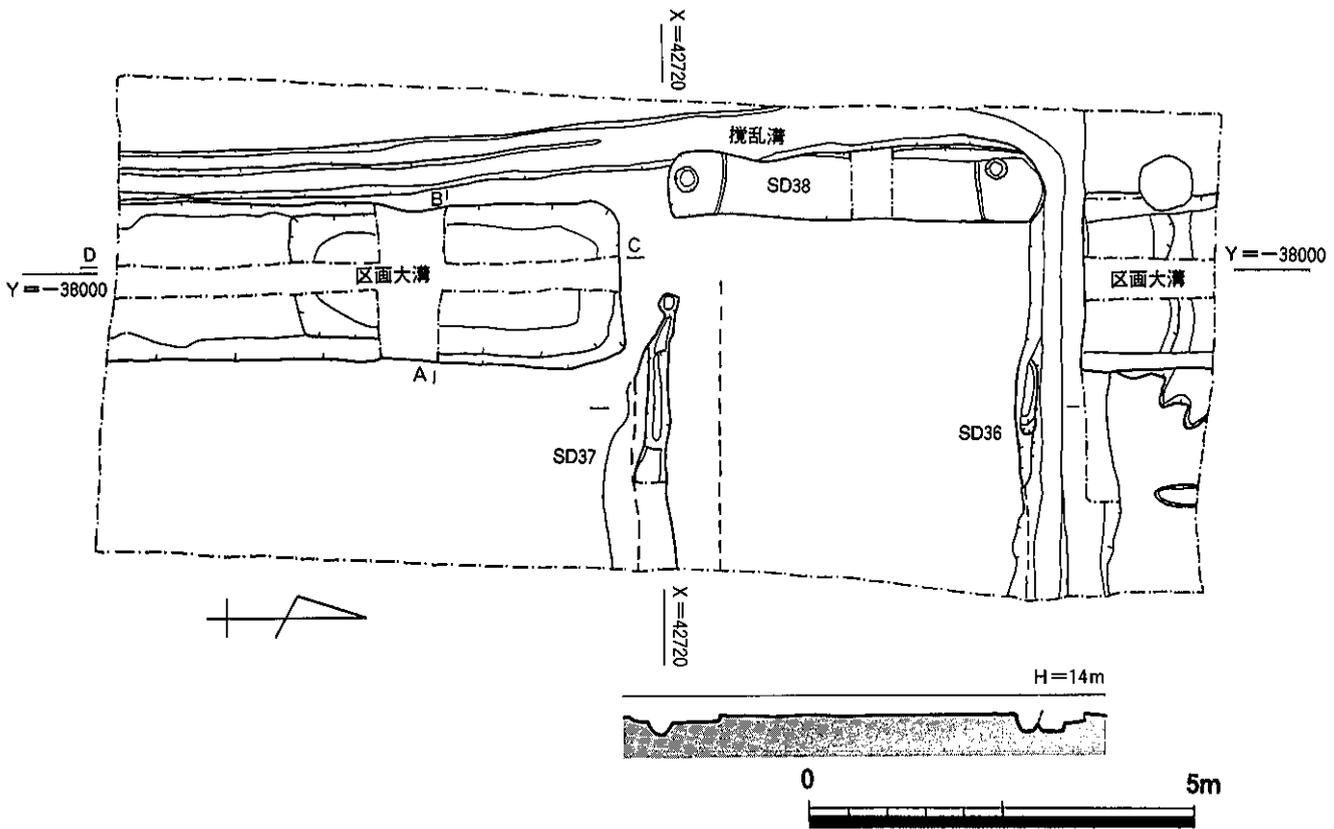
残存深さは区画大溝で70cmほど、張り出し部で65cmほどである。



第50図 95-1トレンチ区画大溝土層図 (1/60)



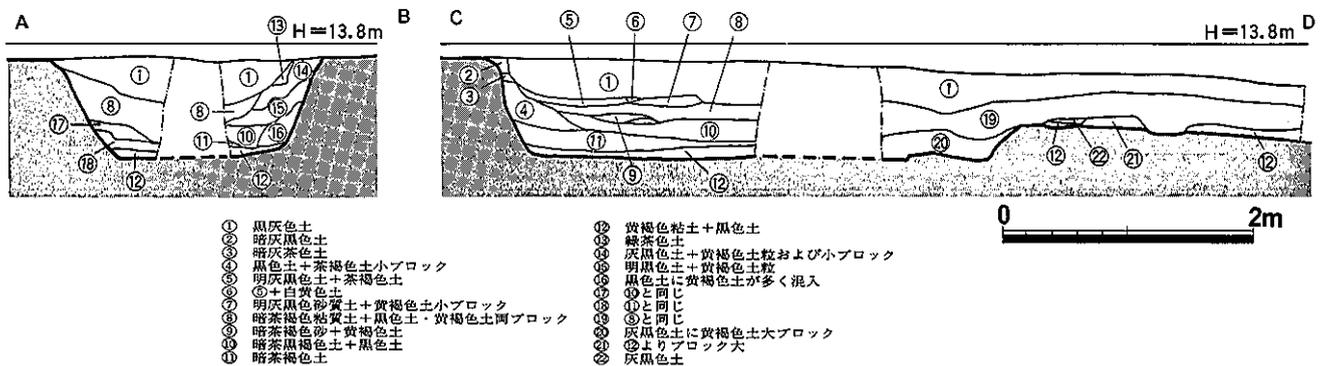
第49図 区画大溝南東コーナー部土層図 (1/60)



第51図 95-4 トレンチ実測図 (東出入口付近) (1/100)

95-4 トレンチ 東南コーナー部から約88~103m前後の地点で、94-3 トレンチの部分を拡張したトレンチである。区画大溝は東南コーナーから94mの地点までで途切れ陸橋となっている。その間はSD36・37溝の平行に延びる溝が直交する。101mの地点からまた設けられ64-6 トレンチで確認した区画大溝へと続く。幅は2.15m、底面の幅は1.53m、残存深さは80cm前後の部分と40~50cm前後の部分があり、一定ではない。

土層観察では、8層(19層)では暗茶褐色土・黒色土・黄褐色土のブロックで、埋め戻したもので8層10層・19層の下で一時期、12層20層で一時期あったものである。



第52図 95-4 トレンチ区画大溝土層図 (1/60)

出土遺物（図版22・第43図）

平成4年度

（土師器）1は杯蓋。口縁は丸みを帯びて折り曲げ、端部は丸みを持つ。5は煮炊き具として使用した甕で、広い底部に煤が付着する。大溝の底付近で出土。口縁の屈曲部までヘラケズリし、口縁は均等な厚さを持ち外反する。

（須恵器）2は扁平な杯蓋の完形品で、大溝西南コーナー部の底面から15cmほど浮いた状態で出土した。口縁の断面は三角形で、扁平なつまみを貼りつけている。外部天井部はヘラケズリで、内面は、滑らかなことから、転用硯の可能性はある。ただし、焼成はあまり良いとはいえない。

（青磁）3は大溝遺構確認面から出土、高台から内側は無釉。内外面とも釉は0.4mmほどである。

平成7年度（図版22・第53・54図）

（土師器）5は95-1トレンチ出土の小型の甕。胴部は「S」字状の曲線を描き口縁は短く外反する。内面のヘラケズリは口縁下3

cm付近まで認められる。1・3・

4は95-1トレンチの遺構確認面

付近で採取したもの。1は皿で、

底部はヘラケズリ。3は薄い高台

のつく椀。4は甕の口縁で、内面

は口縁下までヘラケズリ、口縁は

肥厚する。7~14は95-4トレン

チ出土。7は杯蓋で、口縁は折り

曲げた形態である。8・9は低く

鈍い高台の付く杯身。10・11・12

・13は皿で10・11の外部底面は手

持ちヘラケズリである。14は第52

図の①層の最下部から出土した煮

炊き具の甕胴部で、内面は雑なヘ

ラケズリ、外面はハケメ調整であ

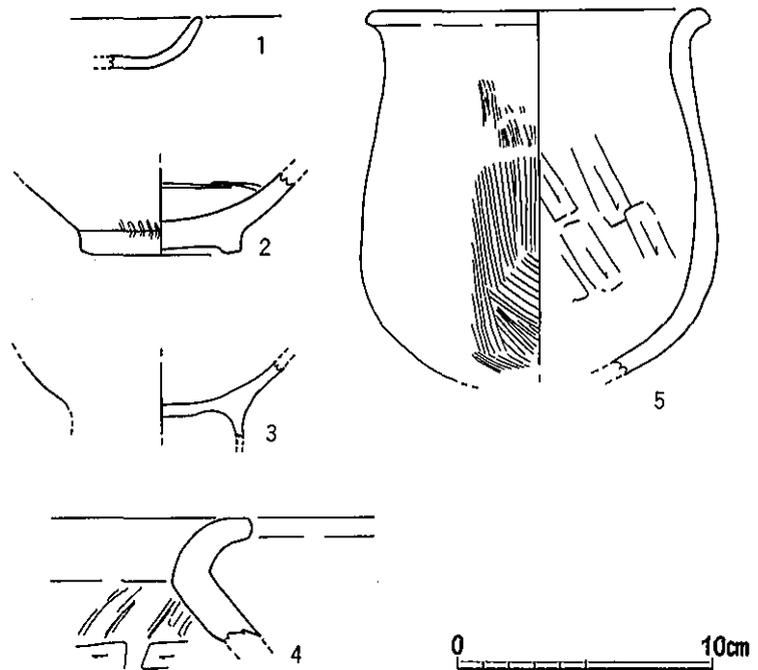
る。

（磁器）2は黄白色の磁器である。

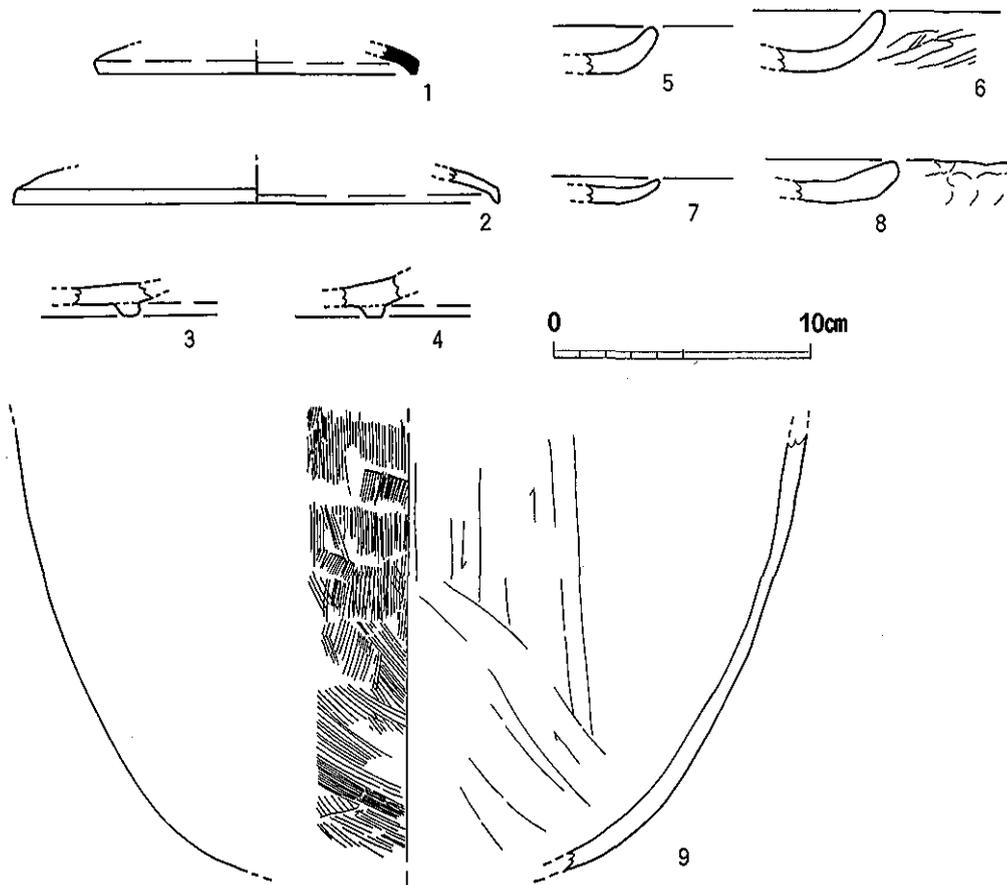
内面に沈線がめぐる。

（瓦）（第56・57・58・59図）

1~12は平成4年度調査で出土したもの。1~5は桶巻づくりの平瓦で緻密な胎土であるが、焼成が甘い。4を除き凸面は格子目たたき、凹面は布目が顕著である。4の凸面は縄目たたき。1の模骨幅は2~2.4cm、2は3~3.5cm、4は1.3~2cmが確認できる。3の凹面は布目を一部擦り消している。5は確認できない。6・7・8は玉縁の付く丸瓦。6は精製された胎土で、焼成も堅緻である。差し込み部に一条の沈線を巡らす。7は差し込み部で、6と同様沈線が1条あるが、焼成は良くない。8も焼成が良くない。9~12も丸瓦で、いずれも精良な胎土で焼成も堅緻である。外面はナデている。10は内面布目の綴じ合わせ部分である。13~18までは平成7年度95-1トレンチ



第53図 95-1トレンチ出土土器実測図（1/3）



第54図 95-4 トレンチ大溝出土土器実測図 (1/3)

で出土したもので、13・15・16の桶巻づくりの平瓦が区画溝から出土した。いずれも凸面は格子たたきで砂粒を含むやや粗い胎土で、焼成もやや甘い。端部はヘラでケズリ調整している。13の模骨幅は5cmを超える。

14・17・18は攪乱溝から出土した。14の焼成は堅緻、17・18はやや甘い。

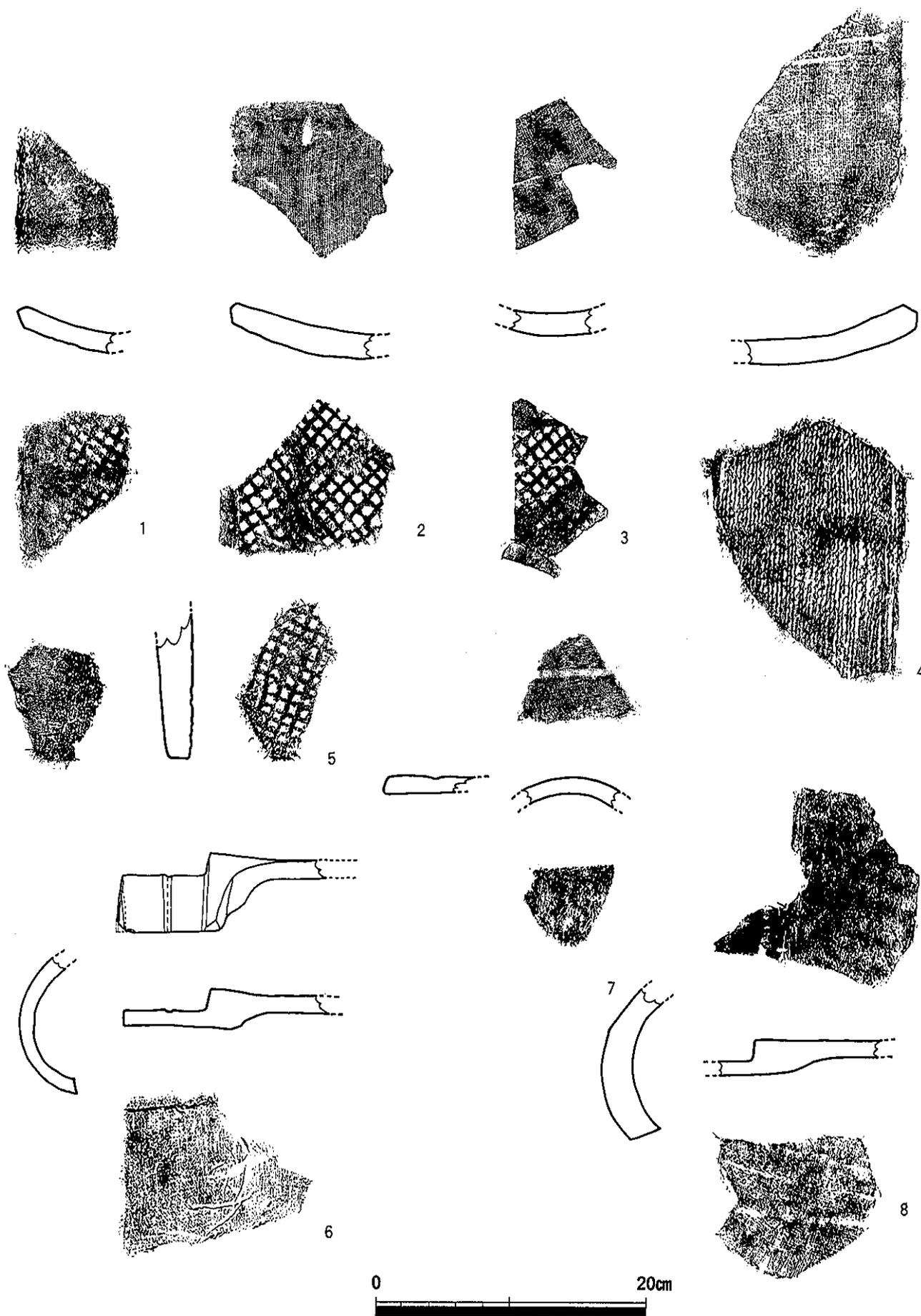
19~24は95-4 トレンチの区画溝から出土したもので22が桶巻づくりの平瓦のほかは丸瓦である。19の表面は黒色であるが焼成はやや甘い、胎土は精良。20と21の色調は灰色で、精製された胎土、堅緻な焼成である。一方23・24は白黄色で甘い焼成である。23は砂粒を含んでいる。24の凸面調整は斜め方向にヘラで削った粗い調整である。22の平瓦の凸面は格子たたきである。模骨幅は3cmほど。

11 その他の遺物 (図版22・第55・60・61・62図)

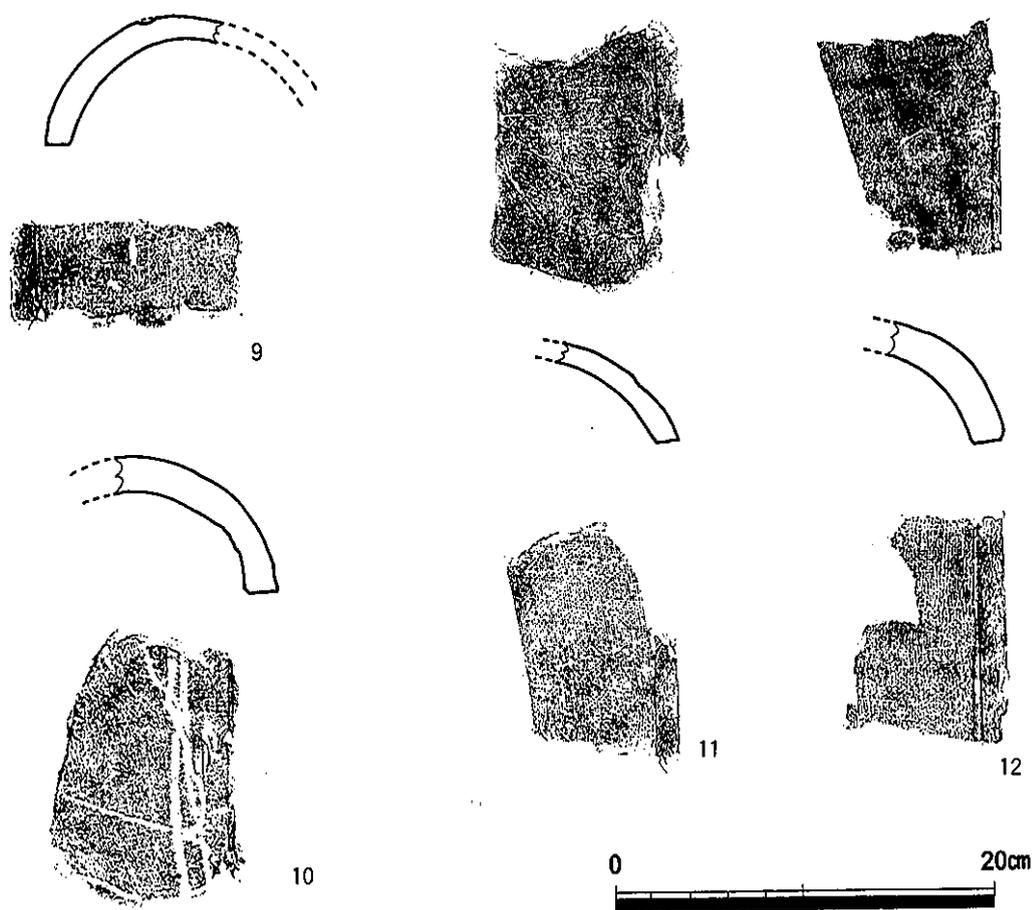
(須恵器) 第55図は95-4 トレンチの表土から出土したものである。1は高台の付く杯蓋で、やや踏ん張り気味である。2は長頸壺の肩部で最大径は14cmほどのものである。3はたたき痕が著しい壺片で、



第55図 95-4 トレンチ出土土器実測図 (1/3)



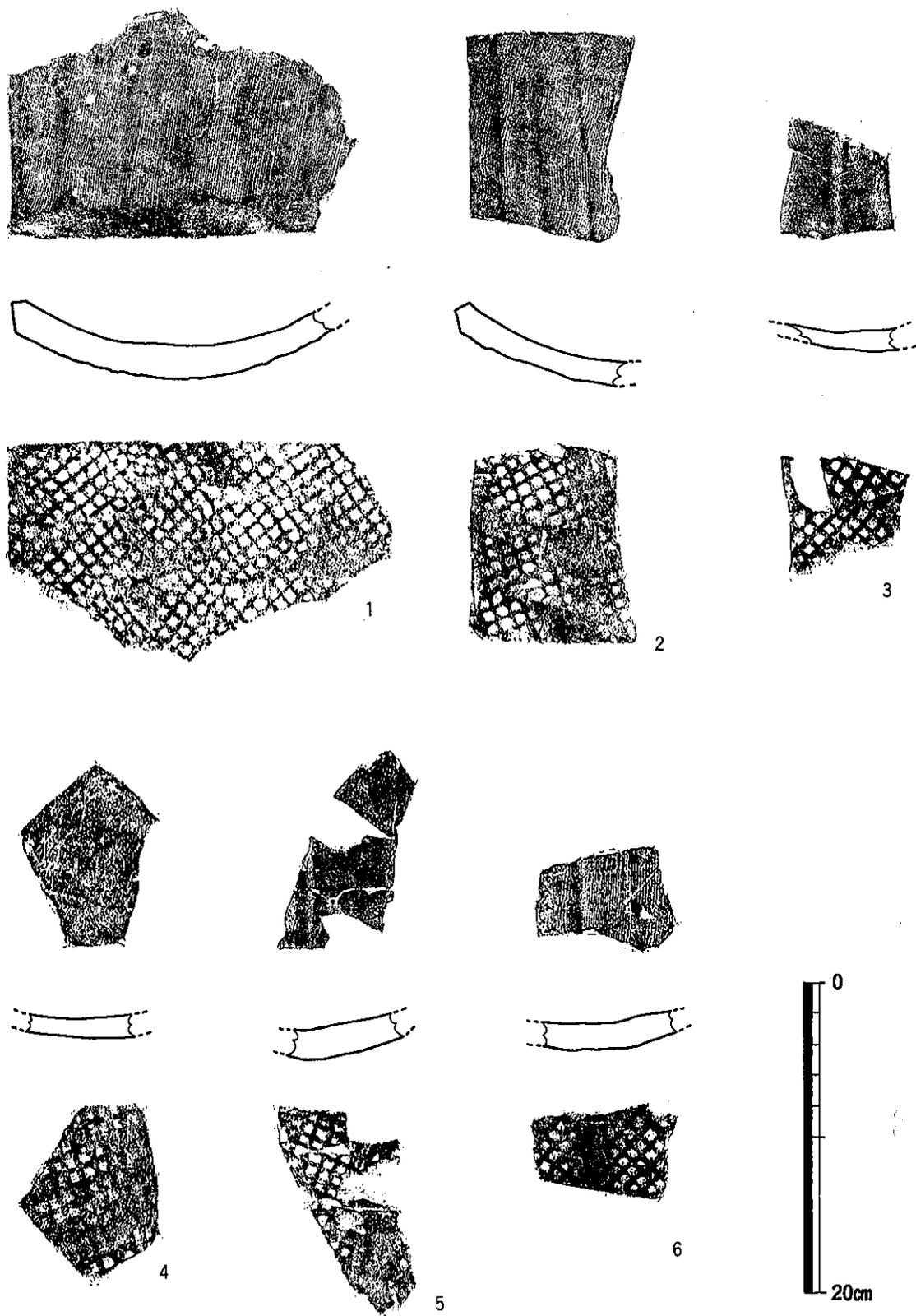
第56图 区画大溝出土瓦①(1/4)



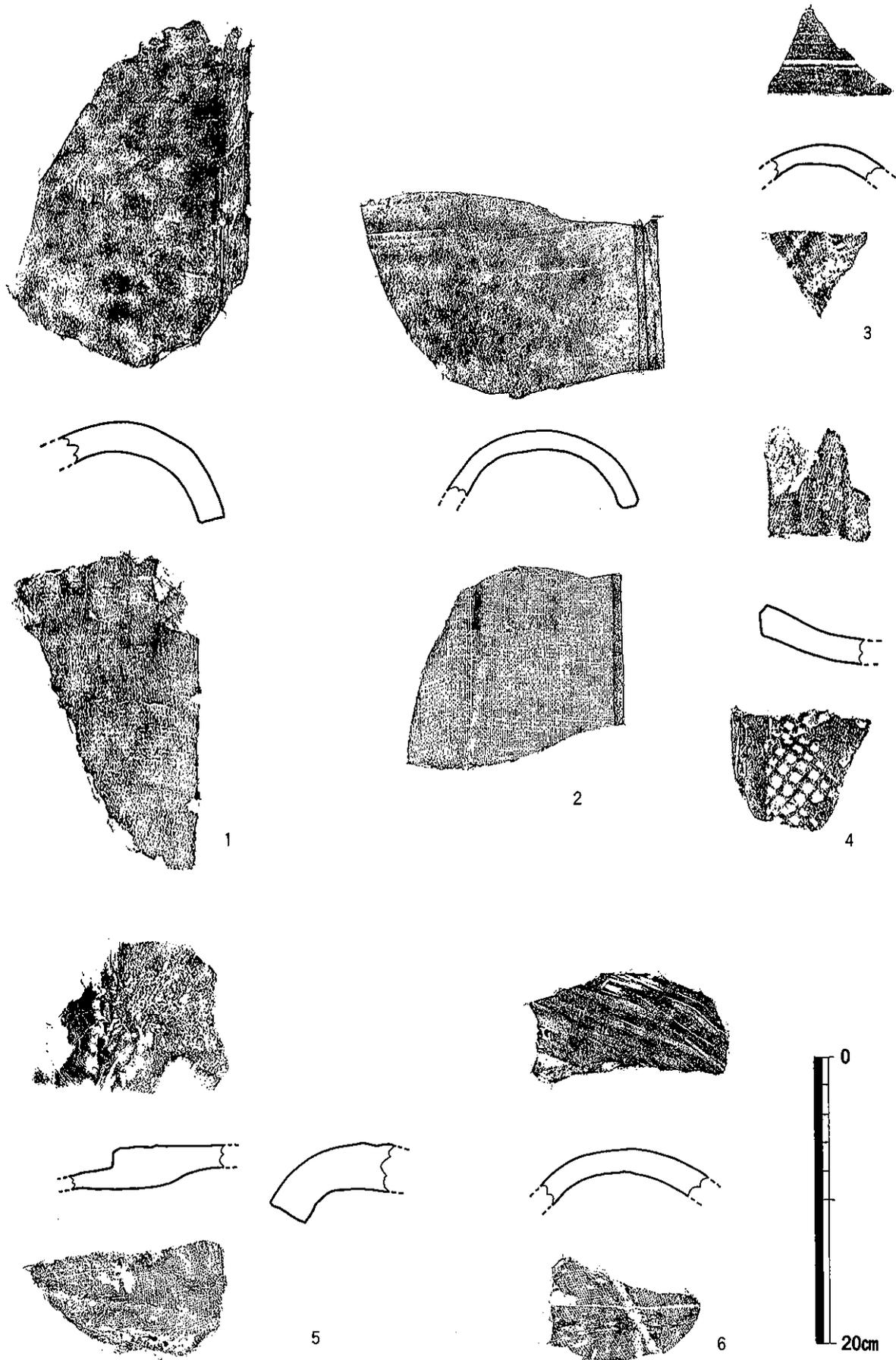
第57図 区画大溝出土瓦実測図② (1/4)

茶褐色であるが洗淨後はやや白い粉をふく。焼き塩壺であろう。

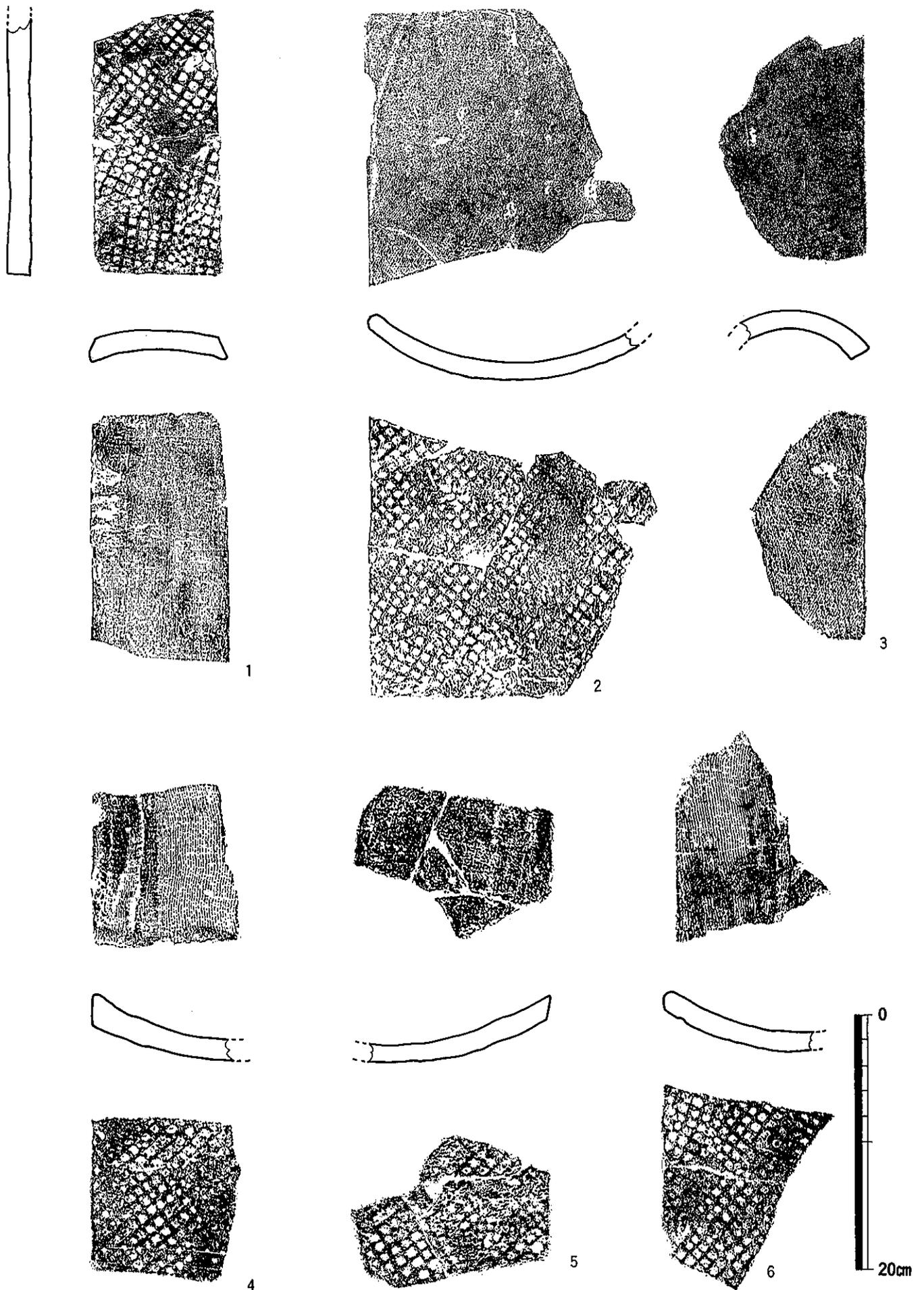
(瓦) 93-8 トレンチでは、表土除去の際に、比較的多くの瓦が出土した。明確な遺構ではないが掲載する。1は熨斗瓦、精製された胎土で、焼成は堅緻。凸面は格子たたきである。模骨幅は3 cm ほど。2の平瓦も1と同様のつくりである。3は砂粒を含む胎土で焼成も甘い丸瓦。凹面には布目の綴じ合わせが見える。4~10の胎土は精良であるが、焼成が甘い。7の凸面の格子たたきは目が大きい。他は変わらない。4・7・8の凹面は布目の綴じ合わせが見える。模骨幅は3 cm 前後。11・12は砂粒を含む胎土で、焼成は良くない。



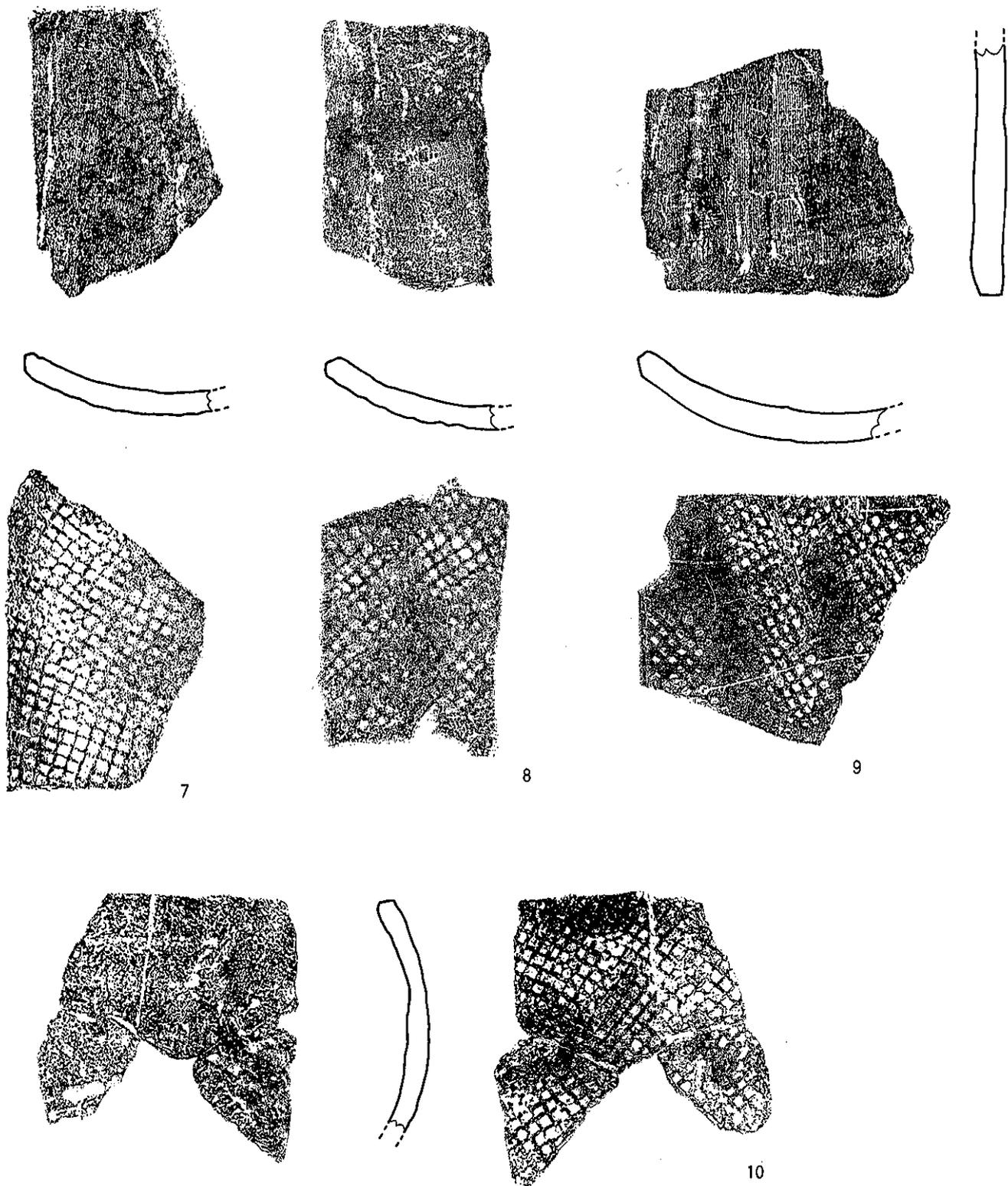
第58図 95-1 トレンチ出土瓦実測図 (1/4)



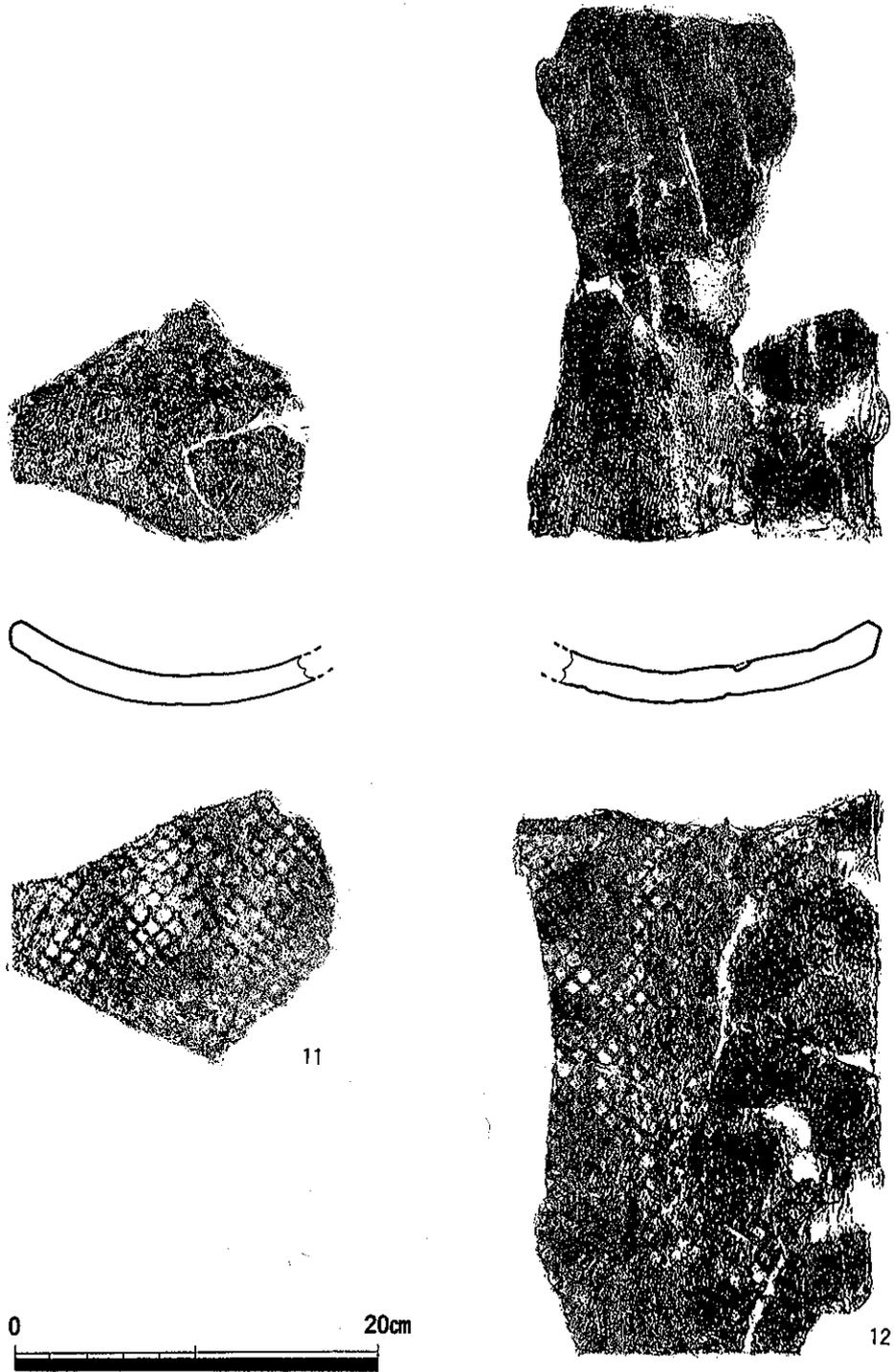
第59図 95-4 トレンチ出土瓦実測図 (1/4)



第60図 93 - 8 トレンチ出土瓦実測図① (1 / 4)



第61図 93 - 8 トレンチ出土瓦実測図② (1 / 4)



第62図 93 - 8 トレンチ出土瓦実測図③ (1 / 4)

## IV 馬屋元遺跡の調査の概要

### 1 はじめに

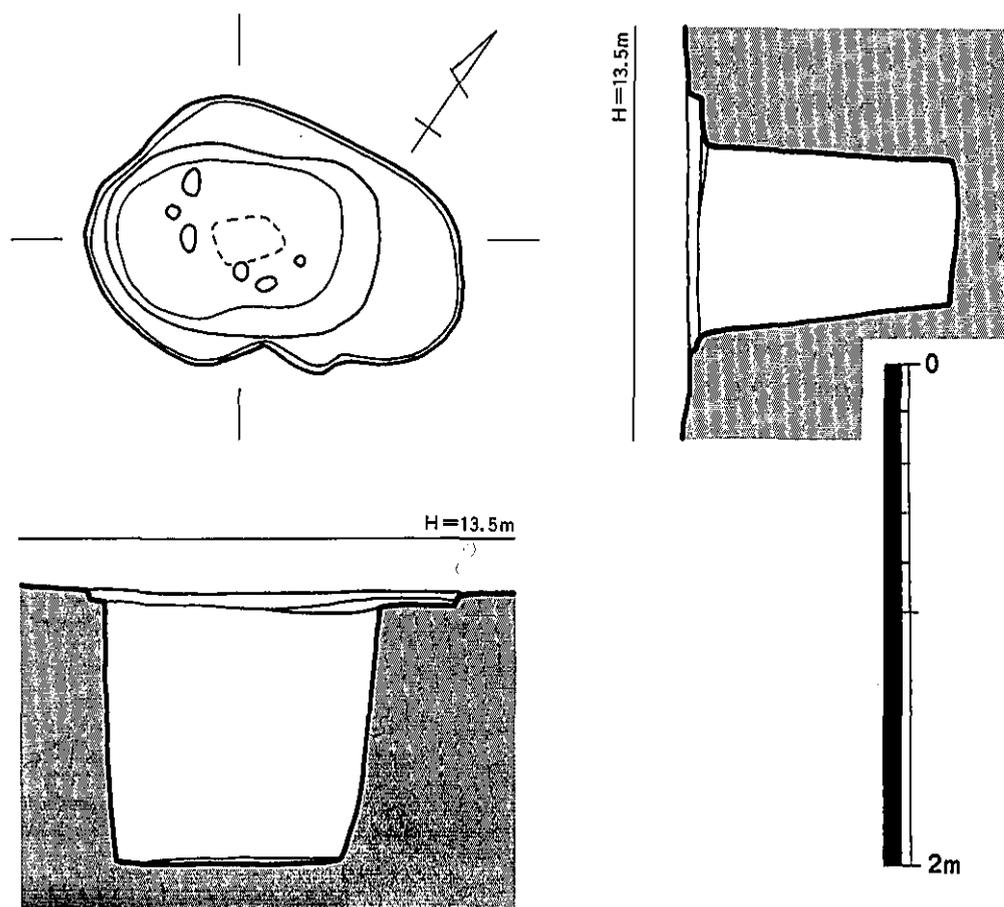
#### 馬屋元遺跡

下高橋官衙遺跡の東側の地点である。平成7年度から「県道久留米・筑紫野線」改良工事に伴い、福岡県教育委員会の事前調査で発見された。県教委の調査は、平成4年度から幅約20mの道路部分を大刀洗町・小郡市行政境付近から南下しながら進められ、弥生集落・古代集落が調査されている。平成7年度に上野遺跡の区画溝の東端から約170m離れた位置で、遺跡の南北を区画すると考えられる二重の溝が175mの間隔で検出され、その区画の中央部分と南寄りに南北に長い大規模な掘立柱建物群が発見され、上野遺跡と密接な遺跡であることは容易に推測された。県教育委員会の調査の成果をうけ、大刀洗町教育委員会では、その範囲及び性格を明らかにする調査を平成8・9年度実施した。調査は平面確認に留めているが、官衙関連の側柱建物6棟、区画溝2条、土坑のほか、弥生早期の甕棺墓5基、弥生中期の住居4棟、落とし穴状遺構など発見された。

### 2 落とし穴状遺構

#### 1号落とし穴状遺構（図版25・第63図）

97-1トレンチで検出。検出面では不整形の範囲にしまった黒色土が認められたが、5～10cm下



第63図 S J 1号落とし穴状遺構実測図（1/30）

げると、明確なプランが検出された。長軸1.08m、短軸0.75mを測る隅丸長方形プランである。残存深さは1.05mで、底面に径約10～5cmの杭痕が少なくとも6個所で確認された。軸方向はN-34°-Wである。出土遺物はない。

### 3 甕棺墓 (図版25)

96-3 トレンチで南半で、表土を除去する際にひっかかった弥生早期の甕棺墓5基を調査した。

#### 1号甕棺墓 (図版25・第64図)

S B 3 建物南東2mに位置する。すぐ南50cmほどには2号甕棺墓がある。墓壙は長軸91cm、短軸63cmの台形気味のプランで残存深さは31cmである。日常容器の甕+大壺の組み合わせで覆い口の合わせ口形態を採る。埋葬角度は31°で、主軸方向はN-4°-Wである。

#### 土器 (図版33・第66図)

上甕 日常容器の甕を転用している。胴部上半で緩やかな「く」字状に屈曲し屈曲部は低い凸帯となり、刻み目を付す。口縁はややすぼまり、上面に刻み目を付す。外面は擦過痕が認められるが、ナデ消されている部分が多い。内面は屈曲部より上位は貝殻条痕が著しいが、下方は擦過・ナデ消している部分が多い。底部は円盤貼り付けで台形状の形態である。外面の煤付着が著しい。器高30.9cm、口径25.1cm、底径9cm、底部の厚さは1.9cmと分厚い。

下甕 器高52.3cm、胴部最大形46.3cmの大型の壺。肩部に1条の沈線を持ち、口縁部へと急激にすぼまり、口縁端は短く外反する。外面調整は光沢があるほどの丁寧なヘラミガキであるが、底部付近に貝殻条痕が残り、貝殻状痕調整の後、ヘラミガキ調整を行ったものである。内面は頸部の上位はヘラミガキ、以下はナデである。外面に黒斑を認める。

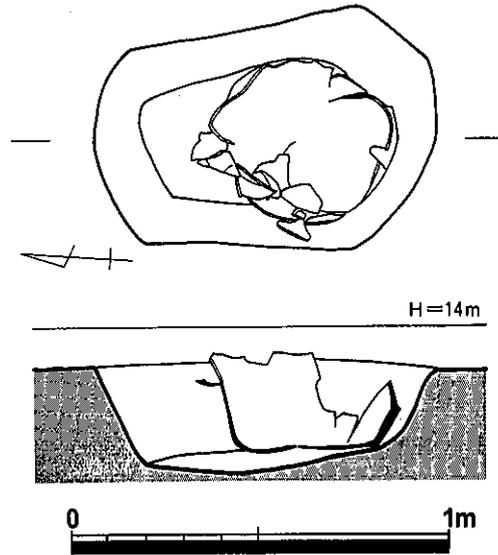
#### 2号甕棺墓 (図版25・第65図)

1号甕棺墓の南50cmほどに位置し、その南やや西よりに60cmほど離れて3号甕棺墓がある。

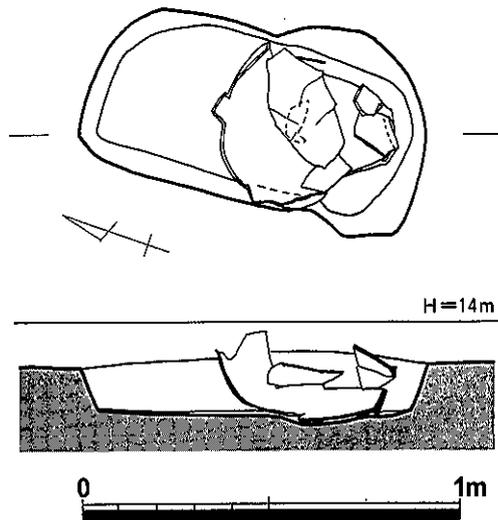
墓壙は長軸92cm、短軸46cmの隅丸長方形プランで残存深さは20cmである。日常容器の甕+大壺の組み合わせで、覆い口の合わせ口形態を採る。埋葬角度は20.5°で、主軸方向はN-19°-Wである。

#### 土器 (図版33・第67図)

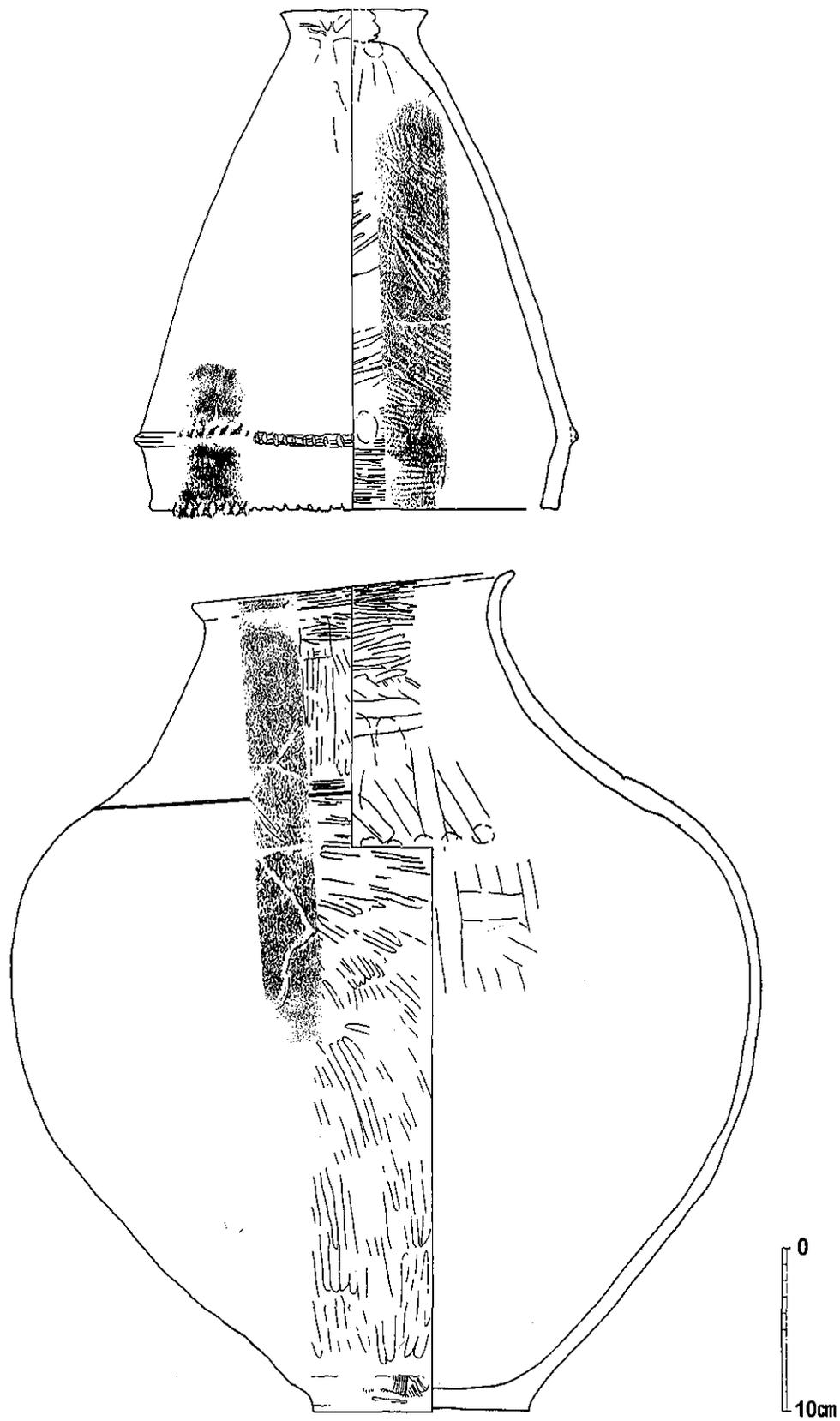
上甕 日常容器の甕を転用している。口縁部付近しか残存しない。胴部上半で緩やかな「く」字



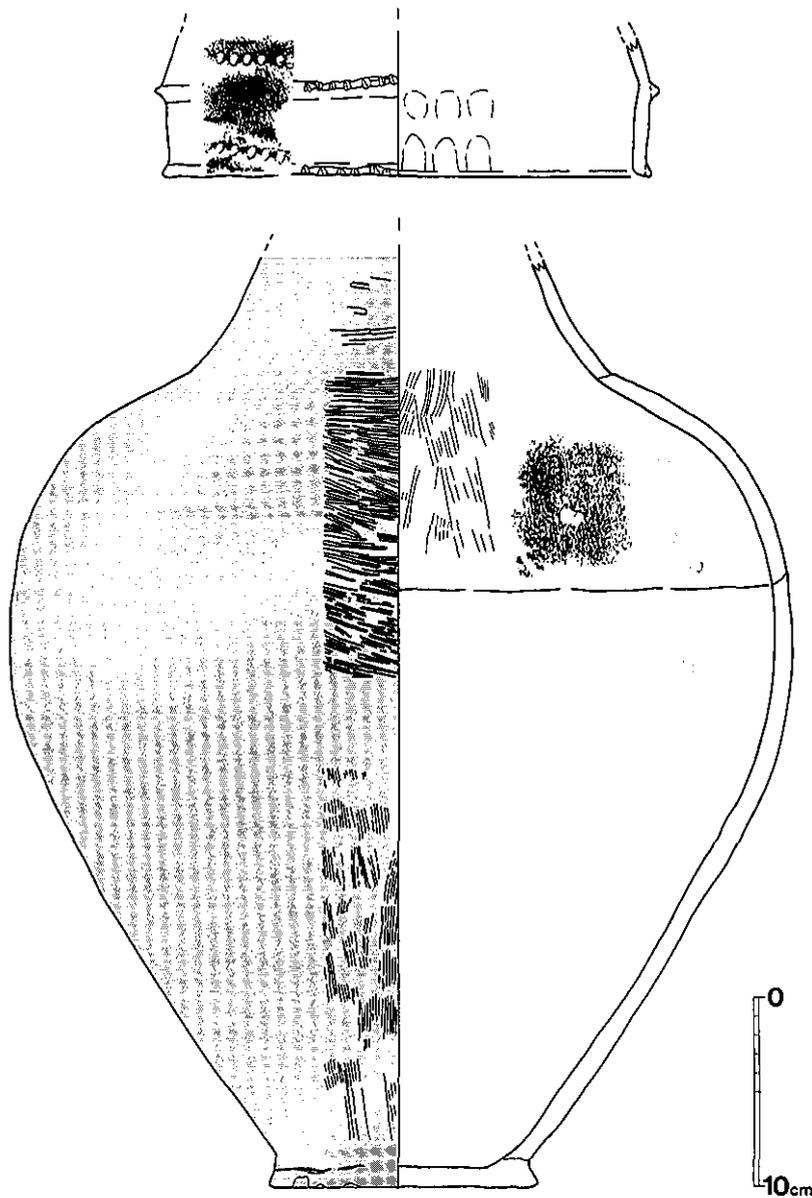
第64図 ST 1号甕棺墓実測図 (1/20)



第65図 ST 2号甕棺墓実測図 (1/20)



第66图 ST 1号瓷棺实测图 (1/3)



第67図 ST 2号甕棺実測図（1／3）

状に屈曲し屈曲部は高い凸帯となり、刻み目を付す。口縁は直口気味で、三角凸帯を付した形態である。口縁外面には刻み目を付している。外面はナデ。内面は屈曲部より上位は貝殻条痕が若干残るがほとんどナデ消している。外面の凸帯より下は煤付着が著しい。復元口径は25.8cm。

下甕 口縁部を打ち欠いているが、残存高59.5cm、胴部最大形41.4cmの大型の壺。あまり張らない肩部から口縁部へと急激にすぼまる。外面調整はヘラミガキで底部付近にハケメが残り、ハケメ調整の後、ヘラミガキ調整を行ったものである。内面は器壁があれ調整が不明な部分が多いがハケメが一部認められる。外面は丹塗りである。

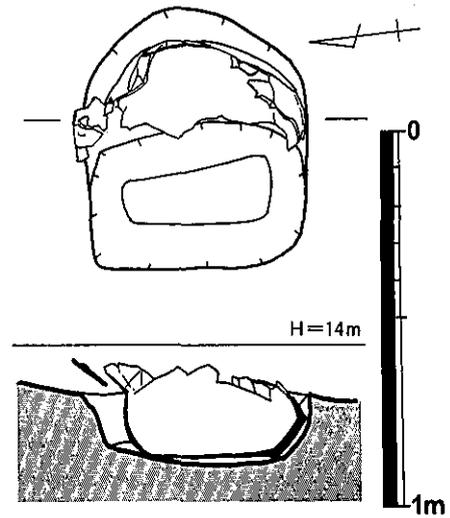
### 3号甕棺墓 (図版25・第68図)

2号甕棺墓の南やや西より60cmほどに位置し、その南やや東よりに1.7mほど離れて4号甕棺墓がある。後世の攪乱を受け、西半分は失われている。墓壙は長軸62cm、短軸50cm+ $\alpha$ の不整形を呈し、残存深さは22cmである。日常容器の甕+大壺の組み合わせで、覆い口の合わせ口形態を採る。埋葬角度は36°で、主軸方向はN-7.5°-Eである。

#### 土器 (図版34・第70図)

上甕 日常容器の甕を転用している。口縁部付近しか残存しない。直口の口縁で、口縁直下に刻み目を持つ凸帯を付す。内外面とも貝殻条痕が残る。外面は煤付着が著しい。復元口径は28.3cm。

下甕 器高54.3cm、口径23.8cm、胴部最大形48.6cm、底径13cmの大型の壺。あまり張らない肩部から口縁部へと急激にすぼまり、外反する口縁に至る。外面調整はヘラミガキであるが、底部付近に貝殻条痕が残り、貝殻状痕調整の後、ヘラミガキ調整を行ったものである。内面は器壁があれ調整が不明な部分が多いが貝殻条痕が認められる。外面は丹塗りである。



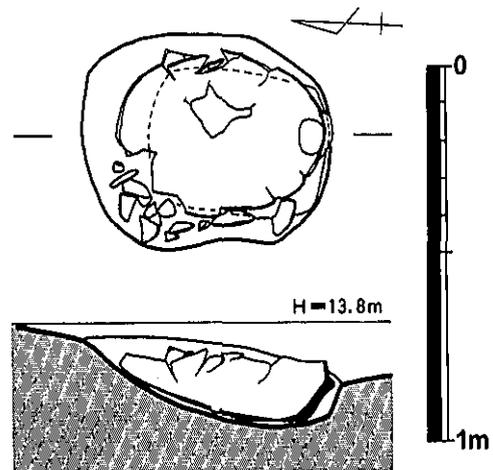
第68図 ST 3号甕棺墓実測図 (1/20)

### 4号甕棺墓 (図版25・第69図)

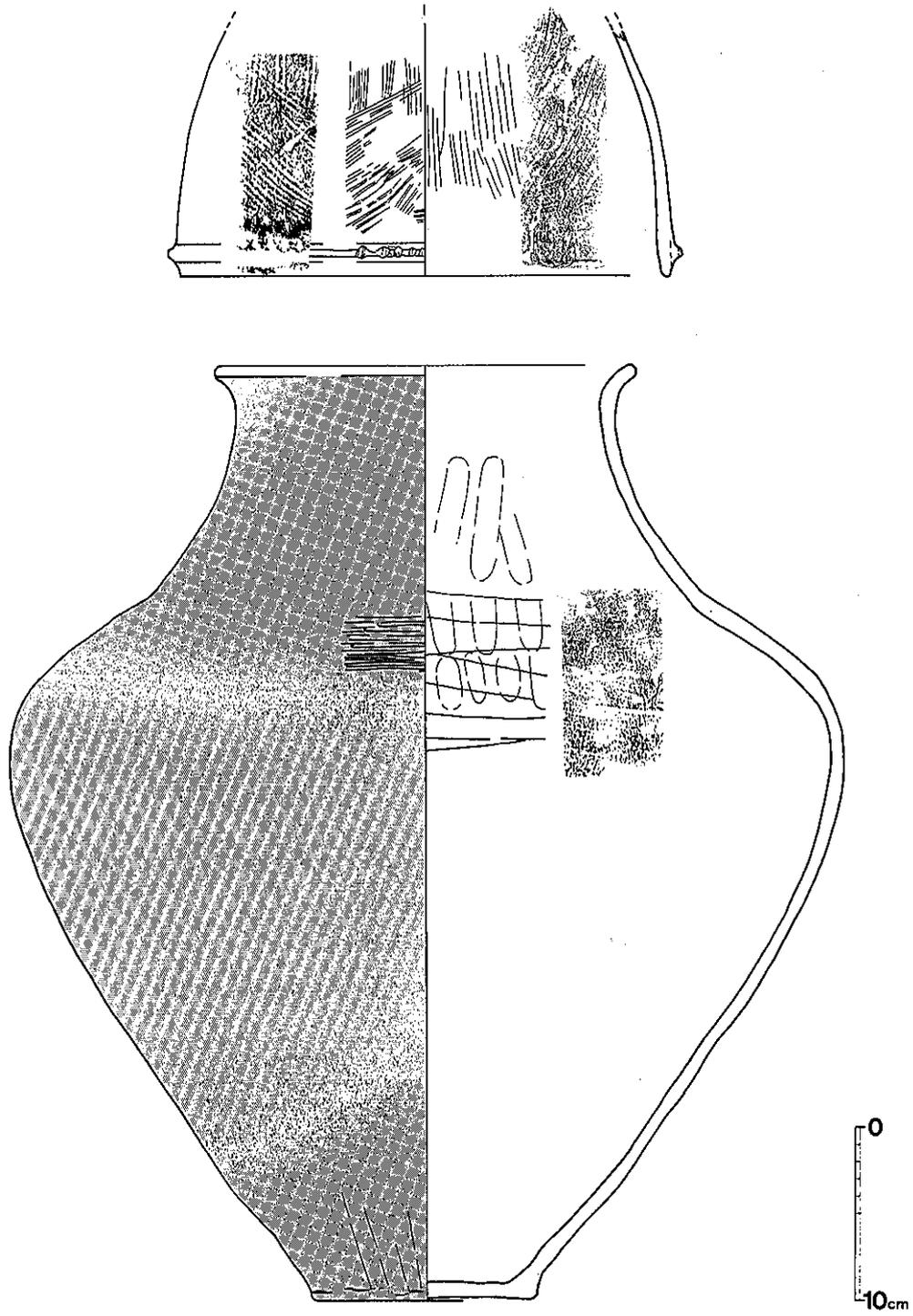
3号甕棺墓の南やや東より1.7mに位置し、その東1.4mほど離れて5号甕棺墓がある。墓壙は長軸66cm、短軸56cm不整な方形を呈し、残存深さは23cmである。大壺のみ残存しているが、本来他の甕棺墓同様に日常容器の甕+大壺の組み合わせであったであろう。埋葬角度は38°で、主軸方向はN-2.5°-Wである。

#### 土器 (図版34・第71図)

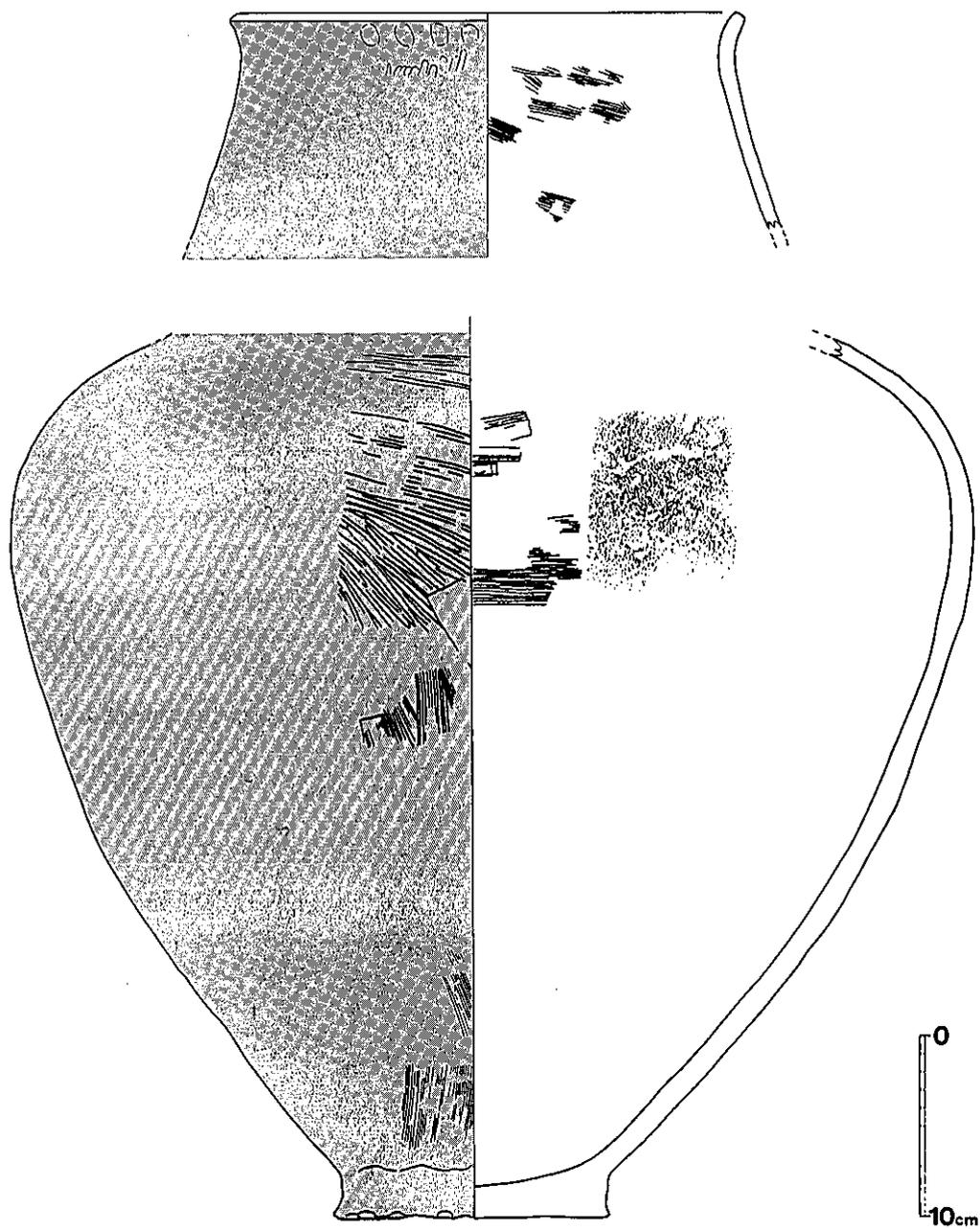
下甕 同一固体と考えられるが接合しない、口径27.5cm、胴部最大径52.9cm、底径15.3cmの大型の壺。やや張った肩部から口縁部へと急激にすぼまり、外反する口縁に至るものであろう。外面調整はヘラミガキであるが、底部付近にハケメ残り、ハケメ調整の後、ヘラミガキ調整を行ったものである。内面は器壁があれ調整が不明な部分が多いがハケメ痕が認められる。外面は丹塗りである。



第69図 ST 4号甕棺墓実測図 (1/20)



第70图 ST 3号甕棺实测图 (1 / 3)



第71图 ST 4号甕棺实测图(1/3)

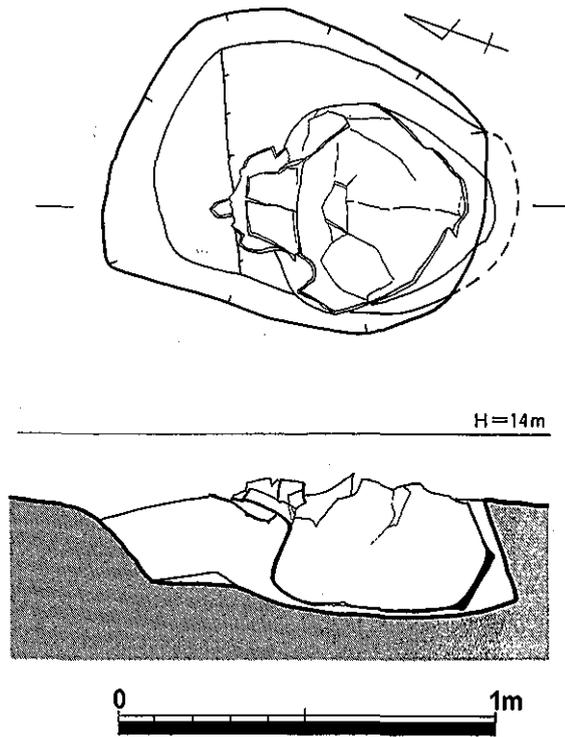
#### 5号甕棺墓（図版25・第72図）

4号甕棺墓の東1.7mに位置する。墓壇は長軸101cm、短軸83cmの不整形を呈し、残存深さは34cmである。日常容器の甕+大壺の組み合わせで、覆い口の合わせ口形態を採る。埋葬角度は28°で、主軸方向はN-20°-Wである。

#### 土器（図版33・34・第73図）

上甕 日常容器の甕を転用している。上半部しか残存しない。胴部上半で緩やかなや丸みを帯びた「く」字状に屈曲し屈曲部は高い凸帯となり、刻み目を付す。三角凸帯を付した形態である。口縁外面には刻み目を付している。外面はナデ。内面は貝殻条痕が若干残る。外面には黒色顔料で彩色が認められる。復元口径は25.4cm。

下甕 口縁部を打ち欠いているが、残存高65cm、胴部最大径55.7cm、底径16.2cmの大型の壺。特徴的に大きく張った肩部は水平に近く、頸部との境には1条の沈線を巡らし口縁部へと急激にすぼまる。口縁は短く外反するものであろう。外面調整はヘラミガキ。内面はナデ及び擦過痕が認められる。外面は丹塗りで、黒斑も認められる。



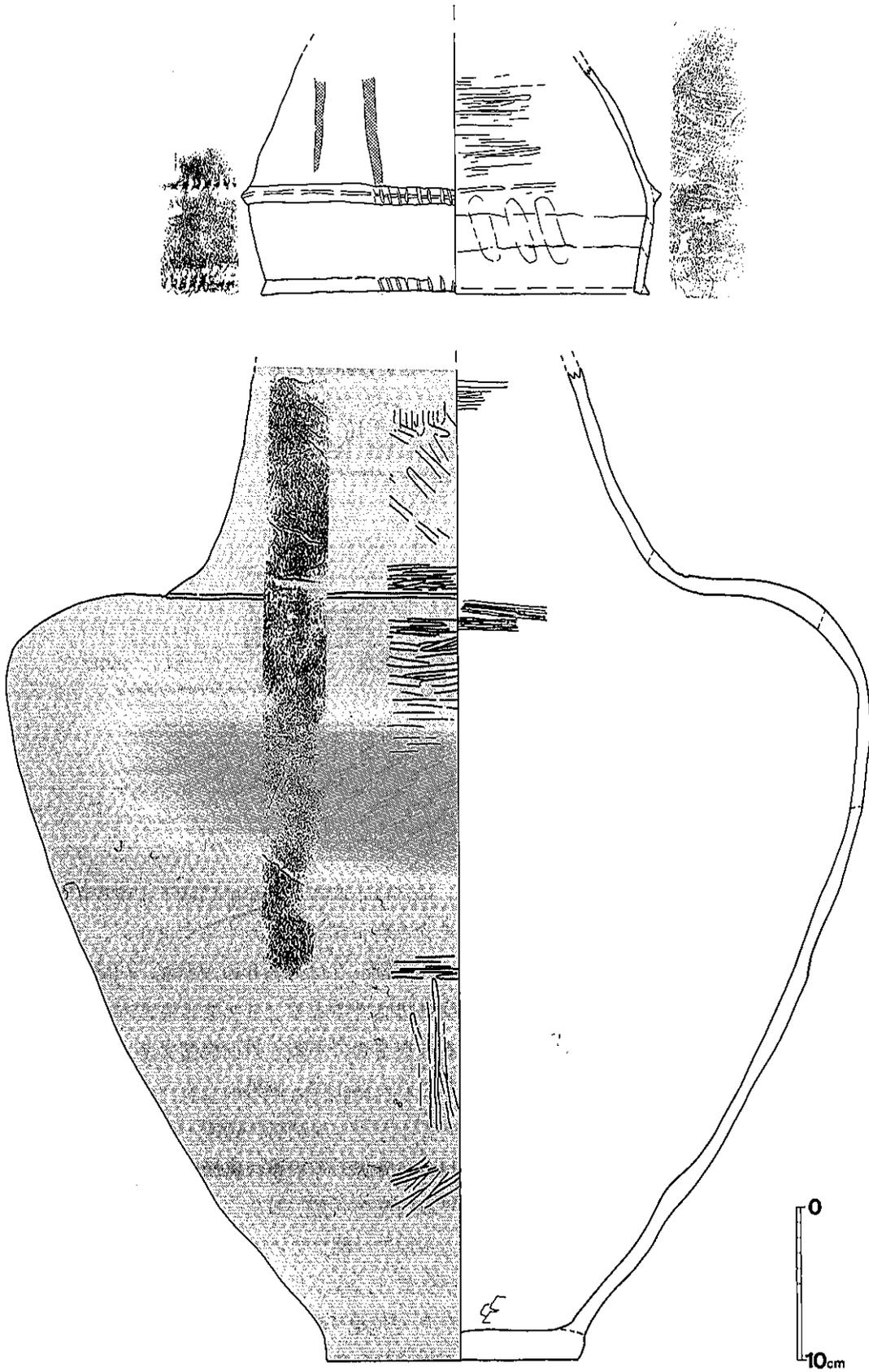
第72図 ST 5号甕棺墓実測図（1/20）

#### 4 住居跡

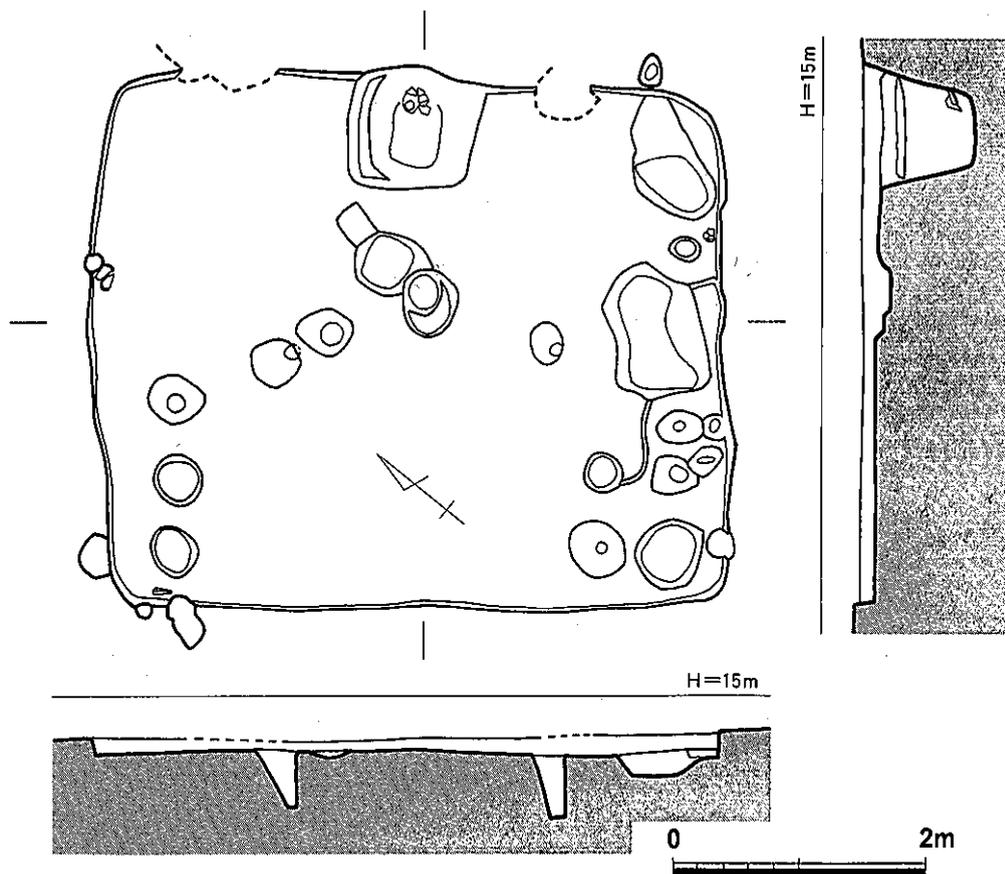
馬屋元遺跡では堅穴住居を4棟確認したが、いずれも弥生時代中期後半のものである。発掘したのは97-1トレンチの2棟である。遺構確認面は砂質で、完掘すると遺構まで崩壊する危険性が高いので遺跡保存のための調査という目的から、調査は貼り床面までで止めて完掘していない。

#### 1号住居跡（図版8・第74図）

97-1トレンチの東端で検出。約3m西に2号住居が位置する。長軸5.03m、短軸4.25mの隅丸長方形プランである。床面までの残存深さは20cm足らずである。主柱穴は2基で、心々距離で2.15mを測り床面から50cmほどの深さである。北東辺の中心に0.9m四方、深さ0.8mほどの壁際土坑を設けている。床面には主柱穴以外に多数のピットが確認されるが、全てが本住居跡に伴うものであるかは不明ながらプラン検出時には判別できていないので、ほとんどが本住居に伴うものであろう。また壁面には、羽目板を設置したと考えられる壁小溝が確認できたが、図示していない。主軸方向はN-39°-W。



第73图 ST 5号甕棺实测图 (1/3)



第74図 SC 1号住居跡実測図 (1/60)

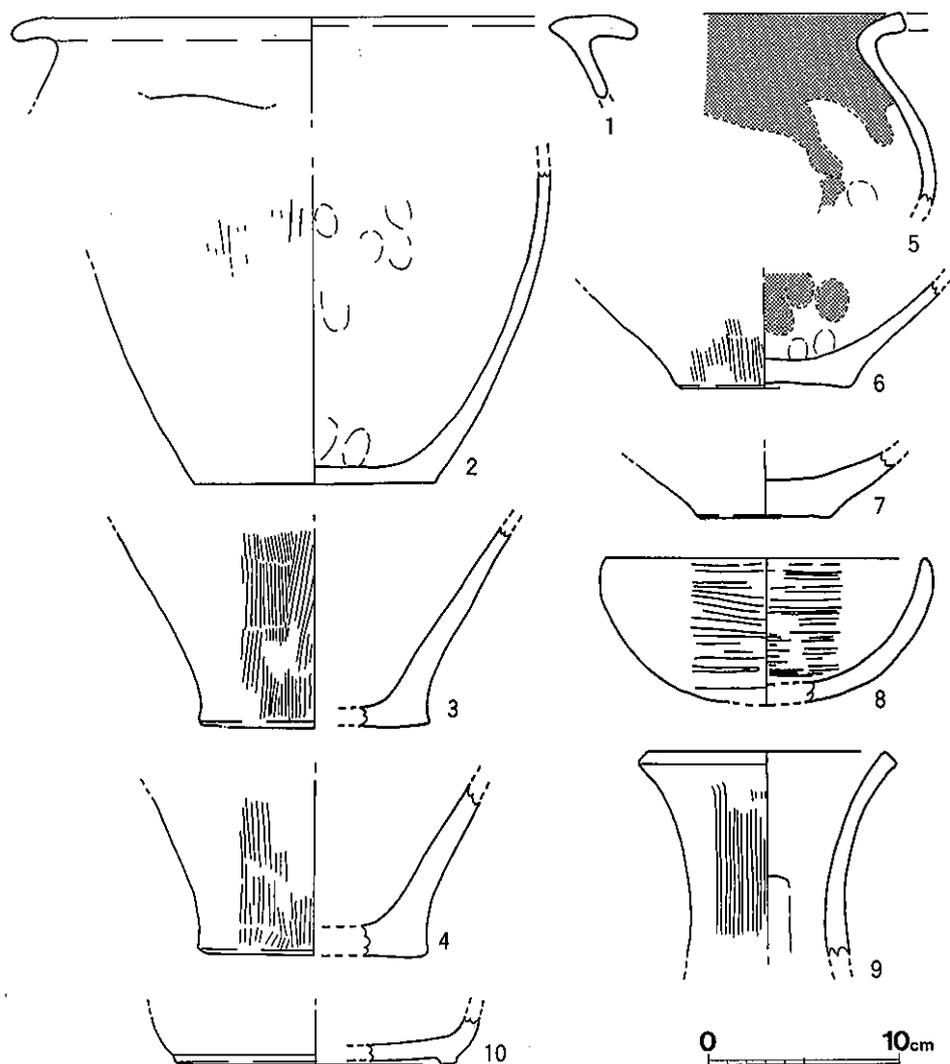
出土遺物 (図版35・第75図)

(弥生土器) 1は甕の口縁部、口縁部がすぼまり、端部は下向きになる。口縁下に焼成前に設けた透かしが認められるが、規模は不明。胎土は砂粒を含み特に精製されたものではない。復元径25cm。2は底径の広い樽形の甕底部。3・4は甕のしまった底部。5は丹塗りの短頸壺。口縁内面の屈曲は稜をなさない。精製された胎土で、内外面とも調整はナデである。6・7は壺底部であるが、7は5と同じような精製された胎土に対し6は砂粒を含むものである。外面調整も7はナデ、丹塗りに対して6はハケメである。8は丹塗りの椀。精製された胎土で、内外面ともヘラミガキ調整である。9は上下の径にほとんど差がない器台。

(土師器) 10は低い高台を持つ杯身、底部の端部に高台を付している。上層から出土。後世の流入である。

2号住居跡 (図版26・第76図)

97-1 トレンチの東方で検出。約3m東に1号住居が位置する。長軸4.25m、短軸3.3mほどの隅丸長方形プランである。床面までの残存深さは15cmほどである。東辺には、辺全体に接して、ベッド状遺構が付く。床面とベッド状遺構の比高は13cmほどである。支柱穴は2基と思われるが、北方の1基しか確認していない。深さは30cmで、あまり深くない。ベッド状遺構中央には径40~50cm



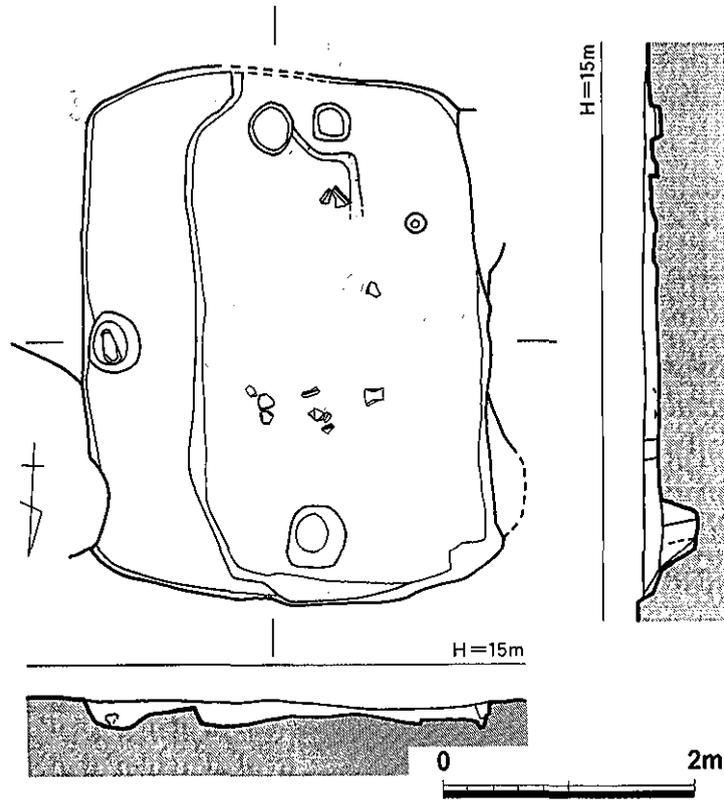
第75図 SC1号居跡出土土器実測図(1/3)

深さ20cm程度のピットがあり、その中に加工痕のない川原石を検出した。性格は不明である。また壁面には、羽目板を設置したと考えられる壁小溝が確認できたが、図示していない。主軸方向はN-3°-W。

出土土器(図版35・第77・78図)

(弥生土器) 1は広口壺の鋤先形口縁部。2は口縁端部が上位に屈曲する甕の口縁部で、口縁下に三角凸帯を貼りつける。3は丹塗りの甕口縁で口縁は内側に突出し外側に傾斜する。胎土は精製されたもので、外面の調整はヘラで磨いている。4は甕の口縁で口縁は内側に低く傾斜する。精製された胎土であるが、丹塗りではない。5はやや「く」字状の口縁の甕で、内面のナデ調整は丁寧だが、胎土は4とは異なり砂粒を若干含む。6は丹塗り壺の肩部。恐らく広口口縁で、頸部下端に三角凸帯を貼りつけ、肩部と胴部の境に頂部が窪んだ「コ」字凸帯を貼りつける。肩部には暗文を2~3.5cmを1ブロックとして付している。精製された胎土である。7は丹塗りの短形壺。口縁は強く屈曲するが内面に稜はつくらない。口縁に2個1対の焼成前の穿孔がある。また、胴部下半に

3個の外部からの穿孔があるが、丹塗り後のものである。胎土は精製されたものである。8は丹塗り壺の底部で、精製された胎土である。9・10・11は壺の底部であるが、9の外面調整はハケメに対して10・11はヘラミガキである。ただし胎土は精製されたものとはいえない。12～20は甕の底部で12の外面調整だけがナデ、他はハケメ調整である。21は高杯の脚部。器壁が荒れているが丹塗りである。胎土は精製されたものではない。22は小型の椀。23は器台で、上部径が下部より小さくなる。



第76図 SC2号住居跡実測図 (1/60)

### 3号住居跡 (図版26)

96-13トレンチの中央で検出。トレンチ幅約3mの範囲のプラン確認を行なった。南北辺は約6mの規模である。主軸はN-17°-E。床面まで発掘していないが良好な弥生土器の出土がある。

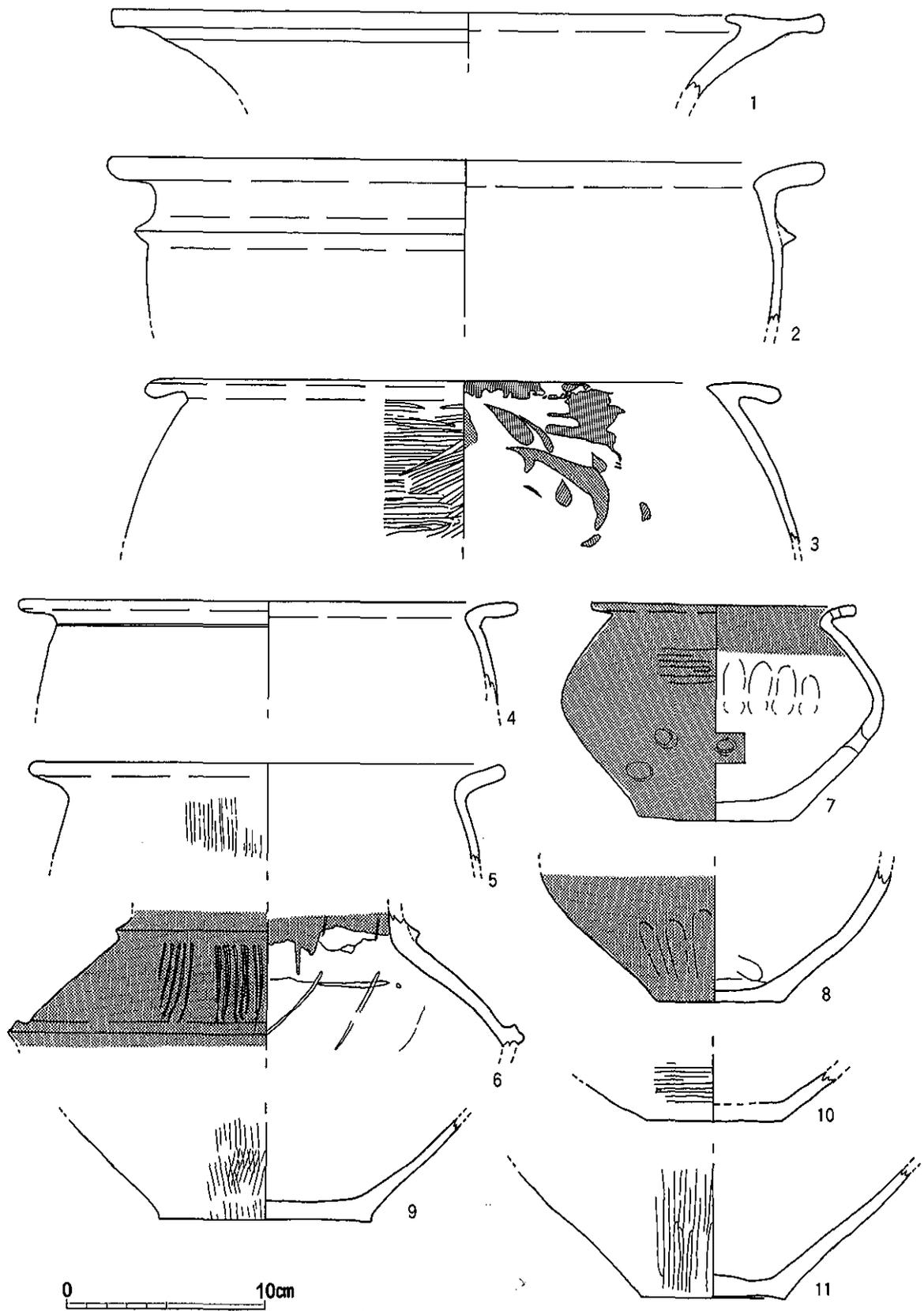
#### 出土遺物 (図版35・36・第80・81図)

(弥生土器) 1～4は甕の口縁部及び胴上半部。いずれも「T」字形口縁で、1・3は内側に低く、4は外側に低く傾斜する。口径は1で31.6cm、2は33cm、3は33.2cm、4は32.8cmと近似値を示す。若干の砂粒を含む胎土で、焼成は良い。4は胴部最大形部の下位に三角凸帯を一条貼り付ける。5は日常容器のやや大型の甕で、口縁は強く「く」字形に屈曲するが、内側は丸みをもつ。口縁下に鋭い三角凸帯一条を貼る。復元口径は41.7cm。6も日常容器のやや大型の甕で、「T」字形口縁、口縁下に三角凸帯1条を貼り付ける。口径45.4cm。7は甕の底部で平底。表面は風化が著しい。底径は7.4cm。8は碗で分厚い上げ底である。内外面ともナデ調整である。9は括れが上位にある器台の脚部。10は筒形器台の鐳部分。最大径28.6cmで、暗文を付している。

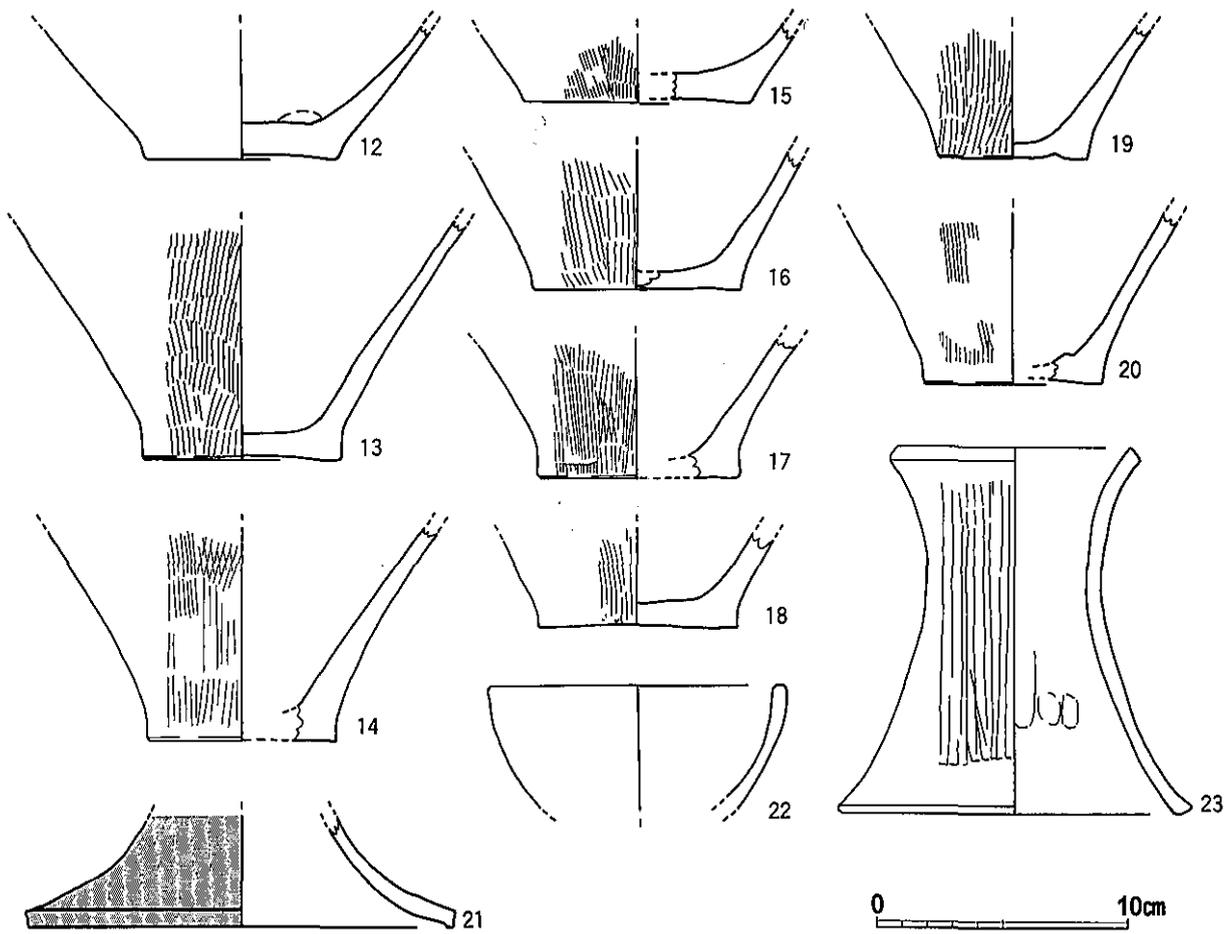
(石器) (図版35・第79図) 安山岩の川原石で、表面に僅かな窪みがある。表面は風化が著しい。

### 4号住居跡 (図版26)

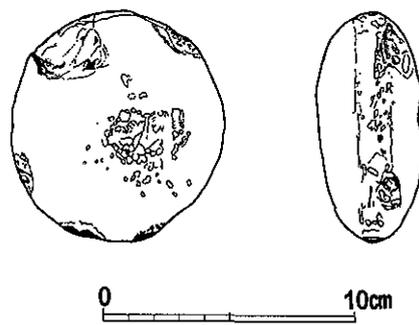
SB1建物の北西SB1建物のP1・P5に切られる。プラン確認しか行っていないが、1辺4.5～5m前後の規模で、主軸はN-30°-E前後。



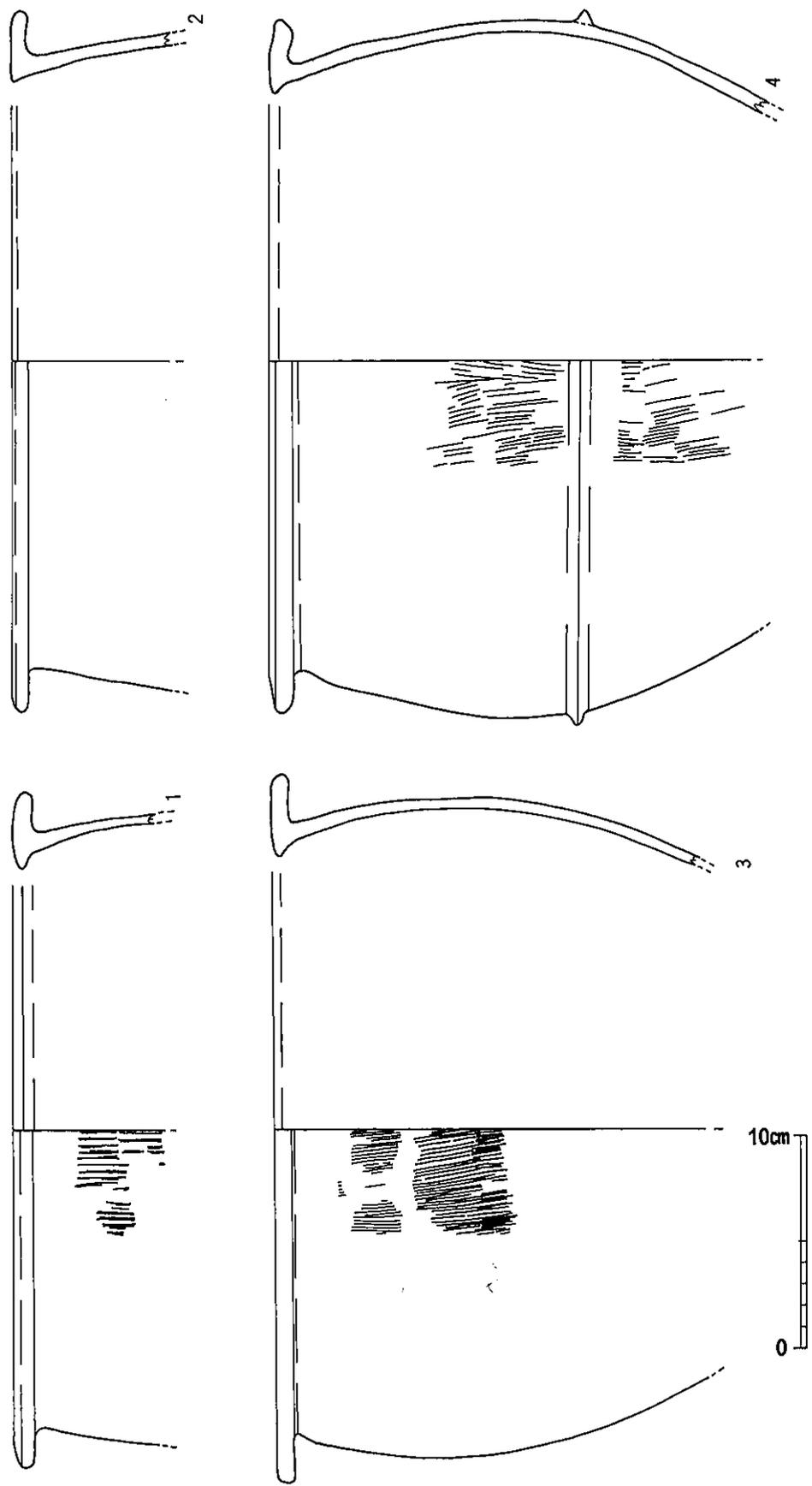
第77图 SC 2号住居跡出土土器実測図① (1 / 3)



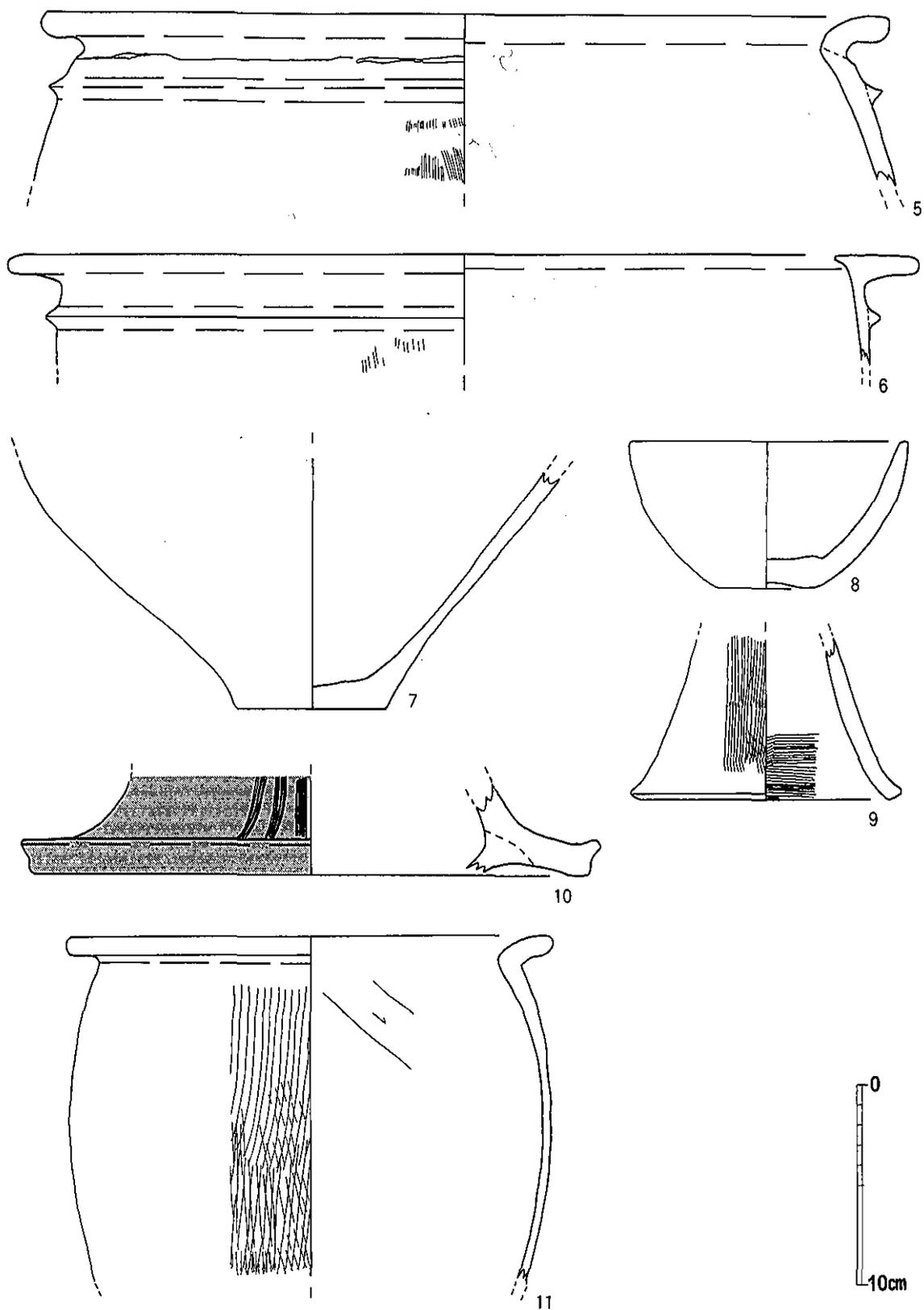
第78图 SC 2号住居跡出土土器実測図③ (1/3)



第79图 SC 3号住居跡出土石器実測図 (1/3)



第80图 SC3号住居跡出土土器器实测图(1/3)



第81図 SC3・4号住居跡出土土器実測図(1/3)

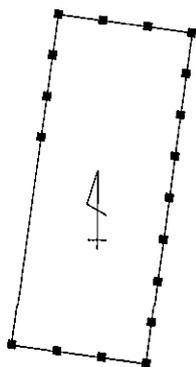
出土遺物(図版36・第81図)

(弥生土器) 11は強く屈曲する「く」字形口縁の甕。砂粒を多く含まない胎土で、良好な焼成である。

## 5 建物

掘立柱建物は6棟確認した。全て掘立柱建物である。建物を確認した部分の遺構確認面はほとんどが砂質で、一段掘り下げても壁面がすぐに崩壊することから、S B 5の4柱穴を除き、半裁をしておらず、平面確認のみである。

### S B 1号建物（図版26・27・28・第83図）



馬屋元遺跡の北西部に位置する南北に長い3間×8間の建物。S C 4住居を切る。北東3m離れてS B 5建物、南に7m離れてS B 2建物が位置する。調査は平面確認で、桁行17.8m、梁行7.1mで同じ規模の建替が1回認められる。柱間距離は桁行きで7.5尺、梁行8尺等間で復元できる。

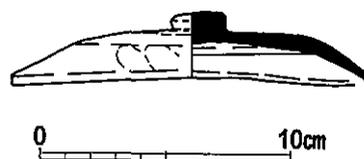
S B 1 Aとした新建物の柱穴掘方は隅丸長方形を基本とし梁方向に長軸をもつ傾向にある。柱痕跡がわかるものでは直径25~30cmを測る。少なくとも6基の柱穴で柱を抜いている。

S B 1 Bとした古建物は全てS B 1 A建物の柱穴と切り合い関係があり、同規格で建替えられたことがわかる。柱穴の形態は隅丸方形を基本としたようである。

### 出土遺物

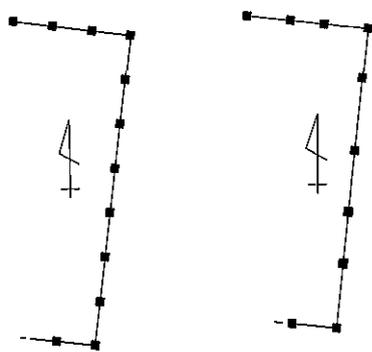
（須恵器）（図版36・第82図）

S B 1 A（新建物）P 14抜き跡から立った状況で出土した。杯蓋の転用硯で、外天井部は回転ヘラケズリ、口縁端部は折り曲げる。径2.2cmのつまみはやや高めである。内面は良く擦っており墨痕が著しい。口径14.3cm、器高3cm。



第82図 S B 1建物P 14出土土器  
実測図（1/3）

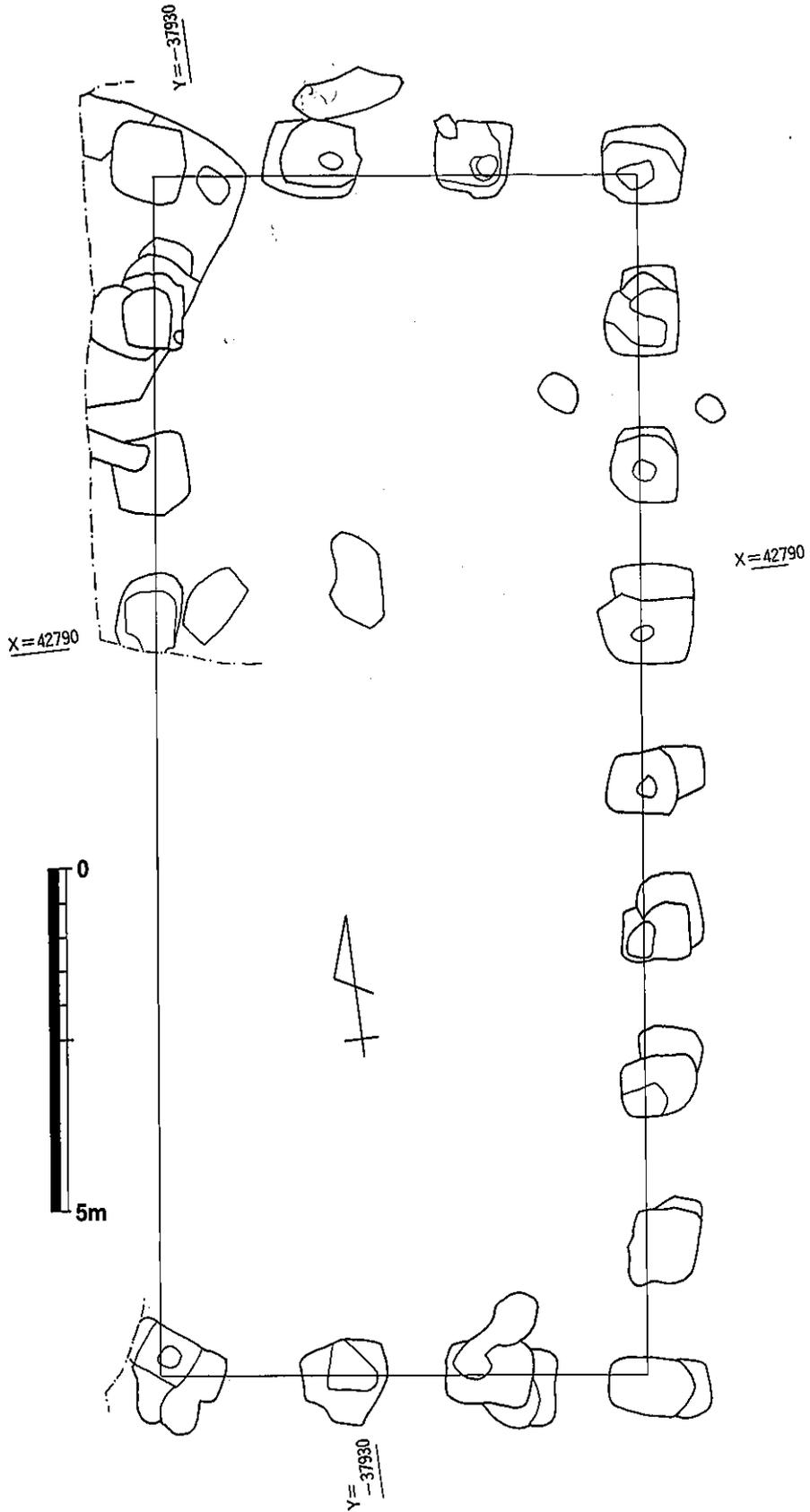
### S B 2号建物（図版27・28・第84図）



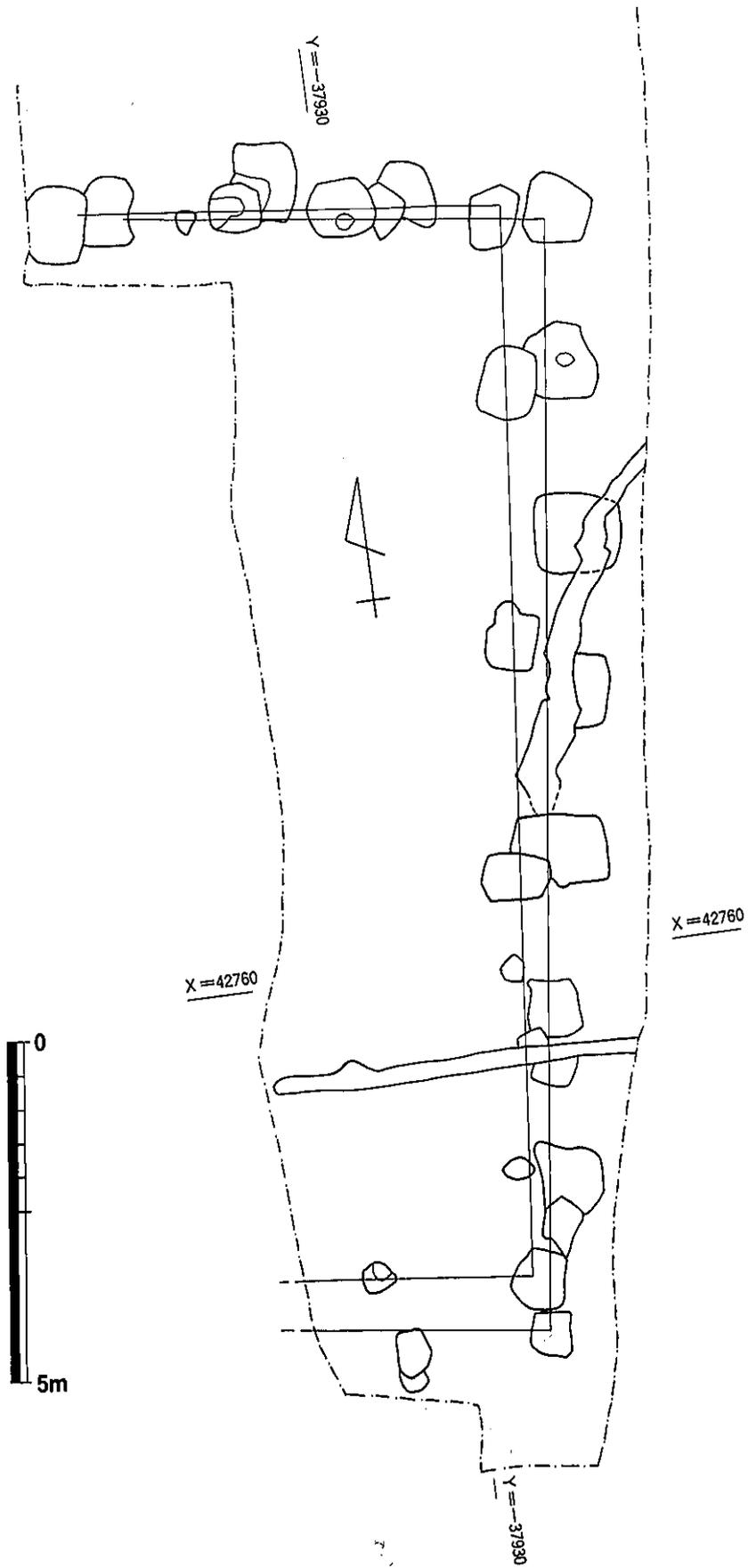
1号建物の南7mに位置する南北に長い建物。これも平面確認のみの調査で、西桁列は調査区外である。1回の建替があり、S B 2 A建物とした新建物は3間×5間、S B 2 Bとした古建物は3間×7間である。遺構確認面はこの建物の部分は特に軟らかい砂地で、南半は削平されたのか、残りが悪い。

S B 2 A建物の柱穴掘方は、梁方向に長い隅丸長方形を基本としている。梁行は8尺・6尺・8尺で、柱穴が拾えるが、梁方向は、北から9尺・12尺・12尺・9尺・12尺とかなり不揃いである。あるいは、地山が掘削するには崩壊しやすい砂地なので、S B 2 B（古建物）の柱穴掘方との重複を極力避けた結果かもしれない。今後の調査で異なる復元が可能かもしれない。桁行16m、梁行6.5mの規模である。

S B 2 B建物の柱穴掘方は隅丸方形を基本とし、P 6では柱痕跡があり直径23cmを測る。梁行は7尺等間の3間、桁行は8尺等間の7間が復元できる。桁行16.6m梁行6.2mの規模。

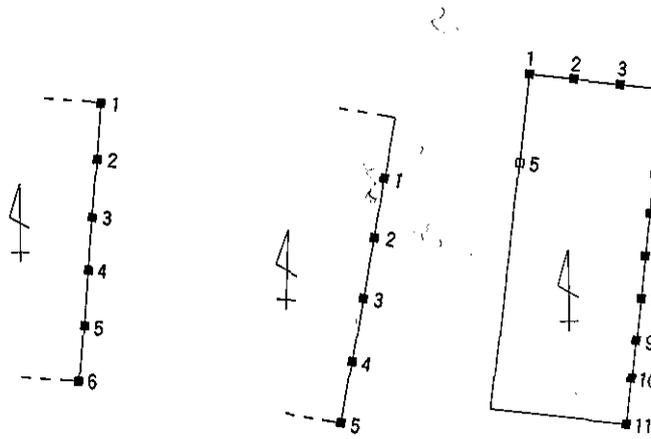


第83图 SB 1 建物实测图 (1/100)



第84図 SB 2 建物実測図 (1/100)

SB 3 建物 (図版27・第35図)



2号建物の南19.4mに位置する南北に長い建物。これも平面確認のみの調査で、またトレンチをまたがって検出し、西桁列のほとんどは調査区外である。2回以上の建替があり、いずれも梁間は3間と思われるが、桁行はSB 3 A建物とした新建物は5間、SB 3 Bとした2期目の建物は5間、SB 3 Cとした最古の建物は8間として復元した。ただし、北梁列でSB 3 Cに切られる柱穴があり、今後修正が必要となるかもしれない。

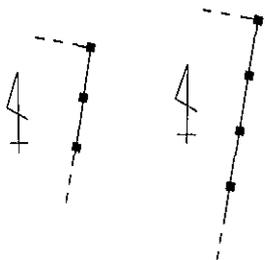
り、今後修正が必要となるかもしれない。

SB 3 A建物は、SA 3建物群の北端から10m南に離れて、桁行き5間の規模である柱穴掘方は、桁梁方向に長い小振りの隅丸長方形を基本としている。桁方向は、10尺等間で拾え、14.8mを測る。

SB 3 B建物はSA 3建物群の北端から2.5m南を北梁列とし桁行5間に復元した。柱穴掘方は抜き取りや建替のため不整形。柱痕跡がわかるものは直径30cmを測る。桁行は10尺等間で、14.8mの規模。

SB 3 C建物は、この建物群の北端から位置する。桁行8間、梁行き間として復元しているが前述のように、北梁列で1基の柱穴があまることになり、梁行2間の建物の修正される可能性を持つ。3間×8間とした場合、桁行は7.5尺等間、梁行は8尺等間で復元できる。すなわち桁行き17.7m、梁行7.2mの規模。

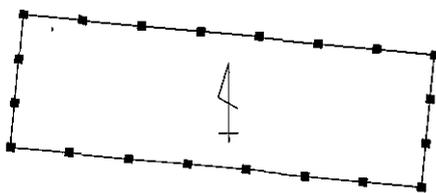
SB 4 建物 (図版27・第35図)



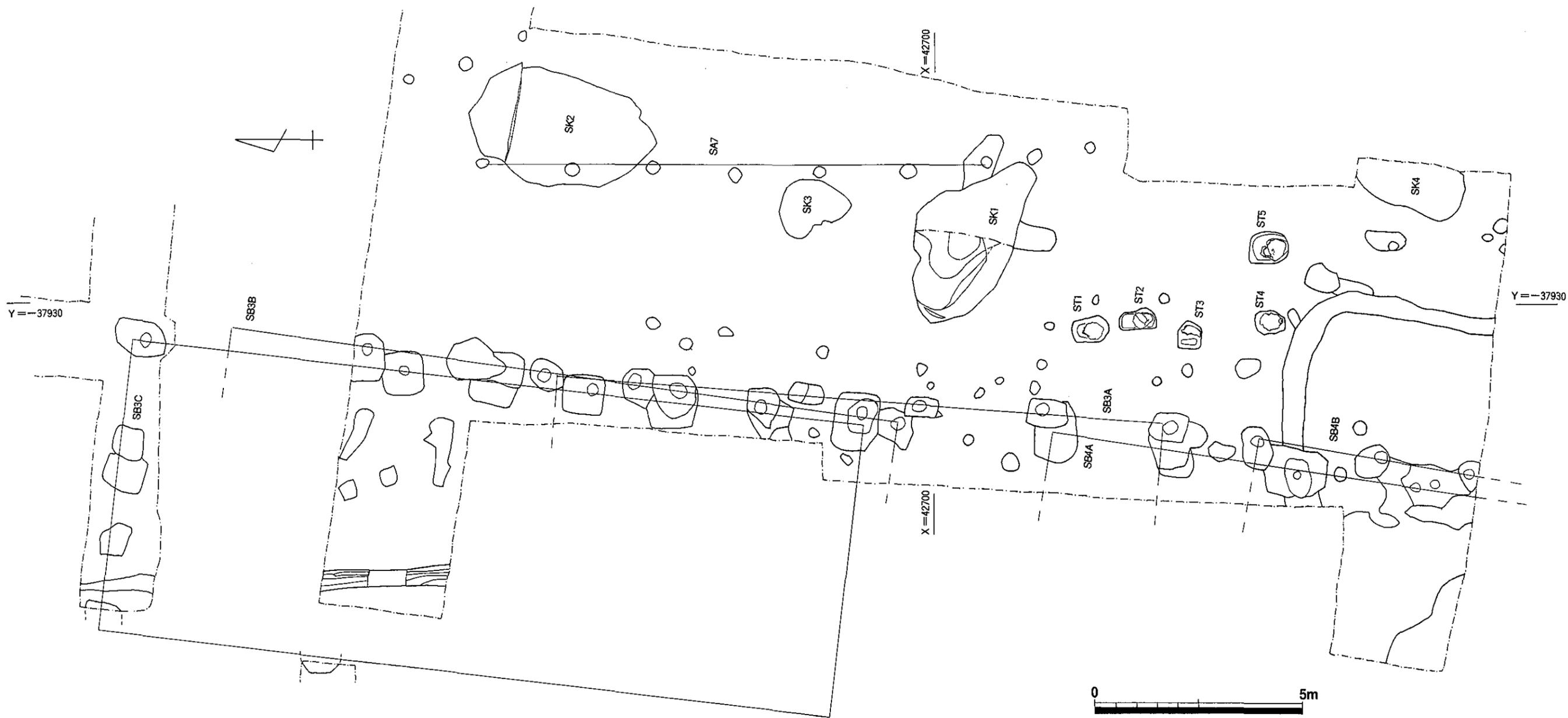
SB 3 A建物と一部重複する位置で、SB 3 C建物から4m南の建物群である。これも平面確認のみの調査で、新建物SB 4 Aと古建物SB 4 Bの2期 (SB 3 A建物を含めば3期) からなる。

SB 4 A建物はSB 3 A建物から南に2m離れて位置する。不整形の3基の柱穴しか確認できていないが、9尺等間で復元できる。南・西の発掘区外に及ぶものである。SB 4 B建物はSB 3 C建物から4.5m南に位置する。これも4基の隅丸長方形の柱穴しか確認していないが10尺等間で復元できる。

SB 5 建物 (図版26・28・29・第86・87図)



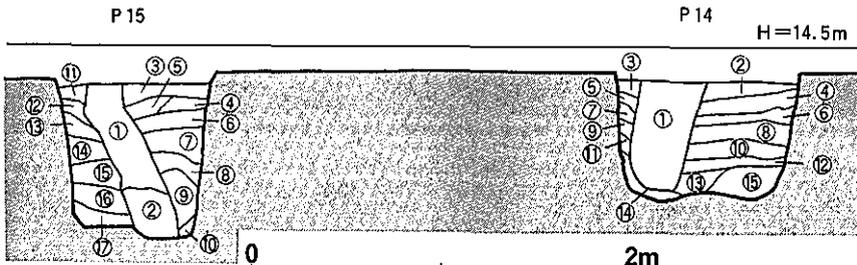
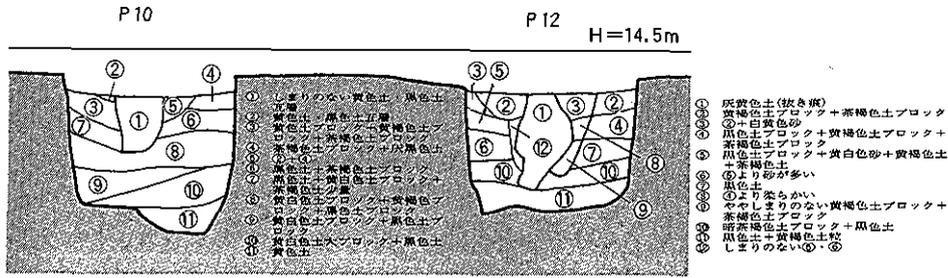
SB 1建物の北東約3m離れた位置にある3間×7間の東西棟。調査は平面確認で、桁行21m、梁行7.1mで建替痕はない。柱間距離は若干のばらつきはあるが桁行きで10尺等間、梁行8尺等間で復元できる。柱穴掘方は



第85図 96-3 トレンチ遺構配置図 (SB3・4) (1/100)



第86図 SB5 建物実測図 (1/100)



- ① 砂混じり黒褐色土(抜き痕)
- ② 灰褐色土(抜き痕)
- ③ 黄褐色土ブロック+黒色土
- ④ 白色砂
- ⑤ 黒色土+黄褐色土ブロック
- ⑥ 黒色土+黄褐色土ブロック
- ⑦ 黄褐色土+黒色土小ブロック+黄色土
- ⑧ 小ブロック
- ⑨ 黄褐色土ブロック+黄褐色土ブロック
- ⑩ 黒色土+黄褐色土小ブロック
- ⑪ 黄褐色土+少量の砂
- ⑫ 黄褐色土+黄褐色土小ブロック+黒色土
- ⑬ 黄褐色土+黄褐色土小ブロック+黄色土
- ⑭ 黄褐色土+黒色土+黄褐色土
- ⑮ 黄褐色土+黒色土+黄褐色土
- ⑯ 黄褐色土+黒色土
- ⑰ 黄褐色土+黒色土

第87図 SB5建物柱穴断面図(1/40)

隅丸方形で、桁側にやや長い傾向がある。P10とP12、P14とP15の4柱穴を半裁した。P10は平面観察で抜き痕と判断され、半裁したが、図示した部分は柱の中心からややはずれている。P12は平面観察では柱痕跡と見えたが、半裁すると、8・9・12層のようにしまりのない層が1層の周辺にあり抜き跡であることがわかる。

P14は平面観察では抜き跡が明瞭であるが、土層図でもやや斜めにしまりのない1層からそれとわかる。P15は、大きく斜めに抜き跡があり、本来直立したであろう柱の痕跡がわからない。P10・P12の土層図とも合わせ、若干曲がった部材を使用したのであろうか。

この建物の内外にはピット群が多く見られるが、規則性を持たせるにはやや難点がある。上野遺跡SB13と同じの足場穴、床張りした際の束柱などが考えられるが、性格は決めがたい。

出土遺物

(須恵器)(第88図)

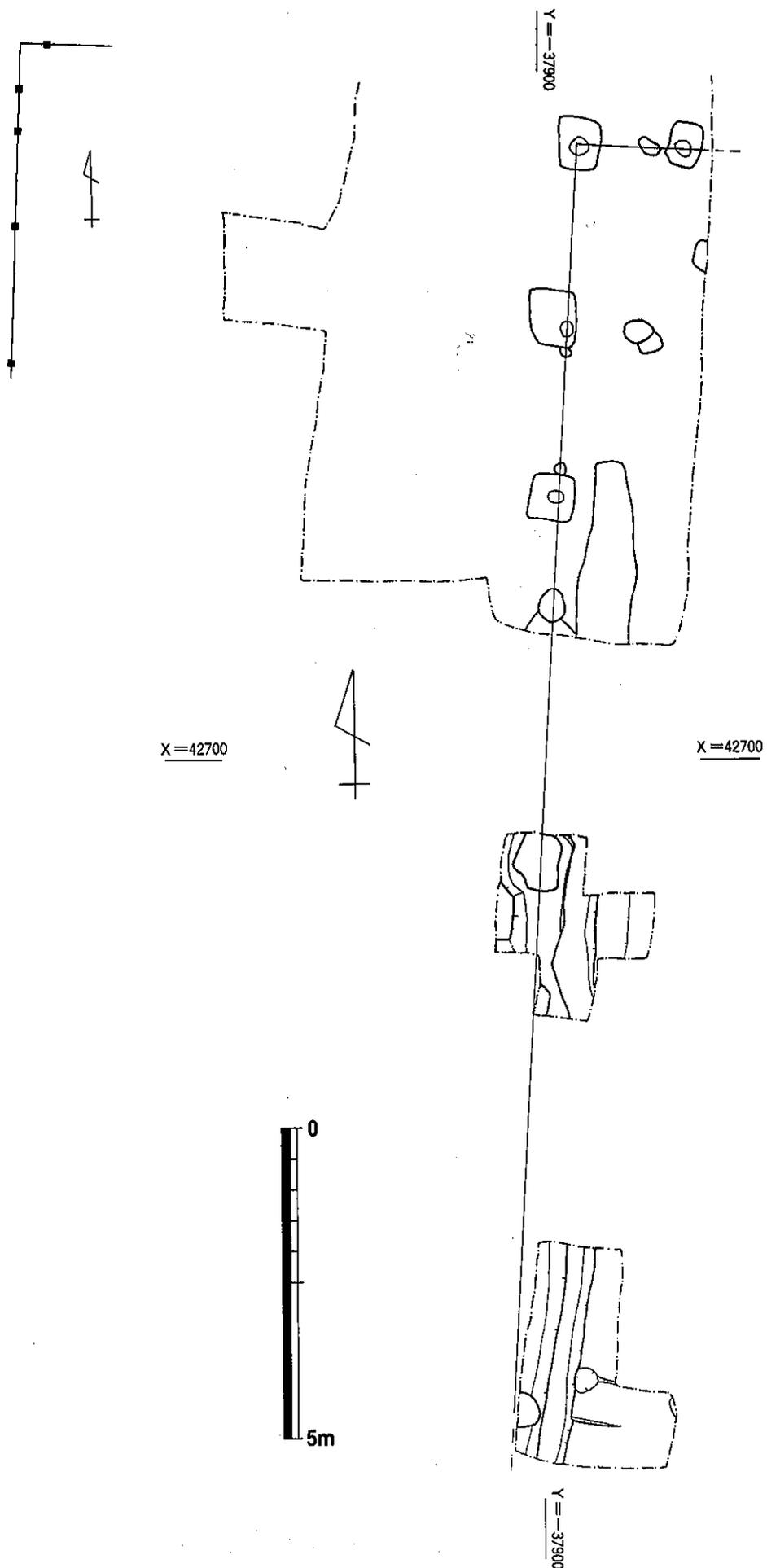
P5から出土した扁平な杯蓋の転用硯片である。口縁端部の断面は丸みを帯びた三角形である。外天上部はヘラケズリ、内面はよく擦っており、墨痕が付着する。復元口径16cm。



第88図 SB5建物出土土器実測図(1/3)

SB6建物(図版29・第89図)

SB4建物から東に約33m離れた位置での4基の柱穴を確認した。東西方向の柱間距離は1.68m、南北方向の柱間距離は3.06m・3.7mを測り、南北棟の可能性が高い。柱穴の形態は隅丸長方形が基本のようである。また、西“桁列”の南延長上にも2基の柱穴の可能性のあるものが確認されたが、狭隘なトレンチのため、推定に留めておく。柱痕跡から、柱の径は25~30cmである。また、抜き跡は見当たらない。



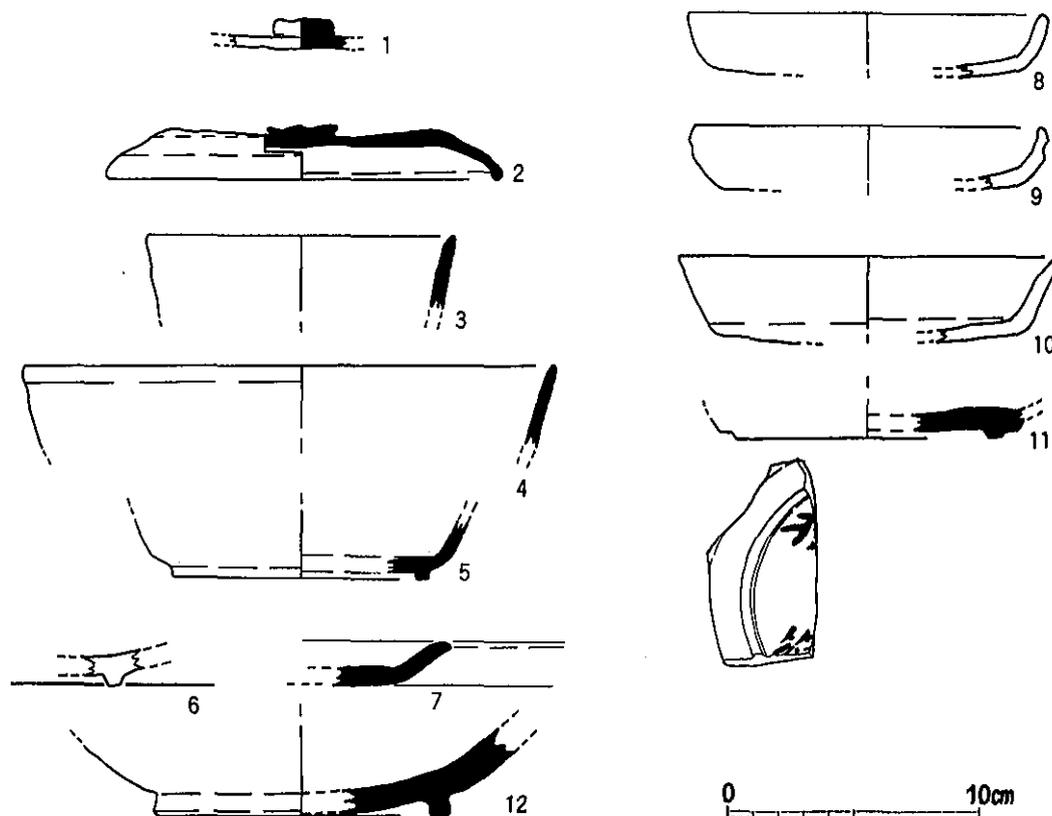
第89図 SB 6 建物実測図 (1/100)

## 6 土坑

土坑は7基まで番号を付したがその他にも存在する。また、1号土坑、5号土坑を一部掘り下げたが、5号は底まで至っていない。

### 1号土坑 (図版27)

96-3トレンチ、SB3・SB4の西側で検出。不整形のプランで、断面はオーバーハングする。SA7柵に切られる。須恵器・土師器が出土している。



第90図 SK 1・2号土坑出土土器実測図 (1/3)

### 出土遺物 (図版36・37・第90図)

#### (須恵器)

1は杯蓋のつまみ付近、径2.4cmのつまみ、内面は滑らかで、転用硯の可能性もある。2は杯蓋の転用硯で、天井部と体部の境が明瞭である。天井部はヘラケズリ、体部は回転ナデ、口縁は折り曲げているが断面は丸い。内面はよく擦っており、墨痕も残る。復元径15.6cm、器高2.2cm。3・4は杯身口縁片で2の口径は12.2cm、3は20cmに復元しているが、4はもう少し小さいものかもしれない。5は杯身底部片で低い四角高台が底部端に付く。11は底部端部よりやや内側に低い高台が付く。底部外面に2文字墨書があるが、破片のため文字の半分が失われている。上は“てへん”下は“たけかんむり”の文字と考えられ、下の文字が書き出しであろう。

#### (土師器)

6は杯身の高台部分。胎土は精製され、焼成も良い。8は杯で、内外面ともナデ、9の底部外面

は手持ちヘラケズリ、10は体部と底部に角を持ち底部は回転ヘラ切りである。

### 2号土坑

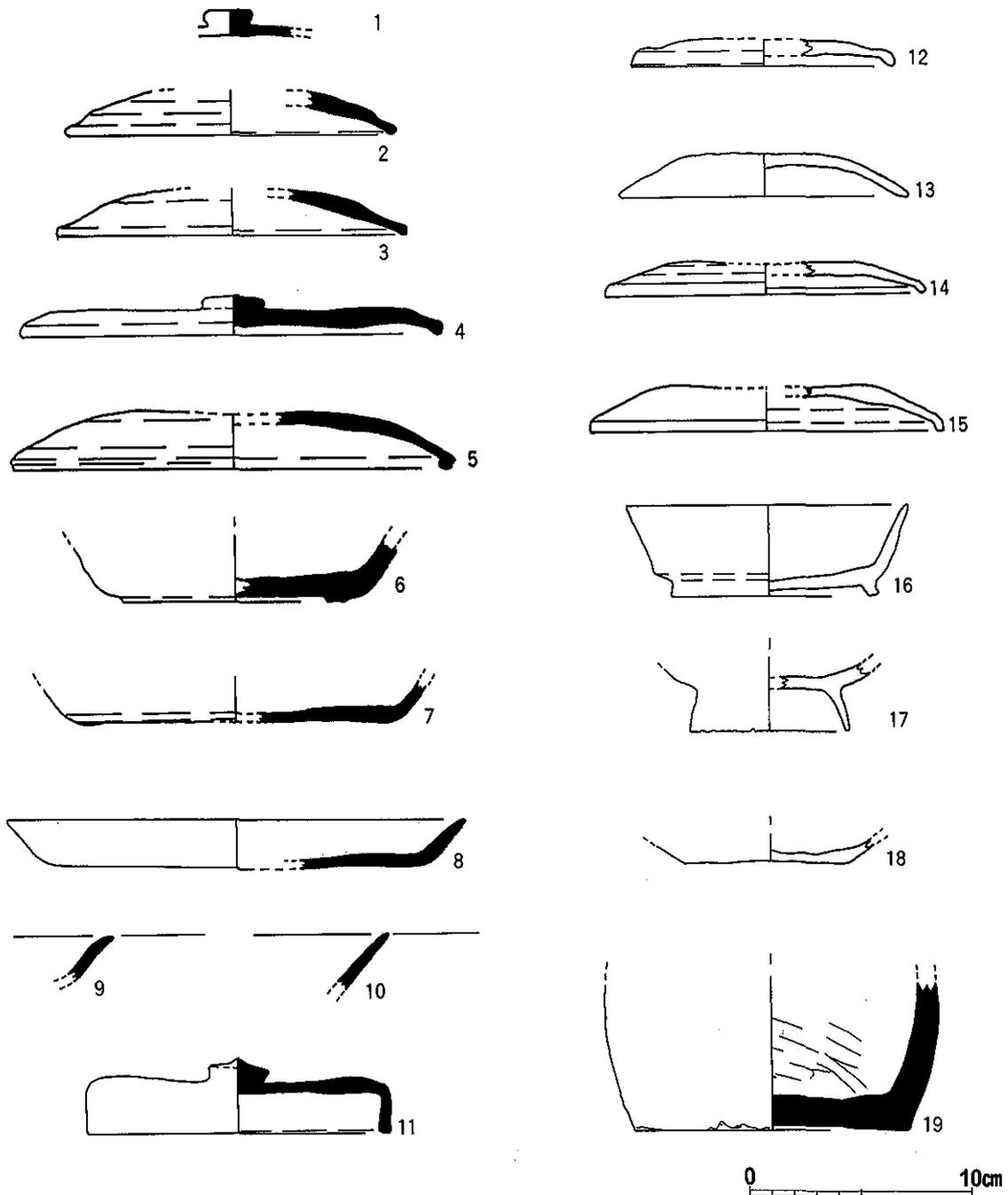
96-3トレンチの北東端に位置する。SA7に切られる。南北に長い不整形である。遺構確認面から須恵器1点が出土している。

出土遺物（図版37・第90図）

（須恵器）12は甕高台部分の破片で、転用硯である。高台は内湾し高い。

### 3号土坑

1号土坑と2号土坑の間に位置する。小ぶりで不整なプランを確認した。



第91図 SK 5号土坑出土土器実測図①（1/3）

#### 4号土坑

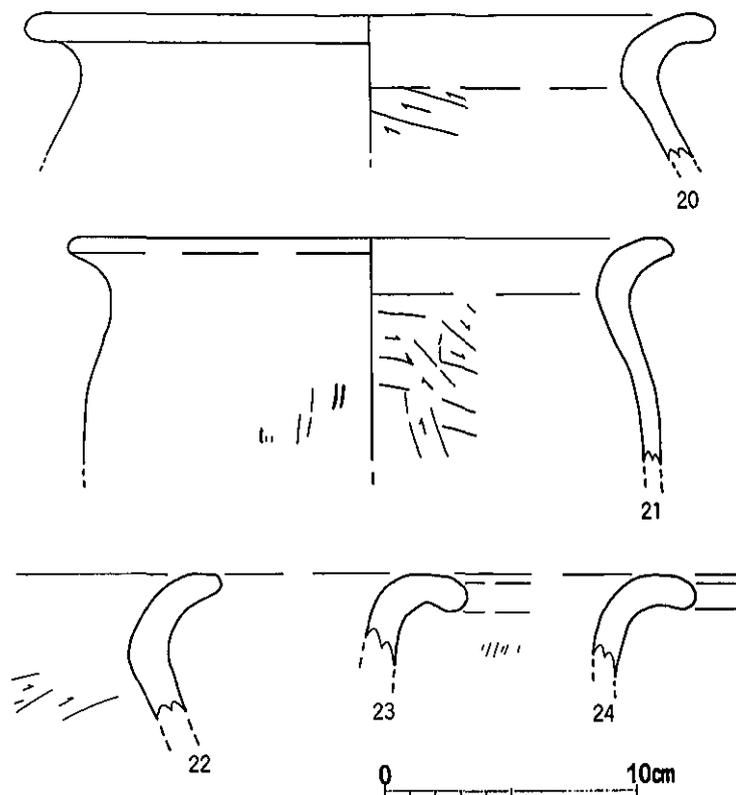
96-3 トレンチの南東端に一部プランを確認した。大半は発掘区外である。

#### 5号土坑

96-12 トレンチの南端で検出。トレンチ幅の3 mより大きく全容は不明。当初攪乱か遺構かわからないほど埋土は汚れていた。遺構確認面から土器片が比較的多く見えていたので、性格・時期決定に参考となる遺物を採取する目的で徐々に掘り下げたが、床面まで達していない。

出土遺物(図版37・第91・92図)

(須恵器) 1~4は杯蓋。1のつまみ径は2.2cm、内面はあまり擦っていないが、墨痕があり転用硯である。2の口縁は内側に稜がつくが端部断面は丸い復元径15cm。3の口縁端部もかなり丸みを帯びる。天井部はヘラケズリで、内面は擦っており墨痕も付着する転用硯である。復元口径は15.8cm。4は焼成の悪い大型の杯蓋で、扁平な疑宝珠のつまみがつく。天井部はヘラケズリ、口縁部は稜がつくが鈍い端部である。外面の口縁端部から0.5~2.5cmの範囲は重ね焼きのとき生じたか黒灰色。口径は18.8cm。5も大型の杯蓋で、焼成はあまり良くない。天井部はヘラケズリ、口縁端部の断面



第92図 SK 5号土坑出土土器実測図②(1/3)

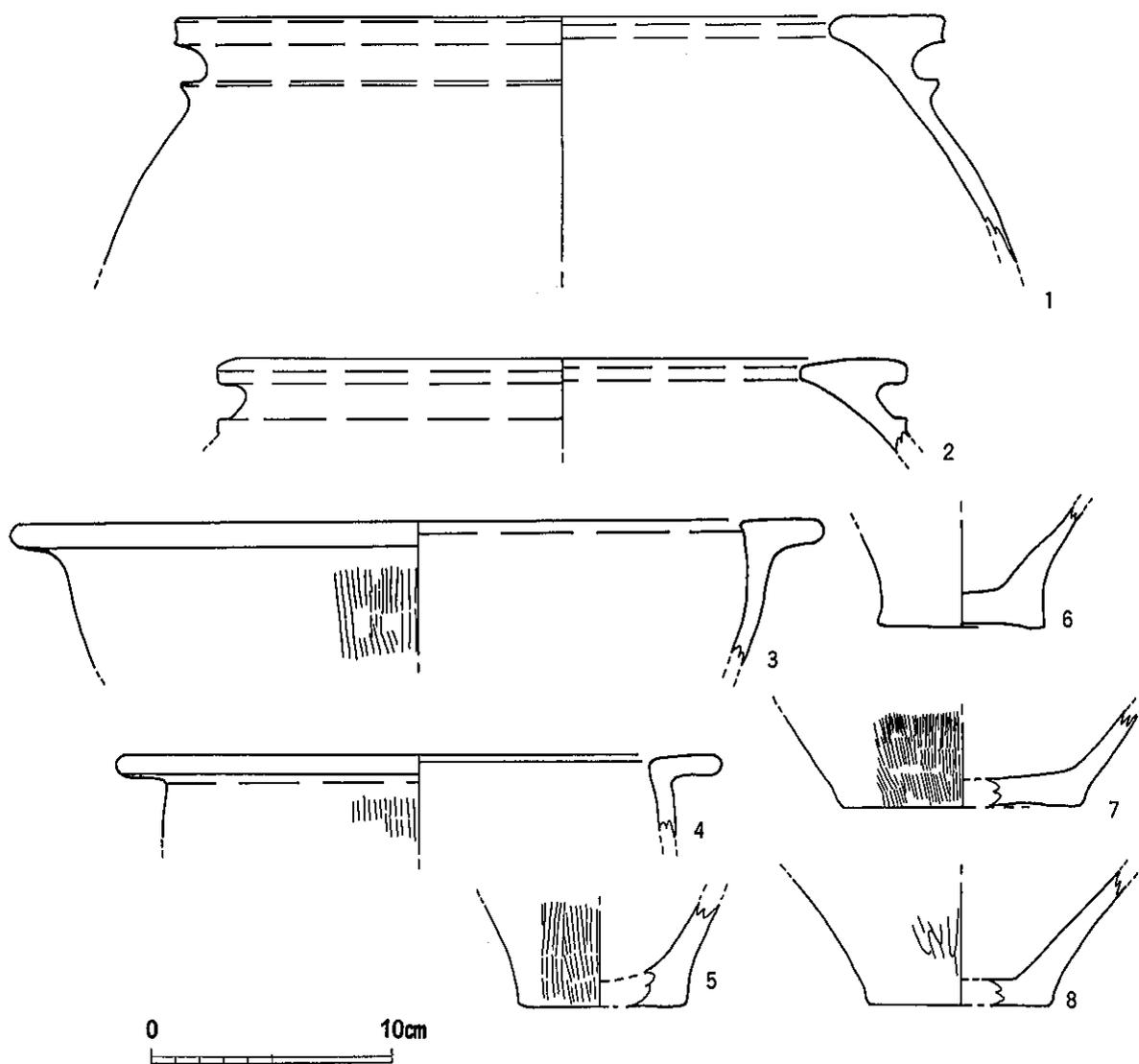
は四角形に近い口径19.7cm。6は低い高台の杯身。焼成はあまり良くない。7は皿として図示しているが、蓋の可能性もある。底部外面はヘラケズリで、口縁に近い部分は回転ナデである。内面はよく擦っており、墨痕も付着する転用硯である8は口径20.5cmの大型の皿。底部外面はヘラ切り未調整の部分が認められる。内面に不揃いな斜格子の陰影がある。9・10は杯身の口縁部で、9は外反し、10はまっすぐ延び口縁端に達する。11は壺の蓋で宝珠形つまみが付く。天井部はヘラケズリ、口縁付近は回転ナデ、端部は徐々に肥厚し内側に傾斜する。内面はよく擦っており墨痕が付着しており、転用硯である。19は壺の底部で明茶褐色、外面は丁寧なナデである。

(土師器) 13は口縁端を折り曲げない形態の杯蓋。天井部につまみ痕がある。天井部外面はヘラケズリ、他はヨコナデ。口径13cm。12・14・15は須恵器と同じ整形の杯蓋で口縁端部を折り曲げ、内面に稜をつくる。天井部はヘラケズリ。口径は12で11.9cm、14で14.6cm、15は16cm。16は極めて精製された胎土と堅緻に焼成された杯身。表面は光沢がある丁寧な回転ヘラミガキで、わずかに底部

外面に砂粒の移動が見られる。口縁はやや外開き気味で、体部と底部の境界は明瞭な稜をつくる。やや細い高台は踏ん張り気味であるが、体部中心からはずれている。本遺跡出土遺物で秀逸のひとつといえよう。17は細く高い高台のつく椀の底部。18は堅緻な焼成の皿底部。低部外面は回転ヘラ切り未調整で、板目がつく。20~24は煮炊き具甕の口縁部、20・21・22の内部は口縁下までヘラケズリで、口縁は肥厚し外反する。23・24は外反がきつい。20の口径は27.4cm、21は23.3cmである。

### 6号土坑

96-10トレンチのほぼ中央部で、方形プランの一角を確認した。大半は発掘区外であろう。



第93図 SK 6号出土土器実測図 (1/3)

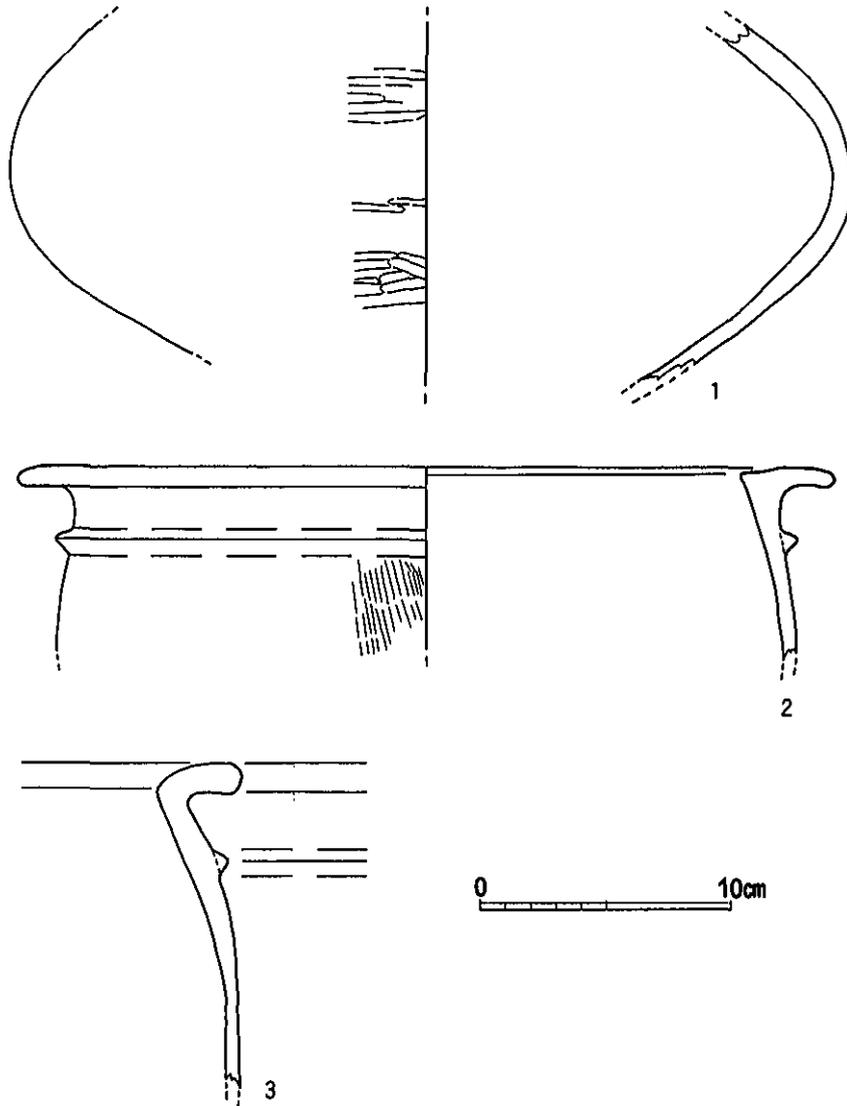
### 出土遺物 (図版38・第93図)

(弥生土器) 1・2は小型の甕棺墓に使用される丸みを帯びた甕の口縁部。口縁は内側に張り出し、外面口縁下には三角凸帯を貼り付ける。口径は1が41.6cm、2は38cm。2は鉢の口縁部。口縁の内側への発達は見られない。4は日常容器の甕口縁で逆「L」字形口縁。5~8は甕底部。弥生中期

後半の資料である。

### 7号土坑

96-13トレンチ、SC3に隣接して確認した。遺構確認面時に弥生土器が出土した。



第94図 SK7号土坑出土土器実測図(1/3)

### 出土遺物(図版38・第94図)

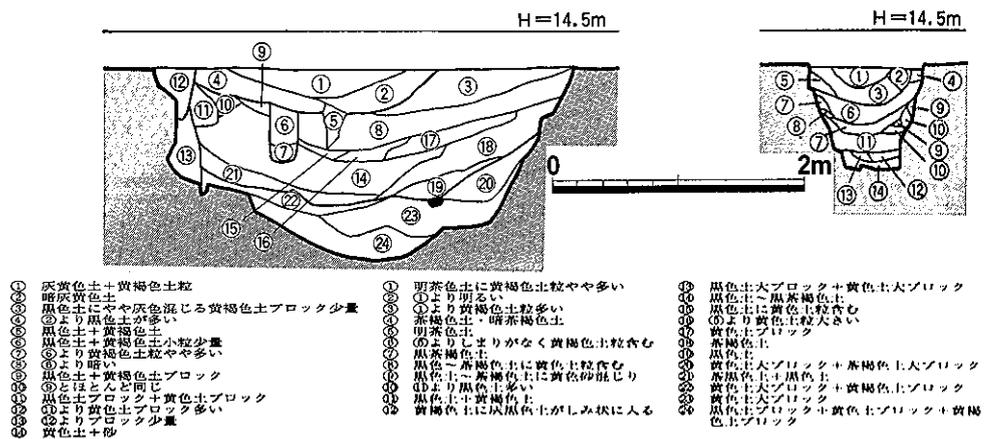
(弥生土器) 1は壺の胴部。外面はヘラミガキで下部は丹塗り痕がわずかに残る。2は逆「L」字型口縁の日常用器の甕で、口縁内面の稜はシャープ。外面口縁下にシャープな三角凸帯一条を貼りつける。外面には煤が付着する。3も大型の日常用器の甕で、口縁は逆「L」字型からやや立ちあがり気味で、内面は丸みを持った断面である。口縁下には三角凸帯一条を貼りつける。2の胎土が1mm前後の砂粒しか含まないのに対し3は5mmを超える砂粒を含み、全体的に粗い胎土である。

## 7 区画溝

馬屋元遺跡では県教委の調査成果から外側に幅の広い溝（以下「区画大溝」と呼ぶ）とその内側3m前後の間隔を空けて幅の狭い溝（以下「区画小溝区」と呼ぶ）で区画されていると考えられ、遺跡の範囲確認はこの溝の確認と同じこととなる。調査は県教委の成果と現在の畦畔から150m～175m四方と判断でき、推定した方形区画の3辺にトレンチを設定し、その成果からコーナー部3ヶ所を確認するためのトレンチを設定した。この項では、北辺東から反時計回りにトレンチごとの説明をする。

### 97-1 トレンチ（図版29・32・第95図）

97-1 トレンチでは東西方向の区画小溝を約33m検出した。トレンチ東側では溝が途切れているが、その東方13mの県教委調査地点では区画小溝の延長が見つかっており、



第95図 97-1 トレンチ区画大溝土層図（1/60）

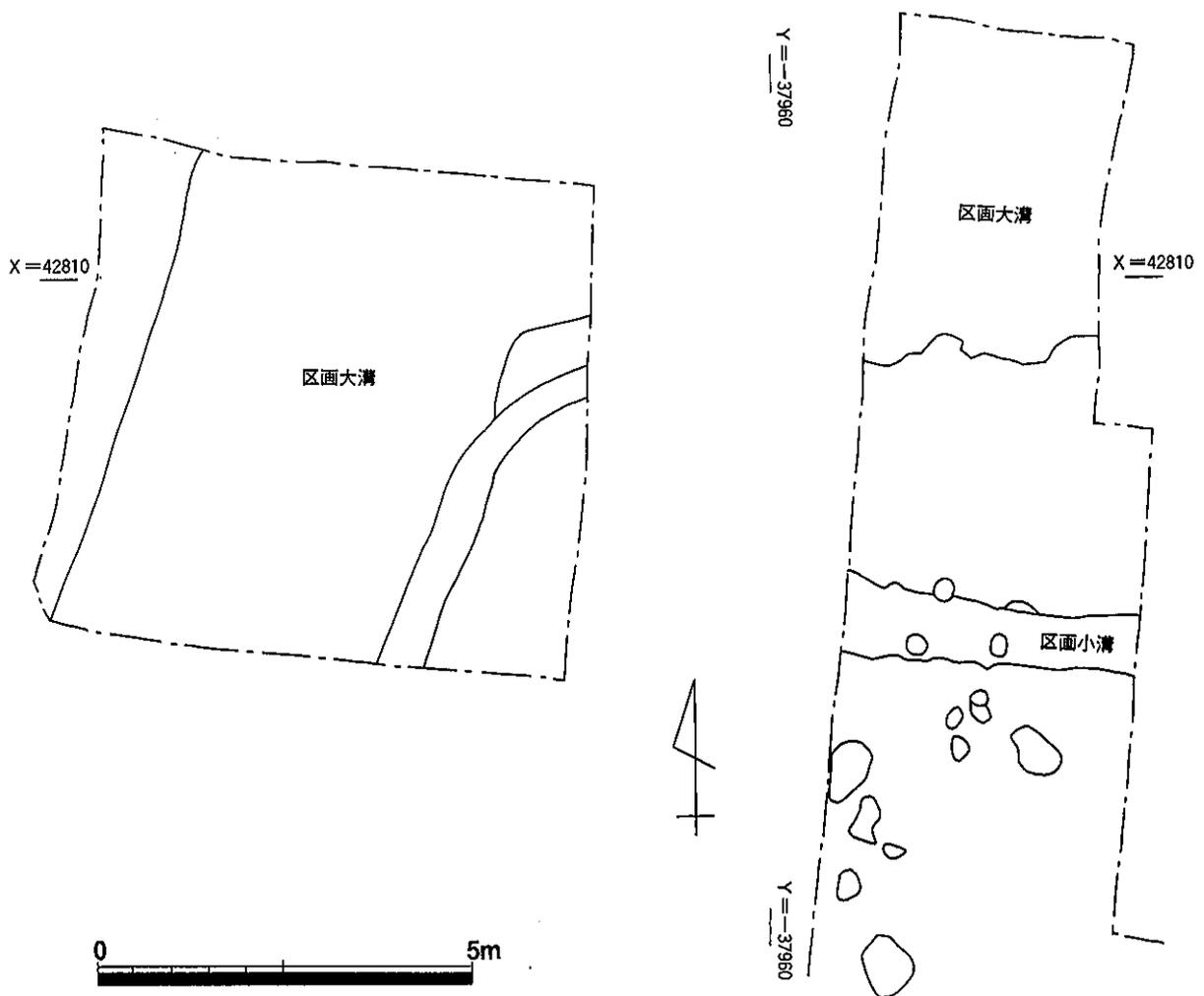
97-1 トレンチと県教委調査地点の間11m範囲以内の「陸橋」が想定される。このトレンチの西方では長さ5.5mの範囲は南方向（区画の内側）に約6mと大きく張り出し、北方向にはわずかに張り出しが確認された。区画溝小溝の土層観察では9・10・11層にブロックがあることからこの上位に1時期が考えられる。断面形は逆台形、残存深さは0.85mである。一方、張り出し部の断面観察では、6・7層のピットの上面、20・22・23のブロックを含む層の上面で確実に1時期が考えられる。また、平面観察でも区画小溝との前後関係は不明であったが、断面観察でも不明で、少なくとも区画小溝がこの張り出し部より新しいものでないことは間違いない。

### 96-15 トレンチ（図版29・第86図）

96-15 トレンチはS B 5 建物の規模を確認するためのトレンチであるが、東西棟であるS B 5 建物の北側に芯々距離で1.8m離れて平行に延びる区画小溝約32mを確認した。調査は平面確認のみで、調査区東半は溝の南肩部分だけの確認である。幅は0.7～1mほどで、調査区の東端は南側（区画の内側）に張り出し部がある。前述のように、S B 5 建物に近接かつ平行に延びることから雨落ち溝の機能を兼ねていた可能性がある。

### 96-1 トレンチ（第96図）

このトレンチは南北方向に設定し、幅は4mである。区画小溝と、区画大溝の南肩を確認した。区画小溝は東西方向に幅0.8～1mの幅で確認され、東は96-15 トレンチで確認したのものと接続するであろう。この区画小溝の北肩から北に約3mの間隔を空け平行に延びる溝を確認した。この溝の北肩は現在農道のため調査できず、幅はわからないが、区画小溝との関係から県教委調査地点で確認された区画大溝S D30の延長とみて間違いない。



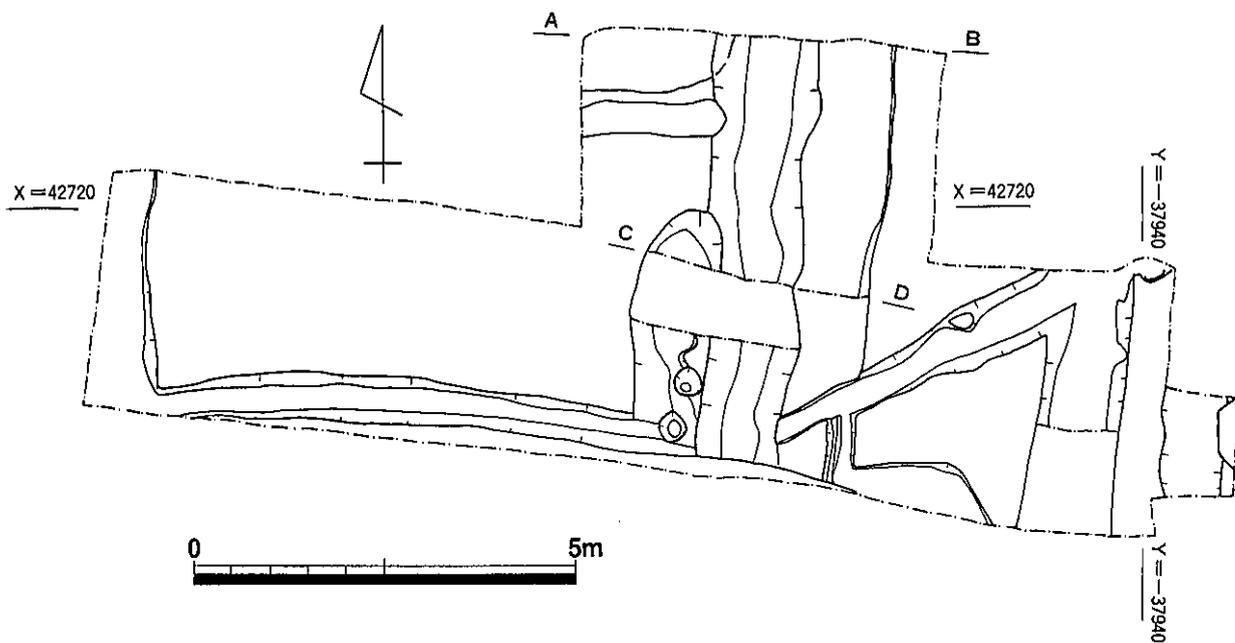
第96図 96-1・6 トレンチ実測図（区画大溝北西部）1/100

96-6 トレンチ（第96図）

区画の北西コーナーを確認するために設定した。その結果幅4.3mほどの南北方向に延びる大溝と、その東肩を切るように幅40~50cmの溝状の遺構を検出した。幅4.3mのものは96-1 トレンチの大溝とは直角にならず鈍角に接続するものでこのトレンチ付近が馬屋元遺跡の北西コーナーであろう。またこの溝を切る溝遺構は位置的に少なくとも96-1 トレンチで検出した区画小溝ではない。さらに96-1 トレンチと本トレンチの間は3.5mで、恐らくこの間で区画小溝は南に曲がるのが考えられる。

96-2 トレンチ（図版30・第97・98図）

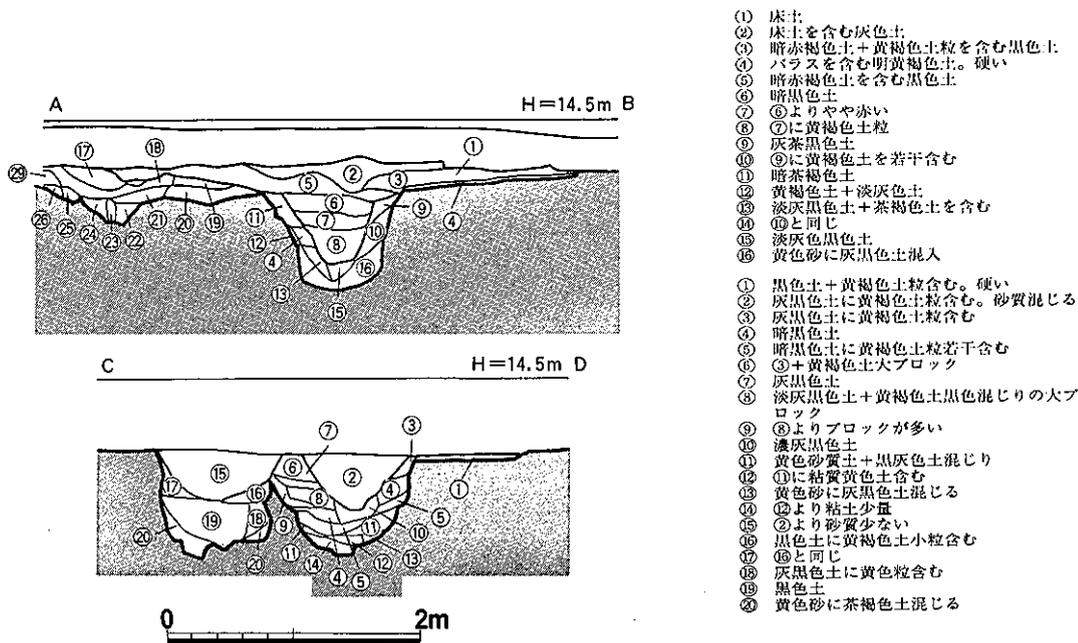
畦畔の状況から馬屋元遺跡の西辺中央と見られる位置に設定したトレンチで96-6 トレンチとの距離は約80m、96-5 トレンチまでの距離も約80mである。トレンチ内では比較的新しい溝によって古代遺構が切られていたが南北に延びる2条の溝とそれに直交する溝1条を確認した。溝の一部を掘り下げたほかは平面確認に留まっている。



第97図 96-2 トレンチ平面図 (区画大溝西辺部) (1/100)

南北に延びる2条の溝のうち西側の溝は、調査区南端では幅2mほどを測るがトレンチ中ほどで幅を半分に狭める。また、狭まった地点から北に1mの地点で幅50cmの浅いS D 2溝と直交する。

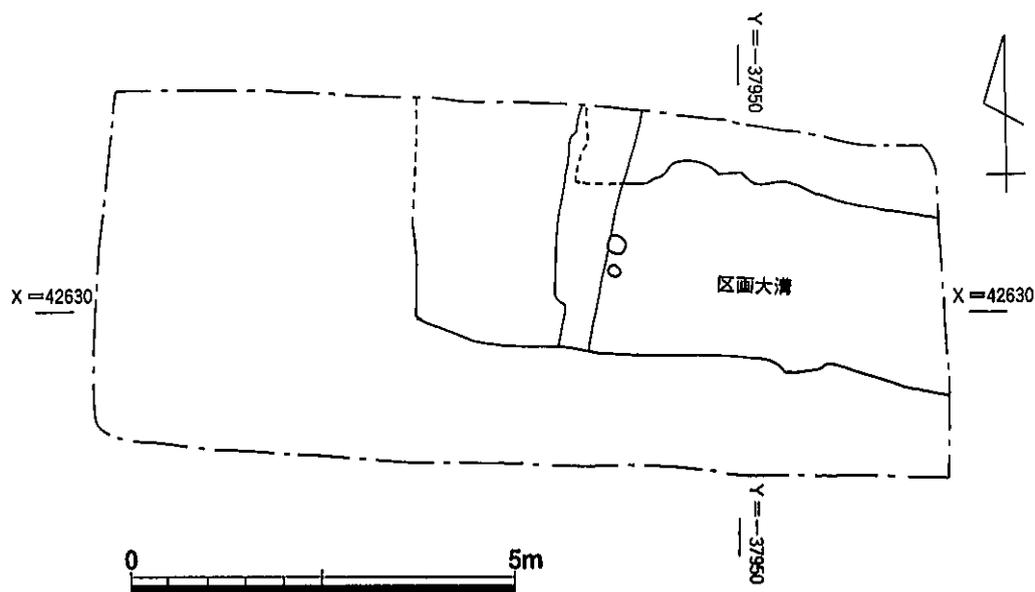
幅が狭まっている部分A-Bの断面土層観察では、17・18・19層以下は弥生時代の土坑のようで、弥生土器片が出土している。溝は6・7・8層で一時期、以下でもう一時期が考えられる。また薄い4層は硬くしまっており、溝に付属する犬走りのようなものか。幅の広いC-Dでは、A-Bと同様に1層に薄く硬い犬走りのような掘り込みが見られる。また、平面観察では幅が広がるとみていたが、この土層断面では2条の溝であることがわかる。内側の2層と外側の15層はほとんど同じ質



第98図 96-2 トレンチ区画大溝土層図 (1/60)

の灰黒色度に黄褐色土粒を含むもので、砂の含有量にやや違いがある程度である。したがって前後関係はつかめていない。内側の方がより分層できたのでその差はある。これらの溝は区画大溝と考えられる。また、直交するSD2溝は検出位置が上野遺跡の東門に対峙することや、区画大溝が狭くなっていることから、馬屋元遺跡の西門に至る進入路の側溝の可能性も考えられる。

もう一方の内側の溝は幅1.3~1.1mで、南北に延びている。断面は逆台形で深さ70cmほどである。



第99図 96-5 トレンチ (区画大溝西南コーナー部) (1/100)

#### 96-5 トレンチ (図版31・第99図)

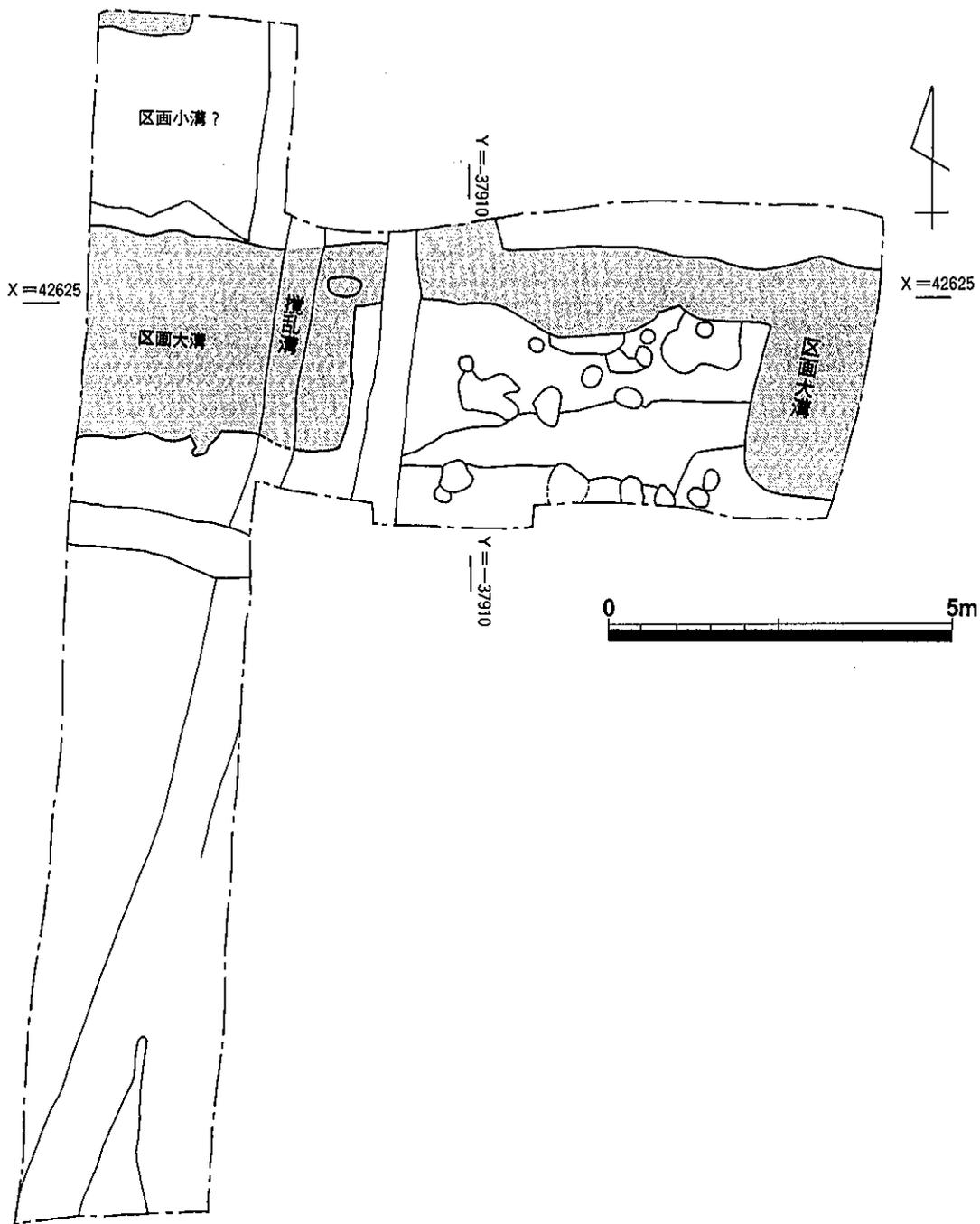
区画大溝の南西隅と推定した地点である。推定地よりやや北側で溝を確認し、トレンチを拡張した。調査は平面確認のみである。幅約2mの区画大溝が東西方向から南北方向に直角より鈍角気味に屈折する部分を検出した。屈折部付近には幅80~30cmの白黄色粘土ブロックが帯状に検出されたが、性格はわからない。

#### 96-8 トレンチ (図版31・第100図)

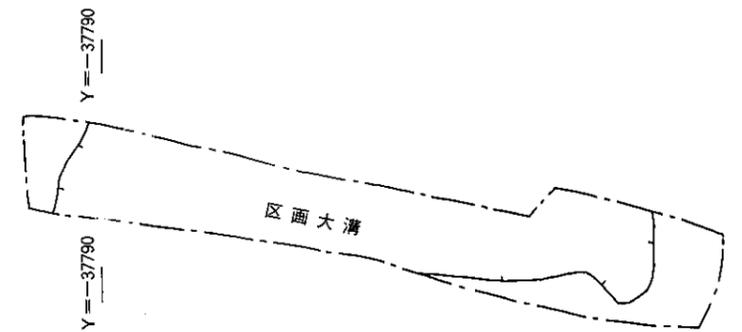
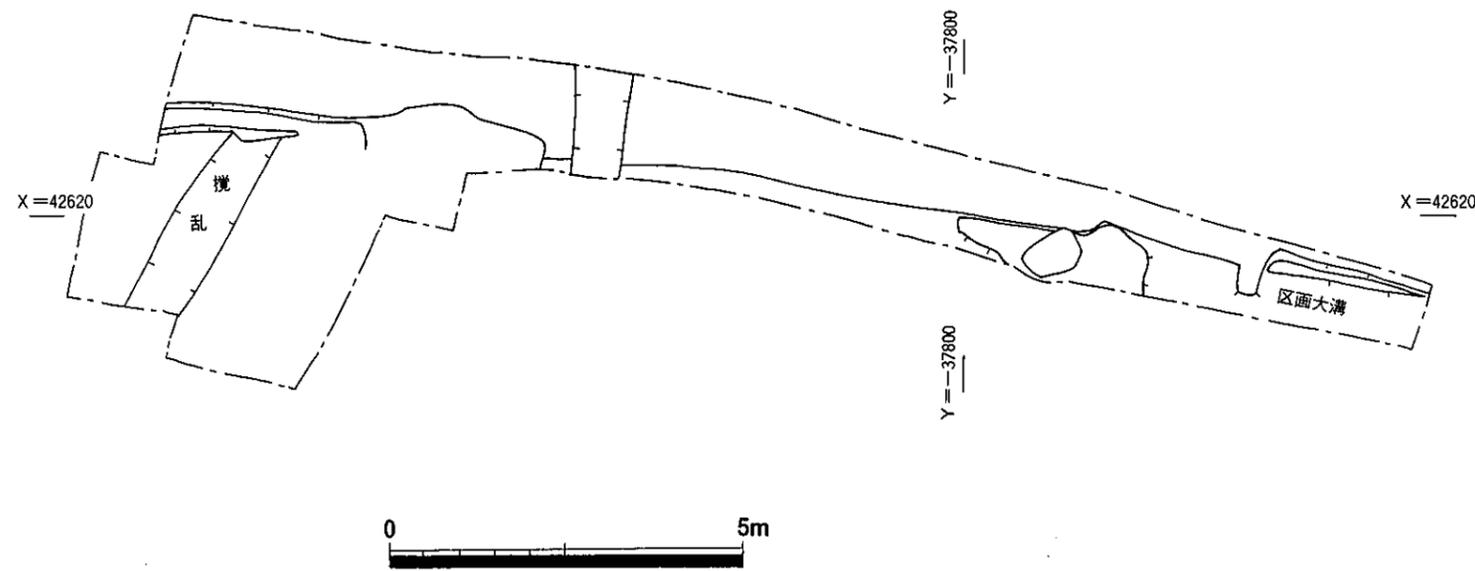
96-5 トレンチから東に約20mの地点に設定した。調査は平面確認のみである。区画大溝の延長である。幅3mほどの溝は、トレンチの西から約4mの地点で幅を1mに狭め、6m東進し、また3mの幅となる。この状況は96-2 トレンチと似ており、進入路の側溝を想定して精査したがわからなかった。

#### 96-9 トレンチ (図版32・第101図)

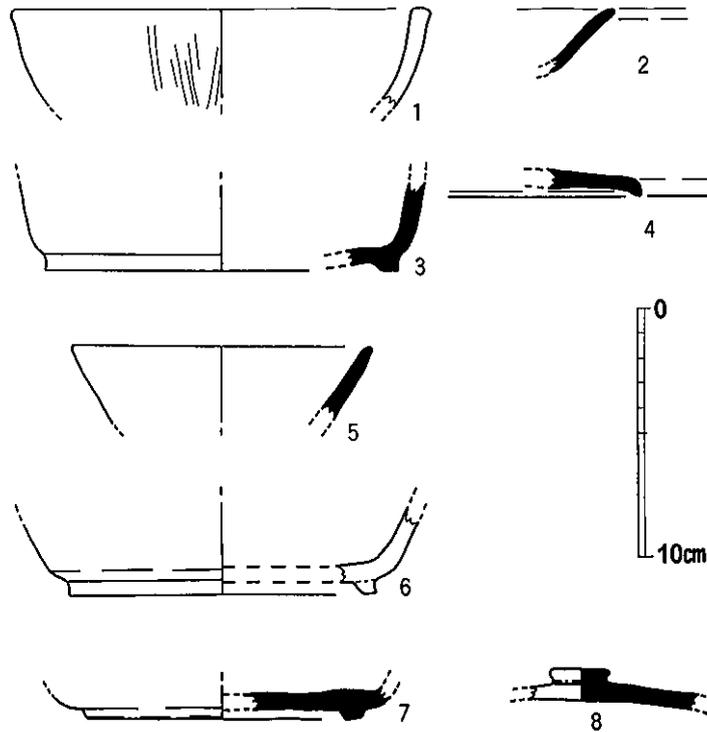
県教委の調査で確認された区画大溝の延長部で、区画大溝の東南コーナーを検出する目的で設定したが、作物保護のため狭隘なトレンチとなった。96-5 トレンチで検出した区画大溝の屈曲部から175mの地点で、東西に延びる区画大溝の南肩部とそれが北に屈曲する部分を検出することができた。非常に狭隘なトレンチなので、溝の幅など規模はわからない。



第100図 96-8 トレンチ平面図 (区画大溝南辺部) (1/100)



第101図 96-9 トレンチ平面図 (区画大溝南東コーナー部) 1/100



第102図 区画小溝出土遺物実測図 (1/3)

#### 出土遺物

区画小溝 (図版38・第102図)

(弥生土器)

1は96-2トレンチで出土。碗の口縁部で精製された胎土。

(土師器)

6は97-1トレンチ出土の杯身底部。底径12.2cm。外面の底部と体部の境はヘラ状のもので調整している。

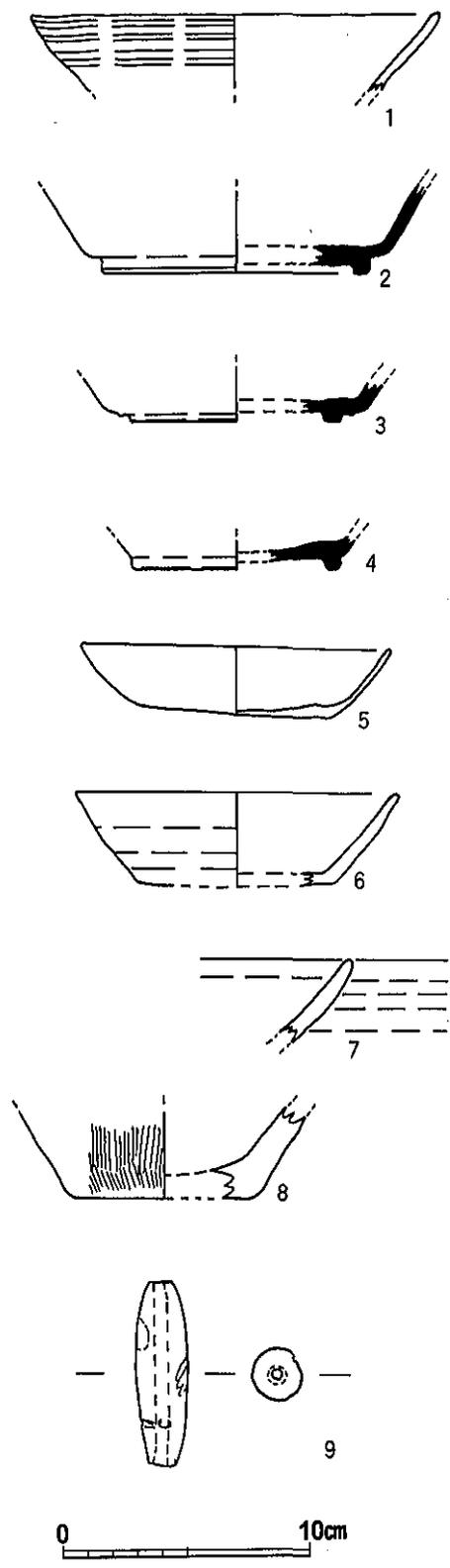
(須恵器)

2は96-2トレンチで出土。杯身の口縁部で器壁は薄い。口径は14.6cm前後か。3・4・5は96-15トレンチで出土。3は杯身の底部で、高台は底部端に貼りつけ、体部は外に開かず立ち上る。底径14cm。4は杯蓋の口縁部。焼成は良くなく、口縁は鳥嘴状断面である。5は小口径の杯身の口縁部。高台が底部端部につく形態か。7・8は小溝から張り出したSK8の上面から出土。7は杯身底部で、低い高台が貼りつく。8は杯身のつまみ部分。つまみ径は3.4cm、内面は擦っており、転用硯である。

区画大溝 (図版38・第103図)

(土師器)

1は96-2トレンチで出土の杯身口縁部。内外面ともに回転ナデであるが、外面は凹凸が目立つ。5・6・7は96-9トレンチ上面で出土。5は皿といったほうが良いだろう。器壁は風化が進んでいるが、底部外面は回転ヘラ切りのようなものである。また、光沢のある煤の付着が内外面とも見られ、灯明皿として使用されたものであろう。口径12.4cm、底径7.7cm、器高2.8cmを測る。6・7は杯身



の口縁部。体部は大きく開き、高台はつかないもの。6の口径は12.8cm、底径8cm、器高3.9cmを測り、7もそれに近いものであろう。

(須恵器)

2・3・4は96-2トレンチ出土の杯身底部。2の高台は下部が丸みを帯び広くなる。底部は回転ヘラケズリで、内面には、焼成前に高台を重ねた痕跡が残る。極めて堅緻な焼成。底径10.6cm。3は低い高台で貼りつけ後の調整が不十分。焼成は普通。底径8.4cm。4の高台はやや高いが焼成は良くない。底面外部は回転ヘラケズリ。内面はよく擦っているが、焼成が良くなく墨痕もないことから転用硯かどうかはわからない。

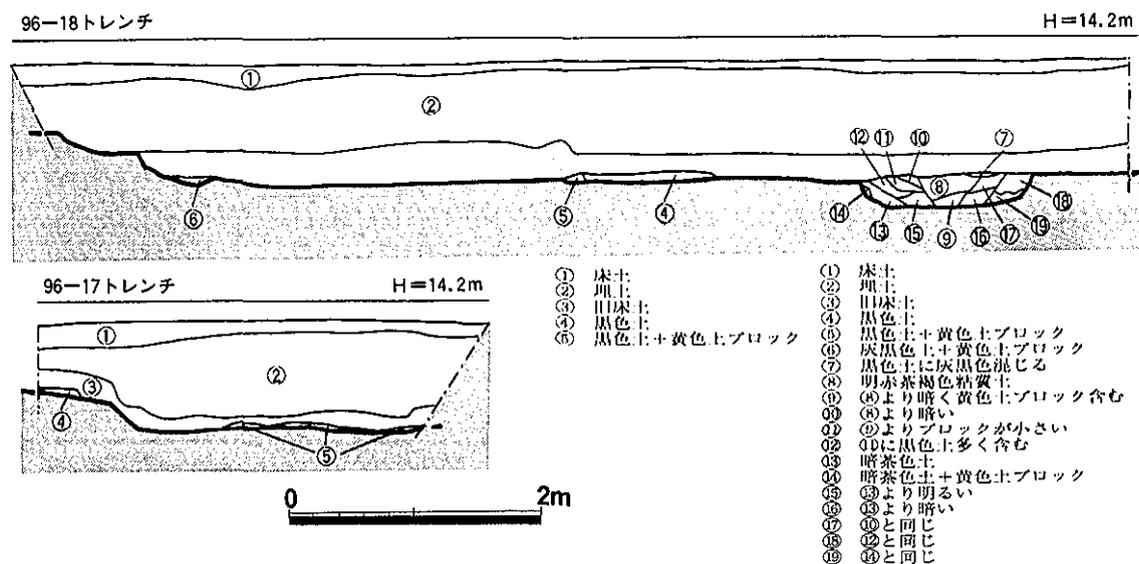
(その他) 8は96-2トレンチの土坑から出土した弥生土器甕の底部。9は96-5トレンチ遺構確認面から出土した土錘で径2.1cm、長さ7.5cmを測る。

第103図 区画大溝出土土器実測図 (1/3)

## V その他の地区調査の概要

### 1 上野遺跡・馬屋元遺跡の中間地・官道推定地の調査

上野遺跡と馬屋元遺跡の区画溝の間は、上野遺跡の主軸「真北」に対し馬屋元遺跡の主軸が東に5°前後であることから北側で約55m、南側で約42m、長さ約170mの台形状を呈する主軸の緩衝地帯ともいえる畦畔がある。また、この部分の水田は周囲より少し低くなっていることや上野遺跡の東出入口の状況から道路の存在が推定されるので、2箇所幅1mほどのトレンチを設定した。調査地には現在ヒューム管が埋設されている部分があるためその部分は避けてトレンチを設定している。



第104図 96-17・18トレンチ土層図 (1/60)

#### 96-17トレンチ (第104図)

長さ3mほどのトレンチである、東側に階段状に地山整形が確認されたが、埋土はかなり汚れており大正期に行われた耕地整理の際の埋め土である。4層に黒色土、5層に黒色土+黄色土ブロックがわずかに確認され、少なくとも25cmほどの段差があったことになる。

#### 96-18トレンチ (第104図)

長さ9mほどのトレンチで、96-17トレンチの約5m南に設定した。これも東側に階段状の地山整形があるが、埋土はかなり汚れており大正期に行われた耕地整理の際の埋め土である。6層で灰黒色土+黄色土ブロックがわずかに確認でき、整地面であることがわかる。階段状遺構の最下部から3.2m西の位置にも黒色土層・黒色土+黄色土ブロック層が確認できる。階段状遺構の最下部から5.5m西の位置から幅1.3m、深さ25cmほどの浅い溝が確認できる。この溝は1度幅を狭めて掘られており階段状遺構の最下部からこの溝の中心の距離は6.3mである。

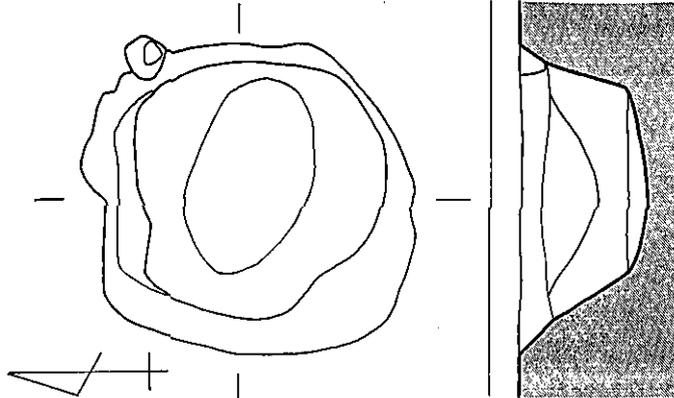
## 2 馬屋元遺跡北方の確認調査（図版39・第106図）

96年9月に行った馬屋元遺跡の北方での確認調査の結果を報告する。この地点の東側は福岡県教委が実施した「馬屋元遺跡5地点」で、溝で半町規模の区画が考えられている部分である。

調査は、これも平面のみの調査であるが、遺構確認時に遺物の露出があった土坑1基を全掘した。また、県教委の調査で半町規模を区画する幅1ほどの溝SD10Aは、区画の東南コーナーから16.5mの地点から24.5mの地点まで確認し、さらに西側に延びる。

### 土坑（図版39・第105図）

確認調査区の北端で確認した。一辺2.5mほどの隅丸方形プランで、深さ1mほどである。東西方向の断面は逆台形、南北方向は丸みのある断面形である。掘上後、底面には水が溜まったが、井戸と考えるには、あまりにも浅い。



### 出土遺物（図版40・第107・108図） （土師器）

5～12は杯身。5の底部は手持ちヘラケズリ。体部外面に「中」の墨書がある。口径16.4cm。6・7・9・10も底部は手持ちヘラケズリで6の体部は緩やかに10は大きく蛇行して口縁に至る。復元口径は6が15.8cm、7が16cm。8・11・12の調整はわからない。13～16は煮炊き具の甕口縁。いずれも内面は口縁下までヘラケズリで、15の口縁は肥厚するが、他はそれほどでもない。16の口縁は直線的に稜をつけて外反する。復元口径は13が25.6cm、14は27.6cm、15は25.6cmである。17と18は小型の甕底部。内面調整はヘラケズリ、外面はハケメで、底部は手持ちヘラケズリである。20は甕。外面はハケメ調整、内面は口縁下までヘラケズリで器壁の厚さの変化は滑らかである。口径22.9cm、底径14.9cm、器高27.4cmを測る。

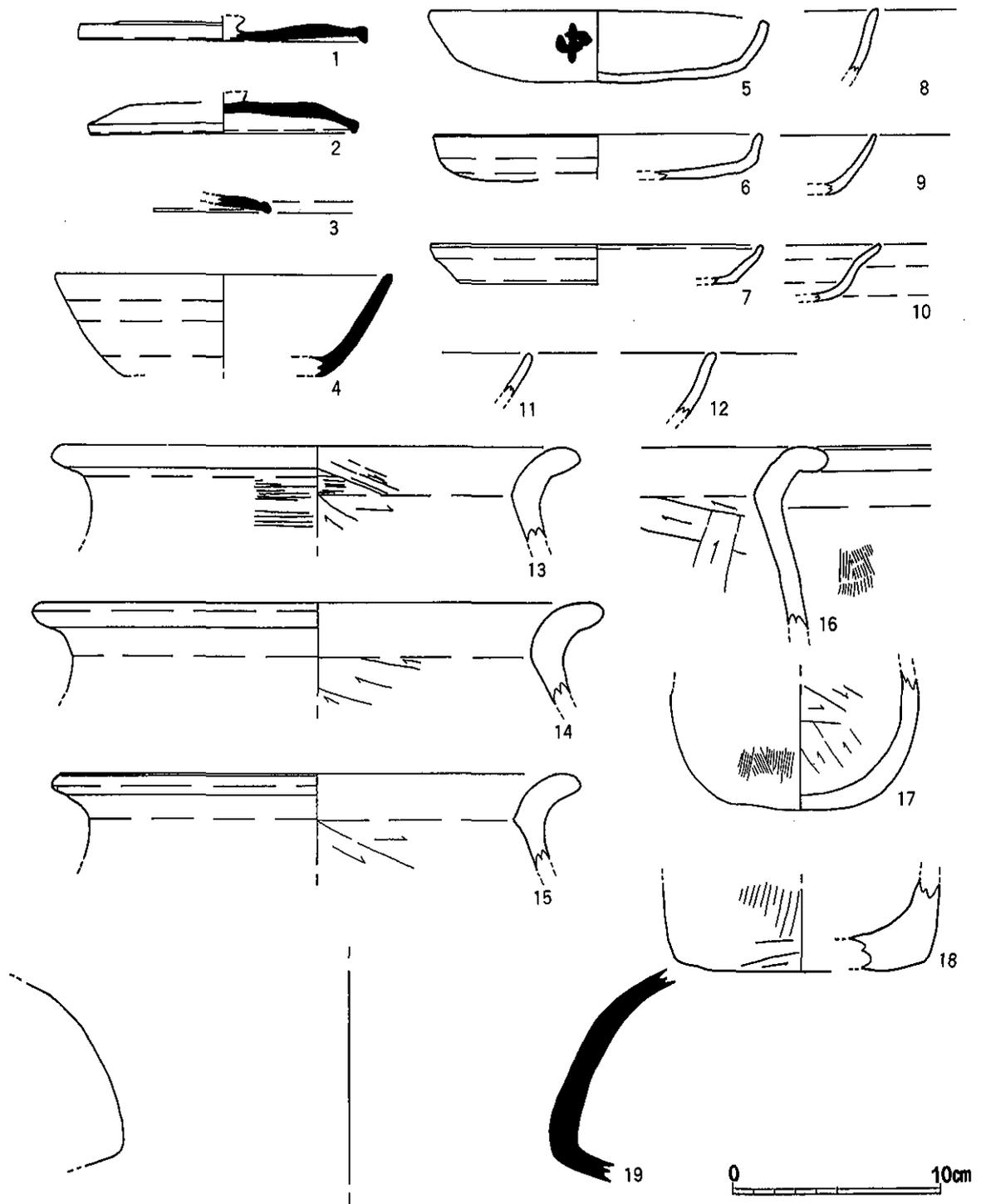
### （須恵器）

1・2・3は杯蓋。1は歪んでいるが、扁平な形状のものである。口縁断面は三角で、天井部は回転ヘラケズリ。内面はよく擦っており、墨痕が認められ、転用硯である。復元口径14cm。2は鳥嘴状の口縁断面で、体部と天井部の境が明瞭。天井部は回転ヘラケズリ。内面は光沢があるほどよく擦っており転用硯である。復元口径13cm。3の口縁部は内面に稜がつくもののほとんど丸い。4は高い体部の杯身。焼成はよくなく土師器に近い焼成。復元口径16.2cm。19は大甕の頸部片。堅緻な焼成である。

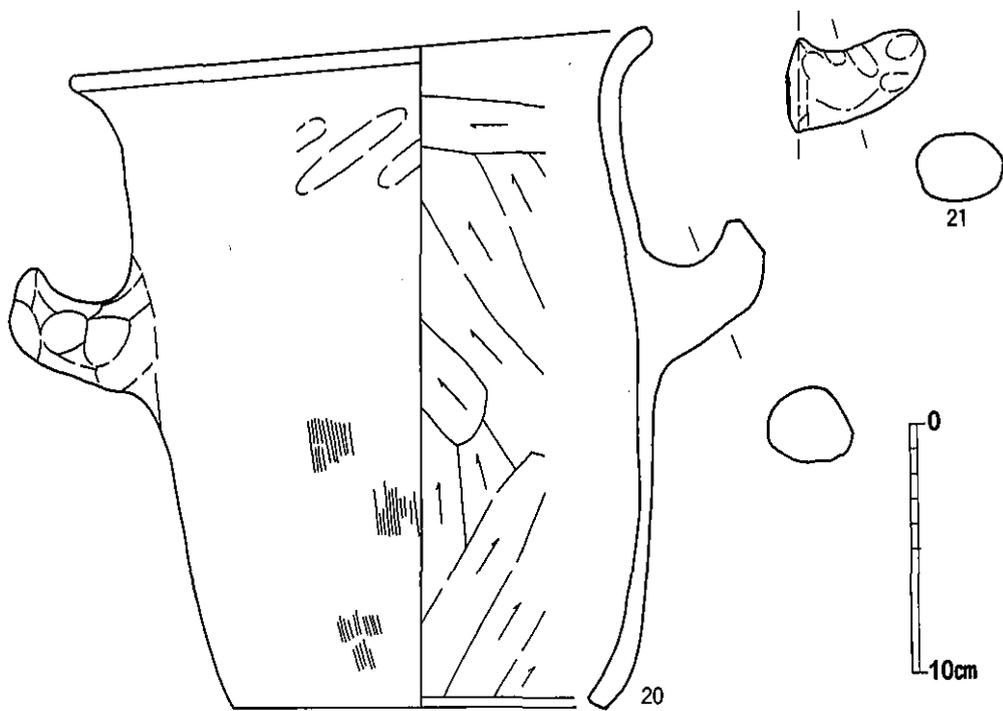
第105図 5地点西側確認調査地点土坑実測図（1/60）



第106図 5地点周辺遺構配置図(1/200)



第107図 確認調査土坑出土遺物実測図① (1 / 3)



第108図 確認調査土坑出土遺物実測図 (1/3)

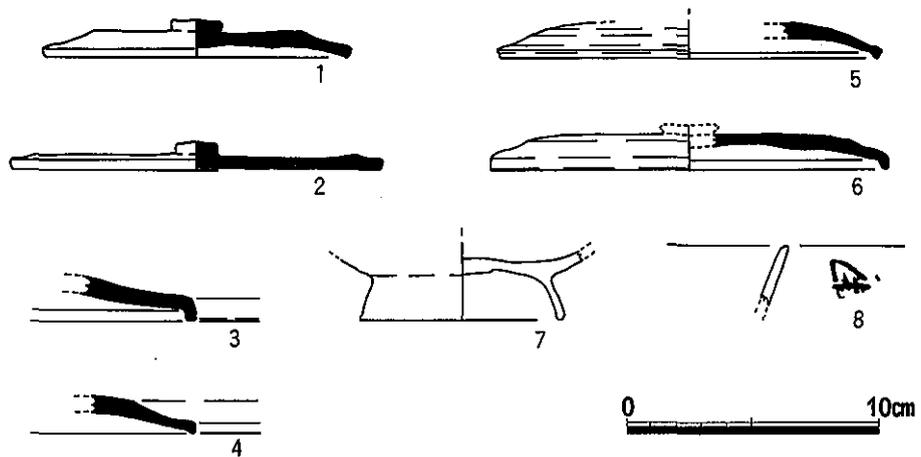
### 3 関連遺物 (図版41・第109・110図)

馬屋元遺跡の既往の調査の中で、整理の都合で、未報告の資料の一部を紹介する。

(須恵器)

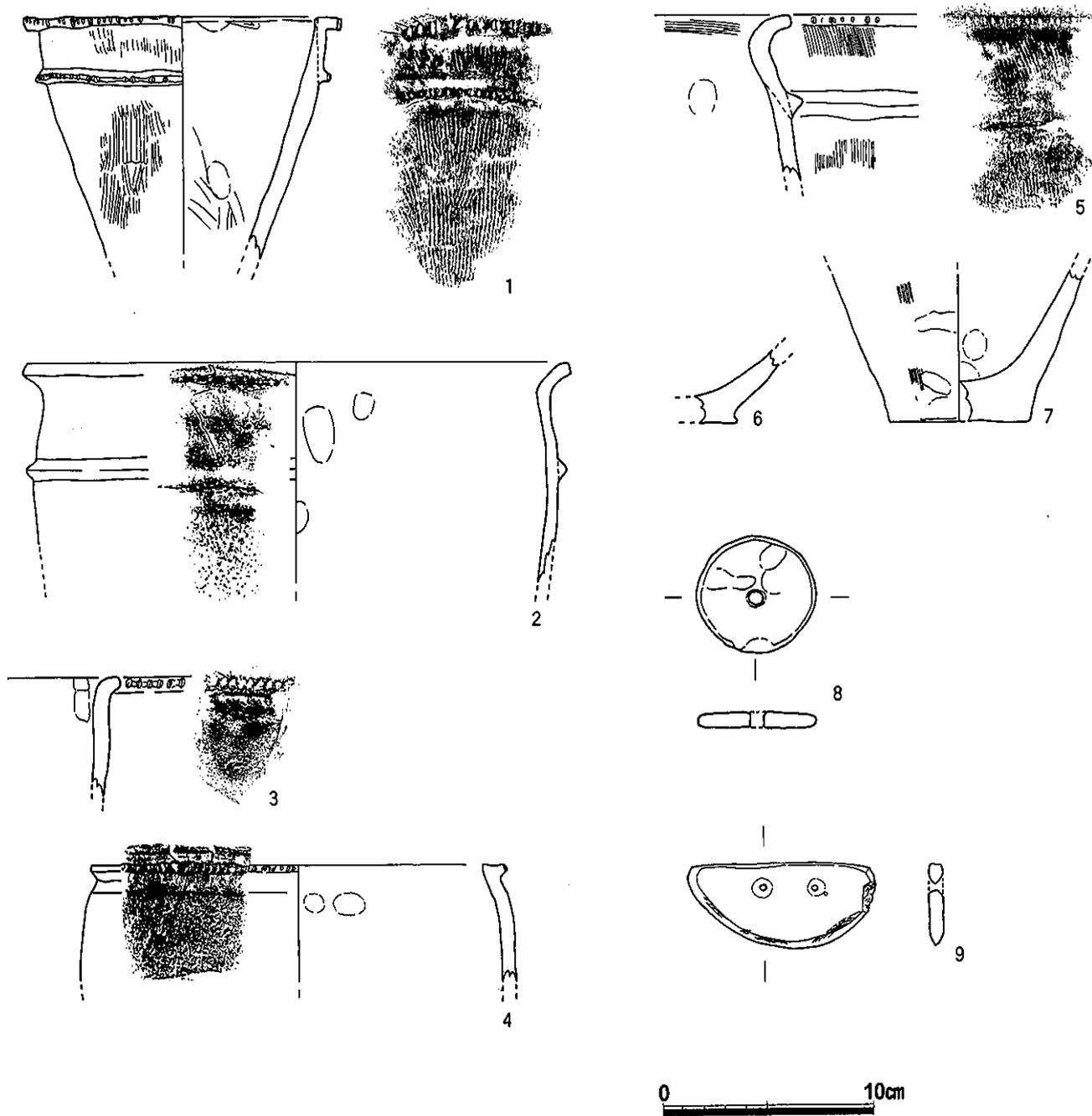
1～6は杯蓋。

1は平坦な天井部で、口縁端部は退化している。偏平なつまみである。天井部は回転ヘラケズリ。口径12.1cm、つまみ径2cm。  
2は全く偏平な器形で口縁端部は退化。天井部の中心部分は回転ヘラケズリ。口径14.7cm、つまみ径1.8cm。内面中央部は擦っており、転用硯である。3の口縁は大きく折り曲げ、端部は尖



第109図 7地点出土遺物実測図 (1/3)

第109図 7地点出土遺物実測図 (1/3)



第110図 8地点出土遺物実測図(1/3)

らない。4は端部断面がわずかに三角形といえる。5の口縁内面は稜をつくる。口径15cm。6は端部を折り曲げるが、3ほどではない。口径15.9cm。1・2はS K67土坑出土。3・4は7地点の土坑。5・6はS K90土坑出土。

(土師器)

7は脚の高い高台の椀。脚は内湾して立ち上がる。底部内外面はヘラミガキを施し黒色に薫す。7地点出土。8は杯身口縁。外面口縁下に「里」もしくは「黒」の墨書。8はSD35溝出土。

(弥生土器)

1～5は甕の口縁部。1は口縁を逆「L」字型に折り曲げ、胴部に一条の凸帯を巡らす。口縁端部と凸帯には刻み目をいれる。外面の調整はハケメ。2は如意形口縁で、口縁下に三角凸帯を巡らす。口縁端部と凸帯にわずかに刻み目を認める。3は如意形口縁、4は凸帯文系の口縁である。5は口縁部がすはまる形態で、如意形口縁で、口縁下に三角凸帯を巡らす。口縁端部と凸帯に刻み目を認める。6は円盤貼り付けの壺底部。7は小型甕の分厚い底部。8は径5.7cmの土製紡錘車。1・2はSK92貯蔵穴出土。3・5・6・7はSK94貯蔵穴出土。4はSC21住居跡、8はSC22住居跡出土。

(石器)

9の石包丁は、所謂立岩産である。背部の厚さ6.6mm、端部を欠損する。7地点出土。

## VI 調査のまとめ

平成4年から10年まで6年にわたり調査を行った下高橋遺跡の成果を簡単にまとめる。本来なら詳しい考察を述べるべきであるが、紙面の都合、多くは筆者の力量不足から、別の機会に行いたい。

### 1 上野遺跡（正倉院）

#### ①建物構成

上野遺跡の方形堀方の建物は11棟確認しているが、全容が知れるのは7棟、一部調査区外に延びるが、ほぼ規模が想定できるものが1棟、一部の堀方を確認したものが3棟である。調査で確認した限りでは逆「L」字状の建物配置である。なお、基準方位は正方位である。尚小規模の建物も基準方位を同じくして3棟以上は確認され、付属建物などの性格あるいは後継建物の性格を考える必要があるだろう。

#### 総柱建物

総柱建物では2間×3間（SB1）の1棟、3間×4間（SB2・4・14・15・16）の5棟、計6棟を確認している。規模に若干の差異はあるが、南辺に並ぶSB2建物とSB4建物、東辺に並ぶSB14建物とSB15建物はそれぞれ同規模である。側柱建物SB13とSB16・SB14・SB15建物は西柱筋を揃える。3間×4間総柱建物は御原郡においては、小郡官衙遺跡ではI期で3棟、II期で9棟（建替えを含まない）、大板井遺跡X地点で3棟確認され、この規格の建物が「正倉」であることを示すメルクマールとして捉えられる。さらに、福岡県内の「郡衙」遺跡においては、福岡市有田遺跡（早良郡衙）、久留米市道蔵遺跡（三潞郡衙）大分県になるが中津市永添長者屋敷遺跡（下毛郡正倉または正倉別院）などで明らかである。

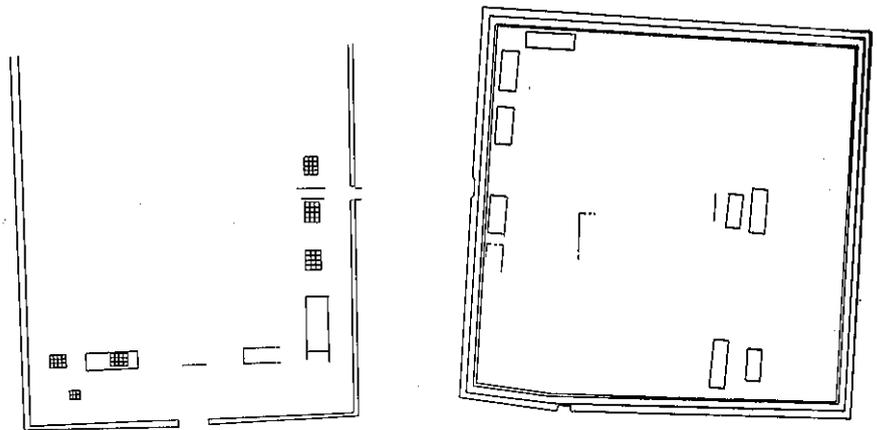
#### 側柱建物

側柱建物で全容が判明しているのはSB3建物だけで、3間×10間の東西に長大な建物である。ここで重要なのはSB3建物が総柱建物のSB4建物を切っており、建物使用目的（或いは需要）の変化と捉えられる。全容は判明しないがSB13建物は10尺等間の3間×10間以上の南北に長大な建物である。北妻中央には棟持柱の柱穴、北から8間の位置に間仕切りの柱穴を持つ。さらにこの建物は建設時に使用したと考えられる計画的に配された足場穴も伴う。また、周囲を巡らす溝を雨落ち溝であるとするれば、建物柱列から溝の中心までの距離は3mを測り、軒の深い手の込んだ建物であったと推測される。この建物の規模を3間×10間とすると身舎面積は275.4㎡で、下高橋遺跡中（御原郡中）最大の規模である。これらの建物は、総柱建物群に混在していることから「屋」の性格を持つものと考えている。

#### ②区画施設

上野遺跡は大溝で他と明確に区画される。範囲は東西150m、南北170m以上（遺跡北側は堤で、現在のところ調査不可能）の長方形で、正方位に配される。大溝の規模は一定していないが、幅約2m深さ約1m程度の部分が多い、断面の形状は「U」字または逆台形溝である。南辺中央部には大溝が途切れ、幅約40cmの小溝が大溝に直交し南北に伸びており、出入り口が設けられているよう

である。この小溝の北延長部20m地点・130~140m地点でも同規模の溝が確認され構内道路の側溝と考えられる。なお、この溝はS B 10建物に切られており、造営の計画線を兼ねた道路の可能性も残る。東辺では、東南コーナーから1町(100m)の地点では大溝が途切れ、大溝に直交する2条の幅30cmの溝が4.8mの間隔を空け伸びており、進入路の側溝と思われる。上野遺跡の区画内にもこの延長する溝があり、これも構内道路の側溝といえよう。



第111図 下高橋遺跡遺構配置模式図(1/4,000)

### ③出土遺物

出土遺物は極めて少なく、パンケース8箱ほどである。出土地点は土坑・溝が大半を占める。多くは瓦で平瓦・丸瓦のみで構成されるが、総瓦葺の建物をまかなう量ではない。ほかに須恵器・土師器が若干出土しており、転用硯も数点出土している。S B 1建物とS B 3建物間に7世紀末の土塋墓を検出しており、官衙の造営はこれ以降である。これらから8世紀前半代の造営が考えられる。

## 2 馬屋元遺跡(郡庁院?)

### ①建物構成

馬屋元遺跡の建物はすべて3間×8~5間の側柱建物で、規模が確認できるものすべて100㎡を超える。確認された建物は30棟を超えるが同時に存在したのは建替・重複関係から現在の調査範囲では10棟程であろう。主軸は正方位より4~7度東に振れる。調査はトレンチによるもので、今後の調査で建物配置はより明らかになるが、<sup>(6)</sup>東方官衙西方官衙・中央官衙にグルーピングできよう。

#### 西方官衙

西方官衙はS B 1・2・3・4建物の南北に柱筋を揃える南北棟群と、S B 5建物の東西棟から構成される。建物群は区画小溝に沿うように配され、区画小溝は雨落ち溝としての機能を兼ね備えたものであろう。S B 1は3間×8間、S B 2・3建物は3間×7間である。S B 5建物も3間×7間の建物だが、柱間距離は梁列で8尺、桁列で10尺(他は8尺程度)と馬屋元遺跡では最大(下高橋遺跡では3番目)の規模である。S B 2・3建物は1回、S B 3・4建物は2回の建替えがある。

#### 中央官衙

S B 4建物から東に33m離れた位置にある南北棟のS B 6建物。柱穴は4基しか確認し得ていないが桁行きは7間の可能性がある。馬屋元遺跡のほぼ中央にあたる位置である。「政庁」を配するとすれば、絶好の場所である。

## 東方官衙

県教委調査地点で、重複する柱穴群が確認され、3間×5～8間の19棟の建物が復元されるが、同時存在は4棟ほどであろう。建物は南北2群に分かれるが、それぞれ南北棟2棟を並列に配している。両群とも建替えが著しく、特に北群では6回の立替が確認され、この場所に固執した感がある。

### ②区画施設

馬屋元遺跡は大小二重の溝で他と区画され、東西170m、南北175mのほぼ正方形の区画で正方位より東に4度前後振れた軸を基準としている。外側の溝は幅2～3m深さ1.5～2mであるが、例えば、東方官衙南群に接する付近では浅く陸橋と考えられるなど、深さは一定していないようである。内側の溝は大溝から3mの距離を置いて設けている。幅は1mを超えない程で深さは0.3～1mである。ただし、北辺では2ヶ所に内側に張り出し部があり、深さ1.5mほどである。小溝と張り出しの前後関係は不明であるが、張り出し部より区画小溝が新しくなることはない。

### ③出土遺物

官衙関係の遺物の出土量は極めて少ない。上野遺跡と比較して瓦の出土はあまりなく供膳具の比率がきわめて高い。転用硯も十数点出土している。S B 1の柱穴抜き痕から出土した転用硯(杯蓋)は8世紀第3四半期のものと考えられる。

## 3 その他

下高橋遺跡の現況はほとんどが水田であるが、その畦畔線は遺跡の区画溝にほぼトレースでき遺跡の痕跡を留めていることがわかる。上野・馬屋元両遺跡の間には上野遺跡の正方位の軸と馬屋元遺跡の正方位から4～7度東偏する軸の『緩衝地帯』は周囲よりやや低く南北に伸びており、この部分の水田にトレンチを設定した結果、南北に伸びる切り通しと6mの間隔を置いて幅1mの溝を検出した。検出面までの埋土は比較的新しいようであるが「道路」の可能性が高い。その軸は馬屋元遺跡の軸に準じている。

## 4 周辺部

馬屋元遺跡東方官衙の北方約200mの地点(馬屋元<sup>(7)</sup>4・5地点)では半町規模の溝による区画が複数営まれており、正方位からやや西に振れる軸を基本方位にしている。調査された区画では8世紀中頃の竪穴住居の廃絶後同じ位置で掘立柱建物に建替わっており、官衙造営との関連が推測される。

## 5 官衙の時期と方位

下高橋遺跡の官衙造営の時期を考えるうえで、整理すべき問題は多岐にわたる。上野遺跡と馬屋元遺跡の性格は、「正倉院」と、厨・館などや実務的な曹司を包括する「郡庁院」と考えている。しかし大きな問題となるのが、上野遺跡と馬屋元遺跡の区画・建物の主軸の違いである。

上野遺跡が真北を示すのに対し、馬屋元遺跡は東に4～6°<sup>(8)</sup>偏っている。周辺の集落を含めた検討から、当初両者の造成時期の相違を考えていたが、馬屋元遺跡S B 1建物P 14の新建物の柱抜き痕から出土した8世紀第3四半期のものと考えられる須恵器杯蓋は、それ以前にすでに建物が配さ

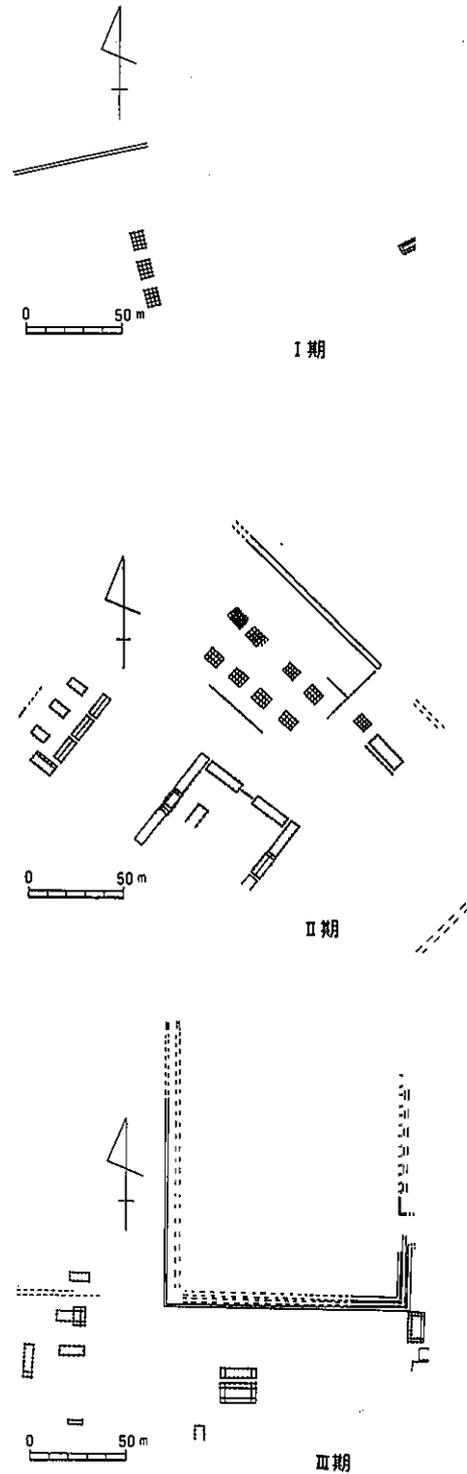
れていたことを示すものである。上野遺跡大溝から出土した須恵器杯蓋は8世紀前半代のものと考えられ、これをもって上野遺跡の造営時期とすると馬屋元遺跡の造営時期と大きな時間差はなかったと見たほうが良いかもしれない。別の言い方をすれば方位の変化の画期に下高橋遺跡の官衙が造営されたと考えられないだろうか。

主軸方位の相違には、馬屋元遺跡の立地条件も考えておきたい。馬屋元遺跡の東側は比高差2～3mを測る段丘になっており、区画大溝の南東コーナー部から段丘の落ち際までは約10mと余裕のある配置といえず、主軸を東偏することによって、区画溝周囲の余剰部を設けたのではないだろうか。

## 6 御原郡衙の動向

下高橋遺跡では、1町半四方以上の方形区画の2区画が明らかになり、そのなかにそれぞれ性格の違う建物群が展開している。その区画の規模の大きさや建物群は官衙に見られる建物であることから「郡衙」と判断されよう。西側の上野遺跡は総柱建物を主体とすることから「正倉院」に、対して東の側柱建物のみで構成される馬屋元遺跡は「政庁・館・厨」などからなる「政庁院」が考えられる。このことは、豊前国上毛郡衙政庁と考えられる福岡県新吉富村「大ノ瀬下大坪遺跡」<sup>(9)</sup>の外郭の規模が馬屋元遺跡の内側小溝の区画とほぼ同じ規模であるなど参考にされるところである。ただし、「大ノ瀬下大坪遺跡」の外郭施設は、柵であり、下高橋遺跡の大溝による区画とは異なる。

さて、下高橋遺跡の属する御原郡には、従来「小郡遺跡」が「御原郡衙」として比定されており、小郡遺跡と下高橋遺跡の検討が必要になるところである。ここで、小郡遺跡<sup>(10)</sup>について、若干の検討



第112図 小郡遺跡期別遺構配置模式図 (1/4,000)  
(「小郡市史」所収を一部改変)

をしてみよう。

小郡遺跡は標高17m前後の沖積台地上に展開する。周辺に展開する大板井遺跡は小郡遺跡をも包括する遺跡で、弥生時代からの拠点集落と言える。さて、小郡遺跡の「官衙」とされる遺構はその主軸により大きく三期に整理される。Ⅰ期（7C中頃～後半）は遺跡中央部（ここでいう遺跡は、国指定された部分をいう）に柱筋を並べる3棟の3×4間の総柱建物とその北側に建物主軸に直交する形で溝が、南西部には南面庇付きの2×6間の建物が確認されている。主軸はN-60~63°-Eである。Ⅱ期（7C末～8C前半）は「コ」の字型（「ロ」字型との意見も多い）に配した建物群や西方官衙と呼ばれる建物群とそれらの建物群とは柵で、北東方向では溝で境界を設けた中に総柱建物群が配されている。主軸はN-43~45°-Eである。このⅡ期が政庁・正倉・館または厨に相当するものとされる。なお、総柱建物群の検出位置は他の部分より1m前後低く、湧水地に接するなど、「高燥の地」とは言い難い位置である。また、政庁と正倉を区画する「柵」は径50cm以下のピットおよび径10cmほどの小孔の列で、「柵」というより「垣根」といったほうが適切かもしれない。さらに、総柱建物群の北東を区画する溝は、正倉だけを区画するのではなく政庁・西方官衙をも包む大区画と考えられないであろうか。また、小郡遺跡からわずかに200m東方に位置する大板井遺跡X地点の総柱遺構の存在も見逃せない。この総柱建物群は小郡Ⅱ期と同時期のものと考えられており、調査者は「郷倉」・「分置された正倉」としているが、それは小郡遺跡Ⅱ期の“正倉院”の面積が矮小なため、あるいは選地が良くなかったため分置せざるを得なかったという事情もあったかもしれない。

Ⅲ期（8C中頃～後半）は基本主軸が大きく変化し真北となる。Ⅱ期の「コ」字型配置建物群とはほぼ同じ位置に正殿・後殿・脇殿とされる建物、Ⅱ期西方官衙付近にも側柱建物が配される。Ⅱ期の正倉が配された付近には東西130m、南北170m以上の範囲を区画する大溝・築地があるが、その区画内からはⅢ期の遺構は検出されておらず、大溝中からは千余本の鉄鏃が出土するなど軍事的色彩が強くなり、Ⅱ期とは性格を異にすると考えられる。また、Ⅱ期とⅢ期の遺構上の大きな相違は「正倉」の有無であろう。「正倉」は、他種の官衙と比較して郡衙を特色づける主な構成要素であるにもかかわらず、小郡Ⅲ期では「正倉」が見られず、また、後出する傾向にある「屋」相当の建物もない。これも、性格の変質をいう根拠の一つである。

下高橋遺跡の造営時期は8世紀前半と考えているが、小郡遺跡のⅡ期からⅢ期への画期と同時と見てよいだろう。また、この時期、小郡Ⅲ期の主軸と、上野遺跡の主軸は相通じ、上岩田遺跡建物群の方位の変化も一連の『方位規制』があったと考えられることも両者の併存の傍証ではないだろうか。

このような小郡遺跡の変質と下高橋遺跡の出現の時期が一致することから郡衙（機能）の移転を考慮すべきものである。

#### 参考文献

山中敏史 「古代地方官衙遺跡の研究」1994 塙書房

(注)

- (1) 松村恵司氏は、3間×4間の総柱建物が古代稲倉の中で、正倉中核をなすものとして位置付けている。

- 松村恵司「古代稲倉をめぐる諸問題」『文化財論叢』1983 所収 奈良国立文化財研究所編
- 松村恵司「正倉の存在形態と機能」『古代の稲倉と村落・郷里の支配』1998 所収 奈良国立文化財研究所
- 宮田浩之「筑後国御原郡における倉庫遺構」『古代の稲倉と村落・郷里の支配』1998 所収 奈良国立文化財研究所
- (2) 「有田遺跡群第189次調査で発見された遺構について」『有田遺跡現地説明会資料』1998 福岡市教育委員会
- 米倉秀紀「那津官家?—博多湾岸における三本柱柵と大型総柱建物群—」『福岡市博物館研究紀要 第3号』1993 所収 福岡市博物館
- 米倉秀紀「早良郡衙?—福岡市有田遺跡における官衙状建物群—」『先史学・考古学論究』1994 所収 龍田考古会
- (3) 「道蔵遺跡」1991久留米市文化財調査報告書 第68集 久留米市教育委員会
- (4) 高崎章子「豊前国下毛郡衙」『考古学ジャーナル 418』1997 所収 ニューサイエンス社
- 高崎章子「大分県中津市・長者屋敷遺跡の概要とその出現の背景」『古代文化 VOL50・5』1998 所収 財団法人 古代学協会
- (5) 山中敏史 「古代地方官衙遺跡の研究」1994 塙書房
- (6) 「下高橋馬屋元遺跡(1)」1997 福岡県文化財調査報告書 第129集 福岡県教育委員会
- 「下高橋馬屋元遺跡(2)」1998 福岡県文化財調査報告書 第133集 福岡県教育委員会
- (7) 前掲書(6)
- (8) 赤司善彦氏は古代御原郡において、竪穴住居の主軸が、西40°前後→真北→東4~6°前後に変化する状況を示し、官衙の主軸の変化と対応している。
- 「古墳時代から古代における地域社会」1997 埋蔵文化財研究会
- (9) 「大ノ瀬下大坪遺跡」1997 新吉富村文化財調査報告書 第10集 新吉富村教育委員会
- 矢野和昭 「豊前国上毛郡衙」『考古学ジャーナル 418』1997 所収 ニューサイエンス社
- 「大ノ瀬下大坪遺跡Ⅱ」1998 新吉富村文化財調査報告書 第11集 新吉富村教育委員会
- 矢野和昭 「福岡県新吉富村・大ノ瀬下大坪遺跡」『古代文化 VOL50・5』1998所収 財団法人 古代学協会
- (10) 小郡遺跡の性格については、調査報告書のほかに、最近では下記でふれられている。
- 松村一良「西海道の官衙と集落」『新版日本の古代 九州・沖縄』所収 1991 角川書店
- 高倉洋彰「古代九州の郡衙の構造と規模」『考古学ジャーナル 418』1997 所収 ニューサイエンス社
- 田中正日子「九州における律令支配と官衙」『古代文化 VOL50・5』1998所収 財団法人 古代学協会
- (11) 小郡遺跡の性格については、「当初は郡(評)衙であった。」と「当初から国家施設(大宰府の一施設)であった。」の考えがあるが、本稿では遺構・出土遺物の状況から「当初は郡(評)衙であった。」の立場で考えている。
- ※ 第Ⅱ章の(注)に掲げた各遺跡については本章の(注)から割愛した。

本章は、「福岡県大刀洗町・下高橋（上野・馬屋元）遺跡」（『古代文化 VOL50・5』1998所収 財団法人 古代学協会）に一部修正・加筆したものである。

## VII おわりに

下高橋遺跡の発掘調査は、大刀洗町のみならず地域の歴史を知るうえで貴重な成果をあげることができた。担当者にとっても、町にとっても経験の無いままの発掘調査であった。調査の発端は開発の事前調査であったが、遺跡は思いもよらぬ古代官衙遺跡であることがわかり、遺跡の重要さに対し、どのような調査をすればよいのか二の足を踏んだことも記憶に新しい。幸い地権者をはじめ、地元の方々、関係者のご理解と温かいご支援のもと、保存に向けての調査を続けることができ、さらに「国指定史跡 下高橋官衙遺跡」として保存が決定したことは感謝に絶えない。

しかしながら下高橋遺跡の調査面積は県教委・町教委の調査を併せて約12,400㎡である。国指定された約98,000㎡からすると1割強しか発掘調査をしておらず、今後の保存を進める中で、また新たな知見があることは間違いない。

今後、保存されたこの遺跡をどう生かすかは、担当者のみならず地元の大きな関心である。これまでの調査・保存にご協力をいただいた皆様・諸機関に改めて感謝すると共に、今後、更なるご支援をお願いして、結語といたします。

主要建物諸元表

遺跡名	建物番号	柱穴番号	柱穴の規模 (m)			柱穴の形態	柱穴跡径 (cm)	柱間距離 (m・尺)			備考	
			桁方向	梁方向	深さ			桁方向 対象柱穴番号	梁方向	対象柱穴番号		
上野	SB1	1	0.8	0.7	0.55	方形	30	1.47	2	1.9	5	
上野	SB1	2	0.75	0.7	0.45	方形	25	1.35	3	1.87	6	
上野	SB1	3	0.9	0.65	0.64	長方形	24	1.75	4	2.05	7	
上野	SB1	4	0.65	0.65	0.62	方形	30			1.8	8	
上野	SB1	5	0.9	0.9	0.35	方形	30	1.5	6	2	9	
上野	SB1	6	0.75	0.9	0.68	長方形	28	1.3	7	1.86	10	
上野	SB1	7	0.73	0.7	0.75	方形	23	1.7	8	1.86	11	
上野	SB1	8	0.62	0.57	0.51	方形	22			20.6	12	
上野	SB1	9	0.85	0.72	0.5	方形	27	1.5	10			
上野	SB1	10	0.6	0.72	0.57	長方形	30	1.4	11			
上野	SB1	11	0.66	0.8	0.78	扇形跡	25	1.7	12			
上野	SB1	12	0.96	1.12	0.71	長方形	30					
上野	SB2	1	0.92	1.05	0.65	扇形跡	25	1.58	2	1.9	6	
上野	SB2	2	0.84	1.01	0.74	長方形	28	1.86	3	1.82	7	
上野	SB2	3	0.98	1.05	0.66	方形	25	1.9	4	1.85	8	
上野	SB2	4	0.82	1.2	0.62	長方形	28	1.84	5	1.66	9	
上野	SB2	5	0.98	1.04	0.7	やや台形	36			1.6	10	
上野	SB2	6	0.9	0.89	0.77	方形	30	1.66	7	1.68	11	
上野	SB2	7	0.89	0.87	0.67	方形	23	1.8	8	1.71	12	
上野	SB2	8	1	0.84	0.67	長方形	23	2	9	1.67	13	
上野	SB2	9	0.95	1.01	0.6	方形	?	1.8	10	1.79	14	
上野	SB2	10	0.83	1.01	0.68	長方形	?			1.85	15	
上野	SB2	11	0.85	0.96	0.66	長方形	25	1.73	12	1.9	16	
上野	SB2	12	0.7	0.99	0.68	長方形	27	1.84	13	1.92	17	
上野	SB2	13	0.71	0.82	0.73	長方形	30	1.89	14	1.93	18	
上野	SB2	14	0.92	0.92	0.38	不整形四角形	32	1.76	15	1.94	19	
上野	SB2	15	0.75	0.74	0.7	方形	36			1.95	20	
上野	SB2	16	0.9	0.93	0.66	方形	35	1.8	17			
上野	SB2	17	0.86	0.85	0.73	方形	26	1.82	18			
上野	SB2	18	1.08	0.83	0.58	長方形	40	1.92	19			
上野	SB2	19	0.94	0.84	0.85	長方形	28	1.75	20			
上野	SB2	20	0.91	1.03	0.55	長方形	29					
上野	SB3	1	1.47	1.6	1.05	隅丸長方形	30?	2.36	2	2.53	12	抜き取り
上野	SB3	2	1.39	1.78	1.01	隅丸長方形	25?	2.43	3	7.68	17	抜き取り
上野	SB3	3	1.46	1.71	1.11	不整形長方形	35	2.02	4	7.7	18	
上野	SB3	4	1.06	1.81	1.1	台長方形	25	2.33	5	7.6	19	
上野	SB3	5	1.09	1.45	1.1	台長方形	28	2.36	6	7.5	20	
上野	SB3	6	1.1	1.54	1.05	隅丸長方形	35	2.29	7	7.6	21	
上野	SB3	7	1.3	1	0.81	長方形	32	2.17	8	7.5	22	
上野	SB3	8	1.07	1.03	0.96	方形	20	2.24?	9	7.44	23	抜き取り?
上野	SB3	9	0.92or1.12	0.82or0.93	0.86	隅丸方形	?	2.25?	10	7.48?	24	?
上野	SB3	10	1.37	1.31	0.8	不整形方形	28	2.38	11	7.26	25	抜き取り
上野	SB3	11	1.23	1.45	0.76	台長方形	28			2.49	13	抜き取り
上野	SB3	12	1.19	1.1	1.09	方形	30?	22.84	13	2.48	14	抜き取り
上野	SB3	13	1.28	1.4	0.77	隅丸方形	25~30			2.45	15	抜き取り
上野	SB3	14	1.2	1.12	1.08	台方形	30?	22.88	15	2.38	16	抜き取り
上野	SB3	15	1.2	1.08	0.65	扇形跡	33			2.51	26	
上野	SB3	16	1.14	1.21	1.13	方形	30	2.24	17			抜き取り
上野	SB3	17	1.11	1.28	1.25	扇形跡	25	2.27	18			抜き取り
上野	SB3	18	1.27	1.16	1.2	隅丸方形	30	2.26	19			抜き取り
上野	SB3	19	1.06	0.88	1.09	隅丸方形	25?	2.22	20			抜き取り
上野	SB3	20	1.03	1.11	1.2	隅丸方形	26	2.25	21			
上野	SB3	21	1.12	1.05	1.12	隅丸方形	22~25	2.27	22			
上野	SB3	22	0.87	0.92	1.16	菱形	22~25	2.3	23			抜き取り
上野	SB3	23	1.1	0.96	0.97	隅丸方形	30?	2.37	24			抜き取り
上野	SB3	24	1.21	1.11	0.7	隅丸方形	30	2.17	25			抜き取り
上野	SB3	25	0.77	0.92	0.7	台方形	30	2.37	26			抜き取り
上野	SB3	26	1.26	1.04	0.53	隅丸方形	30					抜き取り
上野	SB4	1	1.2	1.42	1.05	長方形	30?	2.14	2	2.05	6	
上野	SB4	2	1.13	1.17	0.7	方形	?	2.12	3	1.9	7	抜き取り
上野	SB4	3	1.13	1.19		方形	?	1.8?	4	1.91	8	抜き取り
上野	SB4	4	1.29	1.2	0.72	隅丸方形	?	1.8	5	1.8	9	
上野	SB4	5	1.3	1.16	0.5	扇形跡	23			1.95	10	抜き取り
上野	SB4	6	1.22	1.16	0.85	隅丸方形	33	1.95	7	1.8	11	
上野	SB4	7	1.09or1.41	0.9	1.03	隅丸長方形	30?	1.85	8	1.76	12	抜き取り
上野	SB4	8	1.17	1.16	0.77	隅丸方形	?	1.9?	9	1.78	13	抜き取り
上野	SB4	9	1.07	1.03	0.87	台方形	28	1.9	10	1.8?	14	
上野	SB4	10	1.2	1.17	0.68	隅丸方形	36			1.78	15	抜き取り
上野	SB4	11	1.05	1.1	0.76	隅丸方形	30	1.8?	12	2.1	16	抜き取り
上野	SB4	12	1.01	0.98	0.85	隅丸方形	50?	1.7?	13	1.88	17	
上野	SB4	13	1.06	0.9	0.83	長方形	?	1.75?	14	1.87	18	抜き取り
上野	SB4	14	1.21	1.09	0.77	不整形	?	2.1	15	1.97	19	抜き取り
上野	SB4	15	1.22	1.11	0.83	台方形	35?			1.87	20	
上野	SB4	16	1.14	1.2	0.86	方形	24?	2	17			
上野	SB4	17	1.19	1.12	1	隅丸方形	?	2	18			抜き取り
上野	SB4	18	1.07	1.21	0.94	隅丸長方形	20	1.75	19			
上野	SB4	19	1.14	1.32	0.65	長方形	28	1.9	20			
上野	SB4	20	1.21	1.27	0.97	方形	?					

遺跡名	建物番号	柱穴番号	柱穴の規模 (m)			柱穴の形態	柱穴の形跡 (cm)	柱間距離 (m・尺)				備考
			桁方向	梁方向	深さ			桁方向	梁方向	対象柱穴番号	対象柱穴番号	
上野	SB10	1	?	?		—		2.4?	2			
上野	SB10	2	—	1.41		丸形		2.4	3			
上野	SB10	3	0.9?	1.28		丸形		2.1	4			
上野	SB10	3	1.0?	1.0?		不整形		2.4	5			
上野	SB10	5	10	1.0?						2.4	6	
上野	SB10	6	—	1.14?								
上野	SB13a	1	1.7	1.94		不整形		3	5	3	2	抜き取り
上野	SB13a	2	1.4	1.14		台方形	34			3.6	3	抜き取り?
上野	SB13a	3	1.68	1.43		不整形				3	4	抜き取り
上野	SB13a	4	1.19	1.29		不整形		3?	6			抜き取り
上野	SB13a	5	1.3	1.4		不整形		3.2?	7			抜き取り
上野	SB13a	6	1.28	1.5		隅丸方形		3?	8			抜き取り
上野	SB13a	7	1.5	1.43		丸形		2.6	9			抜き取り
上野	SB13a	8	1.28	1.66		不整形		3?	10			抜き取り
上野	SB13a	9	1.96	1.47		隅丸方形		3.15	11			抜き取り
上野	SB13a	10	1.55	1.4		丸形		3?	12			抜き取り
上野	SB13a	11	1.74	1.6		不整形		3?	13			抜き取り
上野	SB13a	12	1.5	1.12		不整形		3?	14			抜き取り
上野	SB13a	13	1.48	1.58		隅丸方形		2.8?	15			抜き取り
上野	SB13a	14	1.5	1.55		不整形		3?	16			抜き取り
上野	SB13a	15	1.58	1.73		不整形		3?	17			抜き取り
上野	SB13a	16	1.58	1.26		不整形		2.8?	18			抜き取り
上野	SB13a	17	1.7	1.88		不整形		3.08?	19			抜き取り
上野	SB13a	18	1.58	1.46		不整形		3.2?	22			抜き取り
上野	SB13a	19	1.8	1.85		不整形		3?	23	3	20	抜き取り
上野	SB13a	20	1.7	1.5		不整形	28			3	21	抜き取り・間仕切り
上野	SB13a	21	1.58	1.25		隅丸長方形				3.4	22	抜き取り・間仕切り
上野	SB13a	22	1.9	1.52		隅丸長方形		3?	24			抜き取り?
上野	SB13a	23		1.7								?
上野	SB13a	24		2.37								?
上野	SB13a	北棟持柱	1	0.96		隅丸方形	30			1.8	2・3	
上野	SB14	1	1.1	1.05		隅丸方形	58	2.23	5	2.27	2	
上野	SB14	2	1.18	1.21		隅丸方形	43	2.11	6	1.91?	3	
上野	SB14	3	1.22	1.17		隅丸方形	?	2.45?	7	2.5?	4	
上野	SB14	4	1.16	1.13		隅丸方形	62	2.06	8			抜き取り
上野	SB14	5	1.2	1.03		隅丸方形	54	2.4	9	2.3	6	
上野	SB14	6	1.16	1.1		隅丸方形	45?	2.36	10	2.2	7	抜き取り?
上野	SB14	7	1.21	1.42		隅丸長方形	35	2.18	11	2.25?	8	抜き取り?
上野	SB14	8	1.09	1.22		隅丸長方形	46?	2.43	12			抜き取り
上野	SB14	9	1.21	0.94		隅丸長方形	50	2.19	13	2.28	10	抜き取り?
上野	SB14	10	1.21	1.26		隅丸方形	58	2.35	14	2.25	11	
上野	SB14	11	1.32	1.2		隅丸方形	62	2.2	15	2.21	12	
上野	SB14	12	1.34	2.03		不整形	48	2.1	16			
上野	SB14	13	1.35	1.31		台方形	50	2.21	17	2.2	14	
上野	SB14	14	1.5	1.4		不整形	56	2.2	18	2.2	15	
上野	SB14	15	1.07	1.36		隅丸長方形	40	2.2	19	2.2	16	抜き取り?
上野	SB14	16	1.25	1.14		不整形	40	2.26	20			抜き取り?
上野	SB14	17	1.22	1.24		台方形	50			2.2	18	抜き取り?
上野	SB14	18	1.28	1.16		隅丸方形	46?			2.2	19	
上野	SB14	19	1.24	1.23		隅丸方形	49			2.2	20	
上野	SB14	20	1.24	1.2		台方形	50					抜き取り
上野	SB15	1	0.93	1.01		隅丸方形	52	2.01	5	1.92	2	
上野	SB15	2	1.27	1.2		隅丸方形	45	2.01	6	1.9	3	
上野	SB15	3	1	1.1		台方形	50?	2.01?	7	2	4	抜き取り?
上野	SB15	4	1.1	1.21		台方形	55	2.01?	8			
上野	SB15	5	1.12	1.09		不整形	40	1.82?	9	2.02	6	抜き取り?
上野	SB15	6	1.3	1.21		不整形	50?	1.82?	10	1.97?	7	抜き取り
上野	SB15	7	1.1	1.24		方形?	?	1.82?	11	1.97?	8	抜き取り
上野	SB15	8	1.3	1.25?		台方形	65	1.82	12			抜き取り?
上野	SB15	9	1.14	1.07		不整形	?	2.05?	13	1.94?	10	抜き取り
上野	SB15	10	1	1.16?		隅丸長方形?	?	2.05?	14	1.97?	11	抜き取り
上野	SB15	11	1	0.93		隅丸方形	44?	2.05	15	1.97?	12	抜き取り?
上野	SB15	12	1.1	1.4		不整形	50	2.05	16			抜き取り?
上野	SB15	13	1.14	1.04		隅丸方形	51	2	17	1.94	14	
上野	SB15	14	1.69?	1.34		不整形	54	2?	18	1.97	15	
上野	SB15	15	1.6	1.23		不整形	56	2?	19	1.97	16	
上野	SB15	16	1.74	1.58		不整形	41?	1.93	20			抜き取り?
上野	SB15	17	1.02	1.26		隅丸方形	50			1.94?	18	
上野	SB15	18	1.26	1.11		隅丸方形?	?			1.97?	19	抜き取り
上野	SB15	19	1.17	0.92		隅丸長方形	?			1.97?	20	抜き取り
上野	SB15	20	1.08	1.14		不整形	62					
上野	SB16	1	1.02	1.21		隅丸長方形	53	2.12	5	2.27	2	
上野	SB16	2	1.07	1.28		隅丸長方形	55	2.2	6	2.25	3	
上野	SB16	3	1.34	1.08		隅丸長方形	64	2.2	7	2.2	4	
上野	SB16	4	1.1	1.28		隅丸長方形	54	2?	8			
上野	SB16	5	1.25	1.42		台長方形	55	2.16?	9	2.28	6	抜き取り?
上野	SB16	6	1.42	1.4?		台形	36	2.16?	10	2.2	7	抜き取り?
上野	SB16	7	1.24	1.23		不整形	58	2.06?	11	2.37?	8	抜き取り?
上野	SB16	8	1.52	1.34		隅丸方形	?	2.16?	12			抜き取り
上野	SB16	9	1.43	1.22?		台形	?	1.92?	13	2.3?	10	抜き取り
上野	SB16	10	1.18	1.23		隅丸方形	?	2.24?	14	2.23?	11	抜き取り
上野	SB16	11	1.4	1.5?		不整形	?	2.24?	15	2.22?	12	抜き取り
上野	SB16	12	1.52?	1.43?		不整形	?	2.25?	16			抜き取り
上野	SB16	13	1.7?	1.62		不整形	?	2.52?	17	2.3?	14	抜き取り
上野	SB16	14	1.12	1.43		不整形	?	2.22?	18	2.23?	15	抜き取り
上野	SB16	15	1.26	1.06		隅丸長方形	57?	2.3	19	2.16	16	抜き取り?
上野	SB16	16	1.6	1.23		不整形	44	2.2	20			抜き取り?
上野	SB16	17	1	1.1?		不整形	58?			2.3?	18	抜き取り
上野	SB16	18	1.27	1.12		方形	?			2.23?	19	抜き取り
上野	SB16	19	1.27	1.12		隅丸方形	45?			2.16?	20	抜き取り?
上野	SB16	20	1	1		隅丸方形	55					

遺跡名	建物番号	柱穴番号	柱穴の規模 (m)			柱穴の形態	柱痕跡径 (cm)	柱間距離 (m・尺)				備考
			桁方向	梁方向	深さ			桁方向	対象柱穴番号	梁方向	対象柱穴番号	
馬屋元	SB1 (新)	1	1.18	1.05		隅丸方形		2.22	5	2.368	2	
馬屋元	SB1 (新)	2	1	1.15		柱礎状跡	30			2.368	3	
馬屋元	SB1 (新)	3	0.92	1		隅丸方形	30			2.368	4	
馬屋元	SB1 (新)	4	0.88	1.15		不整形		2.22	6			抜き取り
馬屋元	SB1 (新)	5	0.9	0.7		不整形		2.22	7			
馬屋元	SB1 (新)	6	0.9	1.1		隅丸長方形		2.22	8			抜き取り
馬屋元	SB1 (新)	7	1.2	1.1		不整形		2.22	9			
馬屋元	SB1 (新)	8	0.6	1		柱礎状跡	30	2.22	10			
馬屋元	SB1 (新)	9	0.8	0.74		隅丸方形						
馬屋元	SB1 (新)	10	0.92	1.3		不整形	25	2.22	12			
馬屋元	SB1 (新)	11										
馬屋元	SB1 (新)	12	0.88	1		隅丸台形	30	2.22	14			
馬屋元	SB1 (新)	13										
馬屋元	SB1 (新)	14	0.8	1		隅丸長方形		2.22	16			抜き取り
馬屋元	SB1 (新)	15										
馬屋元	SB1 (新)	16	0.9	1.12		不整形		2.22	18			抜き取り
馬屋元	SB1 (新)	17										
馬屋元	SB1 (新)	18	1	1.1		隅丸長方形		2.22	22			
馬屋元	SB1 (新)	19	1.6	1.35		不整形	30			2.368	20	
馬屋元	SB1 (新)	20	0.8	1.25		不整形				2.368	21	抜き取り
馬屋元	SB1 (新)	21	0.94	1.26		隅丸長方形				2.368	22	抜き取り
馬屋元	SB1 (新)	22	0.86	2.5		柱礎状跡						
馬屋元	SB1 (古)	1										
馬屋元	SB1 (古)	2	1.08	1.35		隅丸方形						
馬屋元	SB1 (古)	3	1	1								
馬屋元	SB1 (古)	4		1.2		隅丸方形						
馬屋元	SB1 (古)	5	1	0.9		隅丸方形						
馬屋元	SB1 (古)	6	0.85									
馬屋元	SB1 (古)	7										
馬屋元	SB1 (古)	8	0.8									
馬屋元	SB1 (古)	9	1.1	0.92		柱礎状跡						
馬屋元	SB1 (古)	10		1.2								
馬屋元	SB1 (古)	11										
馬屋元	SB1 (古)	12	0.8			柱礎状跡						
馬屋元	SB1 (古)	13										
馬屋元	SB1 (古)	14	1.12	0.92		隅丸長方形						
馬屋元	SB1 (古)	15										
馬屋元	SB1 (古)	16		0.9		隅丸長方形						
馬屋元	SB1 (古)	17										
馬屋元	SB1 (古)	18		0.75								
馬屋元	SB1 (古)	19										
馬屋元	SB1 (古)	20										
馬屋元	SB1 (古)	21	1.15			隅丸方形?						
馬屋元	SB1 (古)	22		0.88		隅丸方形?						
馬屋元	SB2 (新)	1	1.2	0.8+α		隅丸長方形			7尺		2	
馬屋元	SB2 (新)	2	0.7	0.8		隅丸方形			7尺		3	
馬屋元	SB2 (新)	3	0.9	1		柱礎状跡	25		7尺		4	
馬屋元	SB2 (新)	4	0.9	0.7		不整形		9尺	6			
馬屋元	SB2 (新)	5										
馬屋元	SB2 (新)	6	1	0.8		隅丸長方形		12尺	8			
馬屋元	SB2 (新)	7										
馬屋元	SB2 (新)	8	0.88	0.7		隅丸長方形		12尺	10			
馬屋元	SB2 (新)	9										
馬屋元	SB2 (新)	10	0.7	1		隅丸長方形		9尺	12			
馬屋元	SB2 (新)	11										
馬屋元	SB2 (新)	12		0.5		不整形		12尺	10			
馬屋元	SB2 (新)	13										
馬屋元	SB2 (新)	14										
馬屋元	SB2 (新)	15	0.5	0.5		不整形			8尺		16	
馬屋元	SB2 (新)	16	0.9	0.6		不整形						
馬屋元	SB2 (古)	1	1.06			隅丸方形			8尺		2	
馬屋元	SB2 (古)	2	1.14	0.9		不整形			6尺		3	
馬屋元	SB2 (古)	3	0.8	0.8+α		不整形			8尺		4	
馬屋元	SB2 (古)	4	1	1		不整形		8尺	6			
馬屋元	SB2 (古)	5										
馬屋元	SB2 (古)	6	0.9	1		不整形	23	8尺	8			
馬屋元	SB2 (古)	7										
馬屋元	SB2 (古)	8	1.2	1.25		隅丸方形		8尺	10			
馬屋元	SB2 (古)	9										
馬屋元	SB2 (古)	10	1.1			隅丸方形?		8尺	12			
馬屋元	SB2 (古)	11										
馬屋元	SB2 (古)	12	1	0.9		隅丸方形		8尺	14			
馬屋元	SB2 (古)	13										
馬屋元	SB2 (古)	14	0.86	0.8		隅丸方形		8尺	16			
馬屋元	SB2 (古)	15										
馬屋元	SB2 (古)	16	1	0.9		不整形		8尺	20			
馬屋元	SB2 (古)	17										
馬屋元	SB2 (古)	18										
馬屋元	SB2 (古)	19	0.7	0.5		不整形			7尺		20	
馬屋元	SB2 (古)	20	0.6	0.6		不整形						

遺跡名	建物番号	柱穴番号	柱穴の規模 (m)			柱穴の形態	柱痕跡径 (cm)	柱間距離 (m・尺)				備考
			桁方向	梁方向	深さ			桁方向	対象柱穴番号	梁方向	対象柱穴番号	
馬屋元	SB3(A)	1	0.8	0.74		不整形	30	10尺	2			
馬屋元	SB3(A)	2	1.05	1		不整形	35	10尺	3			
馬屋元	SB3(A)	3	0.9	0.55		隅丸長方形		10尺	4			
馬屋元	SB3(A)	4	0.8	0.5		隅丸長方形	35	10尺	5			
馬屋元	SB3(A)	5	1	0.7		隅丸長方形	30	10尺	6			
馬屋元	SB3(A)	6	0.9	0.7		隅丸長方形	35	10尺				
馬屋元	SB3(B)	1		1.2		隅丸方形?	30	10尺	2			
馬屋元	SB3(B)	2	1	0.9		不整形		10尺	3			抜き取り
馬屋元	SB3(B)	3		0.95		不整形		10尺	4			
馬屋元	SB3(B)	4	0.8	0.75		不整形	30	10尺	5			
馬屋元	SB3(B)	5	0.8	0.8		不整形	30					
馬屋元	SB3(C)	1	1			隅丸方形?			8尺	2		
馬屋元	SB3(C)	2	0.7	0.75		不整形			8尺	3		
馬屋元	SB3(C)	3	0.7	0.5		不整形			8尺	4		
馬屋元	SB3(C)	4	1.24	0.8		不整形						他と重複
馬屋元	SB3(C)	5										
馬屋元	SB3(C)	6	1	1.05		隅丸方形		7.5尺	7			
馬屋元	SB3(C)	7	1.13			隅丸方形?		7.5尺	8			
馬屋元	SB3(C)	8	1.1	1		方形		7.5尺	9			
馬屋元	SB3(C)	9	1.1			隅丸方形?		7.5尺	10			
馬屋元	SB3(C)	10				不整形		7.5尺	11			
馬屋元	SB3(C)	11	1.08	1.45?		隅丸長方形						
馬屋元	SB4(A)	1	0.7	1		不整形	30	9尺	2			
馬屋元	SB4(A)	2	0.8	0.8		不整形	32	9尺	3			
馬屋元	SB4(A)	3		0.7								
馬屋元	SB4(B)	1	1	1.4		隅丸長方形	10尺	2				
馬屋元	SB4(B)	2		0.8		隅丸長方形?	10尺	3				
馬屋元	SB4(B)	3	1.5	1.2		不整形	10尺	4				他と重複
馬屋元	SB4(B)	4				不整形						
馬屋元	SB5	1	0.96	0.9		隅丸方形		10尺	2	8尺	9	
馬屋元	SB5	2	0.84	0.82		方形		10尺	3			
馬屋元	SB5	3	1.03	1		隅丸方形	24	10尺	4			
馬屋元	SB5	4		1.02		方形?	26	10尺	5			
馬屋元	SB5	5	1.05	1.01		変方形	32	10尺	6			
馬屋元	SB5	6	10.2	0.97		隅丸方形	29	11尺	7			
馬屋元	SB5	7	1.16	1.02		台方形		11尺	8			
馬屋元	SB5	8	0.9	1.08		長方形				8尺	10	
馬屋元	SB5	9	0.89	0.88		隅丸方形	40		10	8尺	11	
馬屋元	SB5	10	0.91	0.86		台方形				7.5尺	12	斜向
馬屋元	SB5	11	0.98	1.01		隅丸台方形	35		12	7.5尺	13	
馬屋元	SB5	12	1.02	0.87		長方形	23			8尺	20	斜向
馬屋元	SB5	13	1.04	0.89		長方形	25	11尺	14			
馬屋元	SB5	14	0.99	0.8				10尺	15			
馬屋元	SB5	15	0.95	0.92		方形		10尺	16			斜向
馬屋元	SB5	16		0.86		方形?		10尺	17			
馬屋元	SB5	17	0.95	0.77		隅丸長方形		10尺	18			
馬屋元	SB5	18	1.12	0.97		隅丸長方形		11尺	19			
馬屋元	SB5	19	0.85	0.75		台形	32	11尺	20			
馬屋元	SB5	20	1.01	0.87		台長方形	33					
馬屋元	SB6	1	0.9	0.67		隅丸長方形	30	10尺	3	5.5尺	2	
馬屋元	SB6	2	0.78	0.57		不整形長方形	30					
馬屋元	SB6	3	0.92	0.76		隅丸長方形	25	9尺	4			
馬屋元	SB6	4	0.74	0.77		方形	26					

甕棺墓一覧表

番号	墓壇形態	墓壇の規模(cm)			棺の規模	器種 上甕+下甕	全長	合わせ口形態	主軸方位	埋葬角度	備考
		長さ	幅	深さ							
1	台形	91	63	31	小児	甕+壺	—	覆い口	N-4°-W	31°	
2	隅丸長方形	92	46	20	小児	?+壺	—	—	N-19°-W	20.5°	
3	不整形	62	50+α	22	小児	甕+壺	—	覆い口	N-7.5°-E	36°	後世のピットに切られる
4	不整形な方形	66	56	23	小児	?+壺	—	—	N-2.5°-W	38°	
5	不整形	101	83	34	小児	甕+壺	—	覆い口	N-20°-W	28°	穿孔あり

甕棺(土器)墓一覧表

番号	器種	器高	口径	胴部最大径	底径	底部の厚さ	調整		備考
							外面	内面	
ST1	上 日常甕	30.9	25.1	27.5	9	1.9?	擦過・ナデ	貝殻状痕	外面煤付着
	下 大型壺	52.3	20	46.3	13.4	1.5	ヘラミガキ	ナデ・ヘラミガキ	
ST2	上 日常甕	—	25.8	26.7	—	—	—	—	
	下 大型壺	—	—	41.4	13.6	1.1	ヘラミガキ	ハケ?	外面丹塗り
ST3	上 日常甕	—	28.3	—	—	—	貝殻状痕	貝殻状痕	外面煤付着
	下 大型壺	54.3	23.8	48.6	13	1	ヘラミガキ	貝殻状痕	外面丹塗り
ST4	上 —	—	—	—	—	—	—	—	
	下 大型壺	—	27.5	52.9	15.3	1.9	ヘラミガキ・ハケ	ハケ	外面丹塗り
ST5	上 日常甕	—	25.4	27.4	—	—	—	貝殻状痕	外面に黒色粉状物
	下 大型壺	—	—	55.7	16.2	1.8	ヘラミガキ	ナデ・擦過	外面丹塗り

主要建物一覧表

遺跡名	建物番号	柱間間数	柱間寸法(尺)		梁行(m)	桁行(m)	身舎面積		主軸方位	間隔(m)	備考
			梁行	桁行			(㎡)	(/3.3)			
上野	SB 1	2×3	6.5	5.1	3.89	4.6	17.89	5.42	N-3°-W	10	総柱
上野	SB 2	3×4	6	6.3	5.48	7.52	41.21	12.49	N-2°-W		総柱
上野	SB 3	3×10	8.3	7.7	7.52	23.06	173.41	52.55	N-2°-W		
上野	SB 4	3×4	6.2	6.4	5.54	7.74	42.88	12.99	N	53.5	総柱
上野	SB13	3×10+α	10	10.2	9	30.6+α	275.4+α	83.45	N		建替え1回
上野	SB14	3×4	6.6	6.6	6	8	48.00	14.55	N		総柱
上野	SB15	3×4	7	7.5	6.6	9	59.40	18.00	N	12	総柱
上野	SB16	3×4	7.5	7.2	6.75	8.68	59.59	17.75	N	12	総柱
馬屋元	SB 1	3×8	8	7.5	7.2	18	129.60	39.27	N-6°-E	7	建替え1回
馬屋元	SB 2	3×7	7.2	7.6	6.5	16	104.00	31.52	N-7°-E		建替え2回
馬屋元	SB 3	3×7	8	7.4	7.2	17.7	127.44	38.62	N-7°-E		建替え2回
馬屋元	SB 5	3×7	8	10	7.2	21	151.20	45.82	N-6°-E	19.4	
馬屋元	Sbn-2	3×7	11	8	6.5	17	110.50	33.48	N-5.5°-E		建替え6回
馬屋元	Sbb-1	3×5	6.7	9.8	6.1	14.8	90.28	27.36	N-6.5°-E		建替え2回
馬屋元	Sbd-4	3×7	7	10	6.3	21	132.30	40.09	N-7.5°-E	50	建替え4回
馬屋元	Sbc-3	3×5	7.6	9.5	6.9	14.3	98.67	29.90	N-6°-E		建替え3回

○文部省告示第十三号

文化財保護法(昭和二十五年法律第百十四号)第六十九条第一項の規定により、次に掲げる記念物を史跡に指定する。

平成十年一月十六日

文部大臣 町村 信孝

名 称 所在地 地域

下高橋官衙遺跡 福岡県三井郡大刀洗 三二六六番ノ三番、三二六六番ノ六番、三二六七番ノ三

町大字下高橋字四野

同大字下高橋字組坂

- 三二九一番、三二九六番、三二九七番、三二九九番ノ一、三三〇〇番、三三〇二番、三三〇三番、三三〇四番、三三〇五番ノ一、三三〇五番ノ二、三三〇七番、三三〇八番、三三〇九番ノ一、三三〇九番ノ二、三三〇九番ノ三、三三一一〇番、三三一一一番ノ一、三三一一一番ノ二、三三一二番ノ一、三三一二番ノ二、三三一二番ノ三、三三一二番ノ四、三三一二番ノ五、三三二二番ノ一、三三二二番ノ二、三三二二番ノ三、三三二二番ノ四、三三二二番ノ五、三三二二番ノ六、三三二二番ノ七、三三二二番ノ八、三三二二番ノ九、三三二二番ノ一〇、三三二二番ノ一一

同大字下高橋字中島

- 三三二八番ノ一のうち災測六四八・九二平方メートル、三三二九番ノ一のうち災測七四五・三平方メートル、三三四〇番、三三四一番、三三四二番、三三四三番、三三四四番、三三四七番、三三四九番、三三五〇番ノ一、三三五〇番ノ二、三三五一番ノ一、三三五一番ノ二、三三五二番、三三五三番、三三五四番、三三五五番、三三五六番、三三五八番ノ一、三三五八番ノ二、三三五九番ノ一、三三五九番ノ二

同大字下高橋字馬屋

- 三五八三番ノ一、三五八三番ノ二、三五八三番ノ三、三五八四番ノ一、三五八四番ノ二、三五八四番ノ三、三五八五番、三五八六番、三五八七番ノ一、三五八七番ノ二、三五八七番ノ四、三五八八番ノ一、三五八九番ノ一、三五八九番ノ三、三五九〇番ノ一、三五九〇番ノ二、三五九〇番ノ三、三五九二番ノ一、三五九二番ノ三、三五九二番ノ四、三五九三番ノ一、三五九三番ノ五、三五九四番ノ一、三五九四番ノ二、三五九四番ノ三、三五九五番ノ一、三五九五番ノ二、三五九五番ノ四、三五九六番、三五九七番、三五九八番、三五九九番ノ一、三五九九番ノ二、三五九九番ノ三、三六〇〇番ノ一、三六〇〇番ノ二、三六〇〇番ノ三、三六〇〇番ノ四

同大字下高橋字砂取

- 一番ノ一、三六〇一番ノ二、三六〇一番ノ三、三六〇二番、三六〇三番、三六〇四番、三六〇五番ノ一、三六〇五番ノ四、三六〇六番、三六〇七番ノ一、三六〇七番ノ三、三六〇七番ノ四、三六〇七番ノ五、三六〇八番ノ一、三六〇八番ノ六、三六〇八番ノ七、三六〇八番ノ八、三六〇八番ノ九、三六〇九番ノ一、三六〇九番ノ四

同大字鵜木字石本

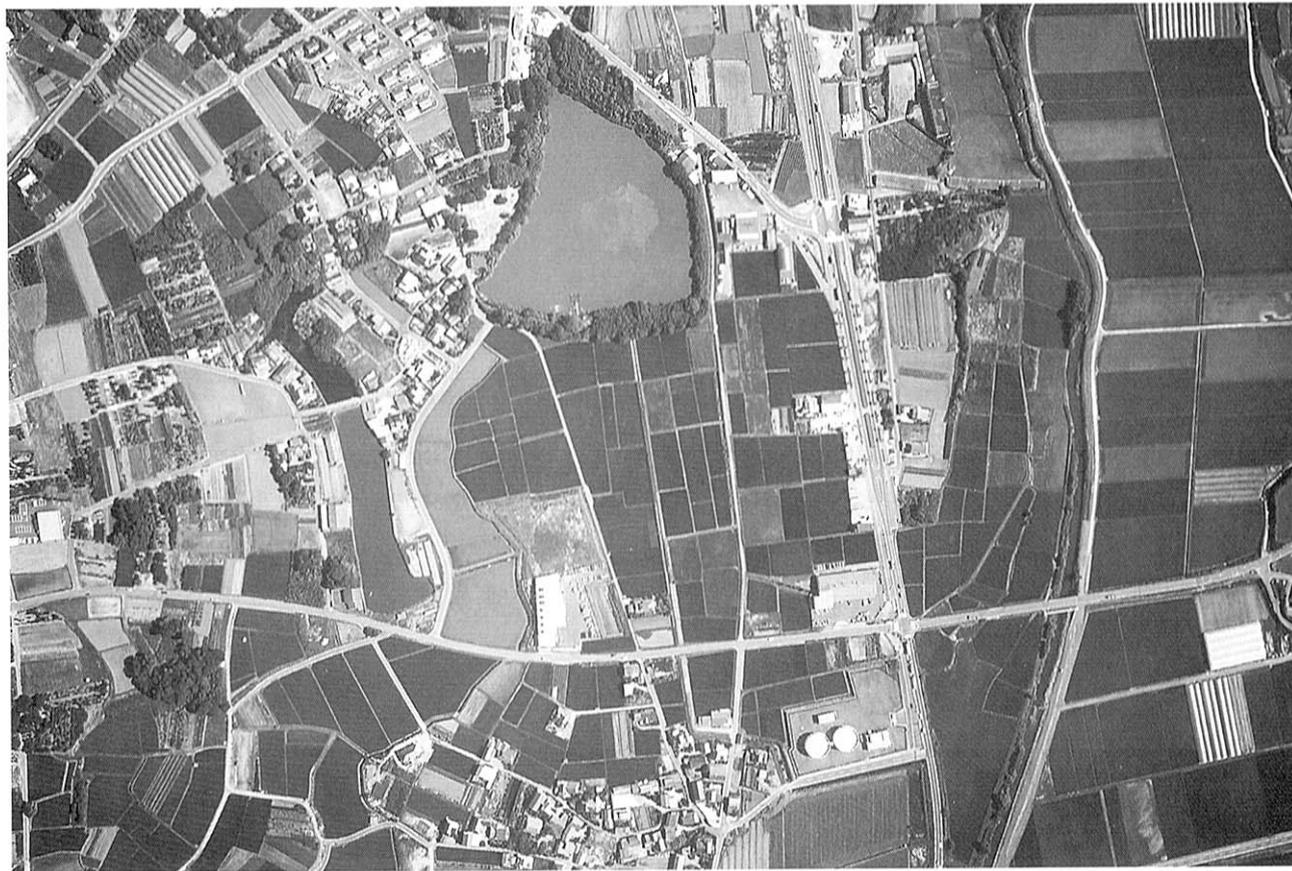
- 九七九番ノ一、九七九番ノ五、九八〇番、九八三番ノ一番、九八三番ノ六番、九八三番ノ七番、九八四番、九八七番

備考 一筆の土地のうち一部のみを指定するものについては、地域に關する実測図を福岡県教育委員会及び大刀洗町教育委員会に備え置いて縦覧に供する。

# 图 版



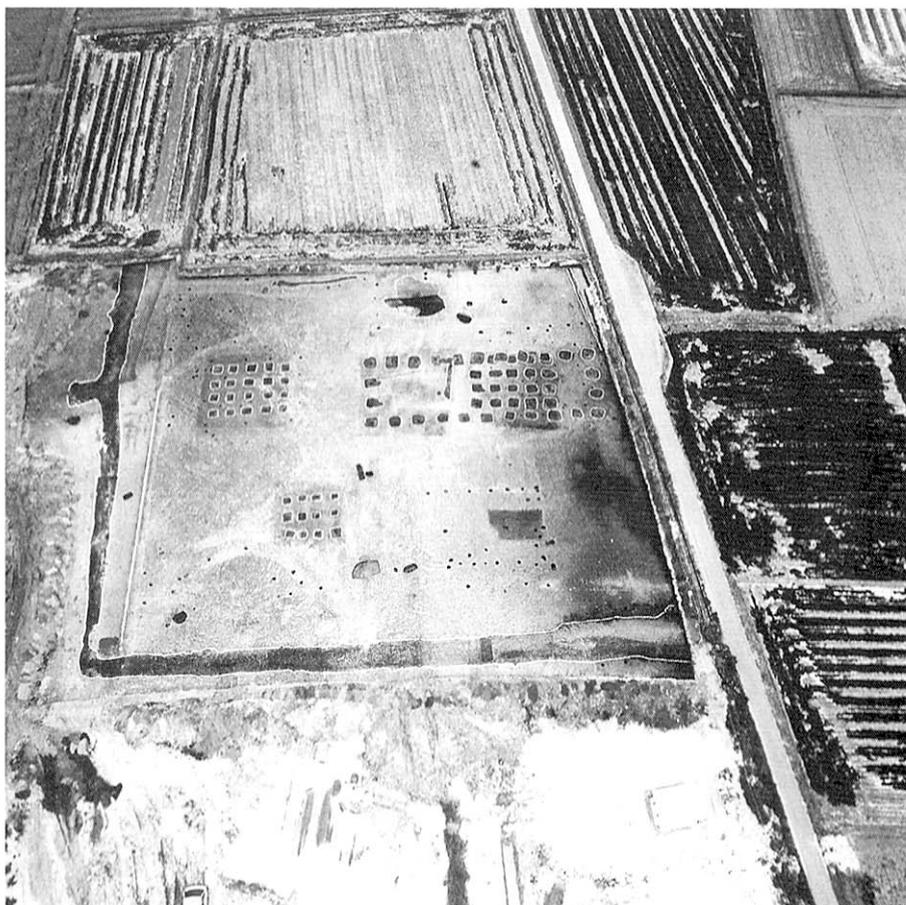
1 下高橋遺跡上空より小郡官衙遺跡・上岩田遺跡方面を望む



2 下高橋遺跡付近航空写真

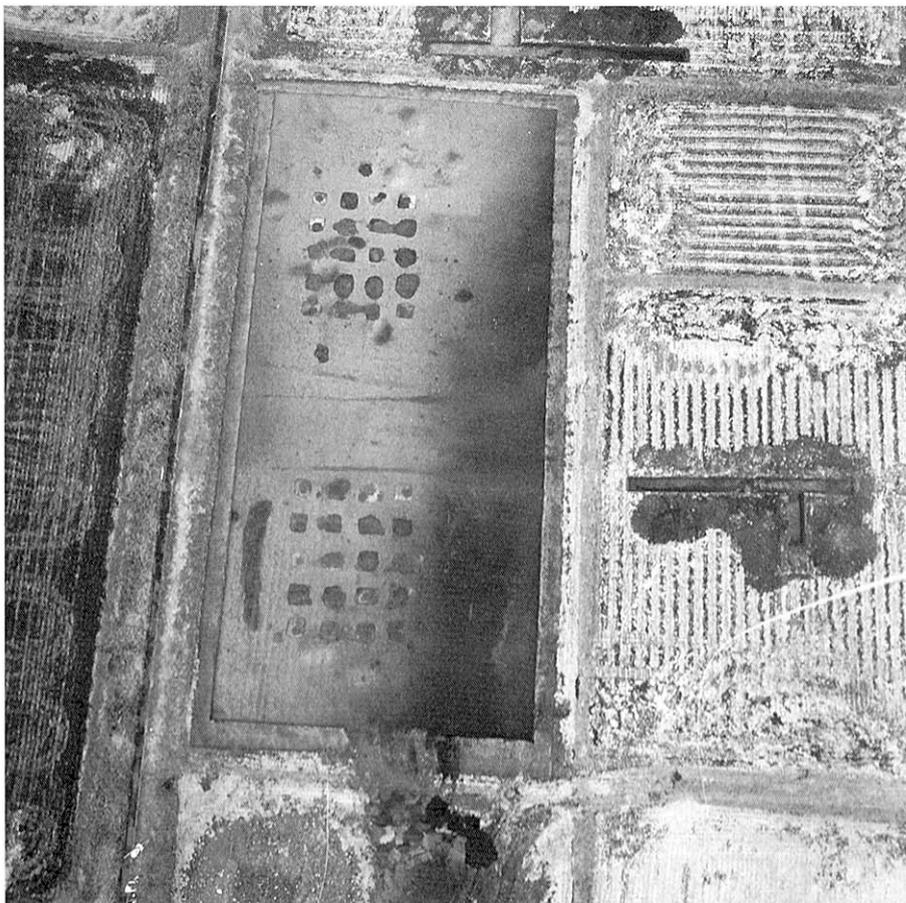
図版 2

- 1 下高橋上野遺跡  
平成4年度調査  
区全景

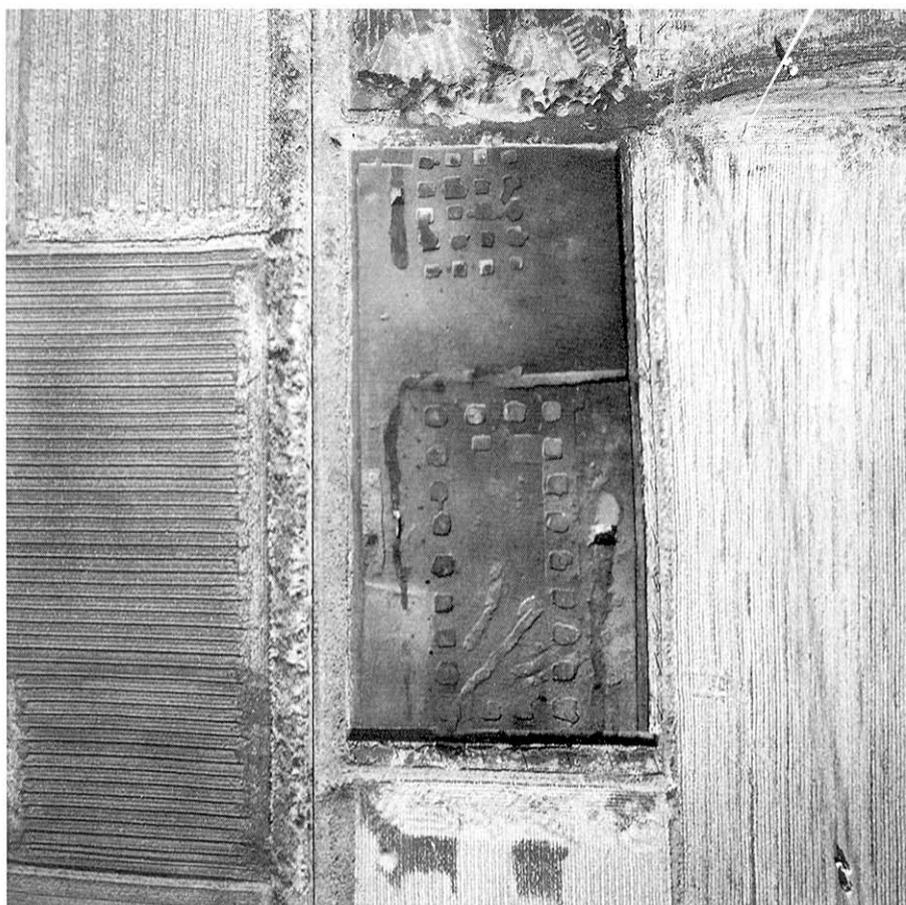


- 2 下高橋上野遺跡  
平成6年度調査  
区全景





1 下高橋上野遺跡  
上からSB15・  
SB14建物

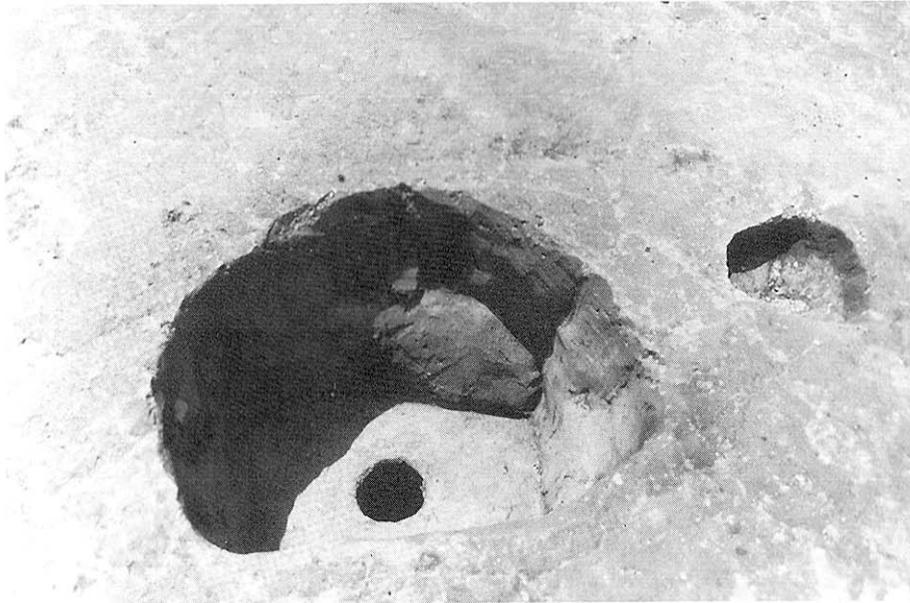


2 下高橋上野遺跡  
上からSB16・  
SB13建物

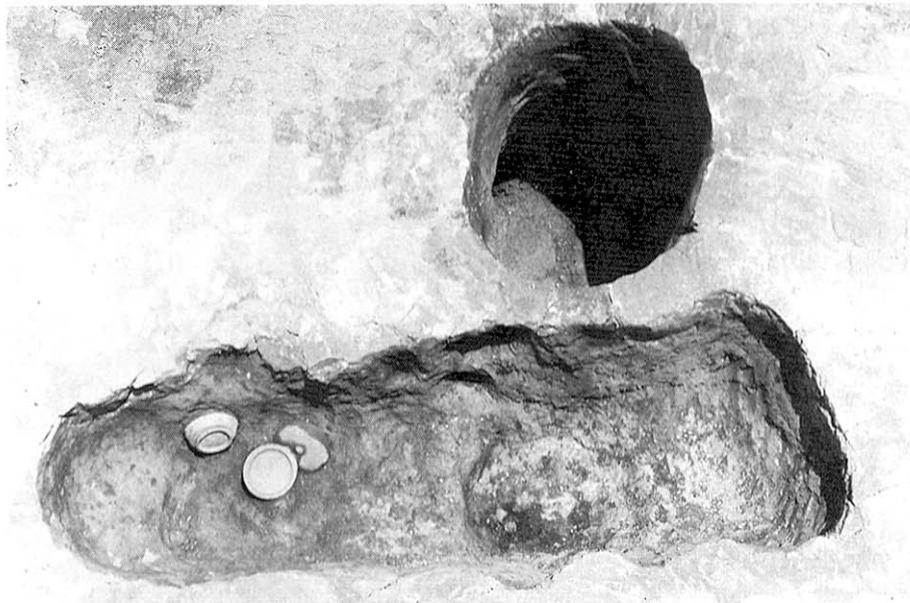
図版 4

下高橋上野遺跡

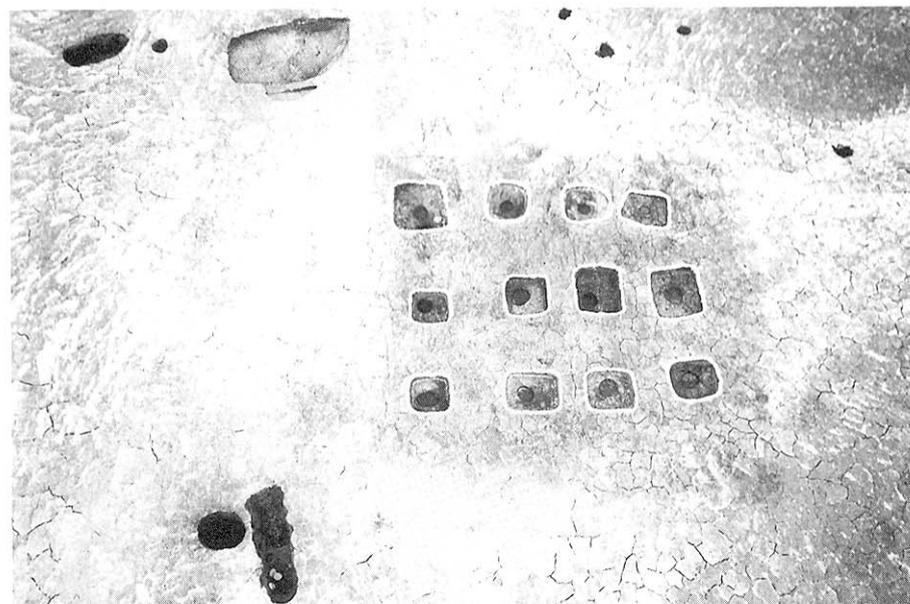
1 S J 1 落とし穴  
状遺構物



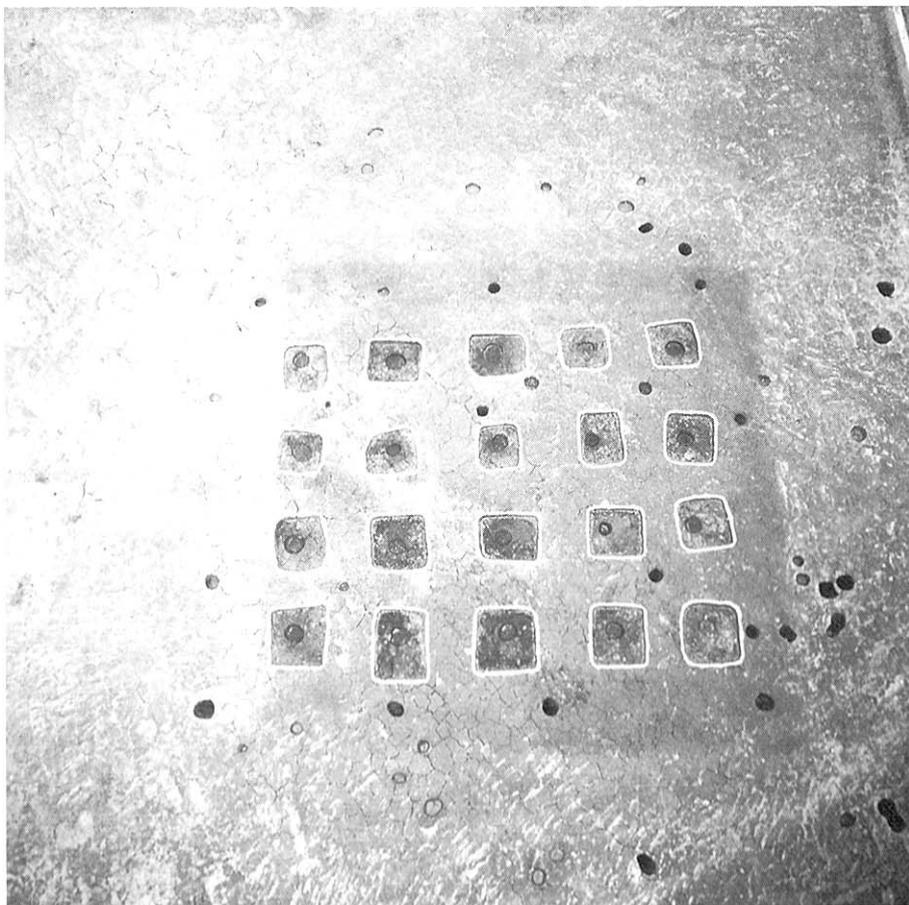
2 S J 3 落とし穴状  
遺構物・  
S R 1 土壙墓



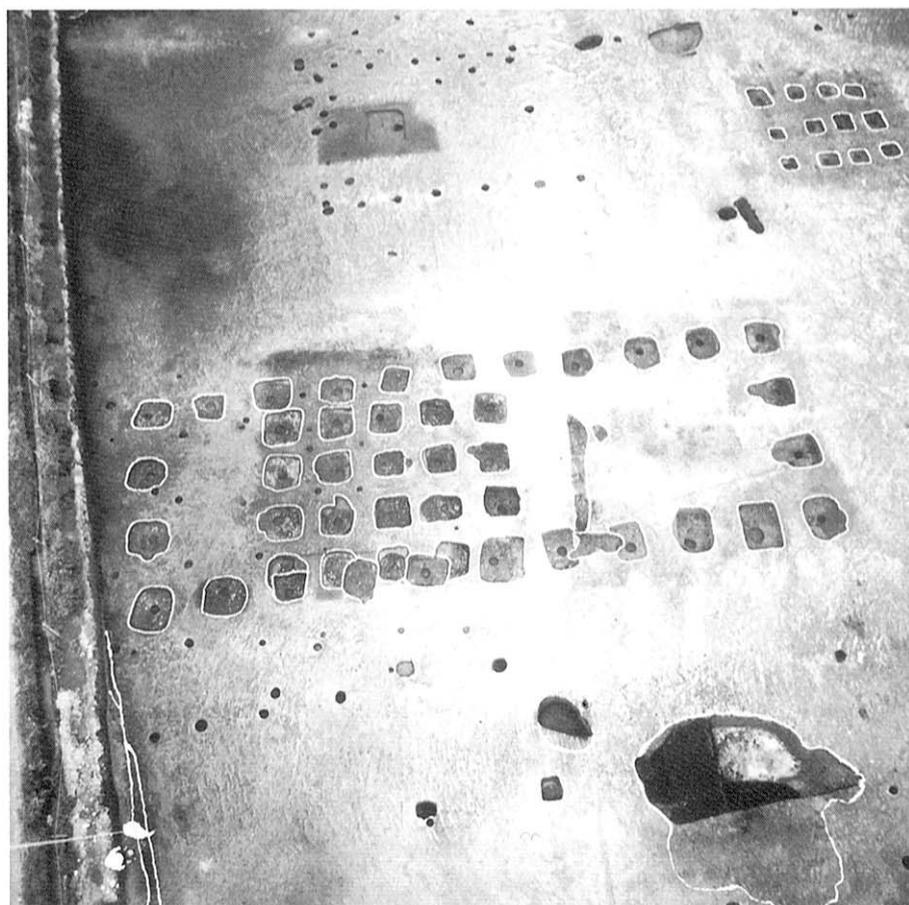
3 S B 1 建物全景



1 SB 2 建物



2 SB 3・SB 4 建物

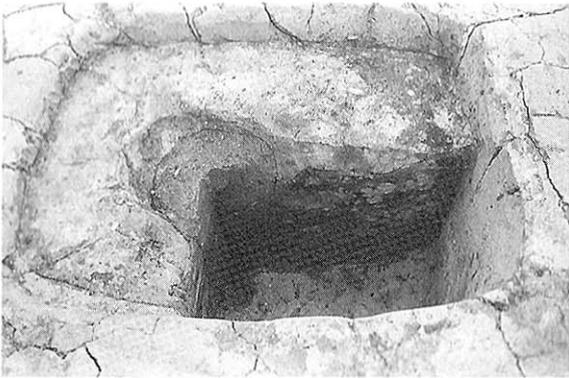




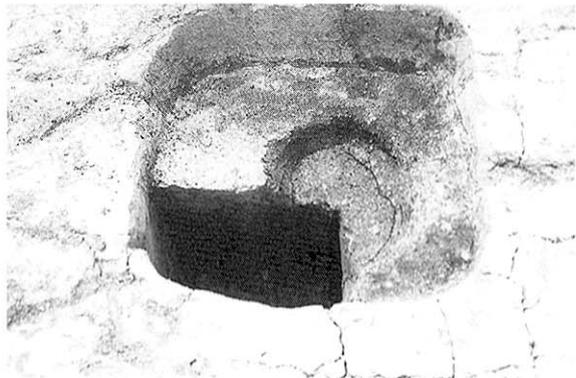
1 SB 1 建物 1 号柱穴



2 SB 1 建物 2 号柱穴



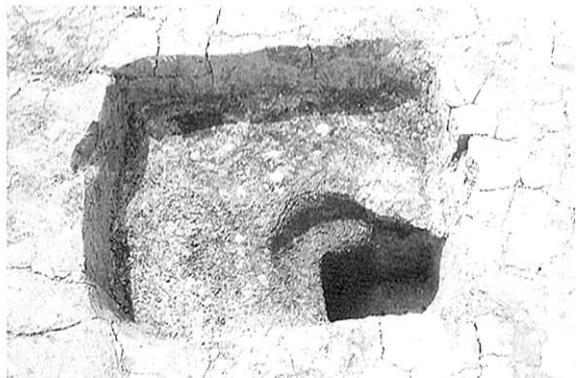
3 SB 1 建物 3 号柱穴



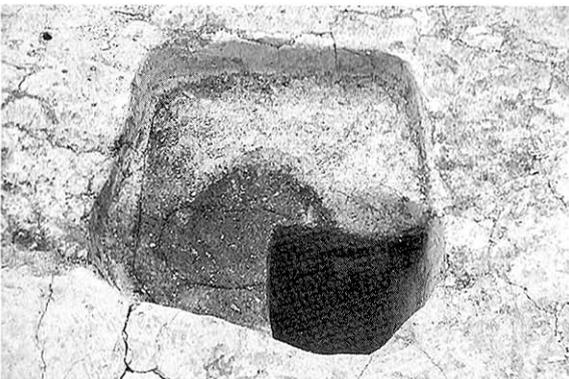
4 SB 1 建物 4 号柱穴



5 SB 1 建物 5 号柱穴



6 SB 1 建物 6 号柱穴



7 SB 1 建物 7 号柱穴



8 SB 1 建物 8 号柱穴



1 SB 1 建物 9 号柱穴



2 SB 1 建物 10 号柱穴



3 SB 1 建物 11 号柱穴



4 SB 1 建物 12 号柱穴



5 SB 2 建物 1 号柱穴



6 SB 2 建物 2 号柱穴



7 SB 2 建物 3 号柱穴



8 SB 2 建物 4 号柱穴



1 SB 2 建物 5 号柱穴



2 SB 2 建物 6 号柱穴



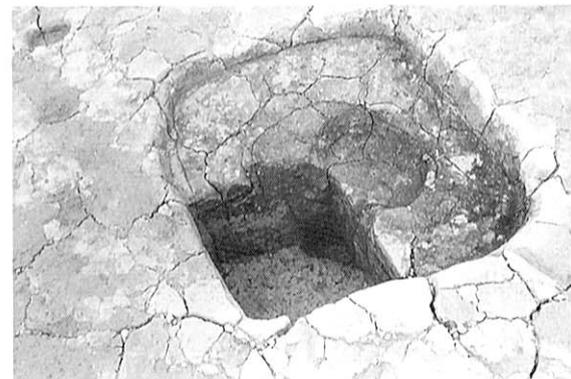
3 SB 2 建物 7 号柱穴



4 SB 2 建物 8 号柱穴



5 SB 2 建物 9 号柱穴



6 SB 2 建物 10 号柱穴



7 SB 2 建物 12 号柱穴



8 SB 2 建物 13 号柱穴



1 SB 2 建物14号柱穴



2 SB 2 建物15号柱穴



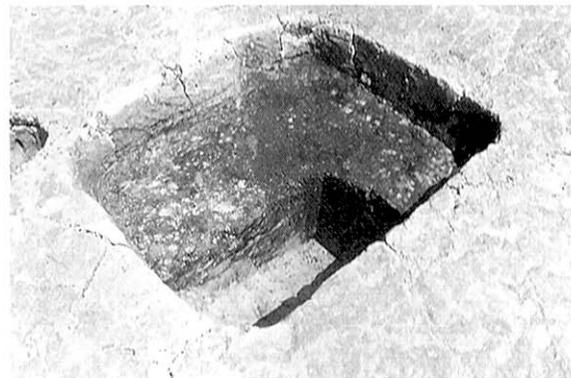
3 SB 2 建物16号柱穴



4 SB 2 建物16号柱穴



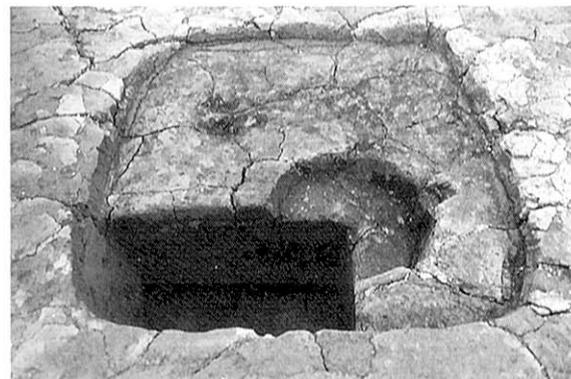
5 SB 2 建物17号柱穴



6 SB 2 建物18号柱穴



7 SB 2 建物19号柱穴



8 SB 2 建物20号柱穴



1 SB 4 建物 6 号柱穴



2 SB 4 建物 7 号柱穴



3 SB 4 建物 8 号柱穴



4 SB 2 建物 9 号柱穴



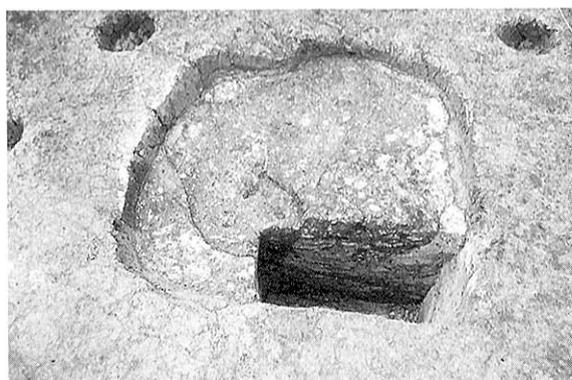
5 SB 4 建物 11 号柱穴



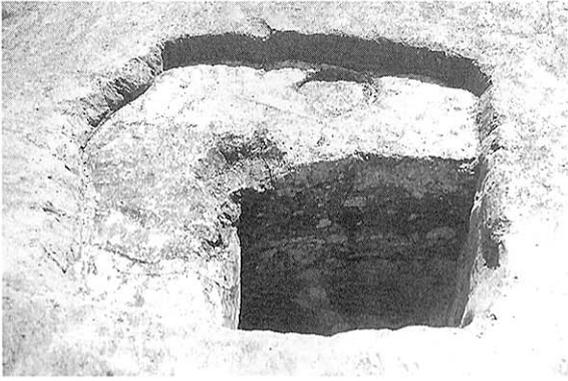
6 SB 4 建物 12 号柱穴



7 SB 4 建物 13 号柱穴



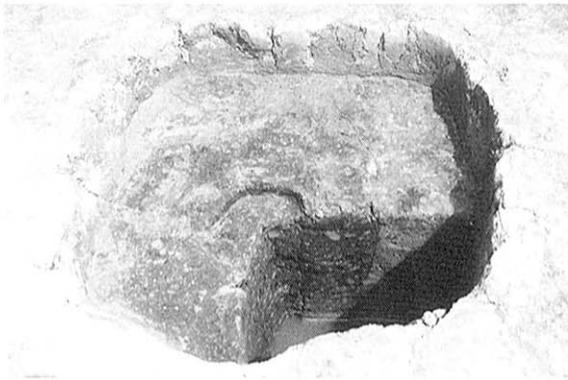
8 SB 4 建物 14 号柱穴



1 SB 4 建物15号柱穴



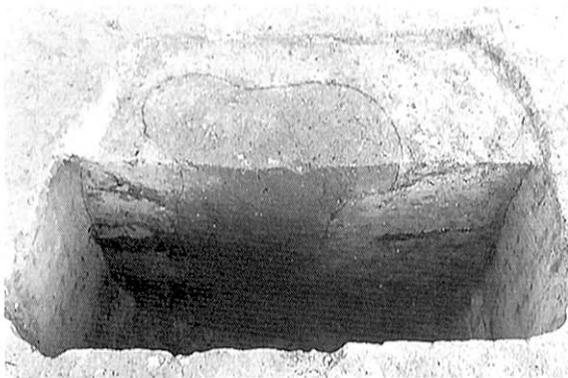
2 SB 4 建物16号柱穴



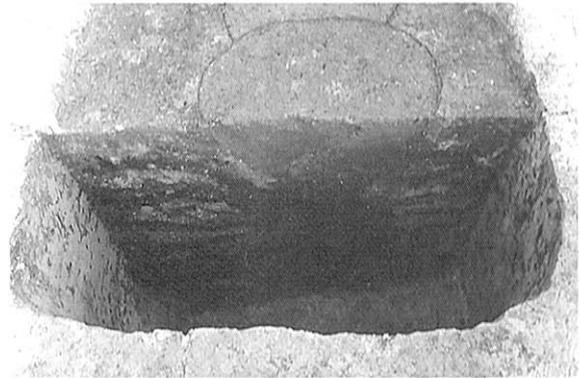
3 SB 4 建物17号柱穴



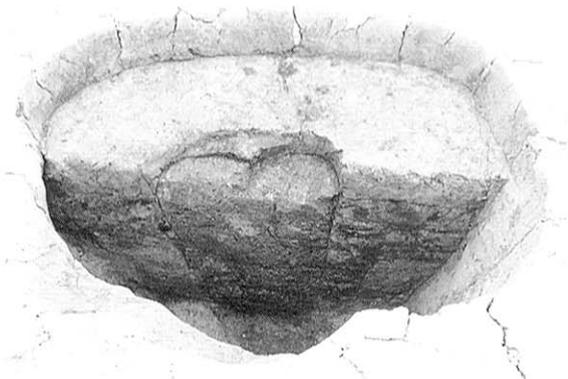
4 SB 4 建物19号柱穴



5 SB 15 建物 5 号柱穴



6 SB 15 建物 9 号柱穴



7 SB 3 建物 1 号柱穴



8 SB 3 建物 2 号柱穴



1 SB 3 建物 3 号柱穴



2 SB 3 建物 4 号柱穴



3 SB 3 建物 5 号柱穴



4 SB 3 建物 4 号柱穴



5 SB 3 建物 6 号柱穴 · SB 4 建物 1 号柱穴



6 SB 3 建物 6 号柱穴 · SB 4 建物 1 号柱穴



7 SB 3 建物 7 号柱穴



8 SB 3 建物 9 号柱穴 · SB 4 建物 5 号柱穴



1 SB 3 建物 8 号柱穴 · SB 4 建物 4 号柱穴



2 SB 3 建物 8 号柱穴 · SB 4 建物 4 号柱穴



3 SB 3 建物 10 号柱穴



4 SB 3 建物 11 号柱穴



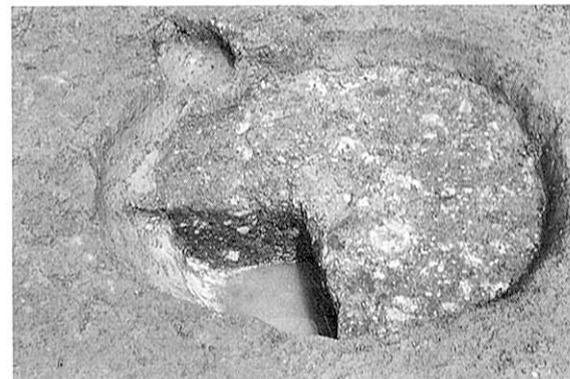
5 SB 3 建物 12 号柱穴



6 SB 3 建物 13 号柱穴



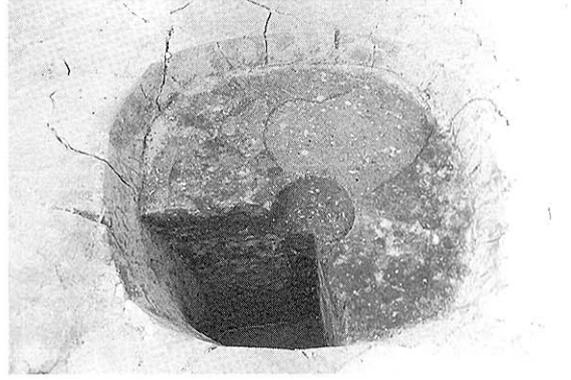
7 SB 3 建物 14 号柱穴



8 SB 3 建物 15 号柱穴



1 SB 3 建物16号柱穴



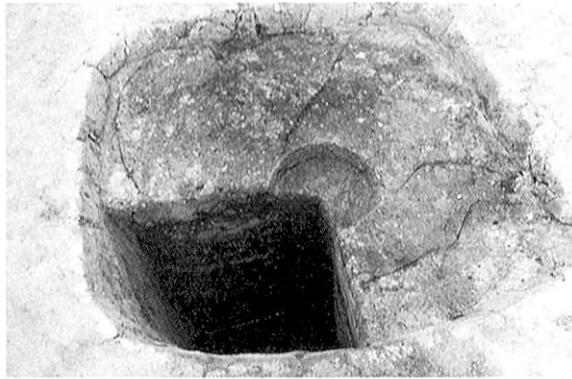
2 SB 3 建物17号柱穴



3 SB 3 建物18号柱穴



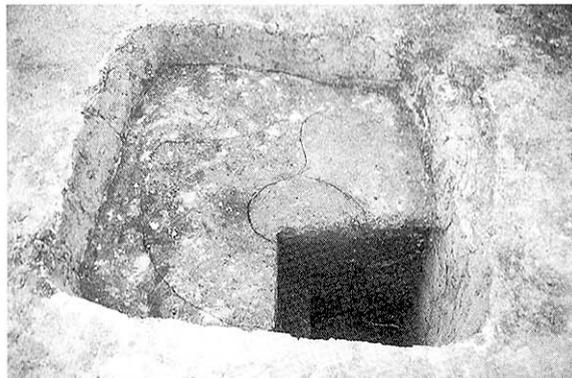
4 SB 3 建物19号柱穴



5 SB 3 建物20号柱穴



6 SB 3 建物21号柱穴



7 SB 3 建物22号柱穴



8 SB 3 建物23号柱穴



1 SB 3 建物24号柱穴



2 SB 3 建物25号柱穴



3 SB 3 建物26号柱穴



4 SB 12 建物確認状況



5 SB 12 建物



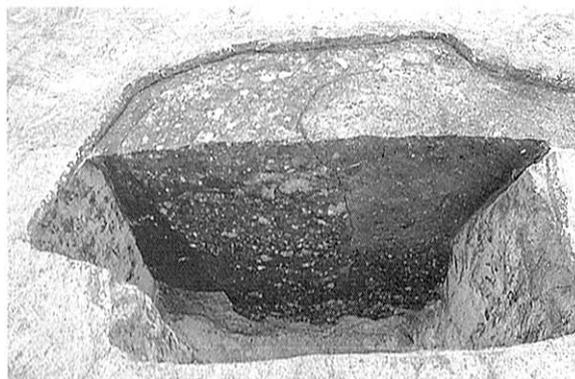
6 SB 12 建物



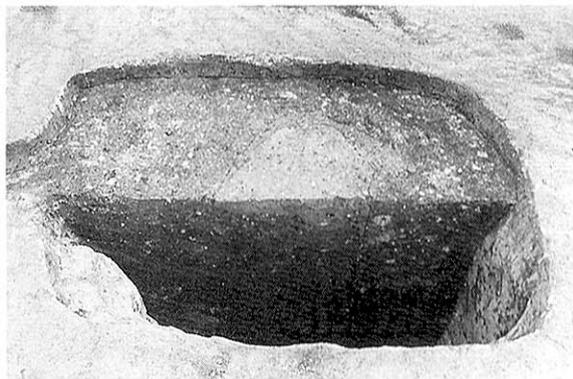
7 SB 10 建物確認状況



8 SB 10 建物確認状況



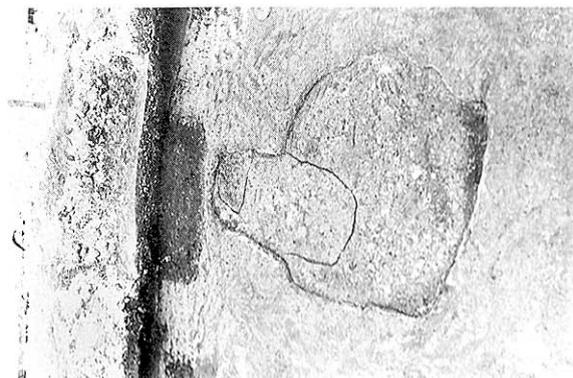
1 SB13建物7号柱穴



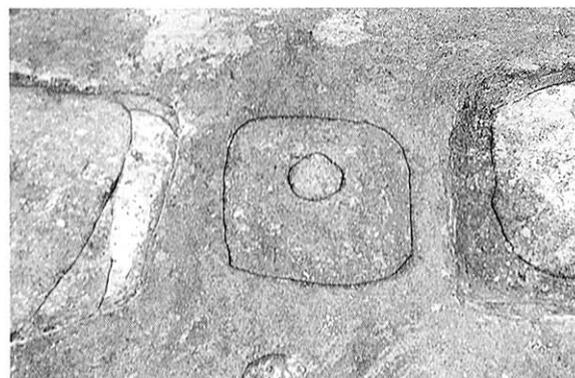
2 SB13建物9号柱穴



3 SB13建物19号柱穴



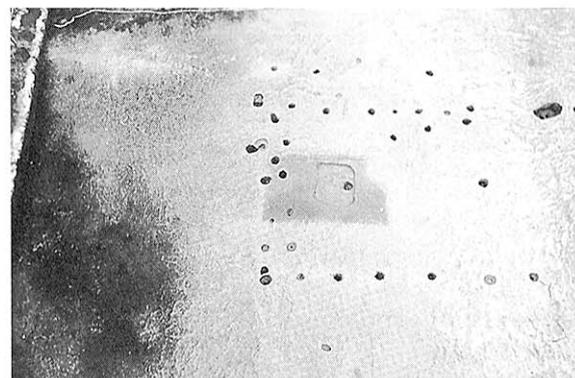
4 SB13建物22号柱穴



5 SB13建物北梁列棟持柱柱穴



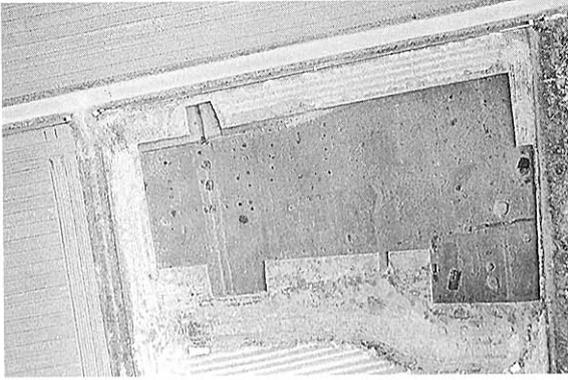
6 SB16建物9号柱穴鉄斧出土状況



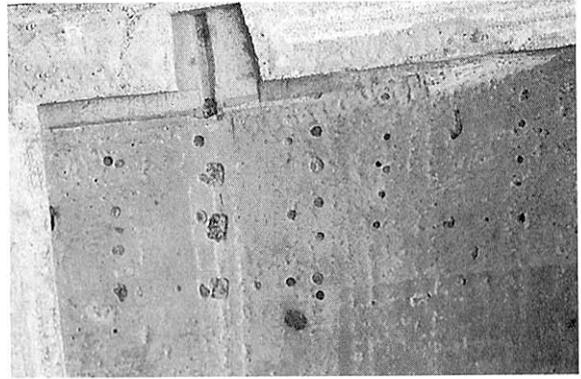
7 SB5建物



8 SB6建物SK3土坑



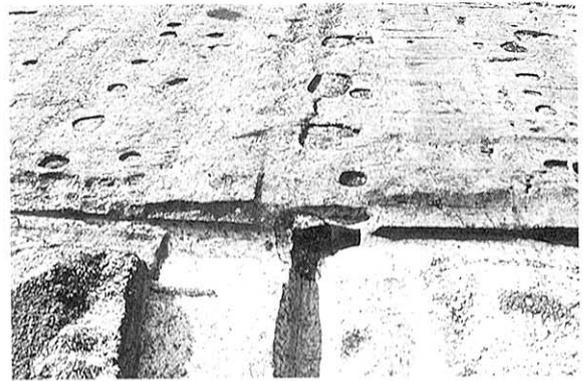
1 95-2 トレンチ全景



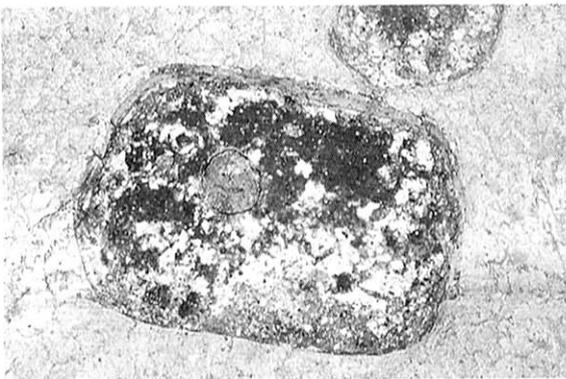
2 SB17・18・19・SA9 付近



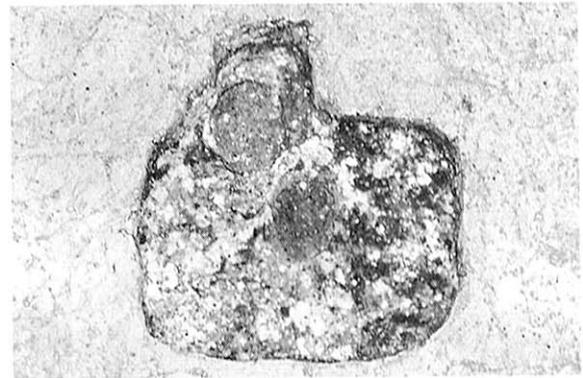
3 SB17建物



4 SB18・19建物・SA9 柵



5 SA9 柵 2号柱穴



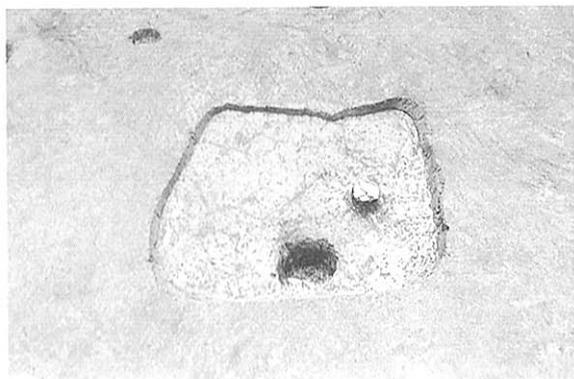
6 SA9 柵 3号柱穴



7 SA9 柵 2号柱穴半裁状況



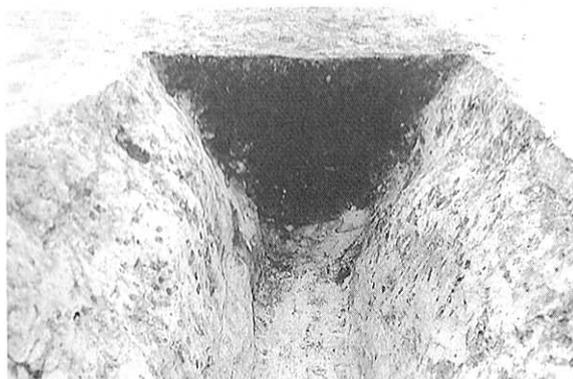
8 SA9 柵 3号柱穴半裁状況



1 SK1土坑



2 SK3土坑



3 SD17 (SB16建物西側溝)



4 SD18 (SB13東側溝)



5 SD26・27付近



6 SD27溝



7 95-3 トレンチ (SD28・29)



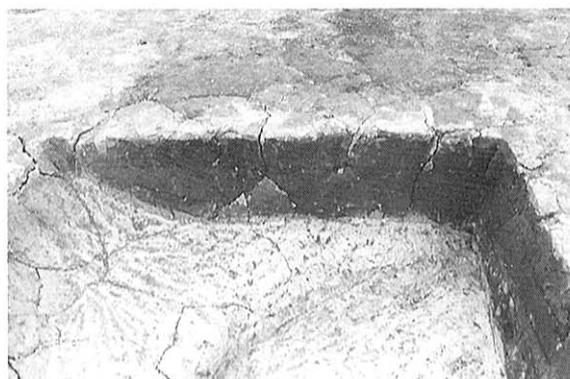
8 区画大溝南西コーナー付近



1 区画大溝断面 (A—B)



2 区画大溝断面 (C—D)



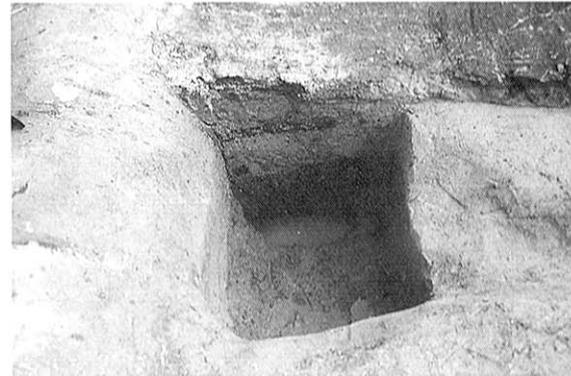
3 区画大溝張出部断面 (K—L)



4 区画大溝張出部断面 (K—L)



5 区画大溝張出部付近



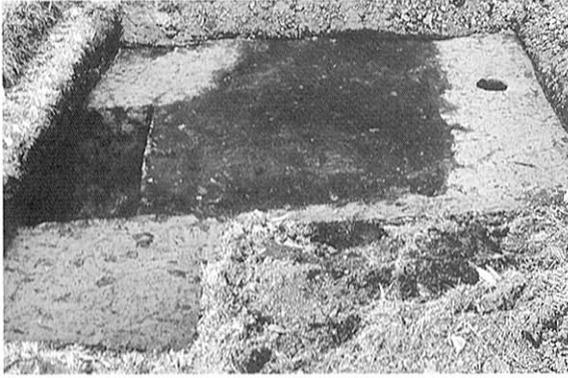
6 区画大溝底土坑の状況



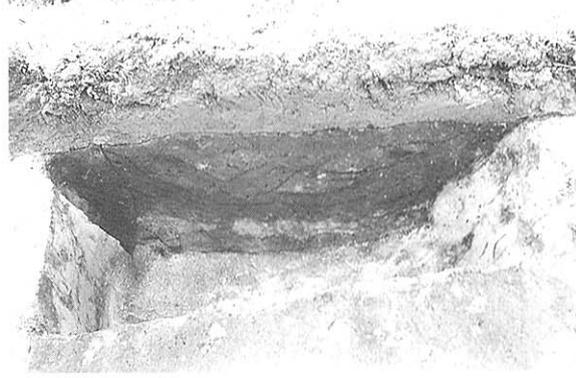
7 区画大溝南西コーナー部遺物出土状況



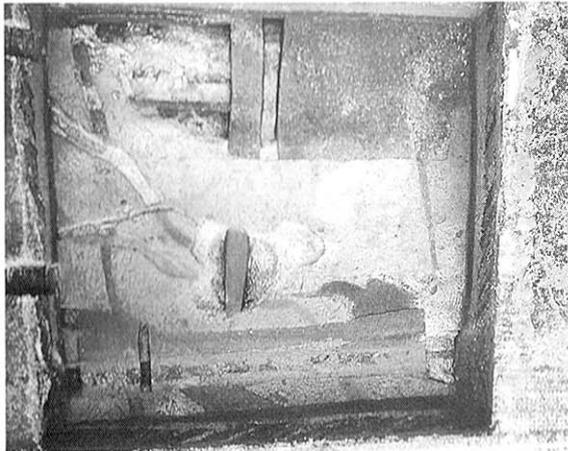
8 区画大溝南西コーナー部遺物出土状況



1 区画大溝南東コーナー



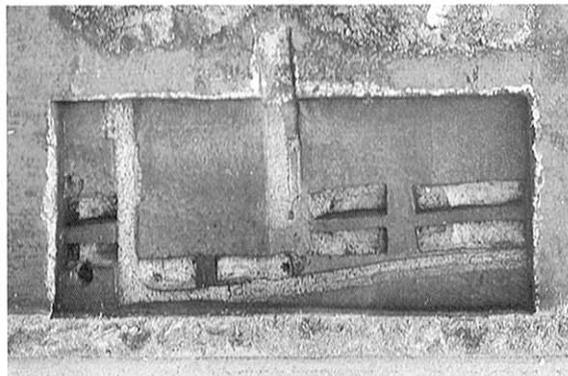
2 区画大溝南東コーナー部断面



3 95-1 トレンチ全景



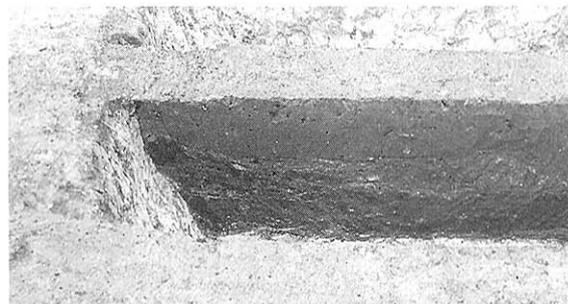
4 95-1 トレンチ大溝南北断面



5 95-4 トレンチ全景



6 95-4 トレンチ近景



7 95-4 トレンチ区画大溝断面 1



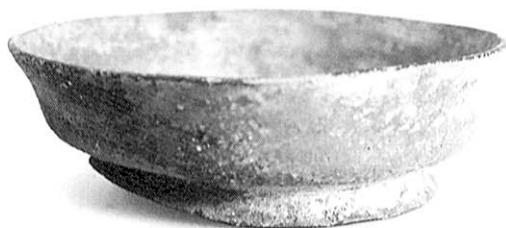
8 95-4 トレンチ区画大溝断面 2



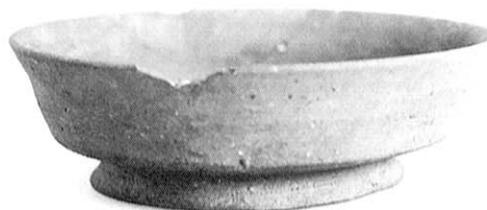
1 土壙墓出土土器 (8-1)



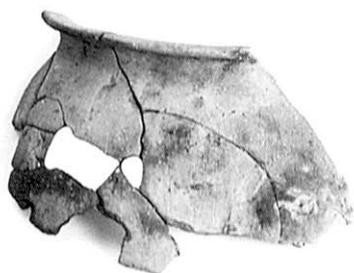
2 土壙墓出土土器 (8-2)



3 土壙墓出土土器 (8-3)



4 土壙墓出土土器 (8-4)



5 土壙墓出土土器 (8-5)



6 建物出土鉄器 (22)  
7 建物出土鉄器 (23)



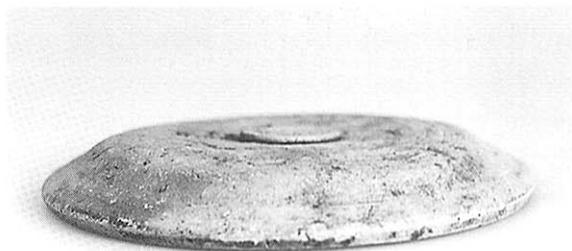
8 SK1土坑出土土器 (36-1)



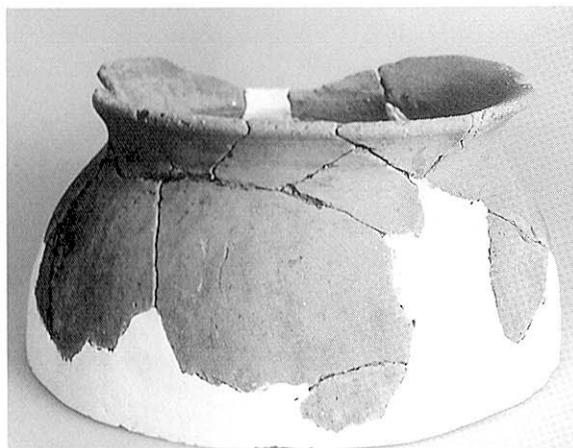
9 SK1号土坑出土土器 (36-2)



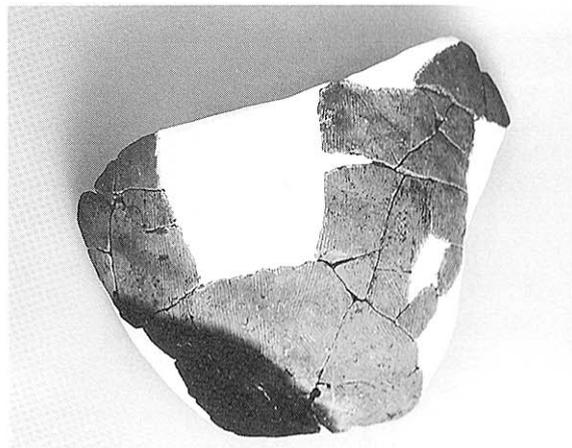
1 S B 15建物出土土器 (21-1)



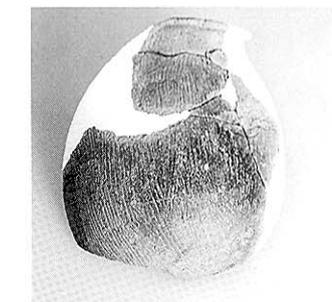
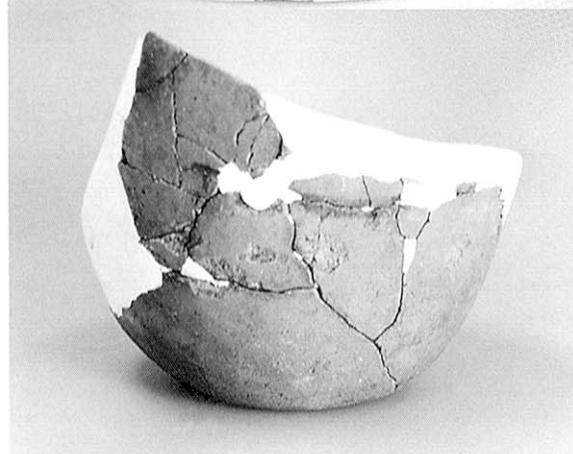
2 区画大溝出土土器 (43-2)



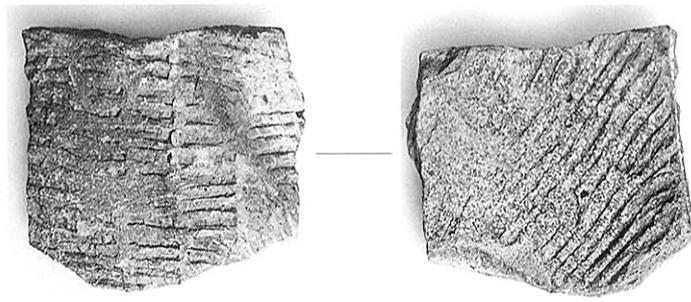
3 区画大溝出土土器 (43-5・6)



4 区画大溝出土土器 (54-9)



5 区画大溝出土土器 (53-5)

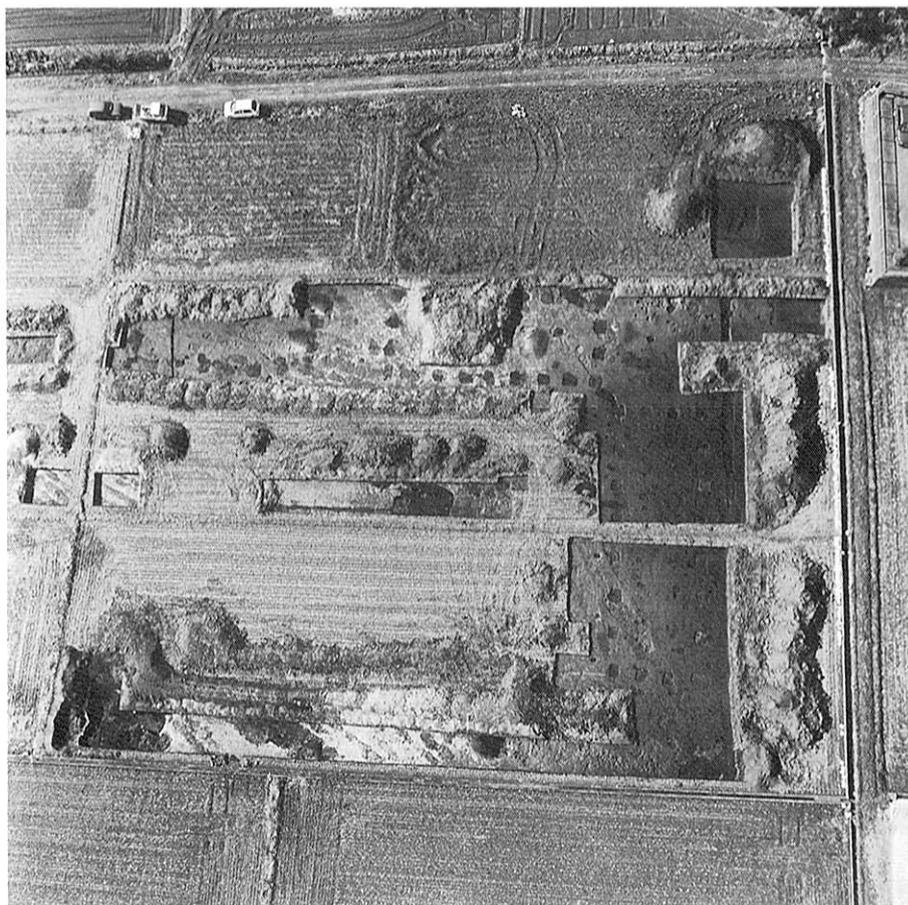


6 96-4 トレンチ出土土器 (55-3)

1 下高橋馬屋元遺跡  
全景



2 下高橋馬屋元遺跡  
調査区北部  
(S B1・2・5付近)



1 下高橋馬屋元遺跡  
SB3 建物付近

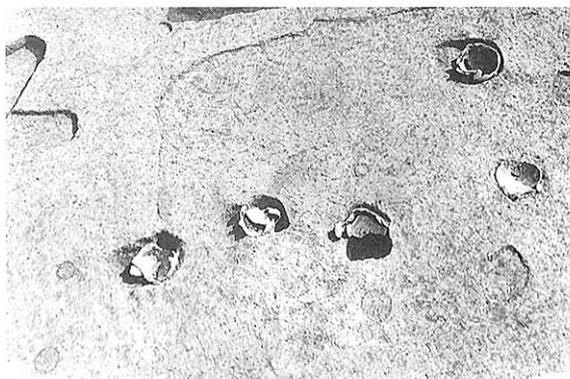


2 下高橋馬屋元遺跡  
県教委調査地点  
区画大溝

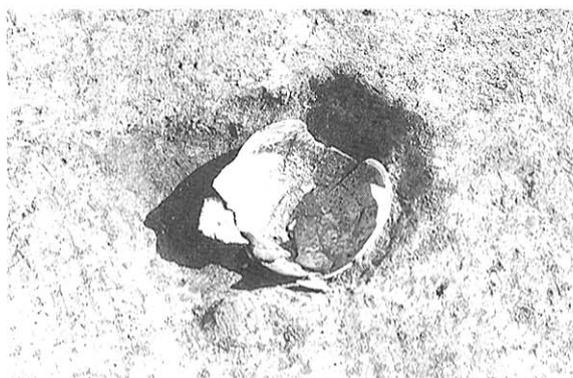




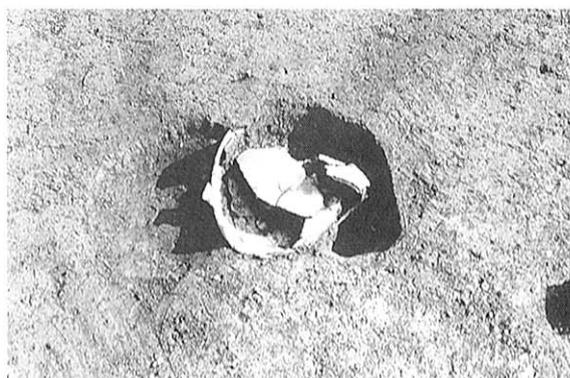
1 S J 1 落とし穴状遺構



2 甕棺墓群全景



3 1号甕棺墓



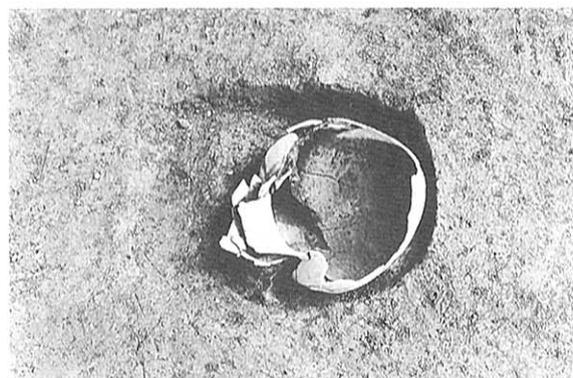
4 2号甕棺墓



5 3号甕棺墓



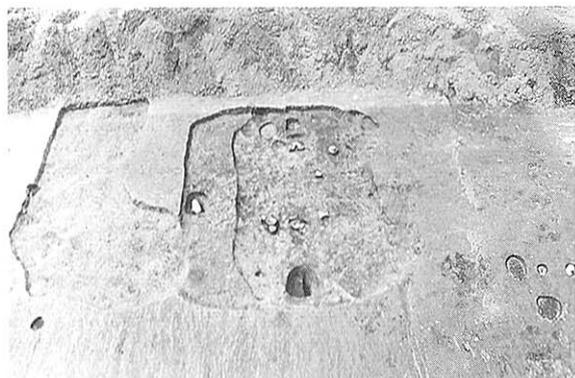
6 4号甕棺墓



7 5号甕棺墓



8 1号住居跡



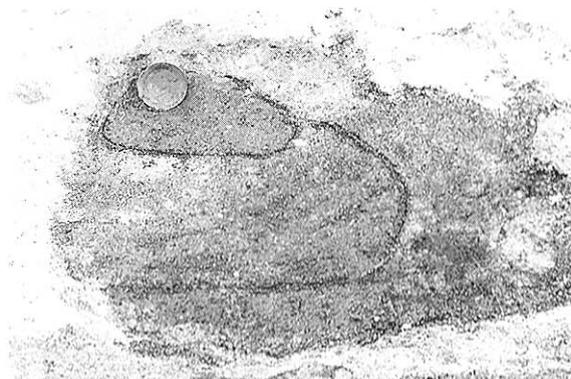
1 2号住居跡



2 3号住居跡



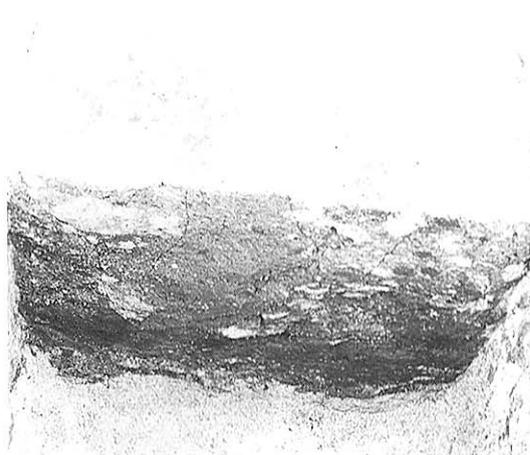
3 4号住居跡



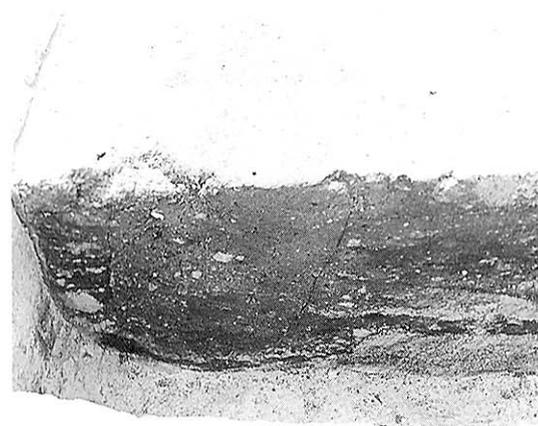
4 SB 1 建物遺物出土状態



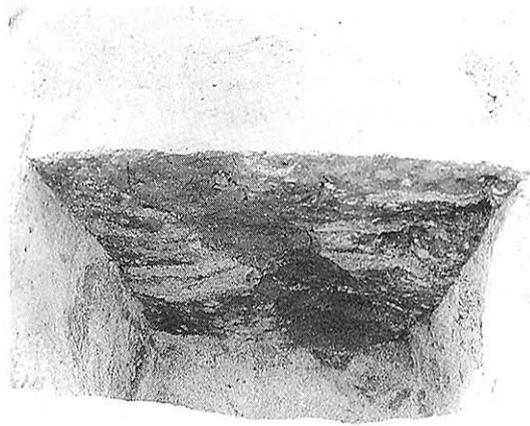
5 SB 5 建物10号柱穴断面



6 SB 5 建物12号柱穴断面



7 SB 5 建物14号柱穴断面



8 SB 5 建物15号柱穴断面



1 下高橋馬屋元遺跡  
S B 1 建物



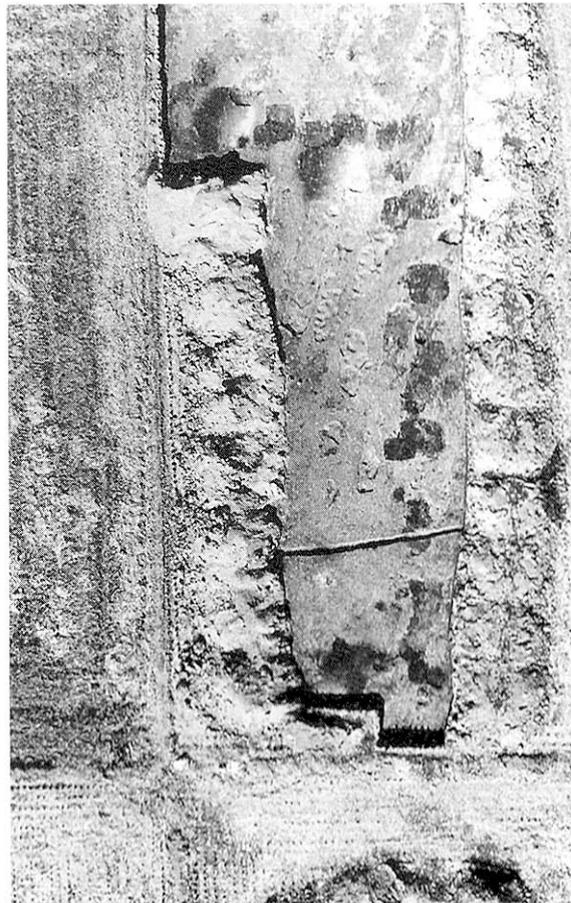
2 下高橋馬屋元遺跡  
S B 2 建物



3 下高橋馬屋元遺跡  
S B 3・4 建物



1 SB1 建物



2 SB2 建物



3 SB5 建物



1 下高橋馬屋元遺跡  
S B 5 建物周辺



2 下高橋馬屋元遺跡  
S B 5 建物から東を望む



3 下高橋馬屋元遺跡  
S B 6 建物

1 下高橋馬屋元遺跡  
96-1 トレンチ区画溝 (南から)

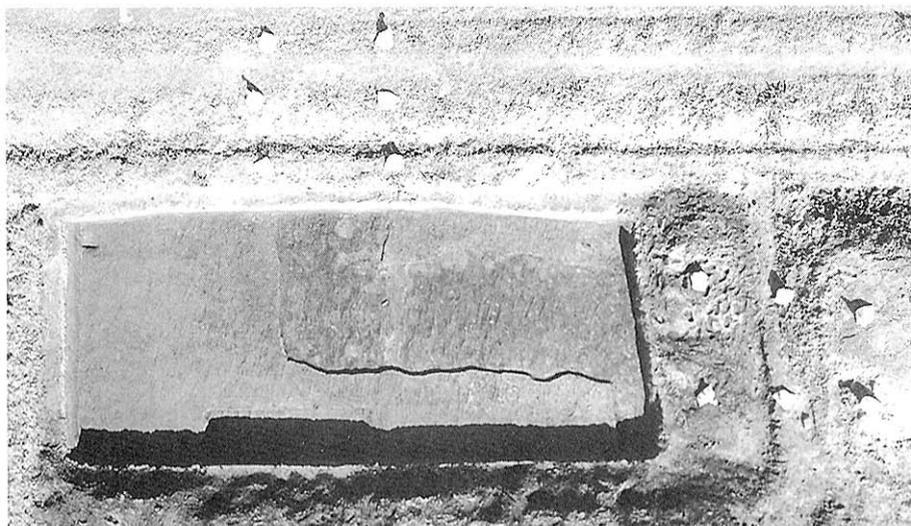


2 下高橋馬屋元遺跡  
96-1 トレンチ区画溝 (西から)

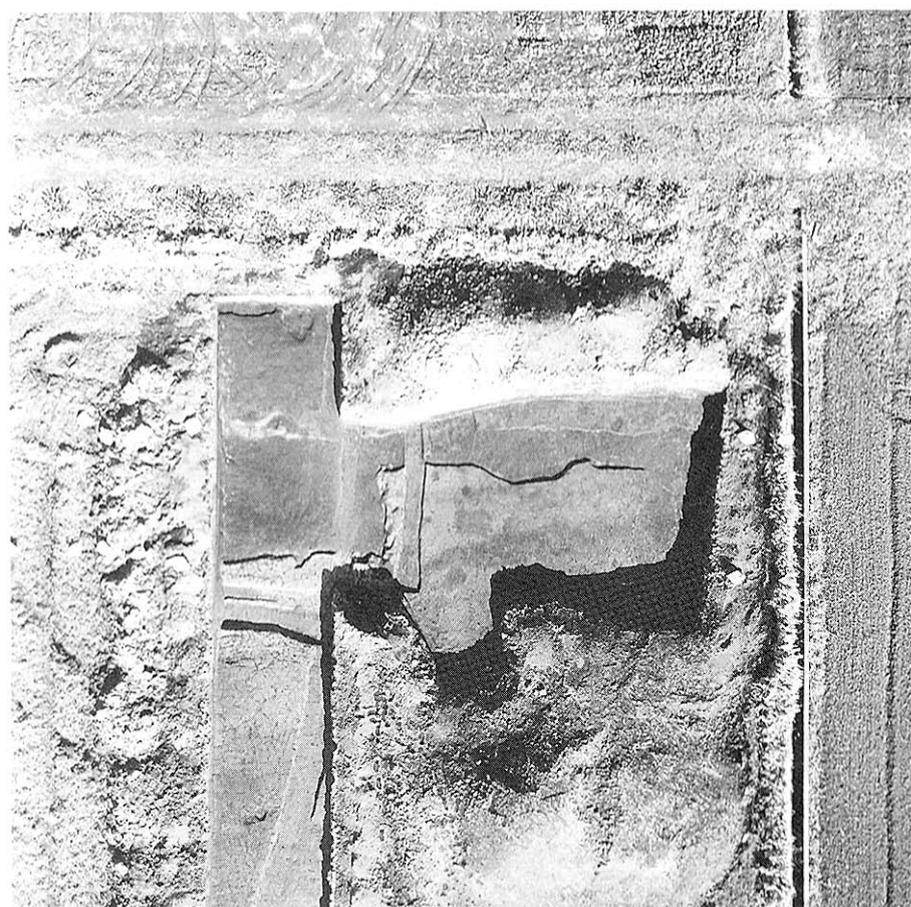


3 下高橋馬屋元遺跡  
96-1 トレンチ断面





1 下高橋馬屋元遺跡  
96-5 トレンチ  
区画大溝南西  
コーナー



2 下高橋馬屋元遺跡  
96-8 トレンチ  
区画大溝南辺



3 下高橋馬屋元遺跡  
96-5・8 トレンチ  
遠景

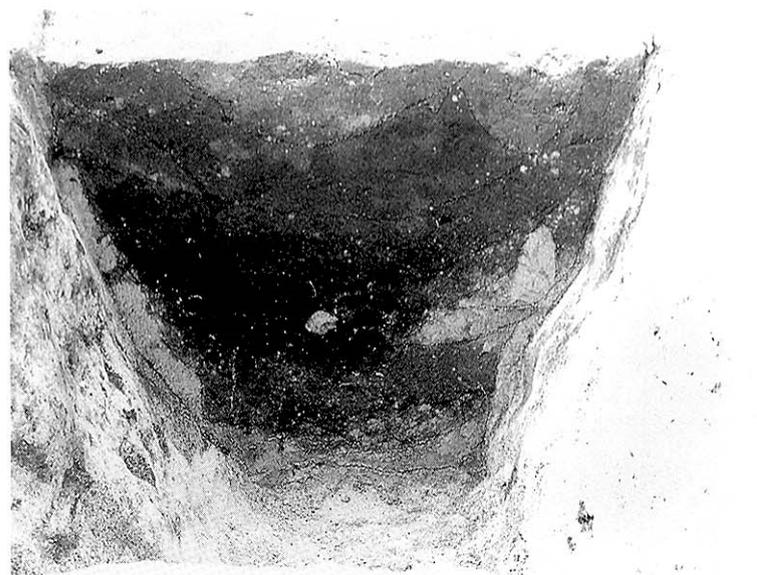
- 1 下高橋馬屋元遺跡  
96-9 トレンチ  
区画大溝南東コーナー



- 2 下高橋馬屋元遺跡  
97-1 トレンチ  
区画小溝張出部断面



- 3 下高橋馬屋元遺跡  
97-1 トレンチ  
区画小溝断面

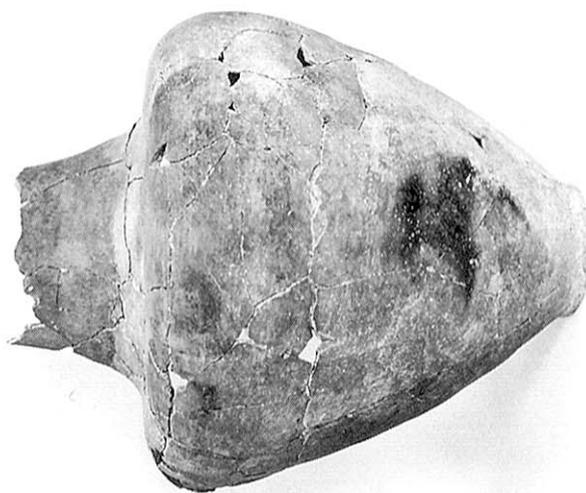




1 下高橋馬屋元遺跡1号甕棺

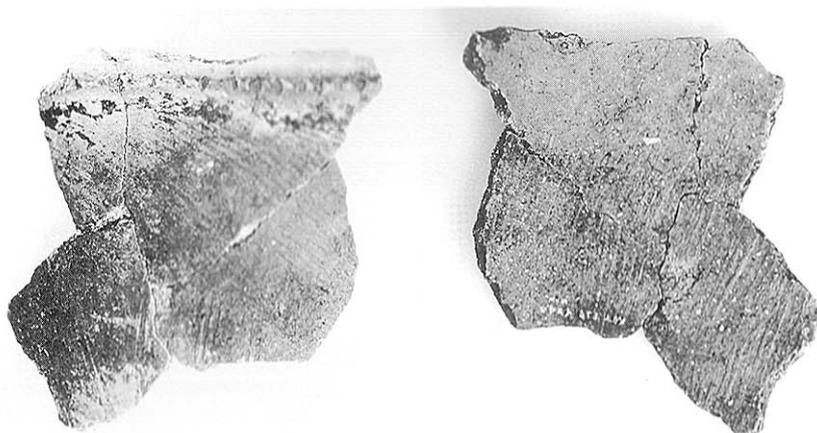


2 下高橋馬屋元遺跡2号甕棺



3 下高橋馬屋元遺跡5号甕棺

1 下高橋馬屋元遺跡  
3号甕棺上甕



2 下高橋馬屋元遺跡 3号甕棺下甕



3 下高橋馬屋元遺跡 4号甕棺下甕



4 下高橋馬屋元遺跡  
5号甕棺上甕部分拡大



1 SC 1号住居跡出土土器 (75-2)



2 SC 2号住居跡出土土器 (77-6)



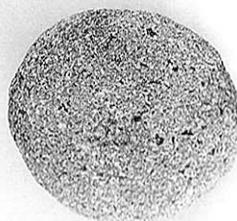
3 SC 2号住居跡出土土器 (77-7)



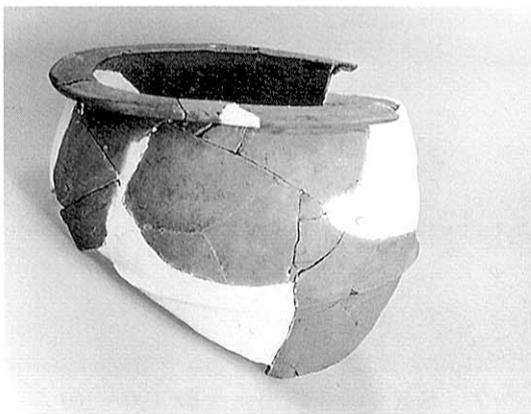
4 SC 2号住居跡出土土器 (77-9)



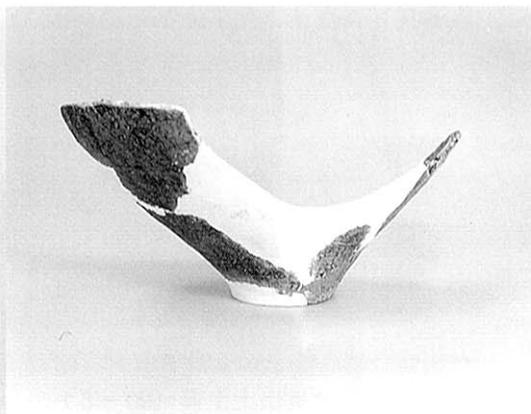
5 SC 2号住居跡出土土器 (78-23)



6 SC 3号住居跡出土石器 (79)



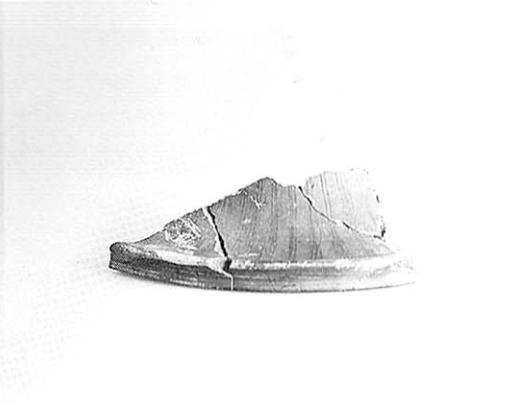
7 SC 3号住居跡出土土器 (80-4)



8 SC 3号住居跡出土土器 (81-7)



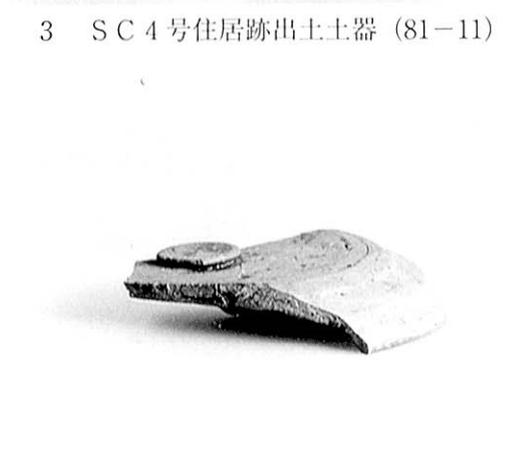
1 SC 3号住居跡出土土器 (81-8)



2 SC 3号住居跡出土土器 (81-10)



3 SC 4号住居跡出土土器 (81-11)



4 SK 1号土坑出土土器 (90-2)



5 SB 1建物出土土器 (82)



6 SK 1号土坑出土土器 (90-5)



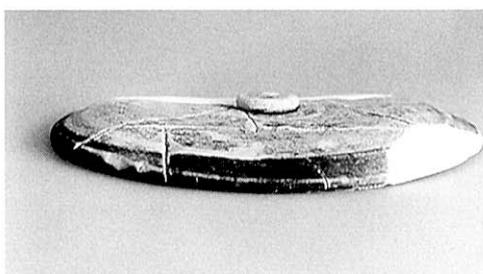
7 SK 1号土坑出土土器 (90-10)



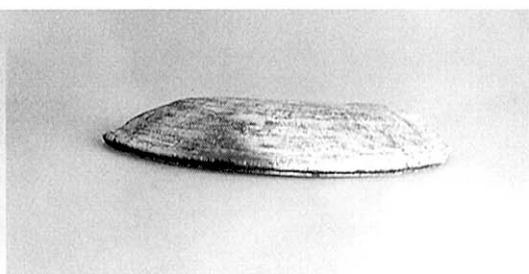
1 SK 1号土坑出土墨书土器 (90-112)



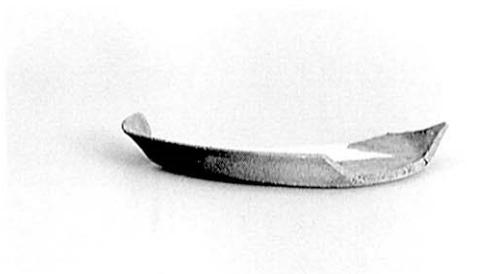
2 SK 2号土坑出土土器 (90-12)



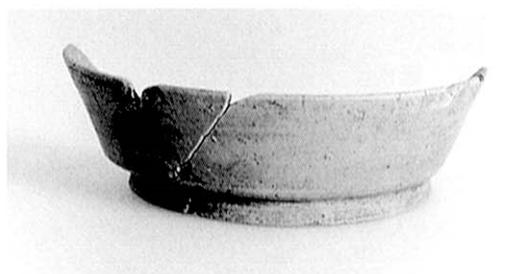
3 SK 5号土坑出土土器 (91-4)



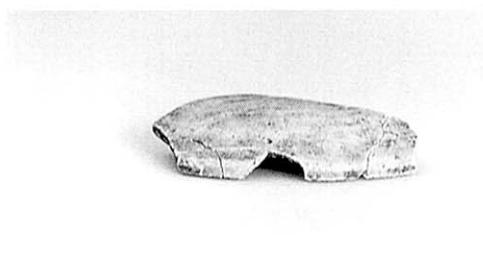
4 SK 5号土坑出土土器 (91-59)



5 SK 5号土坑出土土器 (91-8)



6 SK 5号土坑出土土器 (91-10)



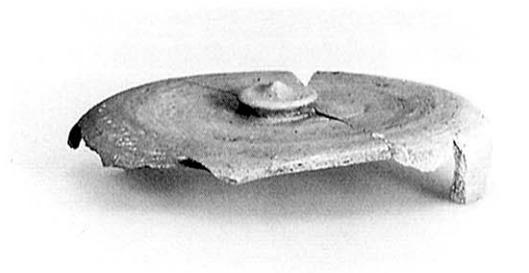
7 SK 5号土坑出土土器 (91-14)



8 SK 5号土坑出土土器 (91-17)



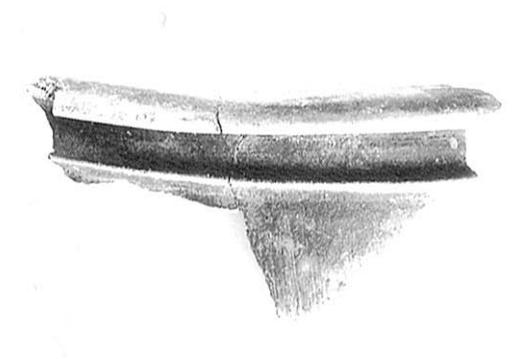
9 SK 5号土坑出土土器 (91-19)



10 SK 5号土坑出土土器 (92-11)



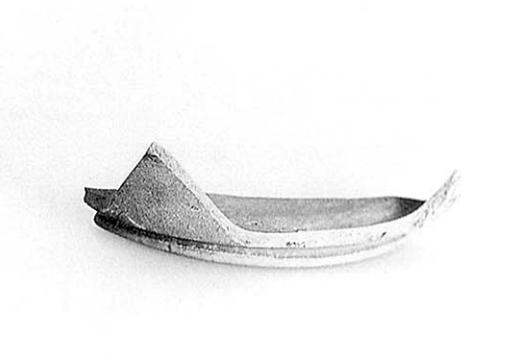
1 SK 6号土坑出土土器 (93-1)



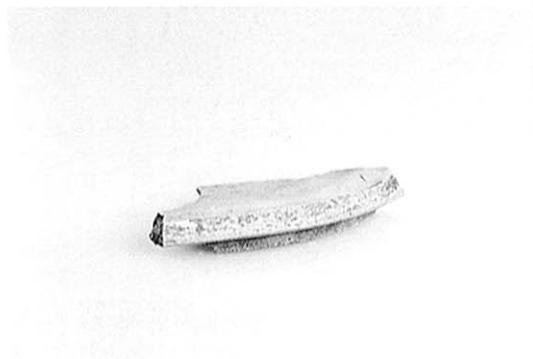
2 SK 7号土坑出土土器 (94-3)



3 区画小溝出土土器 (102-8)



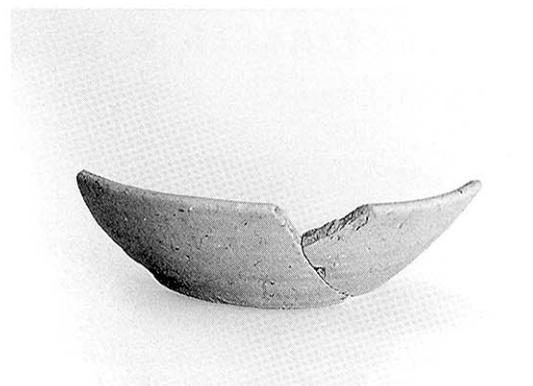
4 区画大溝出土土器 (103-2)



5 区画大溝出土土器 (103-4)



6 区画大溝出土土器 (103-5)



7 区画大溝出土土器 (103-6)



8 区画大溝出土土器 (103-9)



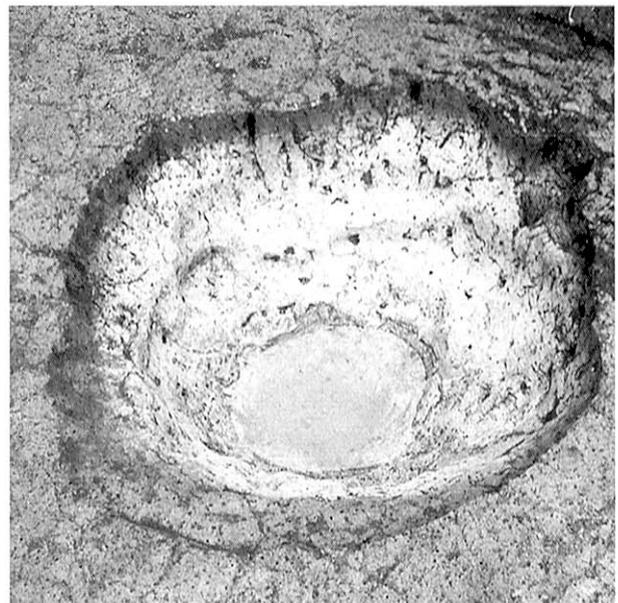
1 確認調査区  
北調査区全景



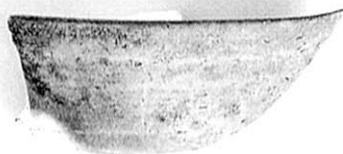
2 確認調査区  
南調査区全景



3 南調査区 区画溝



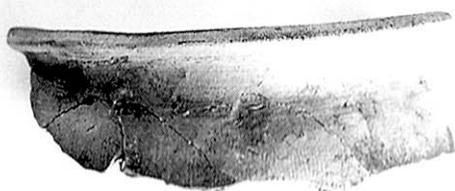
4 北調査区 土坑



1 確認調査土坑出土土器 (107-4)



2 確認調査土坑出土土器 (107-5)



3 確認調査土坑出土土器 (107-13)



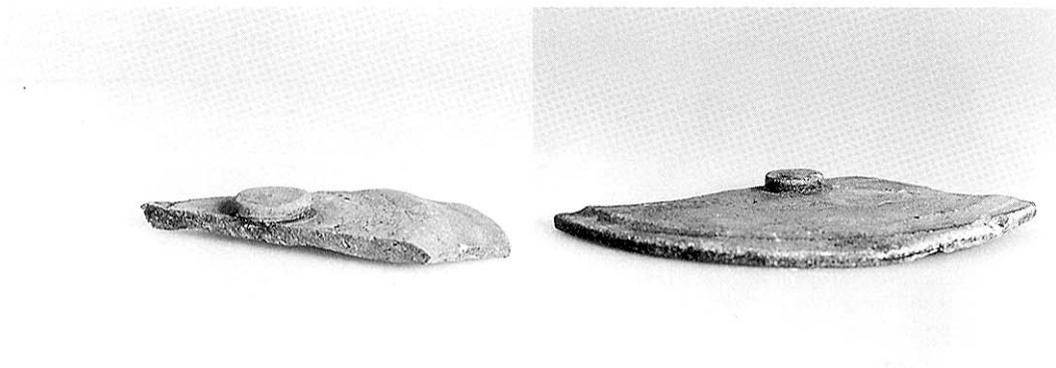
4 確認調査土坑出土土器 (107-17)



5 確認調査土坑出土土器 (108-20)



6 確認調査土坑出土土器 (107-18)



1 7地点出土土器 (109-1)

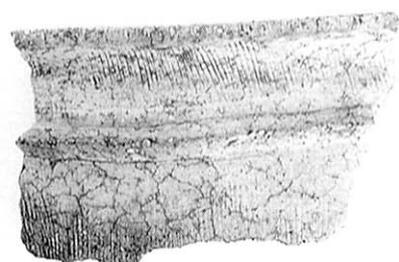
2 7地点出土土器 (109-2)



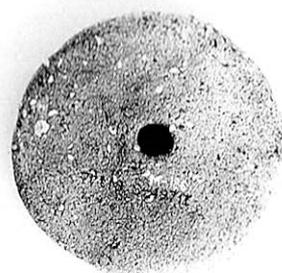
3 7地点出土土器 (109-7)



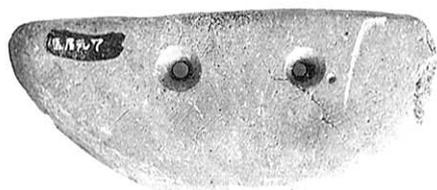
4 8地点出土土器 (110-1)



5 8地点出土土器 (110-3)



6 8地点出土土器 (110-5)



7 8地点出土石器 (110-9)

# 報告書抄録

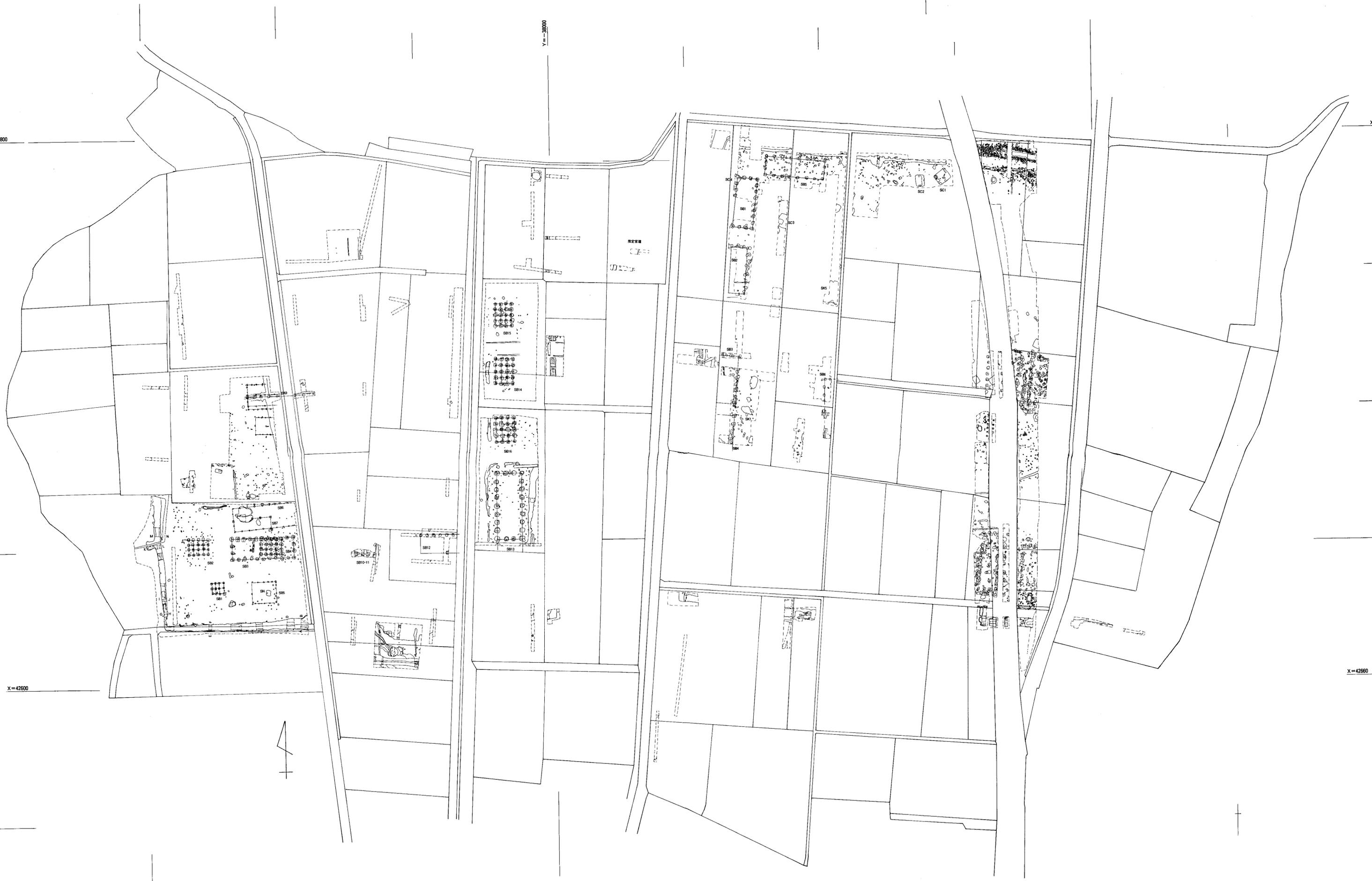
書名	しもたかはし (うえの・まやもと) いせき IV 下高橋 (上野・馬屋元) 遺跡 IV							
副書名	福岡県三井郡大刀洗町大字下高橋・鷗木所在遺跡の調査報告							
巻次	IV							
シリーズ名	大刀洗町文化財調査報告書							
シリーズ番号	第16集							
編著者名	赤川正秀							
編集機関	大刀洗町教育委員会							
所在地	〒830-1298 福岡県三井郡大刀洗町大字富多819 Tel0942-77-2670							
発行年月日	西暦1999年3月31日 (平成11年3月31日)							
所収遺跡名	所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積 (㎡)	調査原因
		市町村	遺跡番号					
しもたかはしうえのい 下高橋上野遺 せき しもたかはしま 跡・下高橋馬 やもといせき 屋元遺跡	ふくおかけんみいぐんたち 福岡県三井郡大刀 あらいまちおおいざしもたかはし 洗町大字下高橋 おおいざうのき 大字鷗木	40503	0012	33度 23分 05秒	130度 35分 30秒	19925020~	2,500	開発に伴う 緊急調査 保存のための 確認調査 〃 〃 〃
						19921017	200	
						19931118~		
						11931124		
						11941101~	2,287	
						11941229		
						11951114~	1,761	
11960322								
19961108~	1,844							
19970620								

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
下高橋 上野遺跡	官衙	奈良	掘立柱建物 溝 土坑 土壇墓 ピット群	須恵器 土師器 古瓦 } 8箱	奈良時代の官衙 大溝で囲んだ長方形 区画の中に大規模な掘立柱 建物群。 「正倉院」
下高橋 馬屋元遺跡	墓地 集落 官衙	弥生 弥生 奈良	甕棺墓 竪穴住居 掘立柱建物 溝 ピット群 土坑	須恵器 土師器 弥生土器 } 10箱	弥生早期の甕棺墓群 弥生中期の集落 奈良時代の官衙 二重の溝で囲んだ方形区画 の中に大規模な掘立柱建物 群。 「郡庁院？」
印刷・製本	株式会社 西日本新聞印刷				

X=42800

X=42800

Y=38000



X=42600

X=42600

Y=38000

付図 下高橋遺跡遺構配置図 (1/600)